

# 新 居 見 遺 跡 ( I )

(縄文時代・弥生時代篇)

四国横断自動車道 (阿南～徳島東) (新居見地区) 関連  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

徳 島 県 教 育 委 員 会  
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

# 新 居 見 遺 跡 ( I )

(縄文時代・弥生時代篇)

四国横断自動車道 (阿南～徳島東) (新居見地区) 関連  
埋蔵文化財発掘調査報告書

2018

徳 島 県 教 育 委 員 会  
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター





土偶 表面・右側面



土偶 裏面・左側面



旧 B1 区 第 4 遺構面実掘状況



旧 B4 区 第 4 遺構面実掘状況



# 序 文

この度、四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査の正式報告書がまとまりましたのでここに刊行いたします。

新居見遺跡は、徳島県小松島市新居見町に所在します。近接する田野山地には前期古墳である前山古墳や円筒埴輪や人物埴輪散布地の前山遺跡、後期古墳の弁慶の窟古墳等が立地します。また、北側の田浦地区には金銅装甲冑を出土した児安観音古墳が築造されるなど、勝浦川流域は徳島の古墳文化を考える上で重要な地域として、近年は特に注目されています。古代には「新島庄」、中世には「太奈保」や「新島庄勝浦庄」の比定される地域です。今回の調査ではこうした古代から中世関連遺構が検出される可能性を視野に入れて発掘調査を実施しました。

今回の発掘調査では、中世期の屋敷地に伴う区画溝や掘立柱建物等と遺物だけではなく、古代末の大型区画溝や古墳時代後期の礫床木棺墓を埋葬施設に採用した小型古墳が確認されました。特筆すべき事は、縄文時代晩期の遺構面から土偶が出土したことです。徳島県下では初めての出土例となります。改めて当遺跡の重要性を再確認することができました。

今後、本書が当該地域および本県の歴史を解明する上で貴重な資料として活用され、広く文化財保護の一助となることを期待したいと思います。

末尾ではありますが、この度の発掘調査の実施により、貴重な成果を上げることができましたのも、関係機関並びに地元の皆様の多大な御理解、御協力のおかげであり、心から感謝申し上げます。また、発掘調査および報告書作成にあたっては、徳島県教育委員会をはじめ関係各位から貴重な御指導・御教示を賜りました。ここに厚く御礼申し上げますとともに、今後も当センターの事業について一層御支援下さるようお願い申し上げます。

平成 30 年 3 月

公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
理 事 長 福 家 清 司



# 例 言

1 本書は徳島県小松島市新居見町山路 28 番地ほか 37 筆において実施した、平成 21, 22 年度四国横断自動車道（阿南～小松島）関連埋蔵文化財発掘調査、平成 23 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）関連埋蔵文化財発掘調査、平成 24 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）新居見工区関連埋蔵文化財発掘調査、平成 25 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査、平成 26 年度四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査（新居見遺跡）に関わる発掘調査報告書である。

2 本書は小松島市新居見遺跡の縄文時代、弥生時代に関する調査成果について収録した。

3 発掘調査は、国土交通省から徳島県教育委員会が委託を受け、徳島県教育委員会文化財課（当時）・教育文化政策課（当時）・教育文化課からの再委託により、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターが実施した。

4 発掘調査及び報告書作成についての実施期間は下記の通りである。

## 発掘調査

平成 21 年度 平成 22 年 1 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日

平成 22 年度 平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

平成 23 年度 平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日

平成 24 年度 平成 24 年 9 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日

平成 25 年度 平成 25 年 4 月 1 日～6 月 30 日、11 月 1 日～12 月 31 日

平成 26 年度 平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日

平成 29 年度 平成 29 年 8 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日

## 報告書作成

平成 27 年度 平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

平成 28 年度 平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

平成 29 年度 平成 29 年 8 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

5 挿図番号・写真番号・遺物番号は通し番号とした。

6 第 2 図は国土地理院登録の 1：50,000 地形図『徳島』および『阿波富田』を転載し、加筆したものである。

第 3 図の地形図は小松島市発行の 1：2,500 都市計画図を転載し、加筆したものである。

7 発掘調査、報告書作成期間を通じて次の機関の方々に御協力・ご教授を得た。

小松島市教育委員会・徳島大学埋蔵文化財調査室

8 本書の執筆は、徳島県教育委員会教育文化課（第 I 章第 1 節）・三好愛美（第 I 章第 2 節）・栗林誠治（第

I 章第 3 節～第 III 章、第 IV 章) があつた。全体の編集は栗林が行つた。

9 遺構写真は調査担当者が、遺物写真は栗林誠治が撮影した。

10 本書に収録した遺物及び写真・図面類の記録は、徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86 - 2 に所在する徳島県立埋蔵文化財総合センターにて保管している。

# 凡 例

- 1 遺構の表示は（公財）徳島県埋蔵文化財センターが定める発掘調査基準による略記号を用いた。  
SR：自然流路 SD：溝 SK：土坑 SP：柱穴・小穴 SX：性格不明遺構
- 2 遺構番号は、4桁で表示する。4桁目の番号は遺構面数を表し、以下の3桁が遺構の通し番号を表す。
- 3 遺構掲載サイズは、遺構平面図は 1/25、遺物出土状況図は 1/25、遺構覆土層図は 1/25 を基本とし、各スケールに縮尺を表示している。自然流路等大型遺構に関しては、遺構平面図は 1/50、1/100、遺構覆土層図は 1/50 にて掲載した。
- 4 方位、座標は世界測地系に準拠するが、調査時に設定したグリッドにて表示する。標高は東京湾標準潮位（T.P）に準拠する。
- 5 本書で用いた土層及び土器の色調は、小山正忠・竹原秀雄『新版土色帳』2011年度版、および細野尚久編『標準色彩図表 A』に準拠する。
- 6 遺物の掲載サイズは、原則下記のものに統一した。  
土器：1/3 土製品：1/1 剥片石器：2/3 礫石器・石製品：1/3
- 7 図版・挿図及び表は基本的に通し番号である。
- 8 観察表中の弥生土器に関しては以下の文献を参考にして記載している。  
（公財）徳島県埋蔵文化財センター 2014『南蔵本遺跡－徳島県立中央病院改築事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書－』
- 9 土器観察表中の胎土（含有物）の略号は下記の通りである。  
結：結晶片岩 石：石英 長：長石 チ：チャート 雲：雲母 金雲：金雲母  
角：角閃石 赤：赤色斑粒 砂：砂岩粒 泥：泥岩粒 黒：黒色粒 花：花崗岩
- 10 遺構の平断面形状の記載は下記の通りである。

○断面形状

長方形



逆台形



舟底形



丸底形



皿形

(1:5 以上)

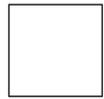
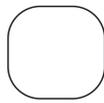


二段形

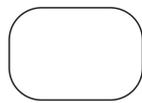


○平面形状

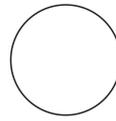
方形



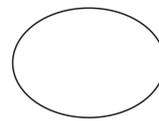
長方形



円形



橢円形



# 目 次

I 調査及び整理の経緯	1
1 調査に至る経緯	3
2 発掘調査の方法	4
3 発掘調査の経過	5
4 整理の経緯	9
5 調査体制及び報告書作成体制	9
6 調査日誌抄	12
II 遺跡の立地と環境	17
1 地理的環境	19
2 歴史的環境	20
III 調査成果	25
1 山路地区遺構配置	27
2 基本層序	31
3 遺構と遺物	33
(1) 第5遺構面 縄文時代晩期～弥生時代後期	33
自然流路 (SR)	33
溝状遺構 (SD)	52
土坑 (SK)	65
性格不明遺構 (SX)	91
小穴 (SP)	95
(2) 包含層出土遺物	107
IV 小結	121
V 観察表	125

# 挿図目次

第1図	新居見遺跡位置図 (S=1/50000) .....	4	第27図	4号自然流路SR5004 (旧SR4004) 出土遺物図 (1) .....	46
第2図	新居見遺跡位置図 (S=1/25000) .....	5	第28図	4号自然流路SR5004 (旧SR4004) 出土遺物図 (2) .....	47
第3図	新居見遺跡調査区配置図 (S=1/5000) .....	6	第29図	5号自然流路SR5005 (旧SR4005) 遺構図・出土遺物図 .....	48
第4図	新居見遺跡グリッド配置図 .....	7	第30図	1号溝状遺構SD5001 (旧SD3001) 遺構図・出土遺物図 .....	49
第5図	山路地区グリッド配置図 .....	8	第31図	2号溝状遺構SD5002 (旧SD3006) 遺構図・出土遺物図 .....	50
第6図	新居見遺跡周辺遺跡分布図 .....	21	第32図	3号溝状遺構SD5003 (旧SD3007) 遺構図 .....	51
第7図	山路地区第5遺構面遺構配置図 .....	27	第33図	3号溝状遺構SD5003 (旧SD3007) 出土遺物図 .....	52
第8図	山路地区基本土層図 (1) .....	28	第34図	4号溝状遺構SD5004 (旧SD3010) 遺構図・出土遺物図 .....	53
第9図	山路地区基本土層図 (2) .....	29	第35図	5号溝状遺構SD5005 (旧SD3011) 遺構図 .....	54
第10図	山路地区基本土層図 (3) .....	30	第36図	5号溝状遺構SD5005 (旧SD3011) 出土遺物図 .....	55
第11図	山路地区基本土層図 (4) .....	31	第37図	6号溝状遺構SD5006 (旧SD3014) 遺構図・出土遺物図 .....	56
第12図	山路地区基本土層図 (5) .....	32	第38図	7号溝状遺構SD5007 (旧SD4002) 遺構図 .....	57
第13図	1号自然流路SR3001 (旧SR3001) 遺構図 .....	34	第39図	7号溝状遺構SD5007 (旧SD4002) 出土遺物図 .....	58
第14図	1号自然流路SR3001 (旧SR3001) 土層図 (1) .....	35	第40図	8号溝状遺構SD5008 (旧SD4003) 遺構図・出土遺物図 .....	59
第15図	1号自然流路SR3001 (旧SR3001) 土層図 (2) .....	36	第41図	1号土坑SK5001 (旧SK2043) 遺構図・ 出土遺物図 .....	60
第16図	1号自然流路SR3001 (旧SR3001) 土層図 (3) .....	37	第42図	2号土坑SK5002 (旧SK3043) 遺構図・ 出土遺物図 .....	61
第17図	1号自然流路SR3001 (旧SR3001) 出土遺物図 .....	38	第43図	3号土坑SK5003 (旧SK4002) 遺構図 .....	62
第18図	2号自然流路SR5002 (旧SR4001) 遺構図 .....	39	第44図	4号土坑SK5004 (旧SK4011) 遺構図・ 出土遺物図 .....	63
第19図	2号自然流路SR5002 (旧SR4001) 土層図 (1) .....	39	第45図	4号土坑SK5004 (旧SK4011) 出土遺物図 .....	64
第20図	2号自然流路SR5002 (旧SR4001) 土層図 (2) .....	40	第46図	5号土坑SK5005 (旧SK4021) 遺構図・ 出土遺物図 .....	64
第21図	2号自然流路SR5002 (旧SR4001) 出土遺物図 .....	40			
第22図	3号自然流路SR5003 (旧SR4003) 遺構図・出土遺物図 .....	41			
第23図	4号自然流路SR5004 (旧SR4004) 遺構図 .....	42			
第24図	4号自然流路SR5004 (旧SR4004) 土層図 (1) .....	43			
第25図	4号自然流路SR5004 (旧SR4004) 土層図 (2) .....	44			
第26図	4号自然流路SR5004 (旧SR4004) 土層図 (3) .....	45			

第 47 图	6 号土坑 SK5006 (旧 SK4031) 遺構図	65			
第 48 图	7 号土坑 SK5007 (旧 ST3001) 遺構図・ 出土遺物図	66	第 70 图	3 号性格不明遺構 SX5003 (旧 SX4009) 遺構図 (2)	89
第 49 图	8 号土坑 SK5008 (旧 ST3004) 遺構図・ 出土遺物図	67	第 71 图	3 号性格不明遺構 SX5003 (旧 SX4009) 遺構図 (3)	90
第 50 图	9 号土坑 SK5009 (旧 SU1001) 遺構図	68	第 72 图	3 号性格不明遺構 SX5003 (旧 SX4009) 出土遺物図	91
第 51 图	9 号土坑 SK5009 (旧 SU1001) 出土遺物図	69	第 73 图	4 号性格不明遺構 SX5004 (旧 SX4010) 遺構図 (1)	92
第 52 图	10 号土坑 SK5010 (旧 SX1001) 遺構図	70	第 74 图	4 号性格不明遺構 SX5004 (旧 SX4010) 遺構図 (2)・出土遺物図	93
第 53 图	10 号土坑 SK5010 (旧 SX1001) 出土遺物図	71	第 75 图	1 号小穴 SP5001 (旧 SP2071) 遺構図・ 出土遺物図	94
第 54 图	11 号土坑 SK5011 (旧 SX2001) 遺構図・ 出土遺物図	72	第 76 图	2 号小穴 SP5002 (旧 SP2084) 遺構図・ 出土遺物図	94
第 55 图	12 号土坑 SK5012 (旧 SX2002) 遺構図・ 出土遺物図	73	第 77 图	3 号小穴 SP5003 (旧 SP3001) 遺構図・ 出土遺物図	96
第 56 图	1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 遺構図 (1)	74	第 78 图	4 号小穴 SP5004 (旧 SP3095) 遺構図・ 出土遺物図	96
第 57 图	1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 遺構図 (2)	75	第 79 图	5 号小穴 SP5005 (旧 SP3188) 遺構図・ 出土遺物図	97
第 58 图	1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 遺構図 (3)	76	第 80 图	6 号小穴 SP5006 (旧 SP3189) 遺構図・ 出土遺物図	97
第 59 图	1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 出土遺物図 (1)	78	第 81 图	7 号小穴 SP5007 (旧 SP3222) 遺構図・ 出土遺物図	98
第 60 图	1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 出土遺物図 (2)	79	第 82 图	8 号小穴 SP5008 (旧 SP4055) 遺構図・ 出土遺物図	98
第 61 图	1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 出土遺物図 (3)	80	第 83 图	9 号小穴 SP5009 (旧 SP4100) 遺構図・ 出土遺物図	99
第 62 图	13 号土坑 SK5013 (旧 SX4002) 遺構図	80	第 84 图	10 号小穴 SP5010 (旧 SP4172) 遺構図・ 出土遺物図	100
第 63 图	13 号土坑 SK5013 (旧 SX4002) 出土遺物図 (1)	81	第 85 图	11 号小穴 SP5011 (旧 SP4175) 遺構図・ 出土遺物図	101
第 64 图	13 号土坑 SK5013 (旧 SX4002) 出土遺物図 (2)	82	第 86 图	12 号小穴 SP5012 (旧 SP4186) 遺構図・ 出土遺物図	101
第 65 图	13 号土坑 SK5013 (旧 SX4002) 出土遺物図 (3)	83	第 87 图	13 号小穴 SP5013 (旧 SP4679) 遺構図・ 出土遺物図	102
第 66 图	2 号性格不明遺構 SX5002 (旧 SX4004) 遺構図 (1)	84	第 88 图	14 号小穴 SP5014 (旧 SP4730) 遺構図・ 出土遺物図	102
第 67 图	2 号性格不明遺構 SX5002 (旧 SX4004) 遺構図 (2)・出土遺物図	85	第 89 图	15 号小穴 SP5015 (旧 SP4734) 遺構図・ 出土遺物図	103
第 68 图	14 号土坑 SK5014 (旧 SX4007) 遺構図・ 出土遺物図	87	第 90 图	16 号小穴 SP5016 (旧 SP4745) 遺構図	
第 69 图	3 号性格不明遺構 SX5003 (旧 SX4009) 遺構図 (1)	88			

出土遺物図	103	第95図	包含層出土遺物図(3)	113
第91図	17号小穴SP5017(旧SP4795)遺構図・ 出土遺物図	第96図	包含層出土遺物図(4)	114
第92図	18号小穴SP5018(旧SP4803)遺構図・ 出土遺物図	第97図	包含層出土遺物図(5)	115
第93図	包含層出土遺物図(1)	第98図	包含層出土遺物図(6)	116
第94図	包含層出土遺物図(2)	第99図	包含層出土遺物図(7)	117
		第100図	包含層出土遺物図(8)	118

## 図版目次

図版1	土偶 表面・右側面	図版15	SX5001 全景	77
図版2	土偶 裏面・左側面	図版16	SX5001 遺物出土状況	77
図版3	縄文時代遺構面完掘状況	図版17	SK5013 遺物出土状況	81
図版4	弥生時代遺構面完掘状況	図版18	SX5002 中央焼土坑検出状況	86
図版5	新居見遺跡より北を望む	図版19	SX5002 中央焼土坑基底部	86
図版6	新居見遺跡より東を望む	図版20	SX5002 中央焼土坑完掘状況	86
図版7	新居見遺跡山路地区調査前状況	図版21	土偶(173) 出土状況	109
図版8	調査作業風景	図版22	土偶(173) 出土状況	109
図版9	現地説明会	図版23	土偶(173) X線写真	110
図版10	SR4001 全景(東から)	図版24	土偶(173) X線写真	111
図版11	SR5004 内遺物(24) 出土状況	図版25	包含層内遺物出土状況	120
図版12	弥生時代遺構面の溝状遺構群	図版26	包含層内遺物出土状況	120
図版13	SK5003 底面被熱状況	図版27	包含層内遺物出土状況	120
図版14	SX5001 全景			

## 表 目 次

第1表	土器観察表	126
第2表	石器観察表	142

# I 調査及び整理の経緯



# 1 調査に至る経緯

## (1) 調査に至る経緯

### 1. 四国横断自動車道と遺跡の関係

四国横断自動車道は、徳島県阿南市を起点に、徳島市、香川県高松市を経て愛媛県大洲市に至る延長400kmの高規格道路である。このうち阿南IC（仮称）～徳島東IC（仮称）間（以下「阿南～徳島東間」とする）は、県庁所在地である徳島市の沿岸部を通過し、県南の阿南市へと至る約17.7kmの区間である。阿南～徳島東間は、国土開発幹線自動車道建設会議において決定された新直轄方式により整備が進められている。これにより、慢性的な渋滞の緩和、医療機関への搬送時間の短縮や災害時の緊急輸送道路、産業活動の活性化、観光客の増加など多方面への効果が期待されている。

本報告書に掲載される新居見遺跡は、阿南～徳島東間のうち、阿南IC（仮称）～小松島IC（仮称）間（以下「阿南～小松島間」とする）の約10kmの路線のうち、小松島市新居見町字山路に所在する。遺跡は田野山地の北麓にあたり、ここより南側には新居見トンネルが建設される予定である。

阿南～徳島東間では、新居見遺跡のほか、田浦遺跡（小松島市田浦町字妙蓮・字子安）、奥角遺跡（小松島市田野町奥角）において発掘調査を実施している。

### 2. 遺跡の確認

阿南～小松島間における文化財及び埋蔵文化財の取扱いについて、徳島県教育委員会は、平成11年7月29日付け「四国横断自動車道阿南～小松島の調査について」で高速道路推進局を通じ日本道路公団徳島工事事務所長宛に提出している。平成17年の日本道路公団の分割民営化後は、西日本高速道路株式会社と協議を継続し、平成17年12月26日付けで「四国横断自動車道（小松島～鳴門）建設事業関連埋蔵文化財発掘調査協定書」が徳島県教育委員会教育長と西日本高速道路株式会社四国支社長との間で締結されている。

平成18年2月に四国横断自動車道のうち阿南～徳島東間が、西日本高速道路株式会社の施工から国土交通省が施工する新直轄区間へ移行したため、国土交通省徳島河川国道事務所と協議することとなったが、本路線における文化財及び埋蔵文化財の取扱いについては、前記協定書に基づくことで合意している。

山路地区には従来より古代中世の遺物が散布していたことにより、同地区は徳島県遺跡地図における周知の埋蔵文化財包蔵地（散布地203-30）として扱われているため、試掘調査の対象となった。

遺跡の有無を確認するための試掘調査は、徳島河川国道事務所からの依頼（h21.7.30 国四整徳道一調第62号）を受けた徳島県教育委員会がこれを承諾（h21.7.30 教文課第216号）し、平成21年8月26日と27日の2日間で実施された。対象範囲は家屋等の移転が終了している7,820㎡とし、計22箇所のトレンチが設定された。調査により平安時代から鎌倉時代にかけての集落遺跡を確認している。また、山麓部に設けられたトレンチでは、古墳時代の横穴式石室と思わせる列石状遺構が当該期の土器を伴って出土しており、複数時代の遺跡が重層的に形成されている可能性が考えられた。この試掘調査によって遺跡の存在が明らかとなったため、地名を採って「新居見遺跡」と呼称することとした。

徳島県教育委員会では、平成21年9月11日に国土交通省徳島河川国道事務所へ試掘調査の内容を報告し、工事着手前に発掘調査を実施して遺跡の記録保存を図ることで合意している。また、本線に伴って小松島市が施工する側道部分については、小松島市教育委員会が発掘調査することも併せて確認した。

## 2 発掘調査の方法

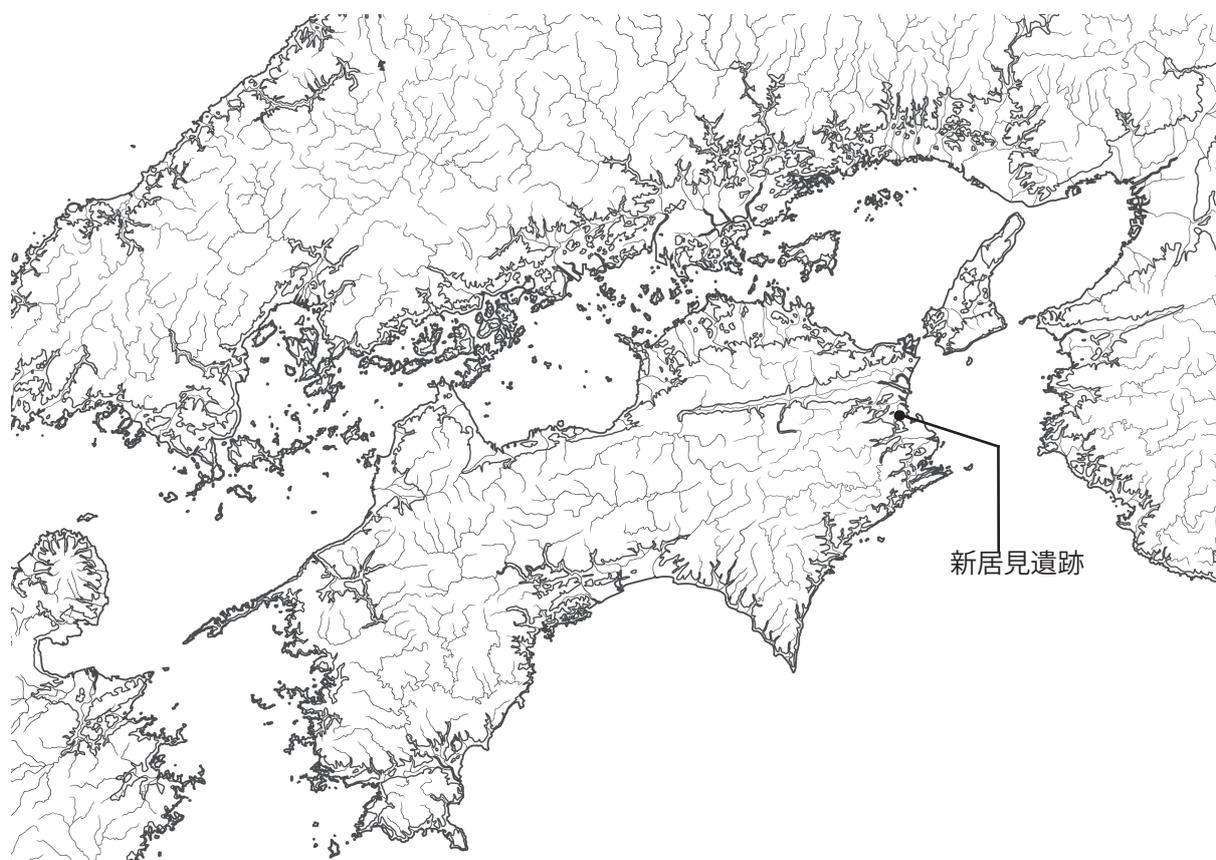
### (1) 調査区の設定

調査対象地点は新居見町内の複数の小字にまたがっていることから、柳内地区をA区、山路地区をB区、高内地区をC区と仮称した。更に、筆単位および調査着順に1から番号を付与した。

### (2) グリッドの設定

平成21年度は、A区及びB区の発掘調査実施するにあたり、 $X = 110,850$ 、 $Y = 98,000$  を中グリッドの基準点  $\alpha - I$  として設定した。平成22年度は、測量および図化の基準として世界測地系座標（平成14年4月施行）を用いた。 $X = 110,500$ 、 $Y = 98,000$  を本遺跡の測量原点として、大グリッド（一辺500m）L0c.1を設定した。更に大グリッドを一辺100m毎の中グリッドに分割し、基準点より北方向へ  $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta \cdot \varepsilon$  と、東方向へ  $I \cdot II \cdot III$  と呼称し、 $\alpha I \cdot \alpha II \cdot \beta II$  と表記した。各中グリッド南西隅を基点として、一辺5m毎に東西方向に西から1, 2, 3, 4, …20、南北方向に南からa, b, c, d, e…tの名称を与え、a1, b2, c3等と表示する小グリッドを設定した。標高については東京湾標準潮位（T.P）を使用した。

なお遺跡名称については、『徳島県遺跡地図』散布地203-30に該当することから、新たに町名をもって新居見遺跡と呼称することとした。

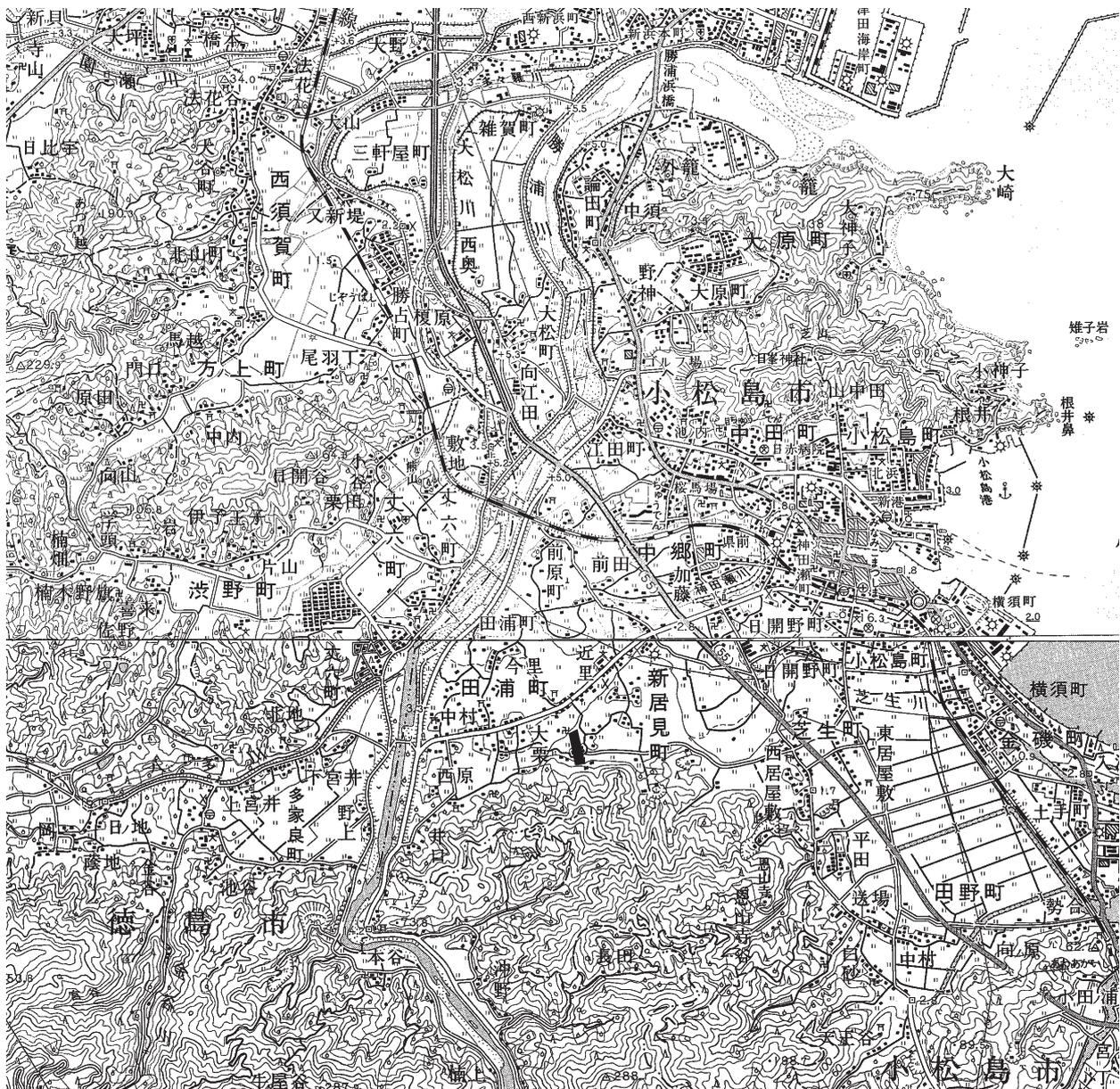


第1図 新居見遺跡位置図(S=1/50000)

### 3 発掘調査の経過

発掘調査は徳島河川国道事務所の委託を受けた徳島県教育委員会が、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センター（当時は財団法人徳島県埋蔵文化財センター）に再委託して平成21年度から平成29年度にかけて実施した。各年度の調査期間、調査体制及び調査面積は以下のとおりである。

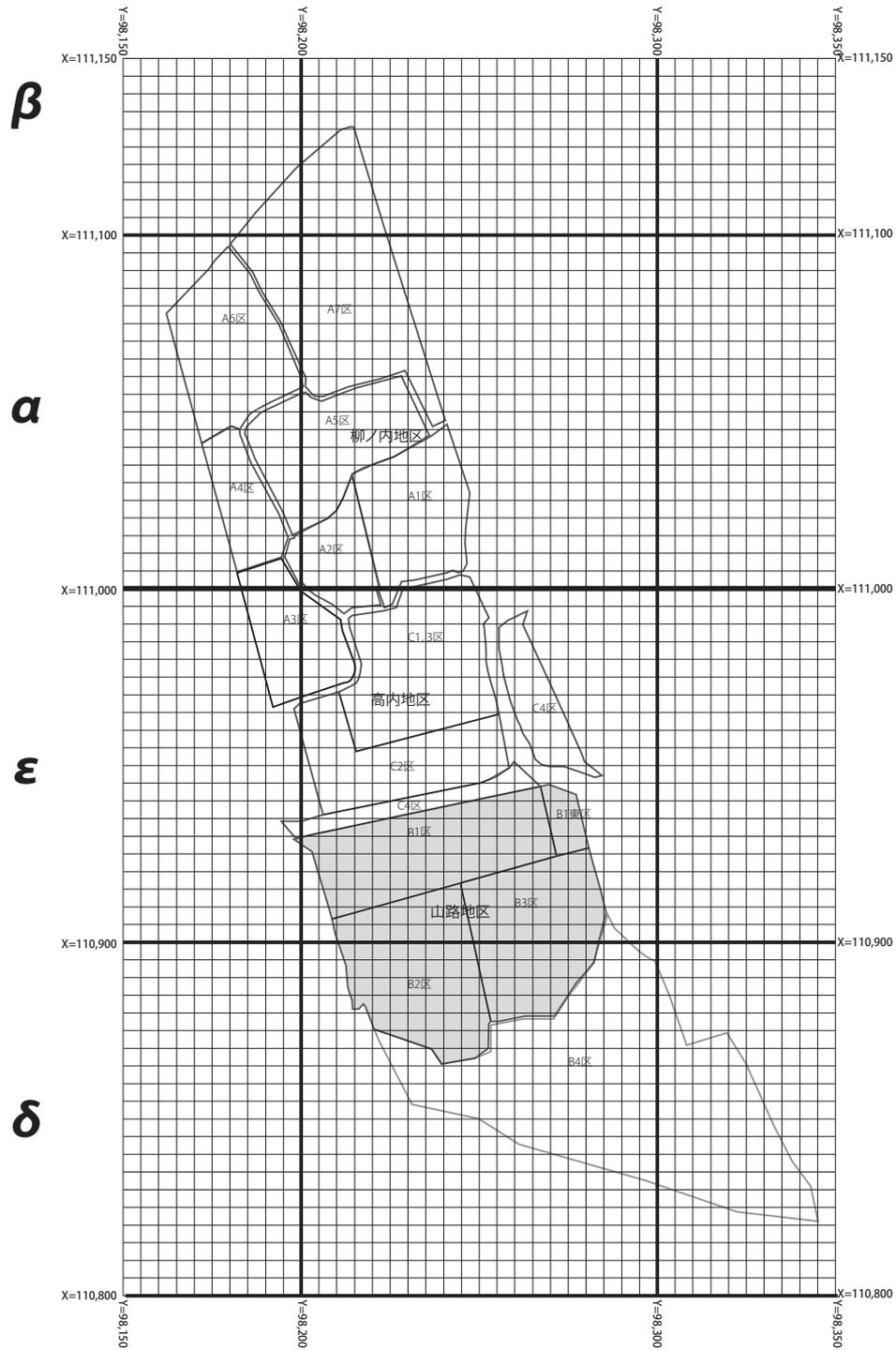
年度	調査期間	班体制	月数	表面積	延べ面積
平成21年度	平成22年1月1日～平成22年3月31日	2班	5ヶ月	2,780㎡	2,780㎡
平成22年度	平成22年9月1日～平成23年3月31日	1班	6ヶ月	2,600㎡	2,600㎡
平成23年度	平成23年4月1日～平成24年3月31日	2班	15ヶ月	4,646㎡	6,700㎡
平成24年度	平成24年9月1日～平成25年3月31日	2班	9ヶ月	3,039㎡	3,625㎡
平成25年度	平成25年4月1日～平成25年8月31日	2班	7ヶ月	2,661㎡	2,661㎡



第2図 新居見遺跡位置図(S=1/2500)



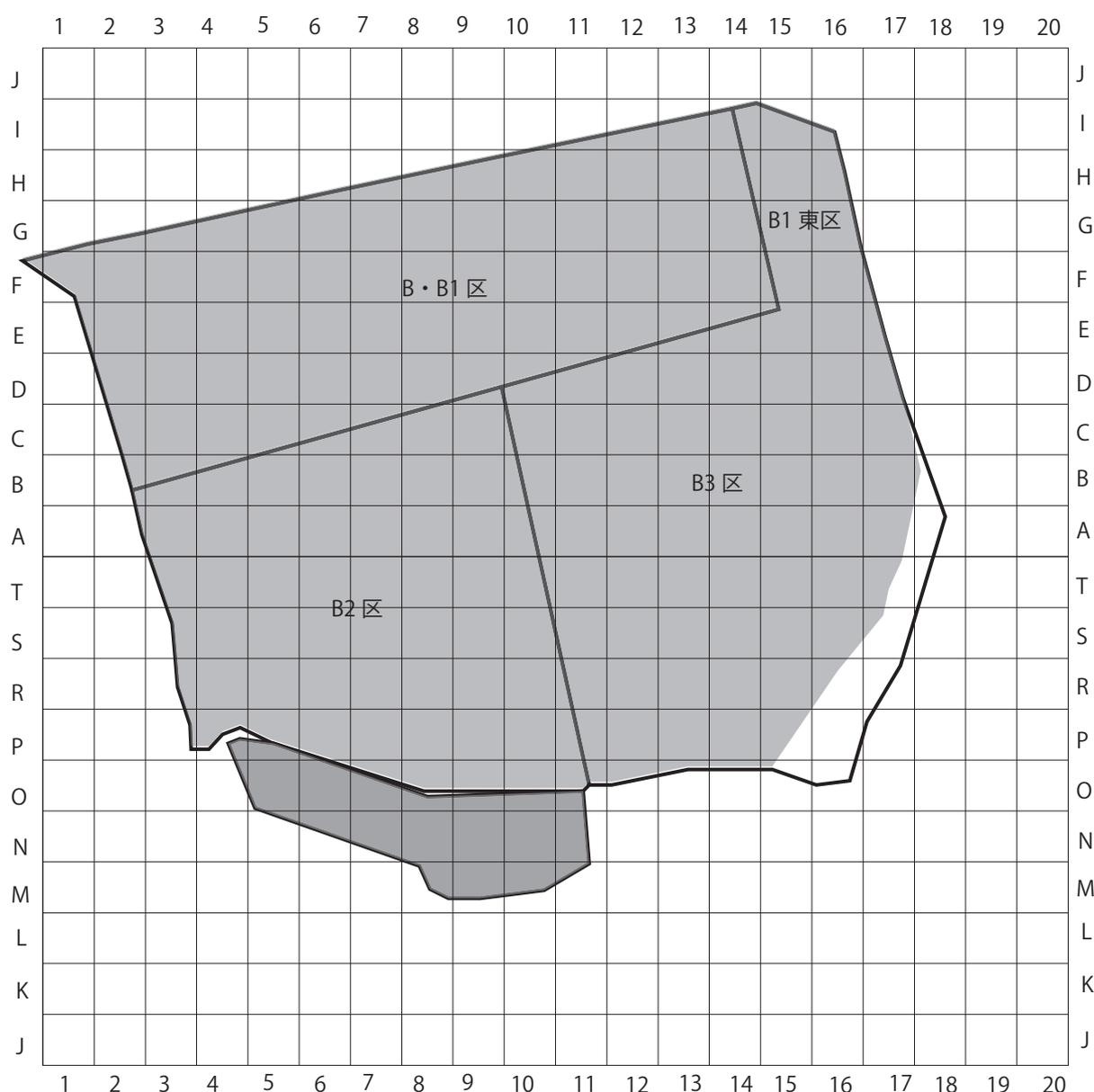
第3図 新居見遺跡調査区配置図(S=1/5000)



第 4 図 新居見遺跡グリッド配置図

平成 26 年度 平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日 1 班 8 ヶ月 3,051㎡ 3,051㎡  
 平成 29 年度 平成 29 年 8 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日 1 班 5 ヶ月 910㎡ 2,280㎡

平成 21 年度に新居見遺跡山路地区と柳内地区から着手され、それぞれ B 区・A 区と呼称し、教育委員会試掘調査成果を元に古代～中世の遺構面を想定して発掘調査が行われた結果、B 区（山路地区）において、中世の遺構面と 12 世紀後半の遺構面の他、古墳時代後半～飛鳥時代初頭の包含層と遺構面が確認された。以降、連続する地籍を調査区として設定する形で進行した。平成 22 年度は山路地区と柳内地区の前年度に連続する地点の発掘調査を実施し、山路地区において縄文時代～弥生時代後期の遺構面が展開することが確認された。また柳内地区においても北側へ遺構面が展開することが確認された。平成 23 年度は山路地区、高内地区、柳内地区で発掘調査を実施した。高内地区と柳内地区では中世後



第 5 図 山路地区グリッド配置図

半の集落が、山路地区では古代末～中世の集落が確認された。平成 24 年度は、柳内地区と山路地区で発掘調査を実施した。山路地区では古墳時代後期の小型墳や縄文時代の遺構を確認した。平成 25 年度は、高内地区、柳内地区で発掘調査を実施し、中世後半の集落と墓域を確認した。平成 26 年度は高内地区、柳内地区において、中世後半の方形区画屋敷地が連続する集落を確認した。

発掘調査期間中は、現地説明会の開催や報道発表と併せて、小松島市立子安小学校の見学会、各調査年度には徳島県立埋蔵文化財総合センターにて開催された「発掘とくしま」において調査成果の紹介に努めた。

## 4 整理の経緯

新居見遺跡における発掘調査では、コンテナ 999 箱の遺物が出土した。整理作業は、発掘調査同様に徳島河川国道事務所の依頼を受けた徳島県教育委員会が、公益財団法人徳島県埋蔵文化財センターに再委託して実施している。平成 27 年 7 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの延べ 47 ヶ月間の作業で、コンテナ 548 箱の整理作業を終了したため、第 1 分冊となる縄文・弥生時代編を刊行することとした。

出土遺物総点数は 179,260 点、コンテナ箱数 999 箱を数えることから、研究員 1 名に整理作業員 4 名の体制で年間 140 箱の整理作業を行う徳島県教育委員会策定標準歩掛りを適用して、整理にかかる期間は 90 ヶ月とした。平成 27 年度は 3 班集体制で 11 ヶ月、平成 28 年度は 2 班集体制で 24 ヶ月、平成 29 年度は 2 班集体制で 12 ヶ月と、3 カ年で総計 47 ヶ月分の整理作業を実施した。

整理業務内容は、遺物洗浄・注記・接合・復元・実測・トレース、遺構検討・トレース、観察表作成、遺物写真撮影、原稿執筆、編集である。整理期間が 90 ヶ月に及ぶため、報告書刊行は時代毎にまとめることと成り、第 1 分冊は縄文時代及び弥生時代に関する遺構・遺物の報告とする。

平成 27 年度に基礎整理である遺物洗浄・注記・接合と実測（報告書掲載）遺物の抽出を行った。平成 28 年度は縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代の遺物実測、遺物写真撮影と遺構トレースを行った。平成 29 年度は遺構トレース、中世の遺物実測と第 1 分冊の原稿執筆・編集を行った。

## 5 調査体制及び報告書作成体制

調査体制及び報告書作成体制は以下の通りである。

### 発掘調査

平成 21 年度

理事長	福家 清司
専務理事兼所長	阿部 修三
常務理事兼事務局長	近松 克仁
次長兼総務課長	三好 修碁
調査課長	石井 伸夫
調査第一係長	藤川 智之
調査担当	久保脇美朗・近藤 玲・田川 憲・西本 和哉
非常勤職員	伊祁恵梨子、岡田 一志、栗林 千恵、近藤ゆかり、瀬尾 諭、

古川 裕美、山路 武、天白 睦美

平成 22 年度

理事長 福家 清司  
専務理事兼所長 平尾 恭二  
常務理事兼事務局長 菅原 康夫  
次長兼総務課長 三好 修基  
調査課長 藤川 智之  
調査 1 係長 原 芳伸  
調査 2 係長 栗林 誠治  
調査担当 原 芳伸・栗林 誠治・大北 和美・田川 憲・井上 祐香・  
矢野 荘和  
非常勤職員 伊祁恵梨子、岡田 一志、栗林 千恵、近藤ゆかり、瀬尾 諭、  
古川 裕美、山路 武、天白 睦美、美馬 祐子、栗田真由美、  
上田 敦子

平成 23 年度

理事長 福家 清司  
専務理事兼所長 平尾 恭二  
常務理事兼事務局長 菅原 康夫  
次長兼総務課長 漆川 明彦  
調査課長 藤川 智之  
調査担当 久保脇美朗・栗林 誠治・大北 和美・佐藤 俊祐  
非常勤職員 古川 裕美、遠部 早苗、栗林 千恵、近藤ゆかり、天白 睦美、  
美馬 祐子、栗田真由美、湯浅 典子、伊祁恵梨子

平成 24 年度

理事長 福家 清司  
専務理事兼所長 小西 孝  
常務理事兼事務局長 菅原 康夫  
次長兼総務課長 漆川 明彦  
事業課長 藤川 智之  
調査担当 氏家 敏之・原 芳伸・島田 豊彰・近藤 大器・山下 直人  
非常勤職員 遠部 早苗、天白 睦美、美馬 祐子、栗田真由美、近藤ゆかり、  
宇津 美佳、池田 香奈、正本 和孝、岩田 尚子、細川 正樹、  
津坂 京香、玉置浩太郎、鈴木 奈美、青木 純

平成 25 年度

所長（理事長） 福家 清司  
事務局長（専務理事） 菅原 康夫

総務課長	漆川 明彦
事業課長	藤川 智之
調査担当	栗林 誠治・田川 憲・近藤 大器・岩崎 慎司
非常勤職員	遠部 早苗、天白 睦美、美馬 祐子、粟田真由美、正本 和孝、 細川正樹、鈴木 奈美、藤原 葉月、竹本 達也、高橋 雅子

#### 平成 26 年度

所長（理事長）	福家 清司
事務局長（専務理事）	菅原 康夫
総務課長	漆川 明彦
事業課長	藤川 智之
調査担当	島田 豊彰・市村 恵・山下 智美
非常勤職員	粟田真由美、細川 正樹、鈴木 奈美、増村 友香、田中真治朗

### 報告書作成

#### 平成 27 年度

所長（理事長）	福家 清司
事務局長（専務理事）	菅原 康夫
総務課長	藤田 吉則
事業課長	藤川 智之
整理担当	植地 武彦・島田 豊彰

#### 平成 28 年度

所長（理事長）	福家 清司
事務局長（専務理事）	丸居 昭彦
総務課長	藤田 吉則
事業課長	藤川 智之
整理担当	栗林 誠治・三好 愛美

#### 平成 29 年度

所長（理事長）	福家 清司
事務局長（専務理事）	丸居 昭彦
総務課長	藤田 吉則
事業課長	藤川 智之
整理担当	栗林 誠治・近藤 玲

## 6 調査日誌抄

本発掘調査は平成21年1月4日から平成29年12月31日まで実施した。以下、各年度調査担当者による調査日誌の抄録を掲載する。

### 平成21年度

- 1月4日(月) 晴 柳内A1区:調査区設定
- 1月6日(水) 曇 柳内A1区:調査区設定、座標確認
- 1月21日(木) 曇 柳内A1区:設営
- 1月22日(金) 曇/雨 柳内A1区:設営、機械掘削
- 1月26日(火) 晴 柳内A1区:機械掘削、包含層掘削
- 1月27日(水) 晴 柳内A1区:機械掘削、包含層掘削、測量
- 2月3日(水) 晴 柳内A1区:機械掘削、包含層掘削、測量
- 2月9日(火) 晴 柳内A1区:包含層掘削、測量
- 2月19日(金) 晴 柳内A1区:包含層掘削、測量、写真撮影
- 2月25日(木) 曇/雨 柳内A1区:包含層掘削、測量、写真撮影
- 3月1日(月) 曇/雨 柳内A1区:包含層掘削、測量
- 3月5日(金) 晴 柳内A1区:包含層掘削、測量
- 3月17日(水) 晴 柳内A1区:包含層掘削、測量
- 3月25日(木) 雨 柳内A1区:図面整理、引越
- 3月26日(金) 曇 柳内A1区:包含層掘削、埋戻
- 3月30日(火) 晴/曇 柳内A1区:埋戻
- 3月31日(水) 曇 柳内A1区:撤収、清掃



図版5 新居見遺跡より北を望む

### 平成22年度

- 9月1日(水) 晴 プレハブ用地の整地
- 9月3日(金) 晴 山路B1区:機械掘削
- 9月15日(水) 晴 作業員呼集・機材搬入
- 9月16日(木) 晴 山路B2区:機械掘削・側溝掘削・壁面精査
- 9月17日(金) 晴 山路B2区:機械掘削・第1包含層掘削
- 9月21日(火) 晴 山路B2区:第1包含層掘削
- 9月24日(金) 曇 山路B2区:第1包含層掘削・遺構検出
- 9月27日(月) 曇/雨 山路B1区:機械掘削開始
- 9月29日(水) 晴/曇 山路B2区:第1包含層掘削・遺構検出・第1遺構面遺構検出状況写真撮影、山路B1区東:機械掘削
- 10月1日(金) 曇/晴 山路B2区:遺構検出・遺構掘削、柳内A2区:機械掘削開始
- 10月4日(月) 雨/晴 柳内A2区:機械掘削
- 10月5日(火) 晴 山路B2区:遺構掘削
- 10月27日(水) 晴/曇 台風対策
- 10月29日(金) 曇 山路B2区:測量、柳内A2区:包含層掘削・遺構検出
- 10月29日(金) 曇 台風対策
- 11月5日(金) 晴 山路B2区:第1遺構面完掘状況写真撮影、柳内A2区:遺構検出状況写真撮影
- 11月8日(月) 曇/晴 山路B1区:第2包含層掘削、柳内A2区:遺構掘削
- 11月11日(木) 晴 現地説明会の準備
- 11月12日(金) 晴 山路B1区:遺構検出・第2遺構面遺構掘削
- 11月13日(土) 晴 現地説明会
- 11月15日(月) 曇/晴 柳内A2区:遺構掘削



図版6 新居見遺跡より東を望む



図版7 新居見遺跡山路地区調査前状況

11月16日(火) 晴/曇 山路B2区:第2包含層掘削、柳内A2区:遺構掘削  
 12月1日(水) 曇 山路B1区東:第1遺構面完掘状況写真撮影  
 12月2日(木) 晴/曇 柳内A2区:遺構掘削・写真撮影準備・測量  
 12月3日(金) 晴 山路B1区:調査区:冠水・排水作業  
 12月7日(火) 雨/曇 山路B1区東:第2包含層掘削・遺構検出  
 12月7日(火) 雨/曇 柳内A2区:遺構掘削・測量  
 12月8日(水) 晴 山路B1区:第2遺構面完掘状況写真撮影  
 12月15日(水) 晴/曇 山路B1区:第3遺構面遺構検出  
 12月16日(木) 曇 山路B1区東:第2遺構面遺構検出写真撮影、山路B1区:第3遺構面遺構検出写真撮影・遺構掘削  
 12月22日(水) 晴 山路B1区東:第2遺構面遺構掘削、山路B2区:第2遺構面遺構掘削、柳内A2区:測量  
 12月24日(金) 曇 山路B1区東:第2遺構面遺構掘削・完掘状況写真撮影、山路B2区:第2遺構面完掘状況写真撮影、柳内A2区:測量・遺構掘削  
 12月27日(月) 雨/曇 山路B2区:第3包含層掘削・測量  
 1月5日(水) 晴/曇 山路B2区:第3包含層掘削・測量  
 1月7日(金) 晴 山路B2区:第3包含層掘削・遺構検出・測量  
 1月13日(木) 晴 山路B1区:第3遺構面遺構掘削  
 1月14日(金) 晴 山路B1区:第3遺構面遺構掘削  
 1月20日(木) 晴/曇 山路B2区:第3遺構面遺構検出状況写真撮影  
 1月27日(木) 晴 山路B1区・山路B2区:第3遺構面遺構掘削、  
 2月10日(木) 曇 山路B1区・山路B2区:第3遺構面遺構掘削・測量  
 2月14日(月) 雪 降雪のため現場作業中止・室内作業(図面整理)  
 2月21日(月) 晴 山路B1区・山路B2区:第3遺構面遺構掘削・測量  
 2月25日(金) 晴 山路B2区:第3遺構面遺構写真撮影  
 3月5日(土) 晴 現地説明会開催  
 3月7日(月) 晴/曇 山路B1区:排水・第4包含層掘削・測量  
 3月11日(金) 晴 山路B1区:第4包含層掘削  
 3月11日(金) 晴 山路B2区:第4包含層掘削  
 3月16日(水) 曇/雪 山路B1区・山路B2区:第4包含層掘削・遺構面精査、柳内A2区:埋戻  
 3月24日(木) 晴 柳内A2区:埋戻

## 平成23年度

4月8日(金) 雨/曇 調査準備・入札現地説明会  
 4月11日(月) 晴 調査準備  
 4月15日(金) 晴 作業員呼集・入札  
 4月18日(月) 曇/雨 機材搬入  
 4月18日(月) 曇/雨 柳内A3区:機械掘削開始、山路B1区:第4遺構面検出  
 4月20日(水) 晴 山路B1区・山路B2区:第4遺構面遺構検出状況写真撮影・遺構掘削、  
 4月28日(木) 晴 山路B1区・山路B2区:第4遺構面遺構掘削  
 5月13日(金) 晴 山路B1区・山路B2区:第4遺構面遺構掘削  
 5月25日(水) 晴/曇 山路B1区・山路B2区:第4遺構面遺構掘削  
 5月27日(金) 曇/雨 台風対策

5月30日(月) 晴 山路B1区:台風2号により冠水、排水  
 5月31日(火) 晴/曇 柳内A区:機械掘削  
 6月2日(木) 曇 山路B1区・山路B2区:復旧作業、:復旧作業  
 6月3日(金) 曇/晴 山路B1区・山路B2区:第4遺構面遺構掘削、  
 6月7日(火) 曇/雨 山路B1区:第4遺構面完掘状況写真撮影、柳内A5区:包含層掘削  
 6月9日(木) 曇 山路B1区・山路B2区:第4遺構面遺構掘削  
 6月27日(月) 晴 柳内A5区:包含層掘削  
 6月29日(水) 晴 子安小学校6年生見学  
 7月4日(月) 晴/曇 山路B1区・山路B2区:第4遺構面遺構掘削、  
 7月13日(水) 晴 山路B1区:第4遺構面遺構掘削  
 7月13日(水) 晴 山路B2区:第4遺構面遺構掘削  
 7月15日(金) 晴 台風対策  
 7月21日(木) 晴/曇 山路B1区・山路B2区:排水作業  
 柳内A5区:遺構面精査、包含層掘削  
 7月26日(火) 曇 山路B1区:復旧作業、柳内A5区:遺構面精査  
 7月29日(金) 晴 山路B1区:遺構掘削・測量、山路B2区:写真撮影準備  
 8月3日(水) 晴 山路B1区:第4遺構面完掘状況写真撮影、山路B2区:第4遺構面完掘状況写真撮影、柳内A5区:遺構検出状況写真撮影・遺構掘削  
 8月10日(水) 晴 柳内A5区:遺構掘削、山路B1区・山路B2区:測量・埋戻  
 8月24日(水) 晴/曇 柳内A5区:遺構掘削、山路B1区・山路B2区:測量・埋戻  
 9月1日(木) 曇/雨 台風対策。  
 9月5日(月) 晴 柳内A5区:排水、山路B1区・山路B2区:排水、埋戻  
 9月6日(火) 晴 柳内A5区:遺構掘削、山路B1区・山路B2区:埋戻  
 9月12日(月) 晴 柳内A5区:遺構掘削、山路B1区・山路B2区:埋戻  
 9月13日(火) 晴 柳内A5区:遺構掘削、山路B3区:機械掘削  
 9月16日(金) 曇/雨 柳内A5区:遺構掘削、台風対策、山路B3区:機械掘削  
 9月21日(水) 雨/曇 柳内A5区:排水、山路B3区:排水  
 9月27日(火) 晴 柳内A5区:測量、山路B3区:機械掘削・第1包含層掘削  
 10月3日(月) 晴 柳内A5区:遺構掘削・測量、山路B3区:第1包含層掘削  
 10月5日(水) 曇/雨 柳内A5区:遺構掘削・測量、高内C2区:機械掘削、山路B3区:第1包含層掘削・遺構検出  
 10月13日(木) 曇/雨 高内C2区:機械掘削、山路B3区:第1遺構面遺構検出状況写真撮影  
 10月18日(火) 晴 柳内A5区:遺構掘削・測量、山路B3区:第1遺構面遺構掘削  
 10月26日(水) 曇/晴 柳内A5区:遺構掘削・測量、山路B3区:第1遺構面測量  
 11月4日(金) 晴 柳内A5区:第1遺構面遺構完掘状況写真撮影、山路B3区:第1遺構面遺構掘削  
 11月8日(火) 晴 柳内A5区:測量、山路B3区:第1遺構面遺構掘削

11月14日(月)晴 柳内A5区:遺構掘削、高内C1区:第1包含層掘削、山路B3区:第1遺構面遺構掘削

11月17日(木)曇 高内C1区:第1包含層掘削・遺構検出、山路B3区:第1遺構面遺構掘削

11月21日(月)晴 柳内A5区:埋戻、山路B3区:排水・遺構掘削

12月1日(木)曇/雨 山路B2区:遺構面精査、山路B3区:第1遺構面掘削、高内C1区:第1遺構面検出

12月2日(金)曇 山路B3区:第1遺構面遺構掘削、高内C1区:第1遺構面遺構掘削

12月21日(水)晴 山路B3区:測量、高内C1区:第1遺構面遺構掘削

12月27日(火)晴 山路 B3区:測量

1月4日(水)曇 山路B3区:第2包含層掘削

1月6日(金)晴 高内C1区:第1遺構面遺構掘削

1月9日(月)晴 山路B3区:第2包含層掘削・遺構検出

1月16日(月)曇 山路B3区:第2遺構面掘削

1月25日(水)晴 山路B3区:第2遺構面掘削、高内C1区:測量

2月2日(木)晴 山路B3区:測量、高内C1区:遺構掘削

2月8日(水)晴 高内C1区:第1遺構面遺構掘削、遺構面精査

2月9日(木)晴 山路B3区:第2遺構面遺構掘削、高内C1区:第1遺構面精査

2月16日(木)晴 山路B3区:第2遺構面遺構掘削・遺構面精査

2月21日(火)晴 山路B3区:第2遺構面精査

2月22日(水)曇 山路B3区:第3包含層掘削

3月1日(木)晴 山路B3区:第3包含層掘削・測量

3月6日(火)曇 山路B3区:第3遺構面精査

3月7日(水)晴 埋戻準備

3月12日(月)晴 埋戻

3月30日(金)晴 埋戻し作業、とりまとめ作業

## 平成24年度

9月3日(月)曇 調査前準備

9月19日(水)晴/曇 山路B3区:機械掘削

9月27日(木)晴 山路B3区:機械掘削・側溝掘削、柳内A4区・柳内A6区:台風対策、

9月28日(金)晴 山路B3区:機械掘削・台風対策

10月3日(水)晴 山路B3区:排水・機械掘削

10月4日(木)晴 山路B3区:機械掘削・東西側溝壁直し、壁面精査・第2包含層掘削・遺構検出・掘削・測量、写真終了

10月5日(金)晴 山路B3区:機械掘削・第3遺構面精査・グリッド測設・遺構完掘

10月10日(水)晴/曇 山路B3区:機械掘削・遺構検出、検出状況撮影・測量・第3包含層掘削

10月11日(木)曇/雨 山路B3区:機械掘削・第3遺構面精査・測量

10月15日(月)晴 山路B3区:廃土整理・第3遺構面遺構検出・第3包含層掘削・測量

10月16日(火)晴 山路B3区:機械掘削・第3遺構面精査・第3包含層掘削・遺構掘削・測量

10月22日(月)晴 山路B3区:排水・機械掘削・測量

10月25日(木)晴 柳内A4区・柳内A6区:機械掘削、山路B3

区:壁精査・第1、2遺構面遺構掘削・測量

11月1日(木)晴/曇 柳内A4区・柳内A6区:機械掘削、山路B3区:測量・遺構掘削

11月6日(火)曇/晴 山路B3区:第3遺構面遺構掘削・測量

11月13日(火)曇/雨 山路B3区:第3遺構面遺構掘削・測量

11月16日(金)晴 山路B3区:第3遺構面精査・写真撮影・測量

11月19日(月)晴 山路B3区:第4包含層掘削、第3遺構面測量

11月21日(水)晴 山路B3区:第4包含層掘削・第4遺構面検出

11月27日(火)晴 山路B3区:第4遺構面遺構掘削・測量

12月3日(月)晴 山路B3区:第4遺構面遺構掘削・測量

12月6日(木)晴 山路B3区:第4遺構面遺構面精査

12月7日(金)晴 山路B3区:第4遺構面遺構面精査・写真撮影

12月12日(水)晴 柳内A6区:側溝掘削・グリッド打設、山路B3区:第4遺構面測量

12月17日(月)晴 柳内A4区:第1包含層掘削、山路B3区:埋戻

12月27日(木)晴 柳内A4区・柳内A6区:第1包含層掘削、山路B3区:埋戻し

1月9日(水)晴 柳内A4区:第1遺構面精査、遺構検出、柳内A6区:第1包含層掘削、山路B3区:埋戻し・整地

1月10日(木)晴 柳内A4区:第1遺構面遺構検出状況写真撮影・測量

1月17日(木)曇/雨 柳内A4区:第1遺構面遺構掘削・測量、柳内A6区:第1包含層掘削、山路B3区:埋戻し・整地

1月28日(月)晴 柳内A4区:遺構掘削、測量、柳内A6区:測量

2月12日(火)晴/雨 柳内A4区:遺構掘削、測量、柳内A6区:遺構掘削、測量

2月21日(木)晴 柳内A4区:遺構掘削・測量・写真撮影、柳内A6区:遺構掘削

3月4日(月)晴 柳内A6区:遺構掘削・測量

3月5日(火)晴 柳内A4区:機械掘削、柳内A6区:遺構掘削・測量

3月11日(月)晴 柳内A6区:遺構掘削・測量、柳内A4区:埋戻

3月12日(火)晴 柳内A4区:埋戻し

3月13日(水)晴/雨 柳内A6区:遺構完掘状況写真撮影・測量

## 平成25年度

4月2日(火)曇/雨 調査前準備

4月22日(月)晴 柳内A7区:機械掘削

4月23日(火)晴/曇 柳内A7区:機械掘削・第1包含層掘削

4月26日(金)晴 柳内A7区:第1包含層掘削・測量、柳内A3区:機械掘削

5月1日(水)晴/曇 柳内A3区:機械掘削、柳内A7区:第1包含層掘削・第1遺構面遺構検出・測量

5月2日(木)晴 柳内A3区:機械掘削、柳内A7区:第1遺構面遺構検出状況写真撮影・測量第1遺構面遺構掘削

5月13日(月)晴 柳内A3区:第1包含層掘削、柳内A7区:第1遺構面掘削・測量

5月17日(金)晴/曇 柳内A3区:第1遺構面検出状況写真撮影・第1遺構面遺構掘削・測量、柳内A7区:測量

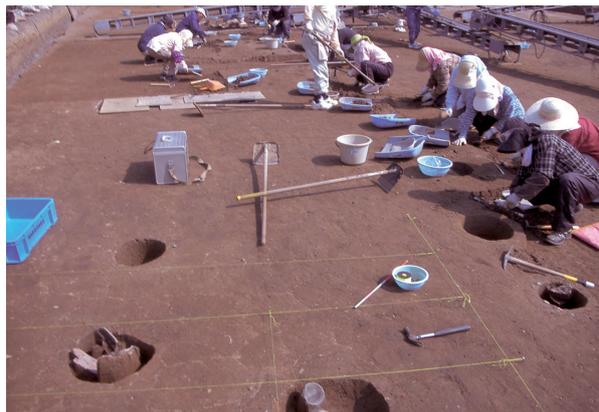
5月20日(月)晴 柳内A3区:第1遺構面遺構掘削・測量  
 6月12日(水)晴 柳内A3区・柳内A7区::第1遺構面遺構完掘  
 状況写真撮影・測量、  
 6月14日(金)晴 柳内A3区:埋戻し、柳内A7区:確認トレンチ  
 掘削・測量  
 6月18日(火)晴 柳内A7区:第1遺構面掘削  
 6月24日(月)雨/曇 柳内A7区:第1遺構面遺構掘削・埋戻し・  
 測量  
 6月27日(木)晴/曇 柳内A7区:埋戻し  
 6月28日(金)曇 かたづけ・周辺整備・図面整理・とりまとめ  
 11月1日(金)晴 現地確認・調査前準備  
 11月6日(水)晴/曇 高内C4-2区:機械掘削・基準杭移設  
 11月8日(金)晴/曇 高内C4-2区:側溝掘削・第1包含層掘削  
 11月11日(月)曇/晴 高内C4-2区:第1包含層掘削・第1遺構  
 面検出・グリッド杭打設・測量  
 11月12日(火)晴/曇 高内C4-2区:第1遺構面掘削・測量  
 11月13日(水)晴/曇 高内C4-2区:第1遺構面完掘状況写真撮影・  
 確認トレンチ掘削・測量  
 11月13日(水)晴/曇 高内C4-1区:基準杭移設  
 11月14日(木)晴 高内C4-1区:機械掘削・第1包含層掘削  
 11月15日(金)雨/晴 高内C4-1区:機械掘削・第1包含層掘削・  
 基準杭移設・測量  
 11月18日(月)晴 高内C4-1区:機械掘削・第1包含層掘削、  
 高内C4-2区:埋戻し  
 11月19日(火)晴 高内C4-1区:第1包含層掘削  
 11月22日(金)晴 高内C4-1区:第1包含層掘削・第1遺構面遺  
 構検出・第1遺構面遺構検出状況写真撮影・  
 第1遺構面遺構掘削・グリッド杭打設・測量  
 11月26日(火)晴 高内C4-1区:第1遺構面遺構掘削・測量  
 11月28日(木)曇/晴 高内C4-1区:第1遺構面遺構掘削・第1  
 遺構面完掘状況写真撮影・測量・第2包  
 含層掘削  
 11月29日(金)晴 高内C4-1区:第2包含層掘削・遺構検出  
 12月2日(月)晴 高内C4-1区:第2遺構面遺構検出状況写真撮影・  
 第2遺構面遺構掘削・測量  
 12月3日(火)晴 高内C4-1区:第2遺構面遺構掘削・測量  
 12月4日(水)晴 高内C4-1区:第2遺構面遺構完掘状況写真撮影・  
 測量・第3包含層掘削  
 12月5日(木)晴 高内C4-1区:第3包含層掘削・測量  
 12月9日(月)晴/曇 高内C4-1区:第3包含層掘削・遺構検出・  
 遺構検出状況写真撮影・遺構掘削・測量  
 12月10日(火)晴/雨 高内C4-1区:第3遺構面遺構掘削・測量  
 12月11日(水)晴/曇 高内C4-1区:第3遺構面遺構掘削・第3  
 遺構面遺構完掘状況写真撮影・測量  
 12月11日(水)晴/曇 柳内A3-A4区間:機械掘削  
 12月12日(木)曇/晴 高内C4-1区:測量・埋戻し、柳内A3-A4  
 区間:第1包含層掘削・基準杭移設・測量  
 12月13日(金)曇/雨 柳内A3-A4区間:第1包含層掘削・遺構  
 検出・遺構検出状況写真撮影・遺構掘削・  
 測量  
 12月16日(月)晴/曇 柳内A3-A4区間:第1遺構面遺構掘削・  
 第1遺構面完掘状況写真撮影・測量  
 12月17日(火)曇 高内C4-1区:埋戻し

12月17日(火)曇 柳内A3-A4区間:確認トレンチ掘削・測量  
 12月26日(木)雨 引っ越し・とりまとめ

## 平成26年度

8月1日(金)晴/曇 調査準備  
 8月7日(木)曇 調査地整備  
 8月20日(水)晴 高内C3区:祠跡調査  
 8月21日(木)晴/曇 高内C4-3区:機械掘削  
 8月22日(金)曇/雨 高内C4-3区:機械掘削・第1遺構面検出状  
 況写真撮影・基準点移動  
 8月25日(月)曇/雨 高内C1・C3区:測量  
 8月25日(月)曇/雨 高内C4-3区:第1遺構面遺構掘削  
 8月26日(火)晴/曇 高内D2-1区:機械掘削  
 8月27日(水)晴/曇 高内C1・C3区:測量、高内C4-3区:第  
 1遺構面完掘状況写真撮影・埋戻し、高内  
 D2-1区:第1遺構面検出・第1遺構面遺構  
 掘削  
 9月1日(月)雨/曇 高内D2-1区:第1遺構面遺構掘削・第1遺  
 構面遺構完掘状況写真撮影  
 9月2日(火)晴 高内D1-1区:第1遺構面遺構検出・第1遺構面  
 遺構検出状況写真撮影・第1遺構面遺構掘削  
 9月3日(水)曇/雨 高内D1-1区:第1遺構面遺構掘削・第1遺  
 構面遺構完掘状況写真撮影  
 9月3日(水)曇/雨 高内D2-1区:埋戻し  
 9月5日(金)曇/雨 高内C1・C3区:測量・機械掘削  
 9月18日(木)晴 高内C1・C3区:機械掘削・側溝掘削・第1遺  
 構面遺構検出、高内D2-2区:機械掘削  
 9月19日(金)晴/曇 高内C1・C3区:第1遺構面遺構検出状況  
 写真撮影・測量、高内D2-2区:機械掘削・  
 第1包含層掘削  
 9月22日(月)曇/晴 高内C1・C3区:第1遺構面遺構掘削・測量、  
 高内D2-2区:機械掘削・第1包含層掘削  
 9月25日(木)晴 高内D2-2区:機械掘削・第1包含層掘削・第1  
 遺構面検出  
 9月26日(金)晴 高内D2-2区:第1遺構面遺構掘削・完掘状況  
 写真撮影  
 10月2日(木)曇/雨 台風対策  
 10月7日(火)晴 高内C1・C3区:第1遺構面遺構掘削・測量、  
 高内D2-2区:第1遺構面完掘状況写真撮影・  
 測量  
 10月10日(金)晴/曇 台風対策  
 10月14日(火)曇/晴 復旧作業  
 10月15日(水)晴 高内C1・C3区:第1遺構面遺構掘削・測量、  
 高内D2-2区:第1遺構面遺構掘削・測量・埋  
 戻し  
 10月17日(金)晴 高内D2-2区:埋戻し  
 10月23日(木)晴 高内C1・C3区:第1遺構面遺構掘削・測量  
 11月4日(火)晴 高内C1・C3区:第1遺構面遺構掘削・測量  
 11月10日(月)曇/晴 柳内A7-2区: 機械掘削  
 11月12日(水)晴/曇 高内C1・C3区:第1遺構面遺構掘削・第  
 1遺構面完掘写真撮影・測量  
 11月12日(水)晴/曇 高内D1-2区:機械掘削  
 11月13日(木)曇 柳内A7-2区:機械掘削

- 11月13日(木)曇 高内C1・C3区:第1遺構面完掘状況写真撮影、高内C4-3区:遺構掘削、高内D1-2区:機械掘削・第1包含層掘削・第1遺構面検出
- 11月14日(金)曇/晴 高内D1-2区:第1遺構面検出状況写真撮影、
- 11月17日(月)曇/晴 柳内A7-2区:機械掘削、高内C4-3区:遺構掘削、高内D1-2区:測量
- 11月18日(火)曇/晴 柳内A7-2区:機械掘削、高内C1・C3区:確認掘削・埋戻し、高内C4-3区:遺構掘削、高内D1-2区:測量、高内D2-3区:機械掘削
- 11月20日(木)晴 高内D2-3区:第1包含層掘削・遺構検出・遺構掘削
- 11月27日(木)曇/晴 柳内A7-2区:機械掘削、高内C1・C3区:埋戻し、高内D2-3区:埋戻し
- 12月1日(月)曇/雨 柳内A7-2区:第1包含層掘削、高内C1・C3区:埋戻し
- 12月3日(水)晴/曇 柳内A7-2区:第1包含層掘削、高内C1・C3区:埋戻し、高内D2-1区:第1遺構面遺構完掘状況写真撮影・測量
- 12月8日(月)晴/曇 柳内A7-2区:第1包含層掘削・第1遺構面遺構検出、高内C1・C3区:埋戻し
- 12月12日(金)曇/晴 柳内A7-2区:第1遺構面遺構検出状況写真撮影・第1遺構面遺構掘削
- 12月15日(月)晴/曇 柳内A7-2区:第1遺構面遺構掘削
- 12月25日(木)曇 柳内A7-2区:第1遺構面遺構掘削・現場養生
- 1月7日(水)曇 柳内A7-2区:第1遺構面遺構掘削
- 3月1日(日)曇/雨 現地説明会・排水
- 3月2日(月)晴/曇 柳内A7-2区:第1遺構面遺構掘削・精査
- 3月5日(木)晴 柳内A7-2区:第1遺構面遺構面精査・第1遺構面検出状況写真撮影・第1遺構面遺構掘削
- 3月6日(金)曇/晴 柳内A7-2区:第1遺構面遺構掘削・測量
- 3月27日(金)晴 柳内A7-2区:埋戻し
- 3月30日(月)晴/曇 埋戻し・機材撤収
- 3月31日(火)晴/曇 完了検査



図版8 調査作業風景



図版9 現地説明会

## II 遺跡の立地と環境



# 1 地理的環境

徳島県の面積の約 8 割が山地であり、北から讃岐山脈、四国山地、剣山地、海部山地が東西方向に連なっている。讃岐山脈と四国山地の間には、中央構造線が東西方向に延び、北側の西南日本内帯と南側の西南日本外帯とに分けられる。中央構造線に沿うように、高知県の瓶ヶ森山を水源とする吉野川が、四国山地から紀伊水道へと東流しており、下流域沿岸部には沖積平野が広がっている。北側の内帯は中生代の和泉層群を主体とする讃岐山脈が、南側の外帯は三波川変成帯、御荷鉾緑色岩類、御荷鉾構造線を挟んで中生代の砂岩泥岩互層の秩父累帯北帯や黒瀬川構造帯（秩父累帯中帯）や三宝山帯（秩父累帯南帯）で構成される秩父帯が、仏像構造線を挟み中生代から古第三紀にかけて堆積した砂岩泥岩互層の四万十帯が配列し、四国山地と剣山地、海部山地を形成している。

小松島市は、勝浦川右岸の県東部沿岸にひろがる平野に位置し、全面積の約 7 割が小松島湾を囲む形で発達した紀伊水道を臨む低平な沖積平野で構成されている。北側の徳島市との境には、古生代三波川系結晶片岩層の日の峰山地、市域の中央で平野部を南北に分ける形で、西側は勝浦川沿岸から東側は小松島湾沿岸へと突き出ている形で、古生代秩父古生層の田野山地が延びている。田野山地南部には、東側が二股に分かれ、V字形をしている向山丘陵が阿南市との境界をなしている。

小松島市を含む沖積平野は、勝浦川と那賀川の堆積作用で沈降海岸が埋積されて形成されたものである。小松島市北西部の小松島平野は、現在では田野山地より下流域では北流して市内を流れている勝浦川が、かつては東流し、沖積平野を形成したと推定される。勝浦川は、秩父帯北帯を東流する河川で、総延長 49.6km、流域面積は 224 k m<sup>2</sup>に及ぶ。中生代ペルム紀中古世剣山層群の砂岩層である勝浦郡上勝町剣山地雲早山東方を水源とし、上勝町域では中生代ペルム紀中古世剣山層群の砂質泥岩層や泥岩層を穿ちながら曲流・蛇行し、勝浦町域では中世代白亜紀有田世羽ノ浦層を蛇行しながらも北東方向へ貫流し、勝浦盆地内では中世代白亜紀中古世藤川層を貫流しながら低位段丘や沖積地を形成し、勝浦町沼江附近で北流に転じ、剣山層群砂岩層や徳島市飯谷地区のチャート層や凝灰岩層を穿ち、横谷を形成する。徳島市飯谷町や小松島市田浦町付近より沖積平野を形成し、徳島市津田町地域南部で東に向きを変え紀伊水道に注ぐ。勝浦川が現在の河道に固定されたのは、17 世紀に徳島藩が旧勝浦郡田野村（現小松島市田野町）井口から旧勝浦郡大原浦（現徳島市大原町）千代ヶ丸にかけて前原堤を築堤したからであり、現在の小松島市田浦町や新居見町を東流する神田瀬川や芝生川は、勝浦川の旧河道もしくは支流である。南部の立江・櫛淵低地は、溺れ谷のような入江であった所が、向山丘陵に沿って東流し、さらに北東に向かって現在の目佐川の流路をとっていた那賀川の堆積作用によって、形成された低地である。東から西へ堆積し、ふさがれて逆三角州の形をとり湿地化し、形成された。南東部の坂野や和田島付近は那賀川の流出した土砂が、沿岸流や波浪の影響で再堆積することで形成され、数列の浜堤や砂丘の跡が認められる。

新居見遺跡の所在地である新居見町は、小松島平野西部の勝浦川礫質低地に位置する。勝浦川礫質低地は、勝浦川の堆積作用で生じた砂礫によって形成された扇状地性の三角州である。勝浦川が田野山地から平地へ出る田浦町井口付近を中心に、弧状に張り出す形をしている。海拔は井口付近が約 10m、子安付近で約 4m、近里付近で約 3m、中田から日開野町付近にかけて約 2.5m となっている。新居見町は、神田瀬川の蛇行部と田野山地の間の地域に位置する。神田瀬川沿岸では、低湿地が広がっている様子がうかがえる。新居見遺跡は、田野山地北側の麓から神田瀬川右岸の間に広がる遺跡であることが推定される。

## 2 歴史的環境

### 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、勝浦川流域では確認されていない。那賀川支流域に位置する阿南市桑野町廿枝遺跡からは、ナイフ形石器・石核・細石刃・搔器・尖頭器などが出土している。チャートを主体としており、サヌカイトを用いている吉野川流域の遺跡とは異なった様相が見られる。

### 縄文時代

縄文時代の遺跡も、勝浦川流域で確認されていない。那賀川沿いの自然堤防上に立地する阿南市深瀬町深瀬遺跡からは、大歳山式・鷹島式・宮滝式土器が出土していることから、時期は縄文時代前期末・中期初頭・後期末であると考えられる。他に、翡翠製丸玉や独鈷石、辰砂鉱石なども出土している。

### 弥生時代

弥生時代に入っても、確認されている遺跡は少ない。小松島市田浦町から磨製石器の太形蛤刃石斧が出土している。徳島市上八万町星河内美田と小松島市赤石町勢合からは、中期後半にあたる扁平紐式銅鐸が出土している。星河内美田からは計7口の銅鐸が出土しており、複数埋納であったことがわかる。徳島市八多町と多家良町からは、突線紐式銅鐸が出土している。八多町出土銅鐸は突線鈕1～2式で中期後半～後期、多家良町出土銅鐸は突線鈕5式で後期にあたりと考えられる。

### 古墳時代

徳島市南部から小松島市にかけての地域では、前期古墳は、園瀬川北岸地域に集中して確認されているが、中期になると、園瀬川南岸地域で古墳の築造が増加する。箱式石棺を中心として展開している。勝浦川下流域においても、山地や丘陵に築かれた古墳が確認されている。徳島市渋野町の三ッ時山麓では、マンジョ塚2号墳が築造された後に、渋野丸山古墳が築造され、続いて天王の森古墳・新宮塚古墳が造られたと推定される。マンジョ塚2号墳の南には、マンジョ塚古墳も築造されている。丈六寺山には丈領(六)古墳が築造される。丈領古墳からは、変形神獸鏡が出土している。鶴島山古墳群は、平野部に存在している独立丘陵上に位置している。古墳の築造形態から、中期築造であると考えられる。3、4号石棺では一棺多重埋葬がされており、徳島県内唯一の確認例である。

小松島市田浦町の田野山地でも、関西大学によって昭和37年(1962)に学術調査が行われた前山古墳をはじめとして、子安観音塚古墳・お子守塚古墳・山ノ神塚古墳などの古墳が確認されている。前山古墳からは竪穴式石室と粘土槨が検出されており、石室からは木棺に埋葬された人骨が出土している。木棺内から副葬品は確認されていないが、木棺外から鉄剣・袋状鉄斧・鑿・槍鉞・砥石・仿製の内行花文鏡が出土している。山ノ神塚古墳では滑石製子持勾玉・円筒埴輪・瑪瑙が採取されている。子安観音塚古墳からは、江戸時代の嘉永7年(1854)に金銅装の三角板鋌留短甲と小札鋌留冑が出土し、絵師の守住貫魚が記録している(『阿波国勝浦郡田之浦村掘出古甲冑』)。出土した甲冑は、崇りを恐れて埋め戻されている。その後の所在はわからなくなっていたが、甲冑の一部と推定される資料が小松島市図書館に所蔵されていることが確認された。田野山地では、後期古墳も確認されている。山地の東側尾根では弁慶の岩屋古墳が確認されている。墳丘の盛土はなくなっており、出土遺物は確認されていないが、



横穴式石室のみが残っている。石室の形態から、築造時期は後期と推定される。田野山地周辺では、古墳が確認されていない場所からも埴輪が出土している。前山古墳の北東方向に前山遺跡が確認されている。石見型盾形埴輪の破片が出土している。後の時代の開発によって幾つかの古墳は消滅しており、勝浦川下流域の山地・独立丘陵上には、現在確認されているものより多くの古墳が築造されていたと考えられる。

## 古代

小松島市田浦町に所在する田浦遺跡から、奈良時代から平安時代の土師器や須恵器等が出土している。流路遺構からは埴輪が出土しているが、平安時代の遺物と共存して検出されていることから、田浦遺跡近隣の古墳を削平した際に、廃棄されたものであると考えられる。掘立柱建物跡の遺構が検出されており、直線区画跡も見られることから、官衙施設が存在した可能性が考えられる。小松島市立江町の立江馬淵遺跡と立江柳ノ内遺跡からは、平安時代以前からの律令祭祀を窺わせる木製品（斎串・人形・舟形等）や土器（黒色土器・緑釉陶器・灰釉陶器）が出土している。検出された遺構には、9～10世紀を中心とした大規模な掘立柱建物も確認されている。この建物の規模と配置、出土遺物から、立江馬淵遺跡・立江柳ノ内遺跡にも、官衙施設があった可能性が高いと考えられる。小松島市大林町の宮免遺跡からは、古墳時代から奈良・平安時代にかけての須恵器を中心とした遺物が出土している。

『和名類聚抄』より、律令制下では勝浦川流域は勝浦郡域に含まれ、小松島市立江町・赤石町から南は那賀郡であったと比定されている。勝浦郡域には、篠原郷・託羅郷・新居郷・余戸郷が設置される。篠原郷は徳島市丈六町・本庄町・渋野町・大松町・大谷町・方上町・西須賀町・小松島市前原町に比定されている。託羅郷は徳島市宮井町・飯谷町・八多町に比定されている。新居郷は小松島市田浦町・新居見町・田野町・芝生町・前原町・江田町に比定されている。余戸郷は小松島市中田町・中郷町から徳島市大原町にかけての勝浦川河口部に比定されている。小松島市南部の立江町・櫛淵町・坂野町・赤石町・大林町は那賀郡坂野郷に比定されている。

## 中世

中世の遺跡は、宮免遺跡、立江馬淵遺跡、立江柳ノ内遺跡があげられる。宮免遺跡は平安時代に始まり、鎌倉時代に拡大した集落遺跡と考えられており、鎌倉時代構築の井戸も検出されている。しかしながら、室町時代以降の集落に関する遺構は確認されておらず、田畑として利用されたと考えられる。古代には官衙施設の存在も考えられている立江馬淵遺跡と立江柳ノ内遺跡においても、確認されている中世の遺構・遺物は少ない。鎌倉時代にも集落は存在していたが、規模は小さくなったと考えられる。室町時代以降は、集落に関する遺構は確認されていないことから、田畑として利用され、集落としては利用されなくなったと考えられる。徳島市渋野町には渋野遺跡が所在する。鎌倉時代から室町時代の遺構層が検出されている。

徳島市丈六町丈領に所在する丈六寺は、白鳳期に創建されたと伝えられ、京都仁和寺の末寺であった可能性や篠原庄に勢力を持つ田口氏に保護された可能性が指摘されている。明応元年（1492）阿波国守護細川成之により桂林寺金岡兼を開山とし曹洞宗寺院として再興された。この丈六寺境内において確認された丈六寺境内遺跡からは、12世紀後半の掘立柱建物群や池状遺構が、16世紀代の盛土整地層、16世紀末から17世紀にかけての土塁状遺構や溝状遺構が確認されている。掘立柱建物群は丈六寺前

身の寺院関連の遺構ではなく中世村落関連遺構と推定される。

勝浦川下流域における中世城館は、徳島市域に 11 カ所、小松島市域に 11 カ所存在していたと考えられている。所在地が比定されているものでは、徳島市丈六町の熊山城跡、渋野町の八多城跡、小松島市新居見町の新居見城跡、櫛淵町の櫛淵城跡があげられる。熊山城跡と櫛淵城跡は独立丘陵上に所在し、渋野城跡と八多城跡は尾根先端部に所在し、新居見城跡は山地の山頂部に所在している。熊山城は、平安時代末期には平氏の有力家人田口氏の一族が居城していたが、元暦元年（1185）に落城したとされている。その後、細川・三好期に本庄太郎兵衛国兼が築城し、熊山城と称した。戦国時代には本庄城といわれた。渋野城には新開右京進兼安が居城していた。新居見城には近藤六親家が居たが、戦国期は一族の赤沢氏が居城していた。櫛淵城は、秋元紀伊守が城主であったとされている。旧勝浦郡には、平安時代後期に篠原荘が成立している。他には、国衙領の方上保や紀州高野山勝蓮花院多奈保が成立する。勝浦荘は、篠原荘から分かれて成立した荘園である。鎌倉時代後期には、方上保と多奈保は勝浦荘の一部となっている。太奈保は、小松島市田野町周辺に比定されており、新居見町も含まれていたと考えられる。那賀郡域には、石清水八幡宮領の櫛淵荘（小松島市櫛淵町周辺）、坂野新荘（小松島市坂野町）、立江荘（小松島市立江町）が存在した。

## 近世

豊臣秀吉から蜂須賀家政は阿波国 17 万 5 千石を与えられた。関ヶ原の戦い後の慶長六年（1601）に、中田村（現・小松島市中田町）に別館を置き居住したといわれている。徳島藩は幕末まで国替えされることなく、蜂須賀氏によって治められた。17 世紀に徳島藩によって、勝浦郡田浦村（現小松島市）の井口から勝浦郡大原町（現徳島市）の千代ヶ丸にかけての右岸 4km にわたる前原堤が築かれた。江戸時代には、干潟等の新田開発も進められた。元禄から宝暦にかけての金磯新田、正徳から寛政にかけての和田津新田が知られている。また、金磯新田名主の多田宗太郎は、文久二年（1862）に金磯弁天山に 8 門の砲台（金磯弁天砲台）と堅塁を、火薬庫・射撃場等の附属施設と共に徳島藩に献上した。明治二年（1869）まで藩の軍事基地とされた。

## 註

（註 1） 守住貫魚『阿波国勝浦郡田之浦村掘出古甲図』に写生図と出土時の様子に関する記載有り。

（註 2） 方上保は、元徳三年の神光寺鐘銘に「勝浦庄古方郷神光寺」と見え、多奈保は、元弘三年の恩山寺鐘銘に「阿州勝浦庄多奈恩山寺」と見える。

## 参考文献

- 阿部 猛 1997 『日本荘園大辞典』東京堂出版  
天羽利夫 1969 「徳島県廿枝遺跡採集の石器—徳島県出土のナイフ形石器」『古代学』16-1  
天羽利夫 1973 「徳島県における横穴式石室の—様相」『徳島県博物館紀要』第 4 集 徳島県博物館  
飯田 実 1963 『前山古墳』徳島県教育委員会社会教育課  
池邊 彌 1976 『和名類聚抄郷名考證 増訂版』吉川弘文館  
一山 典 1981 『古墳時代の徳島市—埋蔵文化財資料展—』徳島市教育委員会  
梅原末治 1941 「銅鐸に関する若干の新知見」『考古学雑誌』31 巻 5 号 日本考古学会  
梅原末治 1985 『銅鐸の研究』木耳社  
勝浦郡教育委員会 1972 『勝浦郡志』名著出版  
角川日本地名大辞典編纂委員会 1986 『角川日本地名大辞典 36 徳島県』角川書店  
川西宏幸 1978 「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』日本考古学会  
菅 英志 1979 『日本城郭大系 第 15 巻』新人物往来社  
元興寺文化財研究所 1979 『徳島市鶴島山古墳群の調査—発掘調査報告書』徳島市教育委員会

- 栗林誠治 2013『渋野遺跡 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書』第 83 集
- 栗林誠治 2014「勝浦川流域における前・中期古墳の動態」『青藍』10 考古学フォーラム蔵本
- 久保脇美朗 2006『立江馬淵遺跡 徳島県埋蔵文化財センター調査報告書』第 26 集 徳島県教育委員会
- 小林勝美ほか 1985「羽ノ浦町の考古学調査報告」『総合学術調査報告 羽ノ浦町郷土研究発表会紀要 第 31 号』徳島県立図書館
- 下田順一 2000「マンジョ塚 2 号墳（市道拡幅工事）」『徳島市埋蔵文化財発掘調査概要 10』徳島市教育委員会
- 下田順一 2006『渋野丸山古墳発掘調査報告書』『徳島市埋蔵文化財調査報告書』徳島市教育委員会
- 下中直人 2002『日本歴史地名大系 37 徳島県の地名』平凡社
- 菅原康夫 1988『日本の古代遺跡 37 徳島』保育社
- 高橋正則 1984「徳島県阿南市・甘枝遺跡採集の石器再考」『旧石器考古学』29 旧石器文化談話会
- 田中英夫 1968「徳島市渋野古墳群の出土品」『古代学研究』53 古代学研究会
- 徳島県教育委員会 1963『前山古墳』（徳島県文化財調査報告書 第 6 集）
- 原芳伸 2016『深瀬遺跡－那賀川河川改修事業（深瀬堤防）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』（徳島県埋蔵文化財センター調査報告書第 86 集）  
徳島県教育委員会
- 徳島県教育委員会 2011『徳島県の中世城館』徳島県教育委員会
- 三宅良明・勝浦康守ほか 2000『徳島市埋蔵文化財発掘調査概要 10』徳島市教育委員会
- 福家清司 1990「阿波国中世所領研究ノート」『四国中世史研究』1 号
- 小松島市教育委員会 2002『小松島市の文化財』
- 小松島市教育委員会 1964『小松島市古代文化のあと』
- 小松島市新風土記編纂委員会 2001『小松島市新風土記』
- 徳島県史編さん委員会 1964『徳島県史 第一巻』徳島県
- 近藤玲 2000「遺跡地図整備事業」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.12 2000 年度』徳島県埋蔵文化財センター
- 須崎一幸 2003「圃場整備事業関連調査」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.14 2002 年度』徳島県埋蔵文化財センター（立江柳ノ内遺跡）
- 須崎一幸 2004「宮免遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.15 2003 年度』徳島県埋蔵文化財センター
- 牧野浩章 1998「宮免遺跡」『徳島県埋蔵文化財センター年報 vol.9 1997 年度』徳島県埋蔵文化財センター

### Ⅲ 調 査 成 果

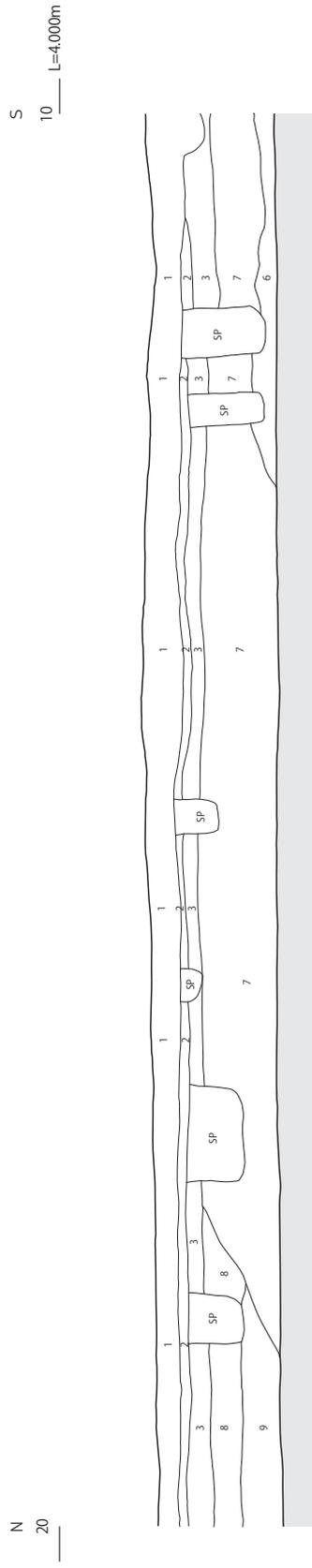
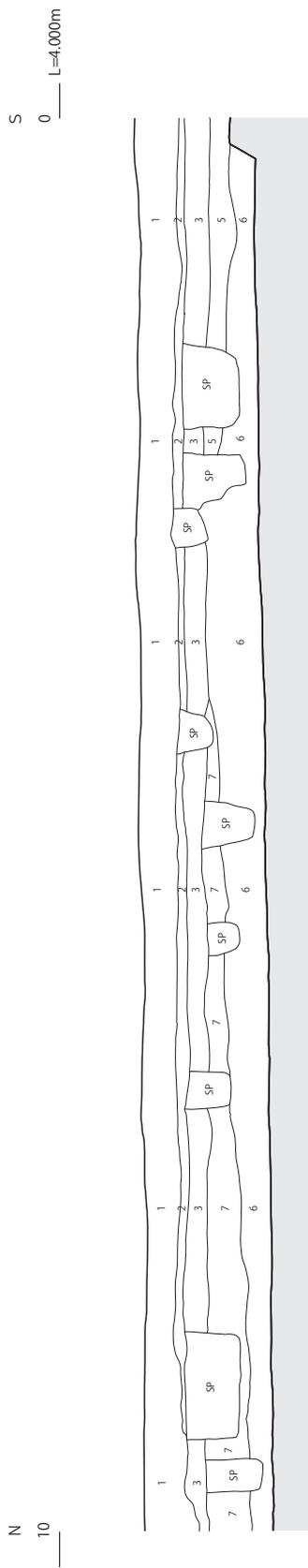


# 1 山路地区遺構配置

縄文時代と弥生時代の遺構は主に山路地区の北側で確認された。同一遺構面上には古墳時代後期の遺構も展開する。

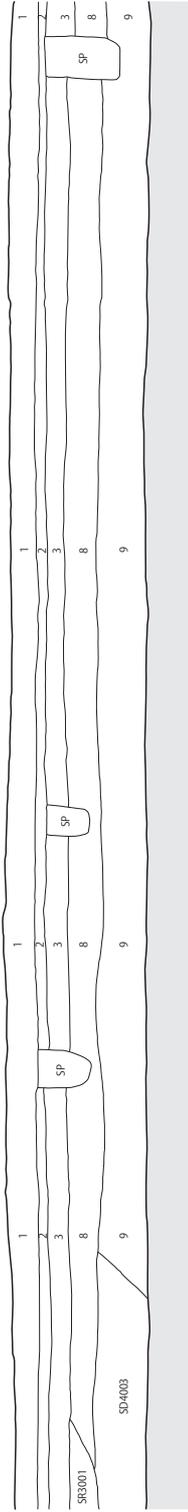


第7図 山路地区第5遺構面遺構配置図

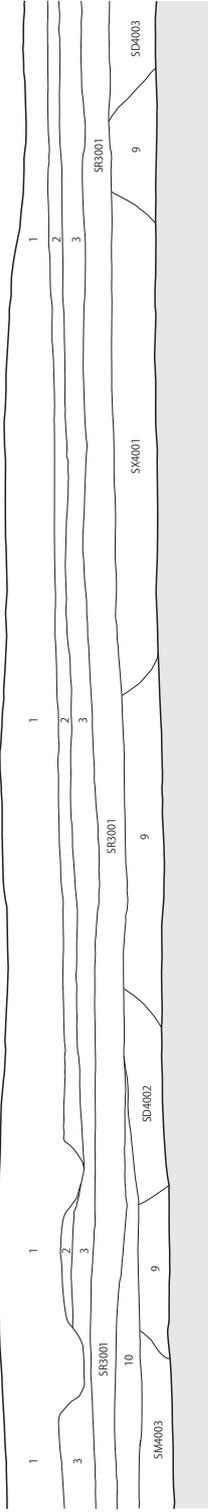


第8図 山路地区基本土層図(1)

N 30  
S 20  
L=4,000m



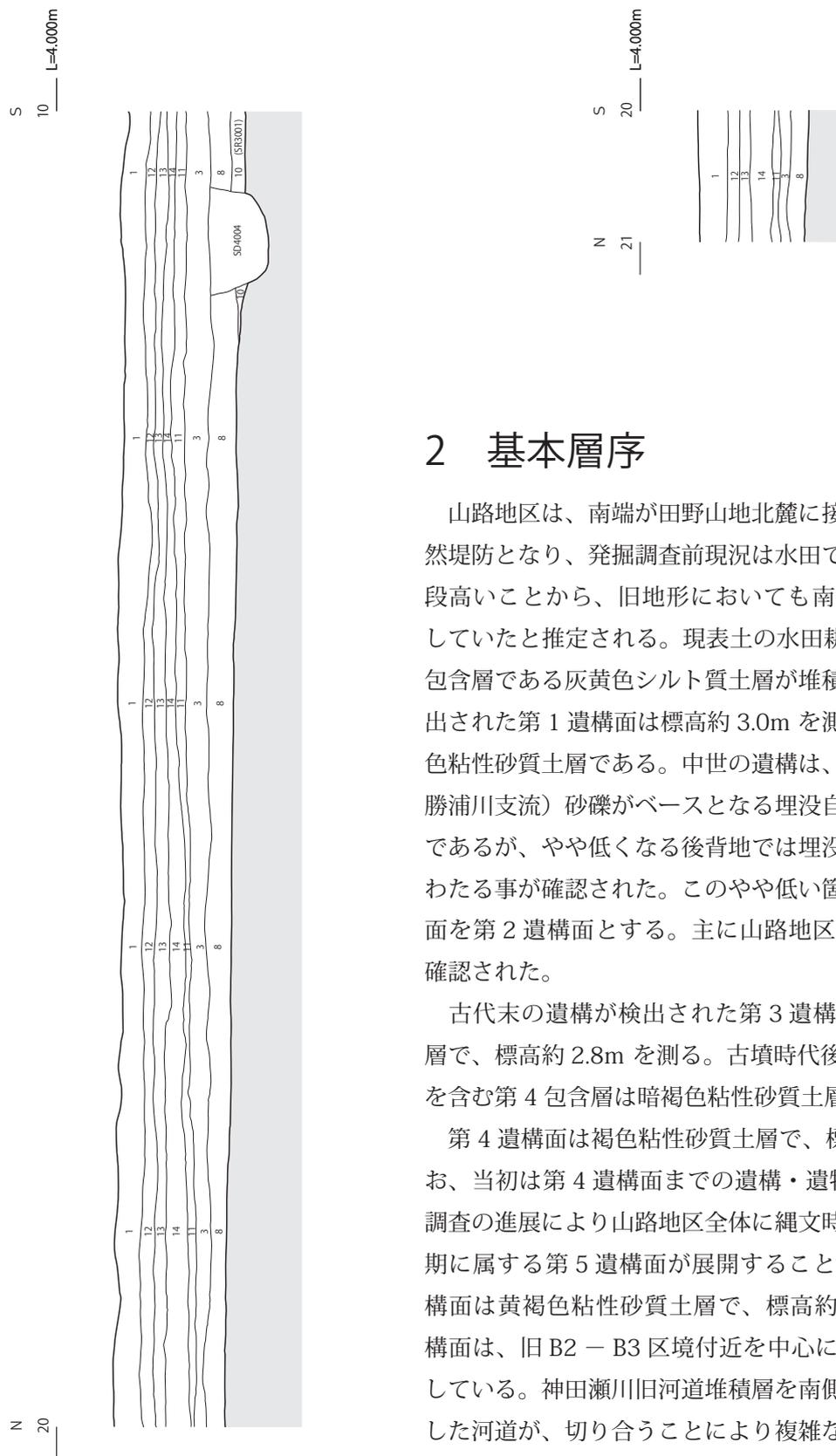
N 40  
S 30  
L=4,000m



- 東横断面図
- 1 25YR4/6 オリーブ褐色粘土 しまりあり、粘性强い、B2区腐葉土層の土色No.1に相当。
  - 2 10R5/6 褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg15%含む。
  - 3 10R5/4 褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg5%含む、B2区腐葉土層の土色No.24に相当。
  - 4 10R5/4 褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg5%含む、B2区腐葉土層の土色No.26に相当。
  - 5 10R5/4 褐色粘土 しまりあり、粘性强い、B2区腐葉土層の土色No.28に相当。
  - 6 10R5/4 褐色粘土 しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg10%含む。
  - 7 10R5/3 にぶい黄褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg10%含む。
  - 8 10R5/4 褐色粘土 しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg10%含む。
  - 9 10R5/3 にぶい黄褐色粘土 しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg10%含む。
  - 10 10YR6/6 褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg2%含む。
  - 11 25YR6/6 オリーブ褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg10%含む。
  - 12 25YR6/6 オリーブ褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg10%含む。
  - 13 25YR6/4 オリーブ褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg10%含む。
  - 14 25YR6/3 オリーブ褐色シルト しまりあり、粘性强い、小粒径 Mg10%含む。

第9図 山路地区基本土層図(2)





## 2 基本層序

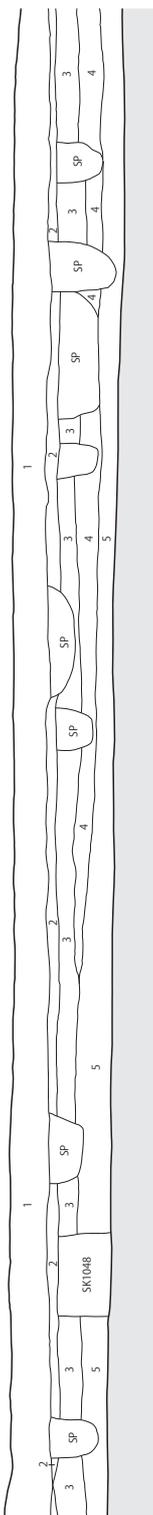
山路地区は、南端が田野山地北麓に接し、北側は神田瀬川自然堤防となり、発掘調査前現況は水田である。南側水田筆が一段高いことから、旧地形においても南から北へ緩やかに傾斜していたと推定される。現表土の水田耕作土及び床土下に第1包含層である灰黄色シルト質土層が堆積する。中世の遺構が検出された第1遺構面は標高約3.0mを測り、灰褐色ないし黄灰色粘性砂質土層である。中世の遺構は、旧地形の神田瀬川(旧勝浦川支流)砂礫がベースとなる埋没自然堤防上では1面のみであるが、やや低くなる後背地では埋没過程に沿って2時期にわたる事が確認された。このやや低い箇所に該当する中世遺構面を第2遺構面とする。主に山路地区北側半分と柳内地区で確認された。

古代末の遺構が検出された第3遺構面は灰褐色シルト質土層で、標高約2.8mを測る。古墳時代後期から飛鳥時代の遺物を含む第4包含層は暗褐色粘性砂質土層である。

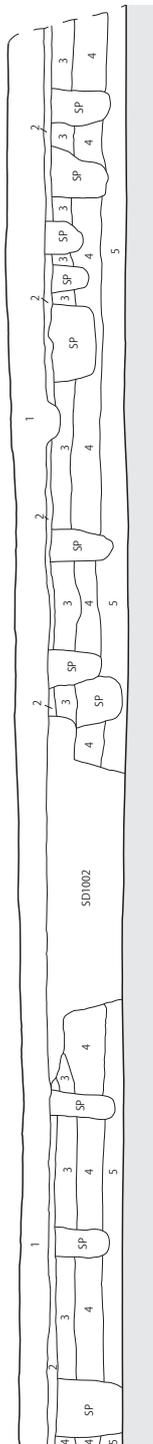
第4遺構面は褐色粘性砂質土層で、標高約2.6mを測る。なお、当初は第4遺構面までの遺構・遺物が確認されていたが、調査の進展により山路地区全体に縄文時代晩期から弥生時代後期に属する第5遺構面が展開することが確認された。第5遺構面は黄褐色粘性砂質土層で、標高約2.3mを測る。第5遺構面は、旧B2-B3区境付近を中心に、東側と西側へと傾斜している。神田瀬川旧河道堆積層を南側からの小扇状地を形成した河道が、切り合うことにより複雑な地形を形成したと推定される。

第11図 山路地区基本土層図(4)

E 0  
W 10 L=4,000m



E 10  
W 20 L=4,000m



- 南壁断面図
- 1 2.5YR4/6 オリーブ褐色粘土 しまりあり、粘性強い。(赤土) B2 区壁面土層の土色 No.1 に相当。
  - 2 10YR4/6 褐色シルト しまりあり、粘性なし、極小粒 Mg15% 含む。(第1面)
  - 3 10YR4/3 暗褐色シルト しまりあり、粘性なし、極小粒 Mg15% 含む。(第2面) B2 区壁面土層の土色 No.24 に相当。
  - 4 10YR4/6 褐色シルト しまりあり、粘性若干あり。(第3面) B2 区壁面土層の土色 No.26 に相当。
  - 5 10YR4/4 褐色粘土 しまりあり、粘性強い。(第4面) B2 区壁面土層の土色 No.28 に相当。

第12図 山路地区基本土層図(5)

### 3 遺構と遺物

#### (1) 第5遺構面 縄文時代・弥生時代

##### 1号自然流路SR3001（旧SR3001）

**検出地点** D1～F13以北

**形態・規模** 東西方向に流れる古代に属する自然流路である。縄文時代・弥生時代の遺構面を削平して東流する。北側は川原礫が堆積した埋没自然堤防となる。田野山地の小谷地形により形成された微小扇状地により、東側で幅が狭まりやや北側へ向きを変える。

**遺物出土状況** 主な出土遺物は古代末から中世に属するが、縄文時代に属する遺物も最下層より出土した。

**出土遺物** 石器1はサヌカイト製スクレイパーである。石器2はサヌカイト石核である。

**時期** 古代末～中世前半に縄文時代の自然流路や古墳時代の遺構面を削平したと推定される。

##### 2号自然流路SR5002（旧SR4001）

**検出地点** D2～E8

**形態・規模** 東西方向に延びる自然流路の岸辺部分もしくは南からの沖積微高地縁辺部に該当する。比高差も13cm程度と浅いことから、微高地間の浅い落ち込みの可能性が高い。

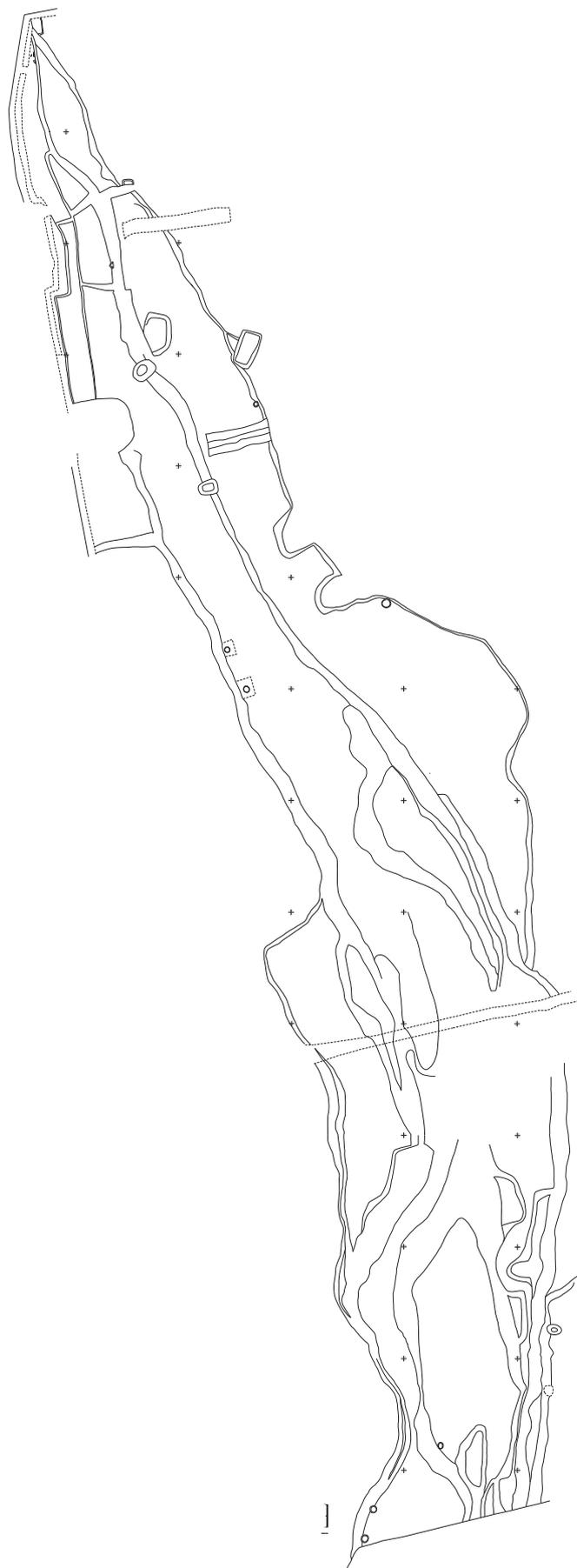
**遺物出土状況** 主な出土遺物は、古墳時代後期に属するが、石器3、4が最下層より出土。

**出土遺物** 石器3はサヌカイト製凹基石鏃である。石器4はサヌカイト製剥片である。

**時期** 縄文時代晩期から古墳時代後期にかけて形成されたと推定される。

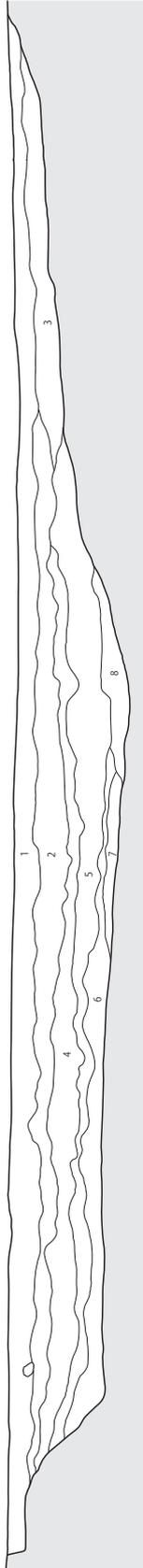


図版 10 SR3001 全景（東から）



第13图 1号自然流路SR3001（旧SR3001）遺構図

— L=3,000m

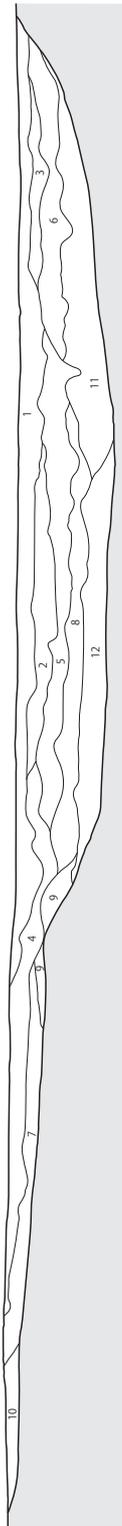


SR3001

A-B 間

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、小礫をやや含む。φ 1mm未満のMg 粒を 5%含む。土層間片をわずかに含む。北側ほど小礫は多くなる。
- 2 10YR4/1 赤灰色砂礫 しまりあり、粘性ややなし、粗砂を含まず。第 8 層に類似するが、やや明るい色調を呈す。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、小礫をわずかに含む。わずかにまじりあり。炭化植物根をわずかに含む。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり。第 3 層よりやや細い色調を呈す。小礫をわずかに含む。
- 5 2.5Y4/2 暗灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い。Fe を斑状に 10%含む。ややグライ化している。
- 6 2.5Y4/1 黄灰色砂礫 しまりあり、粘性ややなし。小礫、粗砂をわずかに含む。第 5 層付近がグライ化している。
- 7 2.5Y5/2 暗灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性やつよい。粗砂をわずかに含む。北側ほど多い。Fe を斑状に 3%含む。まじり少ない。
- 8 10YR4/1 赤灰色砂礫 しまりあり、粘性ややなし。第 2 層に類似する。やや暗い色調を呈す。粗砂、小礫を同出で含む。

— L=3,000m

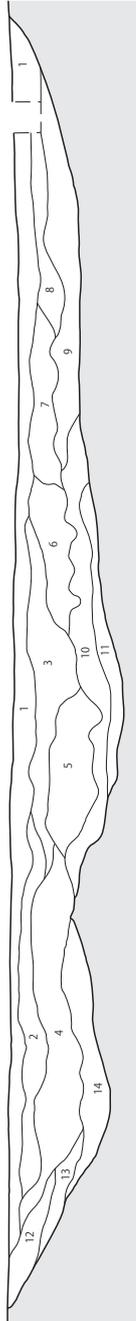


C-D 間

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性ややあり。やや砂質つよい。φ 1mm未満のMg 粒を 10%含む。北側に小礫をやや多く含む。ややまじりあり。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性ややあり、ややまじり多い。φ 1mm未満のMg 粒を 10%含む。炭化植物根をわずかに含む。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、小礫を含まず。わずかにまじりあり。炭化植物根をわずかに含む。
- 4 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。わずかにグライ化する。
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm未満のMg 粒を 15%含む。層下には第 8 層プロックを含む。
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじり多い。φ 1mm未満のMg 粒を 5%含む。小礫をわずかに含む。やや砂質つよい。
- 7 10YR4/3 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじり多い。φ 1mm未満のMg 粒を 15%含む。炭化植物根をわずかに含む。
- 8 10YR5/1 赤灰色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。まじり多い。Fe 粒を 10%含む。
- 9 2.5Y4/3 オリーブ〜暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、炭化植物を含む。φ 1mm未満のMg 粒を 5%含む。ややまじり多い。
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。堆山プロックをやや多く含む。φ 1mm未満のMg 粒を 10%含む。
- 11 5Y3/2 オリーブ〜黒色の質土 しまりあり、砂質つよい。小礫をわずかに含む。全体にグライ化する。
- 12 7.5Y4/1 灰色粘質土 しまりあり、粘性つよい。Fe 粒をやや多く含む。粗砂をわずかに含む。

第 14 図 1号自然流路SR3001(旧SR3001)土層図(1)

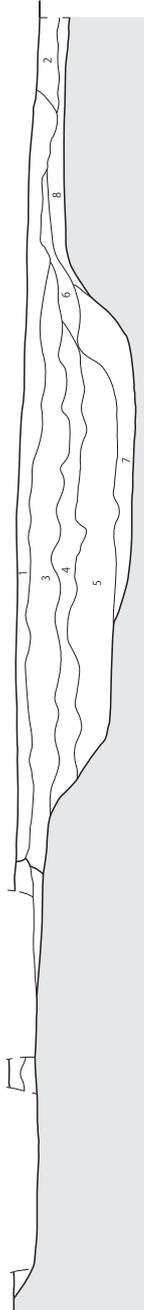
— L=3,000m



EF間

- 1 10PR43 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm未満のMg粒、シミ粒のFe粒を7%含む、やや砂質つよい。
- 2 10PR43 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり少ない、φ 1mm未満のMg粒を1%含む。
- 3 10PR43 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、わずかにまじりあり、第2層よりやや明るい色調を呈す、わずかに砂質つよい。
- 4 10PR52 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、層下にFeが斑状に沈着する、灰白色粘質砂質土ブロックがまじる。
- 5 10PR43 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、小礫をわずかに含む、わずかに砂質つよい、まじり少ない。
- 6 10PR52 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり、Fe粒が沈着する、灰化物質面をわずかに含む、濃褐色の硝化層と砂質つよい。
- 7 10PR52 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、Fe粒をシミ粒に含む、わずかにまじりあり、Fe粒をシミ粒に含む。
- 8 10PR52 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、Fe粒をシミ粒に含む、やや砂質つよい。
- 9 2.5PR43 オリープ褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、わずかにグライ化する。
- 10 10PR43 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、灰黄色粘質砂質土ブロックを40%含む、Fe粒をシミ粒に含む。
- 11 10PR52 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい、まじり少ない。
- 12 5Y4/1 灰黄色粘質土、しまりあり、粘性あり、全体にグライ化する、Fe粒をシミ粒に含む、濃褐色の硝化層を含む。
- 13 10PR42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、小礫をやや含む、わずかに砂質つよい。
- 14 2.5PR43 オリープ褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、全体にわずかにグライ化する、やや砂質つよい、Fe粒をシミ粒に含む。

— L=3,000m

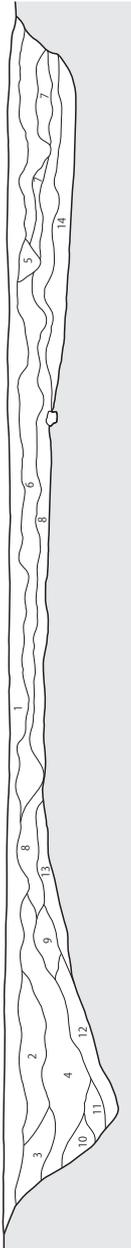


DE間

- 1 10PR44 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm未満のMg粒を10%含む、灰化物質面をわずかに含む。
- 2 10PR52 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、灰化物質、土礫(小片)、腐土層状をわずかに含む、ややまじりあり。
- 3 10PR43 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、灰化物質面をわずかに含む、ややまじりあり、小礫をわずかに含む。
- 4 10PR43 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第2層より白っぽい色調を呈す、層下は第5層とまじる、Mg粒、Fe粒をやや多く含む。
- 5 5Y4/1 灰黄色粘質土 しまりあり、粘性ややつよい、Fe粒を硝化層に5%含む、全体にグライ化する。
- 6 5Y4/1 灰黄色粘質土 しまりあり、粘性ややつよい、Fe粒を硝化層に5%含む、全体にグライ化する。
- 7 7.5Y4/1 灰黄色粘質土 しまりあり、粘性つよい、まじりほとんどなし、全体にグライ化する。
- 8 5Y4/1 灰黄色粘質土 しまりあり、粘性ややなし、やや細かい砂質ブロックを多く含む。

第 15 図 1号自然流路SR3001(旧SR3001)土層図(2)

— L=3,000m



Fの層

- 1 10R6/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、小礫をやや多く含む、まじり多い、φ 1mm前後のMg粒を5%含む、わずかに砂質つよい。
- 2 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、灰化物質をわずかに含む、ややまじりあり、小礫をわずかに含む。
- 3 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い、第2層よりやや暗い色調を呈す。第5層付近は砂礫のまじりが多い。
- 4 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い、第3層にぶい色調を呈す。Fe小礫を3%含む。
- 5 10R6/2 灰黄褐色砂礫 しまりややあり、粘性なし、φ 5mm以下の小礫主体。前面は之れが子が大きい。
- 6 10R6/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第5層に類似するφ 5mm以下の砂礫ブロックを多く含む。
- 7 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい、わずかにまじりあり、小礫をわずかに含む。
- 8 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、小礫をわずかに含む、わずかにまじりあり、やや砂質つよい。
- 9 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第8層に類似する。小礫をわずかに含む、やや砂質つよい。
- 10 10R6/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性ややなし、第7層に類似する。小礫を全体に40%含む。
- 11 10R6/2 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い、φ 1mm以下のMg粒を7%含む、わずかにまじりあり。
- 12 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い、φ 1mm未満のMg粒を10%含む。
- 13 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い、Fe粒を7%含む。
- 14 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い、Fe粒を7%含む。

— L=3,000m



B-C層

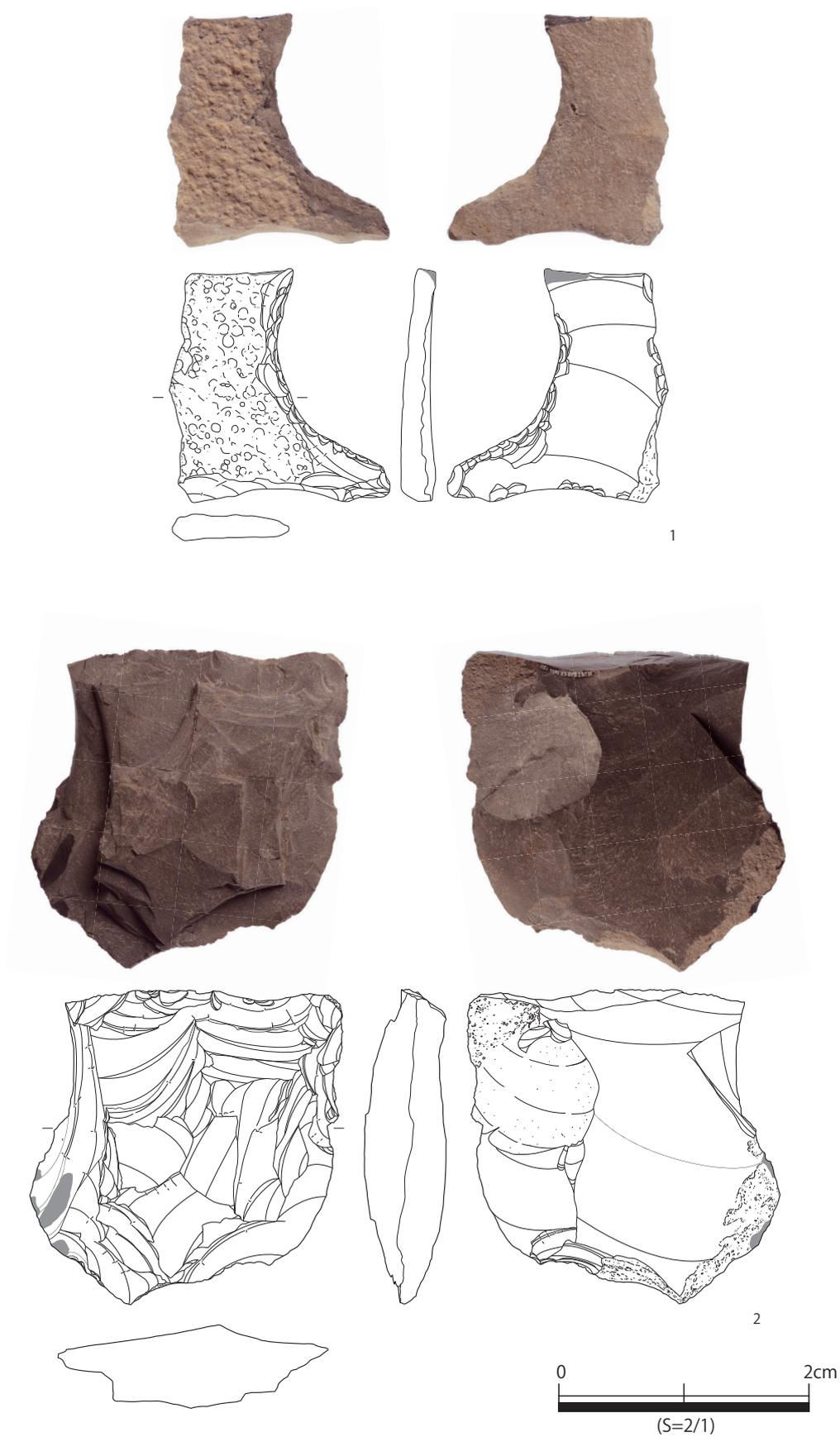
- 1 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mmのMg粒を10%含む、わずかに砂質つよい。
- 2 10R6/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、小礫をわずかに含む、やや砂質つよい、ややまじりあり。
- 3 10R6/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い、φ 1mm以下のMg粒を7%含む、第1層よりやや暗い色調を呈す。
- 4 10R6/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、砂質つよい、わずかにまじりあり、φ 1mmのMg粒を3%含む。
- 5 2.5/4/2 暗灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い、細礫をわずかに含む、φ 1mmのMg粒を3%含む。
- 6 10R6/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり少ない。
- 7 2.5/4/2 暗灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、わずかにまじりあり、細礫をわずかに含む。
- 8 2.5/4/2 暗灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第7層に類似する。小礫を多く含む、砂質つよい、Feをシミ状にわずかに含む。
- 9 2.5/4/3 オリーブ褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性ややなし、砂礫を多く含む、部分的に砂礫のブロックを形成する。
- 10 2.5/4/2 暗灰黄色砂礫 しまりあり、粘性ややなし、細礫、粗砂主体。
- 11 2.5/5/2 暗灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性つよい、全体がグライ化する。Fe粒を粗状に含む、細礫を含む。

第16図 1号自然流路SR3001(旧SR3001)土層図(3)

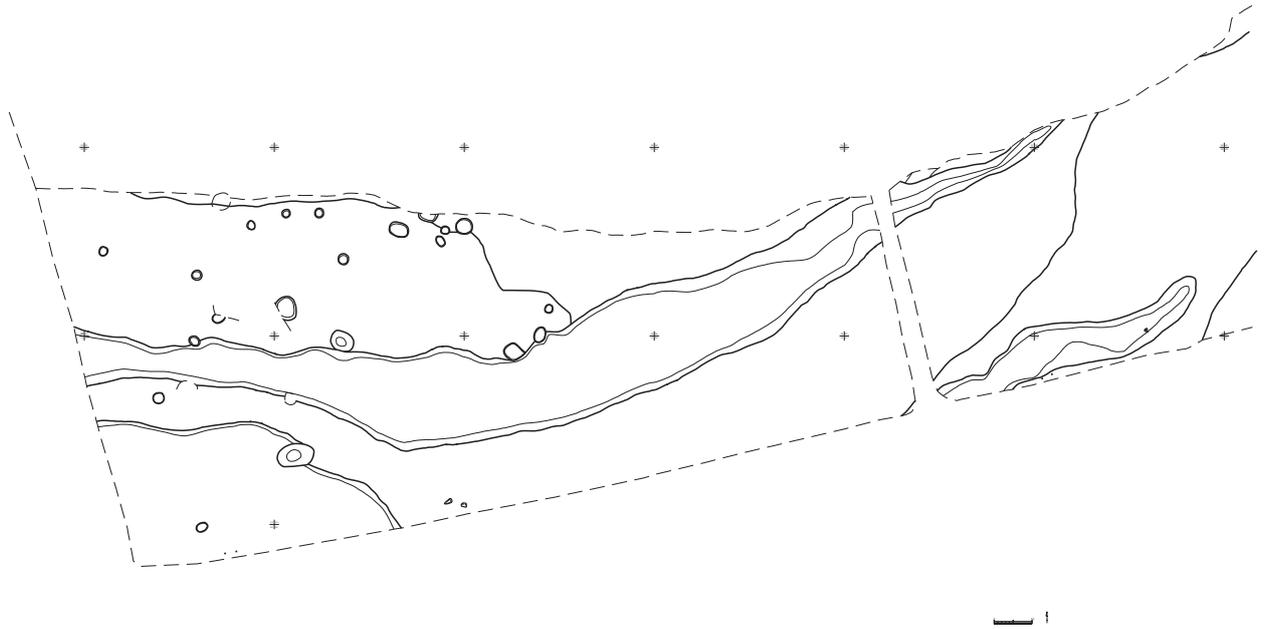
### 3号自然流路SR5003(旧SR4003)

検出地点 C3, C4, B3, B4

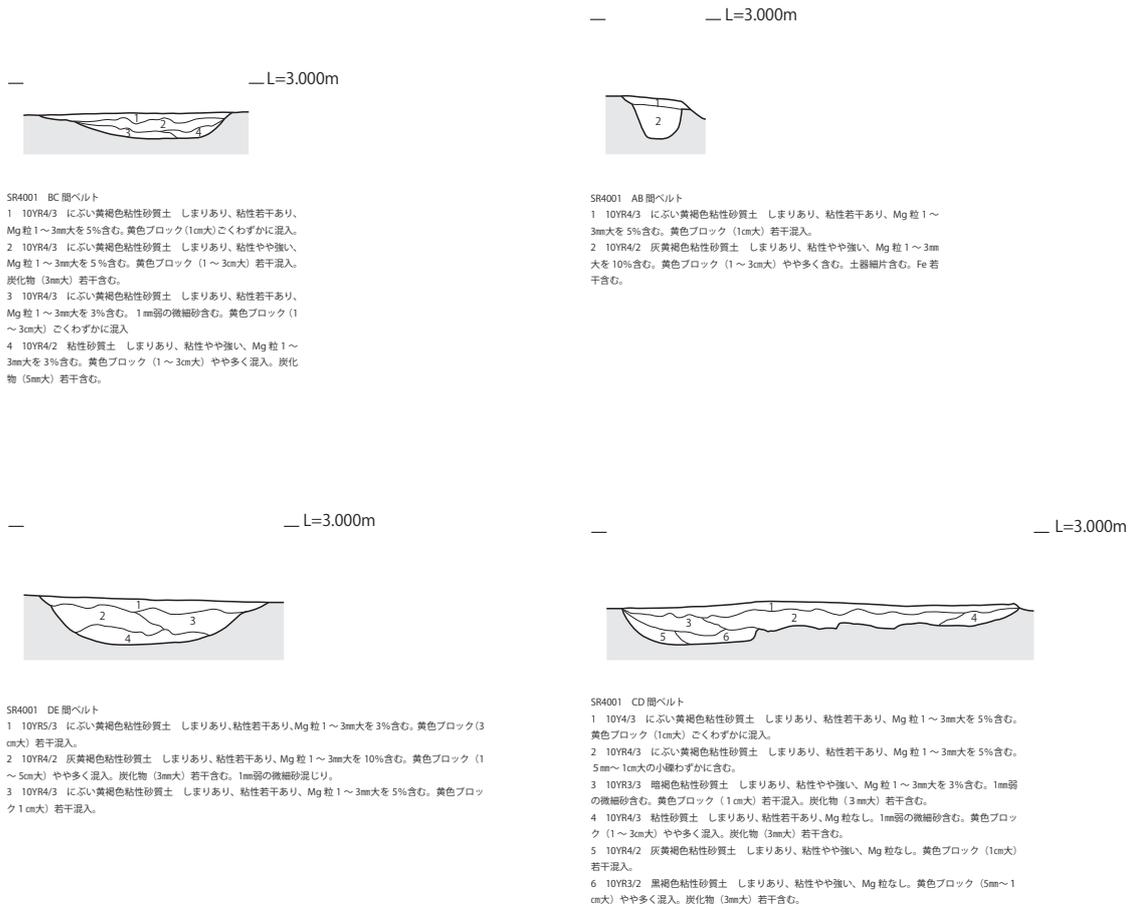
形態・規模 不定型な落ち込みである。微高地間の浅い落ち込みもしくは、沖積微高地の北端縁辺～自然流路岸边に該当する。



第 17 图 1 号自然流路 SR4001 (旧 SR3001) 出土遺物図



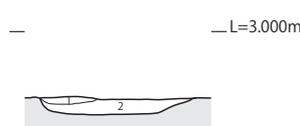
第 18 図 2 号自然流路 SR5002 (旧 SR4001) 遺構図



第 19 図 2 号自然流路 SR5002 (旧 SR4001) 土層図 (1)

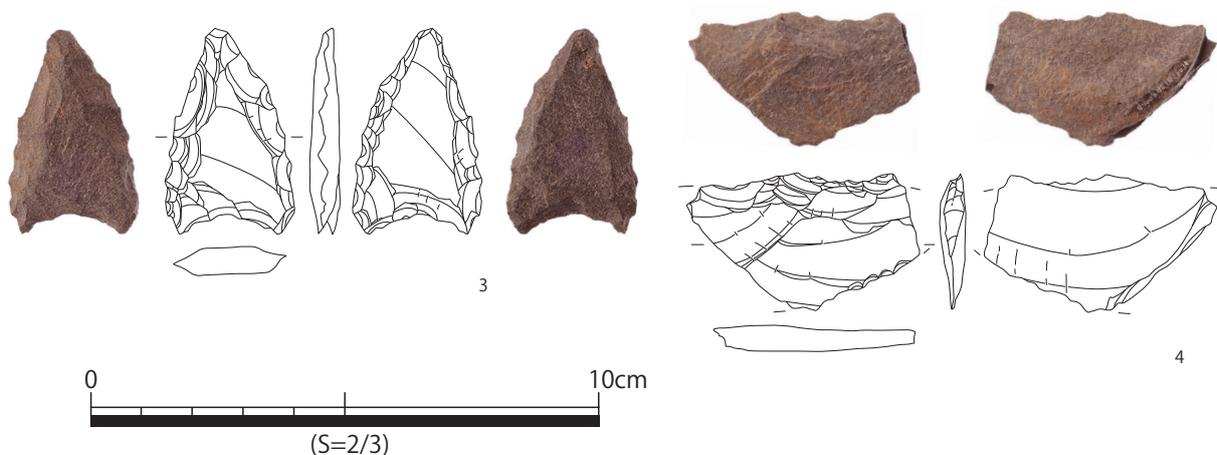


SR4001 DE 階ベルト  
 1 10YR5/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm 大を 3% 含む。黄色ブロック (3cm 大) 若干混入。  
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm 大を 10% 含む。黄色ブロック (1～5cm 大) やや多く混入。炭化物 (3mm 大) 若干含む。1mm 級の微細砂混じり。  
 3 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm 大を 5% 含む。黄色ブロック 1cm 大) 若干混入。



SR4001 EF 階ベルト  
 1 10YR5/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm 大を 3% 含む。黄色ブロック (3cm 大) 若干混入。  
 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm 大を 10% 含む。黄色ブロック (1～3cm 大) やや多く混入。炭化物 (3mm 大) 若干含む。1mm 級の微細砂混じり。

第 20 図 2 号自然流路 SR5002 (旧 SR4001) 土層図 (2)



第 21 図 2 号自然流路 SR5002 (旧 SR4001) 出土遺物図

**遺物出土状況** 覆土中より弥生土器 5～7 が出土。

**遺物** 弥生土器 5 は壺口縁部である。弥生土器 6 は広口壺口縁部で、鮎喰川流域からの搬入品と推定される。弥生土器 7 は甕底部で、鮎喰川流域から搬入された所謂「東阿波型土器」である。

**時期** 弥生時代終末期 (庄内 2) に堆積したと推定される。

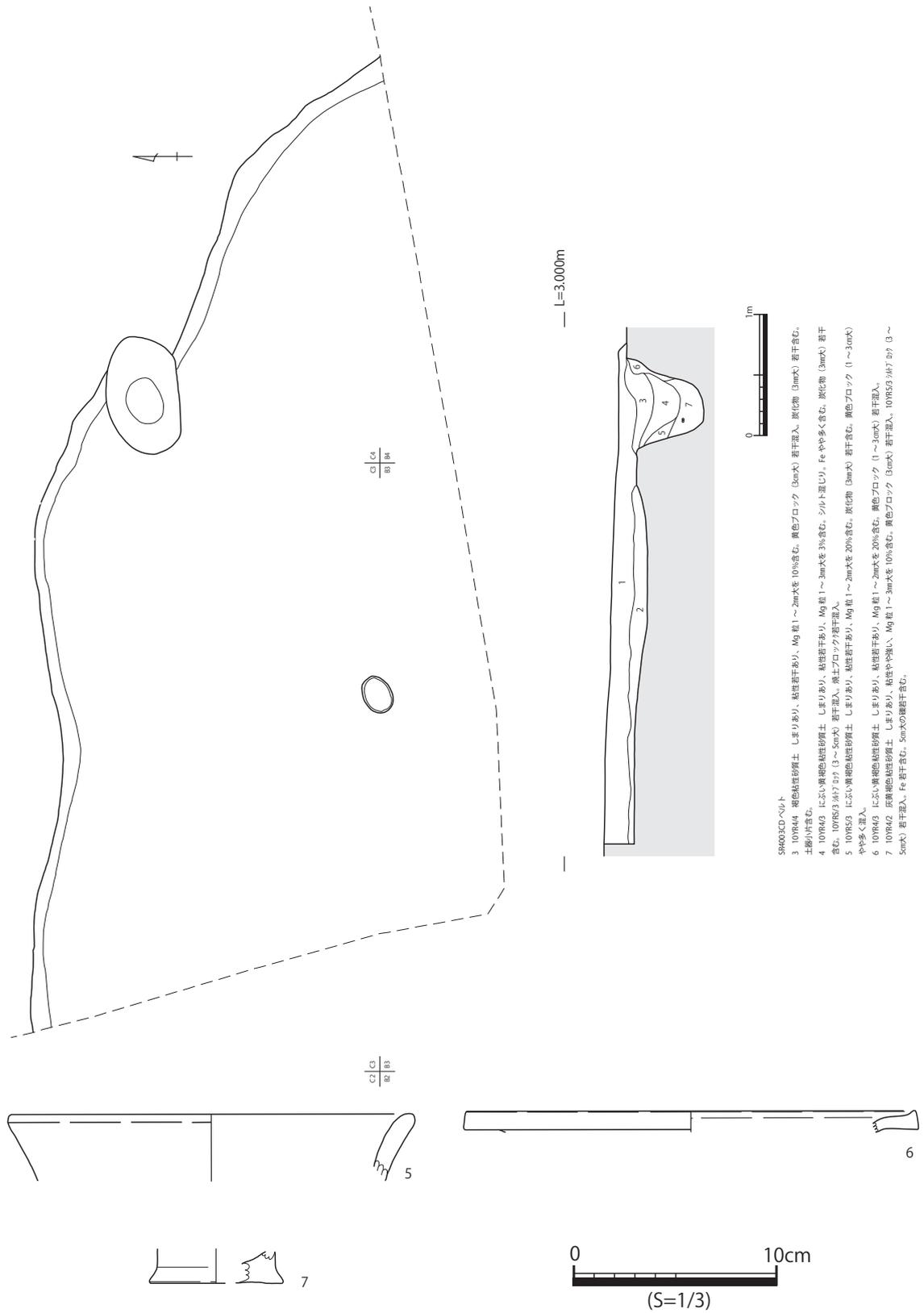
#### 4 号自然流路 SR5004 (SR4004)

**検出地点** E10～G14 以北

**形態・規模** 東西方向に延びる自然流路の南側岸辺部分もしくは、田野山地の小谷地形により形成された微小三角州性扇状地の北端部に該当する。自然流路本体規模は古代末以降の流れにより不明である。

**遺物出土状況** 全体が包含層として堆積しており、縄文土器 8～40、石器 41～44 が出土。

**遺物** 縄文土器 8 は精製浅鉢で内面におコゲが付着する。縄文土器 9 は精製浅鉢で内面におコゲが付着する。縄文土器 10、11 は精製浅鉢である。縄文土器 12 は粗製浅鉢で胎土に粗い結晶片岩を含み在地 (勝浦川流域) 産の可能性がある。縄文土器 13～16 は粗製深鉢で、口唇部に刻目や口縁部直下に刻目突帯が伴う一群である。縄文土器 17 は粗製深鉢で、胎土に勝浦川南岸の白色チャート礫を多量に



第 22 図 3 号自然流路 SR5003 (旧 SR4003) 遺構図・出土遺物図



第 23 図 4 号自然流路 SR5004 (旧 SR4004) 遺構図

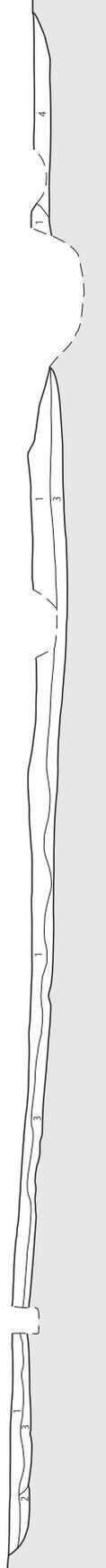
— L=3,000m



SR5004 AB断面

- 1 10FR43 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 量 1～3mmを 10%含む、黄色ブロック (3mm) 若干混入、炭化物 (3～5mm) 若干含む、土層断面を含む。
- 2 10FR43 におい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 量 1～3mmを 10%含む、黄色ブロック (5mm) 若干混入。
- 3 10FR43 におい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 量 1～3mmを 5%含む、炭化物 (3mm) 若干含む、5mm～1mm部の塊を若干含む、3mmの塊をわずかに含む。
- 4 10FR44 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 量 1～3mmを 10%含む、炭化物 (3mm) 若干含む、5層ブロック (5mm) 若干混入。
- 5 10FR43 におい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 量 1～3mmを 5%含む、黄色ブロック (3mm) やや多く混入、炭化物 (3mm) 若干含む、土層断面を含む。

— L=3,000m



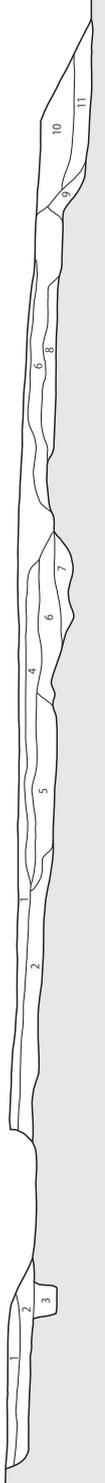
SR5004 EC断面

- 1 10FR43 におい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 量 1～3mmを 5%含む、炭化物 (3mm) 若干含む、5mm～1mm部の塊を若干含む、3mmの塊をわずかに含む。
- 2 10FR44 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 量 1～3mmを 10%含む、黄色ブロック (1cm) 若干混入。
- 3 10FR43 におい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 量 1～3mmを 5%含む、黄色ブロック (3mm) やや多く混入、炭化物 (3mm) 若干含む、土層断面を含む。
- 4 10FR44 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 量 1～3mmを 5%含む、黄色ブロック (3cm) やや多く混入、炭化物 (5mm) 若干含む。

第 24 図 4号自然流路 SR5004(旧 SR4004)土層図(1)



— L=3,000m



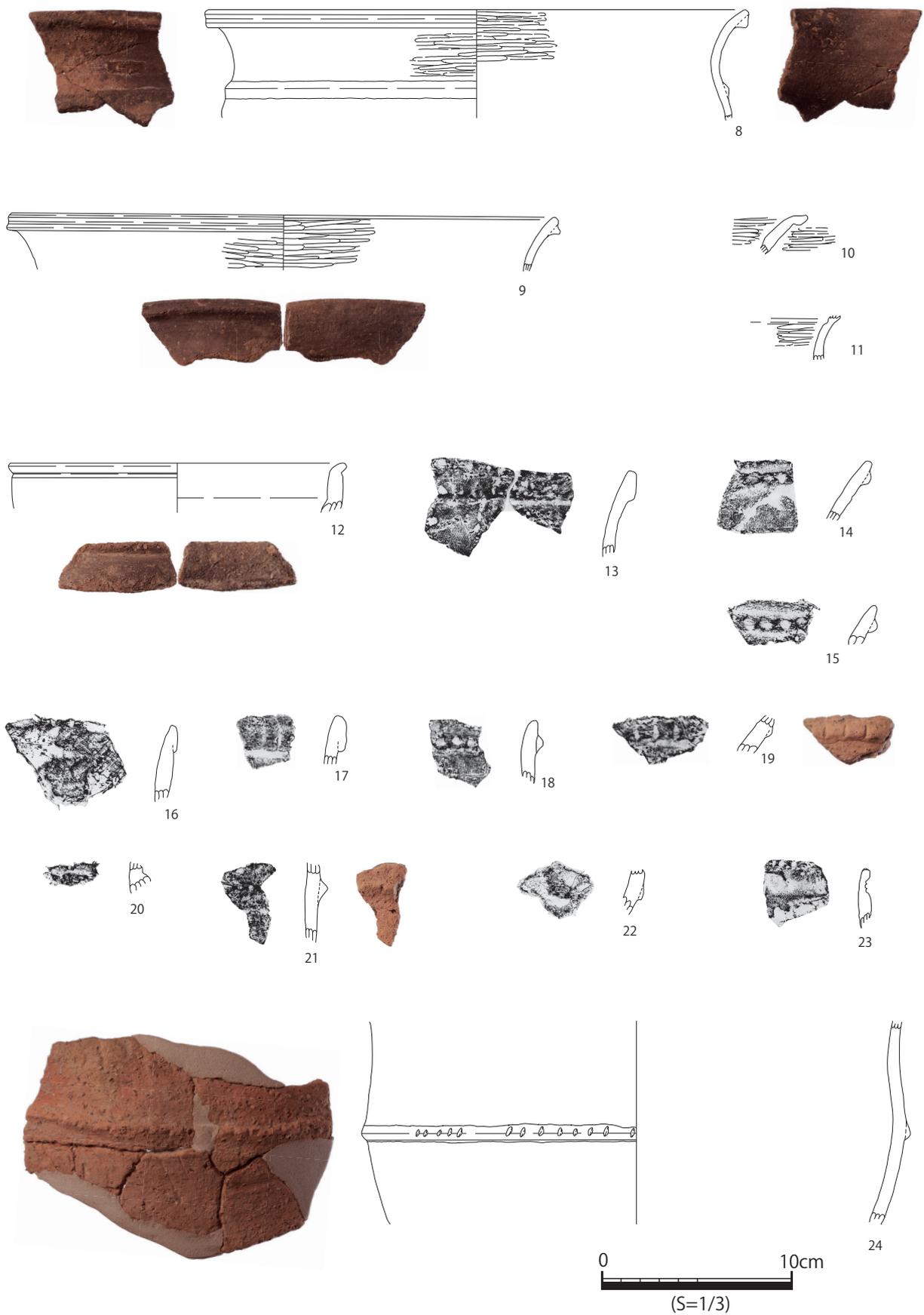
SR5004 EF 部ペクト

- 1 10R644 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 1~3mm 次を 10% 含む、黄色ブロック (3cm) 若干混入。
- 2 10R644 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 1~3mm 次を 10% 含む、10R643 ブロック (3~5mm) 若干混入。
- 3 SP4625
- 4 10R514 にふい真褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 1~3mm 次を 5% 含む、炭化物 (3mm) 若干含む。
- 5 10R644 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 1~3mm 次を 3% 含む、黄色ブロック (1cm) 若干混入、5mm の小礫がわずかに含む。
- 6 10R643 にふい真褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 1~3mm 次を 20% 含む、黄色ブロック (1~3mm) やや多く混入、炭化物 (3~5mm) 若干含む。
- 7 10R643 暗褐色粘質土 しまりあり、粘性強、Mg 値 1~3mm 次を 5% 含む、黄色ブロック (1cm) 若干混入、土層細片含む、Fe 若干含む (SP0007)。
- 8 10R643 にふい真褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 1~3mm 次を 5% 含む、黄色ブロック (1~3cm) やや多く混入、炭化物 (3mm) 若干含む (SX4010)。
- 9 10R644 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 3mm 次を 10% 含む、灰色ブロック (3cm) 若干混入。
- 10 25Y4/3 オリーブ褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 1~3mm 次を 30% 含む、炭化物 (3~5mm) 若干含む (SR1001)。
- 11 25Y5/2 暗灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 値 1~3mm 次を 5% 含む、黄色ブロック (3cm) 若干混入、Fe 若干含む、細砂混じり (SR3001)。

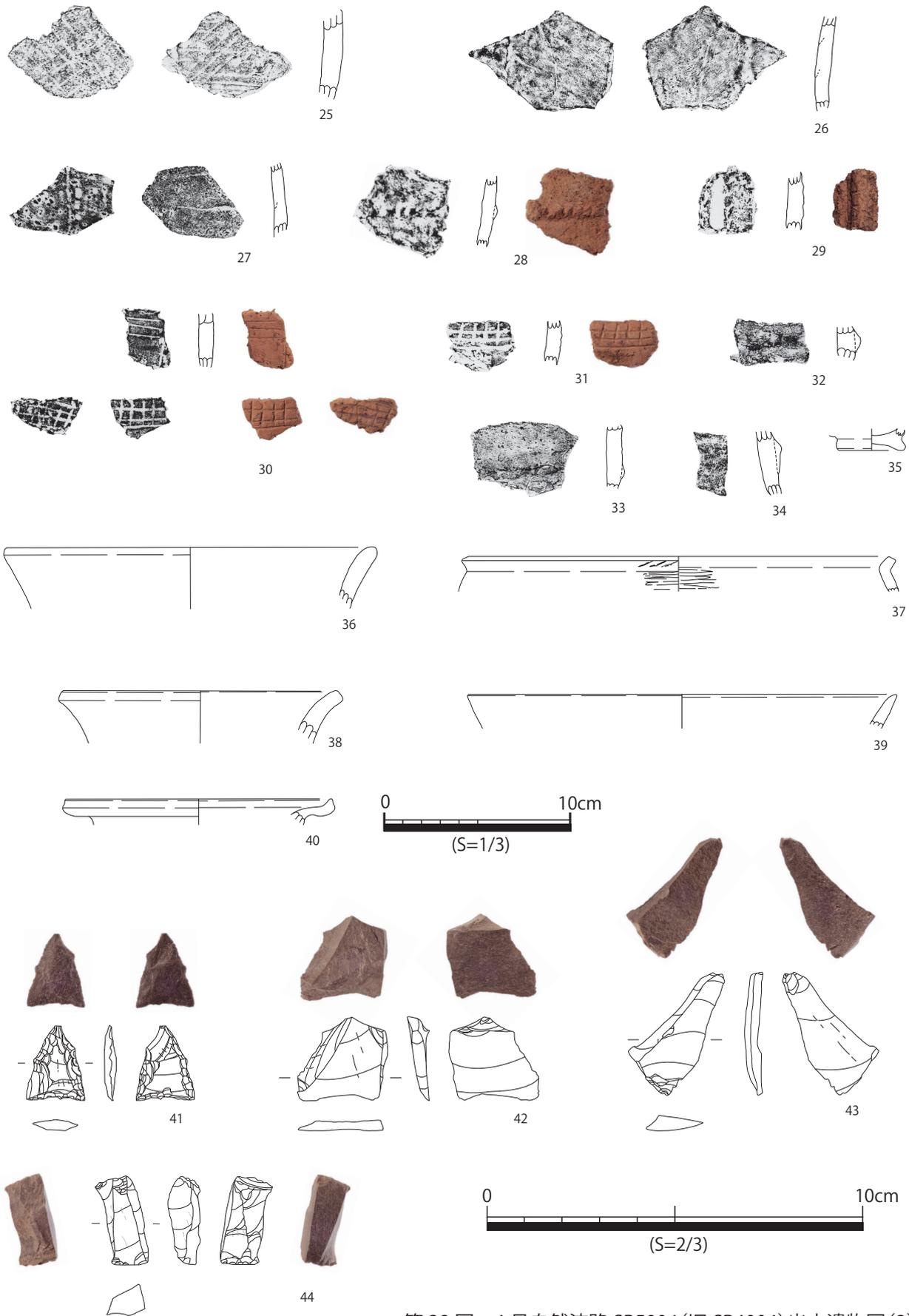


図版 11 SR5004 内遺物 (24) 出土状況

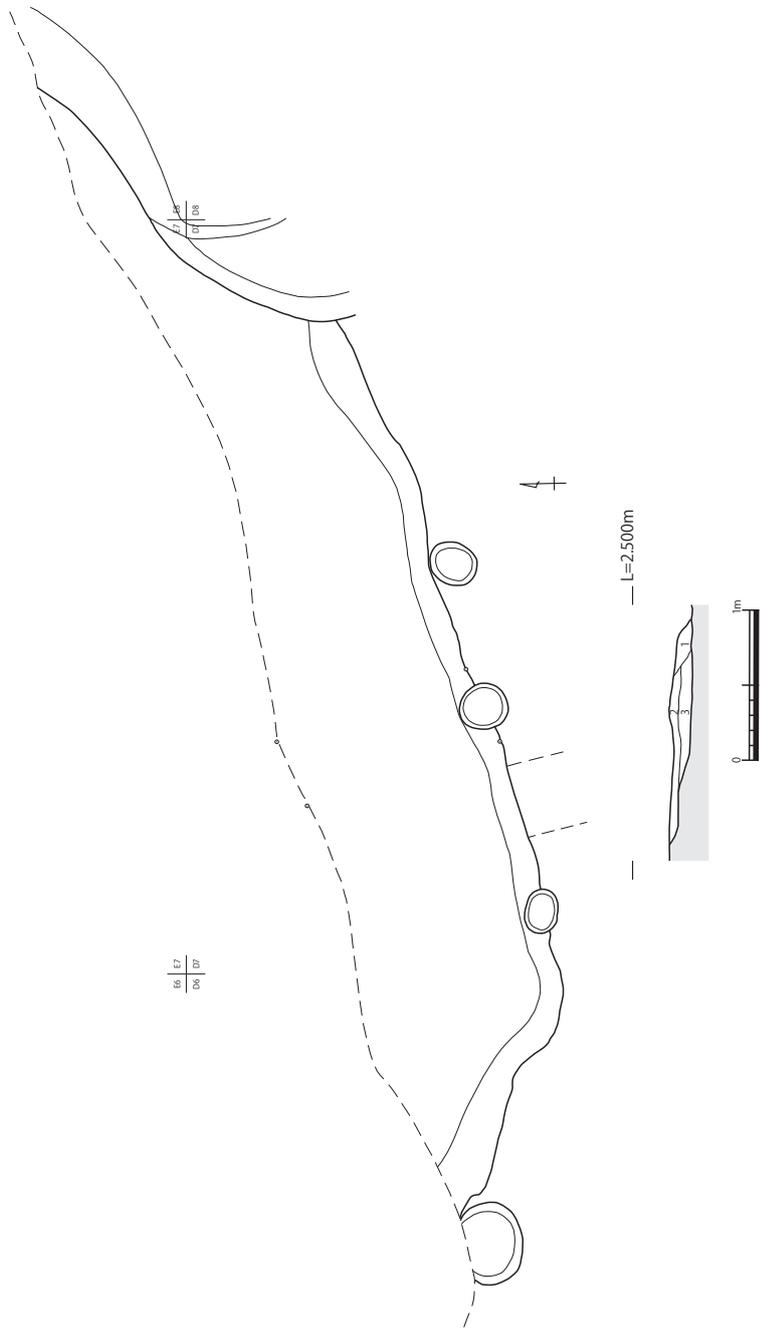
第 26 図 4 号自然流路 SR5004(旧 SR4004)土層図(3)



第 27 图 4 号自然流路 SR5004 (旧 SR4004) 出土遗物图(1)



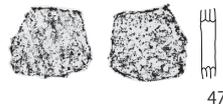
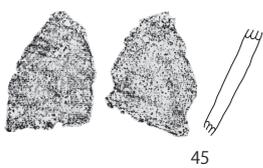
第 28 图 4 号自然流路 SR5004(旧 SR4004)出土遺物图(2)



16 | E7  
06 | D7

L=2,500m

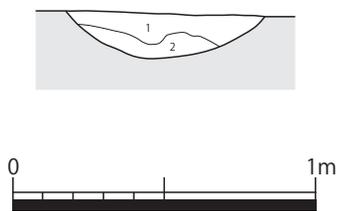
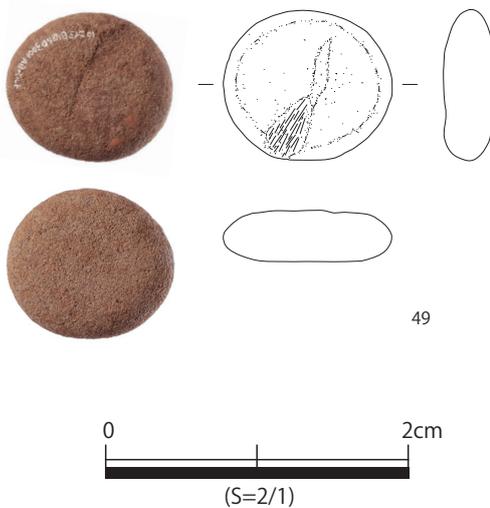
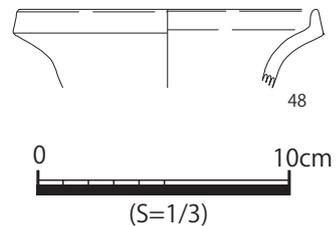
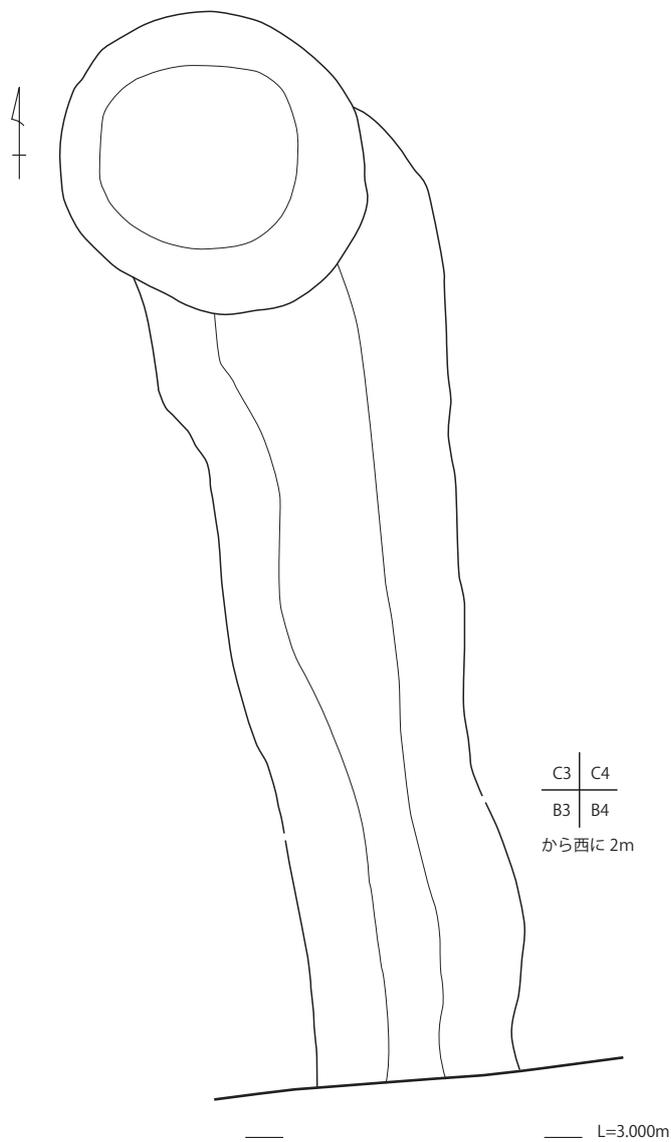
0 1m



0 10cm  
(S=1/3)

- SR4005
- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質砂質土。しまりあり、粘粒若干あり、Mg 量 1~2mm 水を 20% 含む。シルト混じり (SR3001)。
  - 2 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質砂質土。しまりあり、粘粒若干あり、Mg 量 1~3mm 水を 5% 含む。黄色ブロック (1cm<sup>3</sup>) 若干混入。粘粒状腐文若干含む。炭化物 (3mm<sup>2</sup>) 若干含む。
  - 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘性的砂土。しまりあり、粘性やや強い、Mg 量なし。粘粒状腐文若干含む。炭化物 (3mm<sup>2</sup>) 若干含む。Fe 若干含む。

第 29 図 5 号自然流路 SR5005 (旧 SR4005) 遺構図・出土遺物図



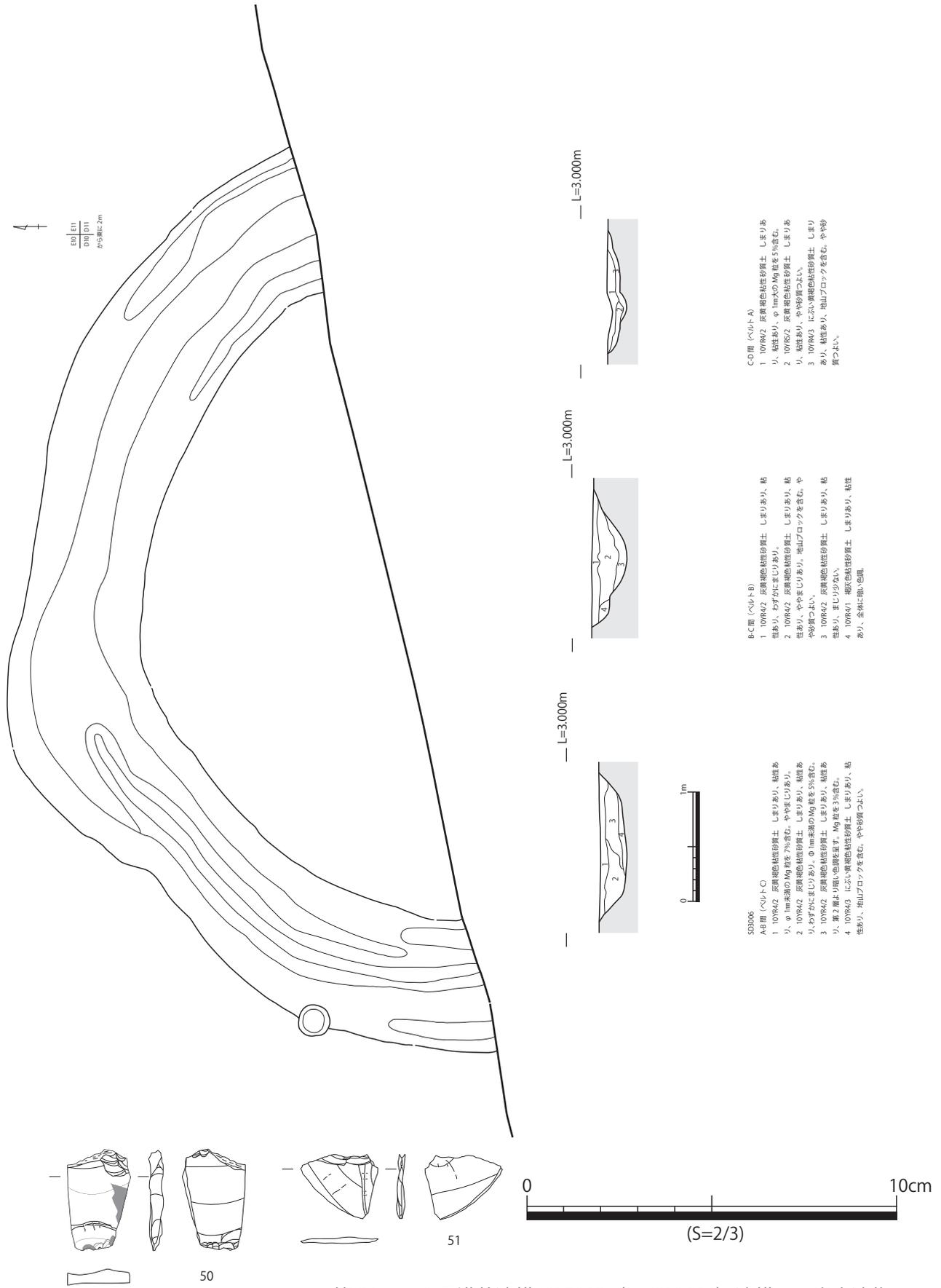
SD3001

A-B 間

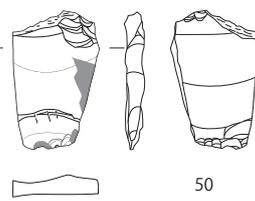
1 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性砂質土 しまりあり、粘性ややあり、φ 1~2mm前後の Mg 粒を 3%含む。

2 10YR4/3 に近い黄褐色 粘性砂質土 しまりあり、粘性ややあり、第 1層よりやや暗い色調を呈す。やや砂質つよい、φ 1mm未満の Mg 粒を 5%含む。

第 30 図 1 号溝状遺構 SD5001 (旧 SD3001) 遺構図・出土遺物図



E01 E11  
 D01 D11  
 から東に 2m



0 10cm  
 (S=2/3)

SD3006

- A-B 間 (ベリト C)
- 10R42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、 $\phi$  1mm未満の Mg 粒を 7%含む、ややまじりあり。
  - 10R42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、わずかにまじりあり、 $\phi$  1mm未満の Mg 粒を 5%含む。
  - 10R42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、層 2 層より強い魚卵痕跡す、Mg 粒を 3%含む。
  - 10R43 白い塊状粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックを含む、やや砂質つよい。

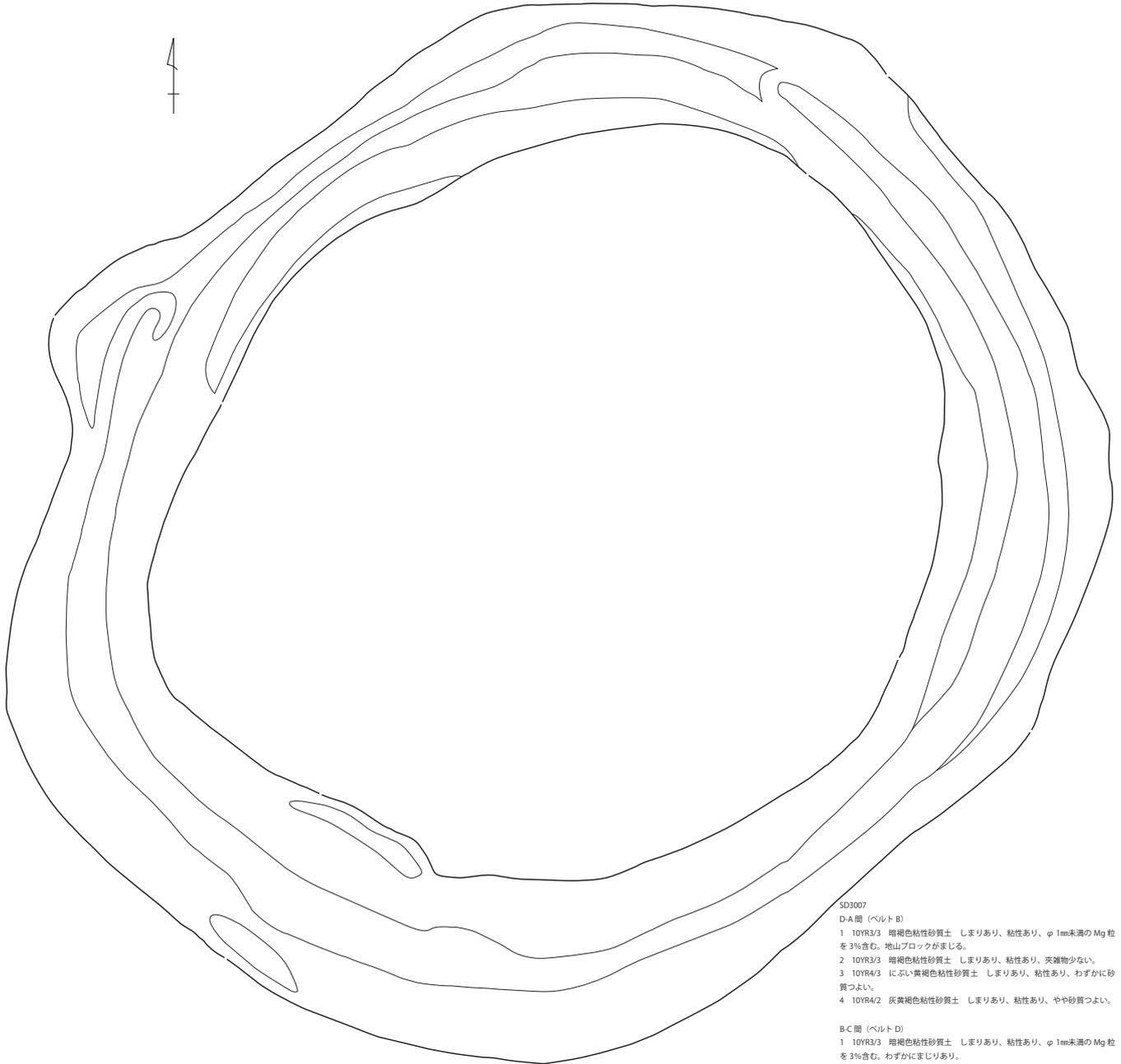
B-C 間 (ベリト B)

- 10R42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、わずかにまじりあり。
- 10R42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり、地山ブロックを含む、やや砂質つよい。
- 10R42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり少ない。
- 10R41 灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、全体に強い色塊。

C-D 間 (ベリト A)

- 10R42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、 $\phi$  1mm未満の Mg 粒を 5%含む。
- 10R42 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。
- 10R43 白い塊状粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックを含む、やや砂質つよい。

第 31 図 2 号溝状遺構 SD5002 (旧 SD3006) 遺構図・出土遺物図



SD3007

D-A 間 (ベルト B)

- 1 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm未満の Mg 粒を 3%含む。地山ブロックがまじる。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、夾雑物少ない。
- 3 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、わずかに砂質つよい。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。

B-C 間 (ベルト D)

- 1 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm未満の Mg 粒を 3%含む。わずかにまじりあり。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第 1層に類似する。まじり少ない。
- 3 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックをわずかに含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや粘土まじり。
- 5 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり。
- 6 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり第 5層に類似する。まじりやや多い。

SD3007

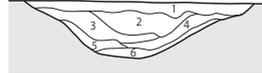
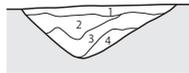
A-B 間 (ベルト C)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm前後の Mg 粒を 7%含む。ややまじりあり。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、わずかに砂質つよい。地山小ブロックをわずかに含む。
- 3 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックを多く含む。やや砂質つよい。

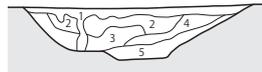
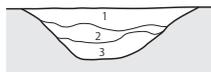
C-D 間 (ベルト A)

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm前後の Mg 粒を 5%含む。地山まで延びる生塵あり。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックを含む。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、炭化物微粒をわずかに含む。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや粘土がまじる。

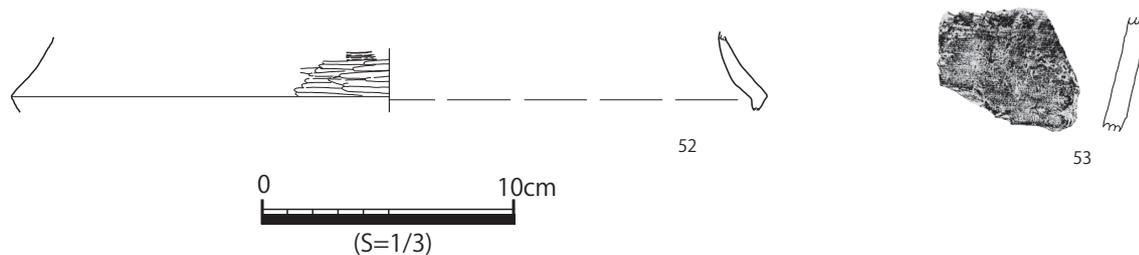
— L=3.000m — L=3.000m



— L=3.000m — L=3.000m



第 32 図 3号溝状遺構 SD5003 (旧 SD3007) 遺構図



第 33 図 3 号溝状遺構 SD5003 (旧 SD3007) 出土遺物図

含む。縄文土器 18～35 は粗製深鉢である。縄文土器 25 は内面におコゲが付着する。縄文土器 33 は胎土に粗い結晶片岩を含み在地(勝浦川流域)産。弥生土器 31 は甕体部でヘラ描きによる格子目紋が伴う。弥生土器 36 は甕である。縄文土器 37 は浅鉢である。弥生土器 38 は壺である。弥生土器 39 は鉢である。弥生土器 40 は甕である。石器 41 はサヌカイト製凹基石鏃である。石器 42, 43 はサヌカイト製剥片である。石器 44 はサヌカイト製楔形石器である。

**時期** 縄文時代晩期から弥生時代中期後半(IV-2)にかけて埋没したと推定される。

### 5 号自然流路 SR5005 (旧 SR4005)

**検出地点** D6, D7

**規模・形態** 東西方向に延びる自然流路の南側岸辺部分もしくは、微高地間の浅い落ち込みである。古代末以降の自然流路により大きく削平される。

**遺物出土状況** 遺物出土量が概して多くない。

**遺物** 縄文土器 45 は粗製深鉢である。縄文土器 46 は粗製深鉢口縁部である。縄文土器 47 は粗製深鉢体部である。

**時期** 縄文時代晩期に埋没したと推定される。

### 1 号溝状遺構 SD5001 (旧 SD3001)

**検出地点** B3,C3

**形態・規模** 検出長 3.25m、幅 0.78m、深度 0.14m を測り、断面形状は緩い船底形を呈する。南北方向に延びる。

**遺物出土状況** 上層中より出土。

**出土遺物** 弥生土器 48 は壺形土器である。石器 49 は砂岩製不明石器で一部に敲打痕や軽い擦痕が認められる。

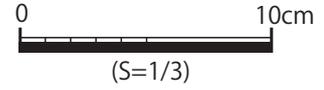
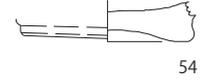
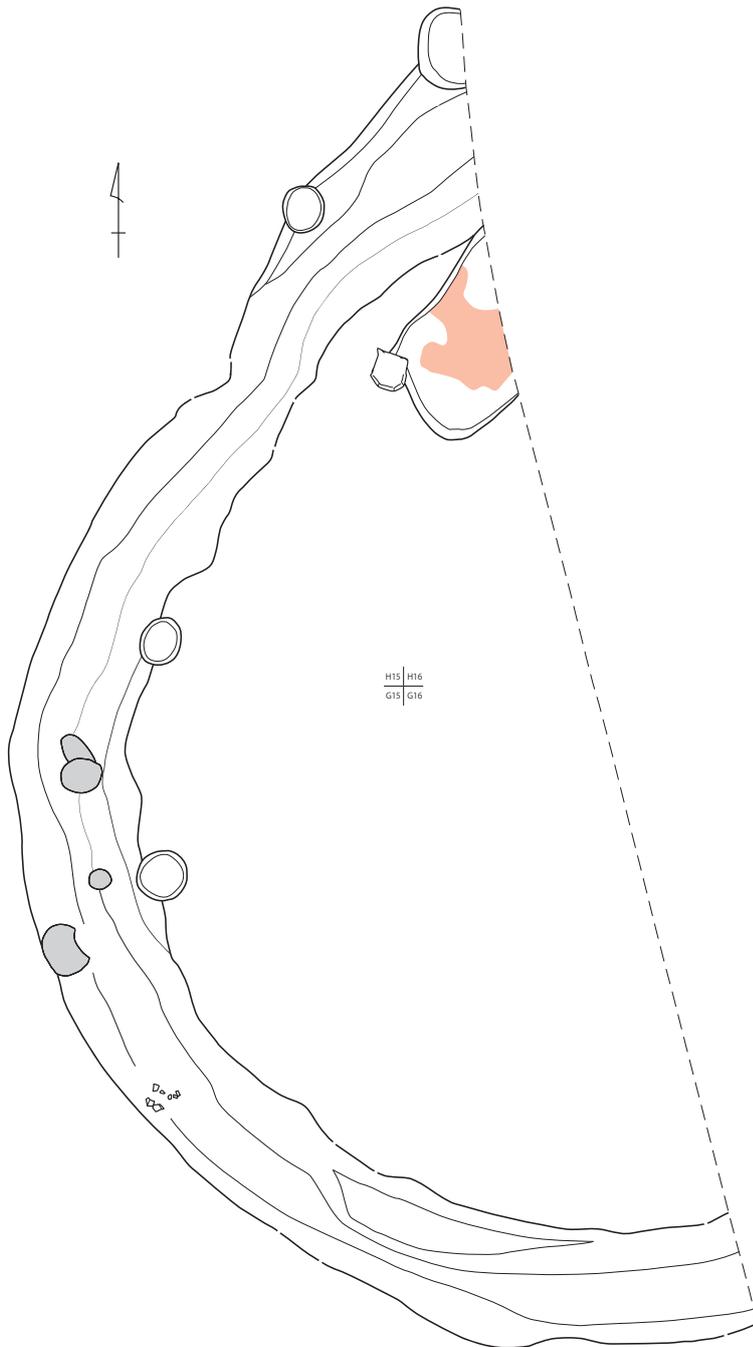
**時期** 弥生時代後期前半(V-2)である。

### 2 号溝状遺構 SD5002 (旧 SD3006)

**検出地点** D10, D11

**形態・規模** 半円形を呈するが、北側 1/3 のみの遺存と推定され、本来は円形を呈すると推定される。

I15 I16  
H15 H16



H15 H16  
G15 G16

SD3010

Cの東 (ベルト A)

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm未満の Mg 粒を 3%含む。わずかに砂質つよい。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い。わずかに砂質つよい。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。
- 4 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり多い。

B-C間 (ベルト B)

- 1 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm前後の Mg 粒を 7%含む。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山小ブロックをわずかに含む。炭化物細粒をわずかに含む。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや明るい色調を呈す。炭化物細粒をわずかに含む。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。

A-B間 (ベルト C)

- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm前後の Mg 粒を 7%含む。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色 粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山小ブロックをわずかに含む。炭化物細粒をわずかに含む。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色 粘性砂質土 しまりあり、粘性ややつよい、粘土に近い土質。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。

Aの東 (ベルト D)

- 1 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ 1mm未満の Mg 粒を 5%含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第 3 層のブロックがややまじる。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、粘土に近い土質。
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、まじり少ない。

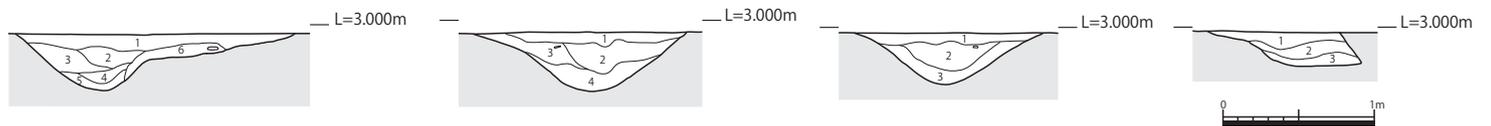
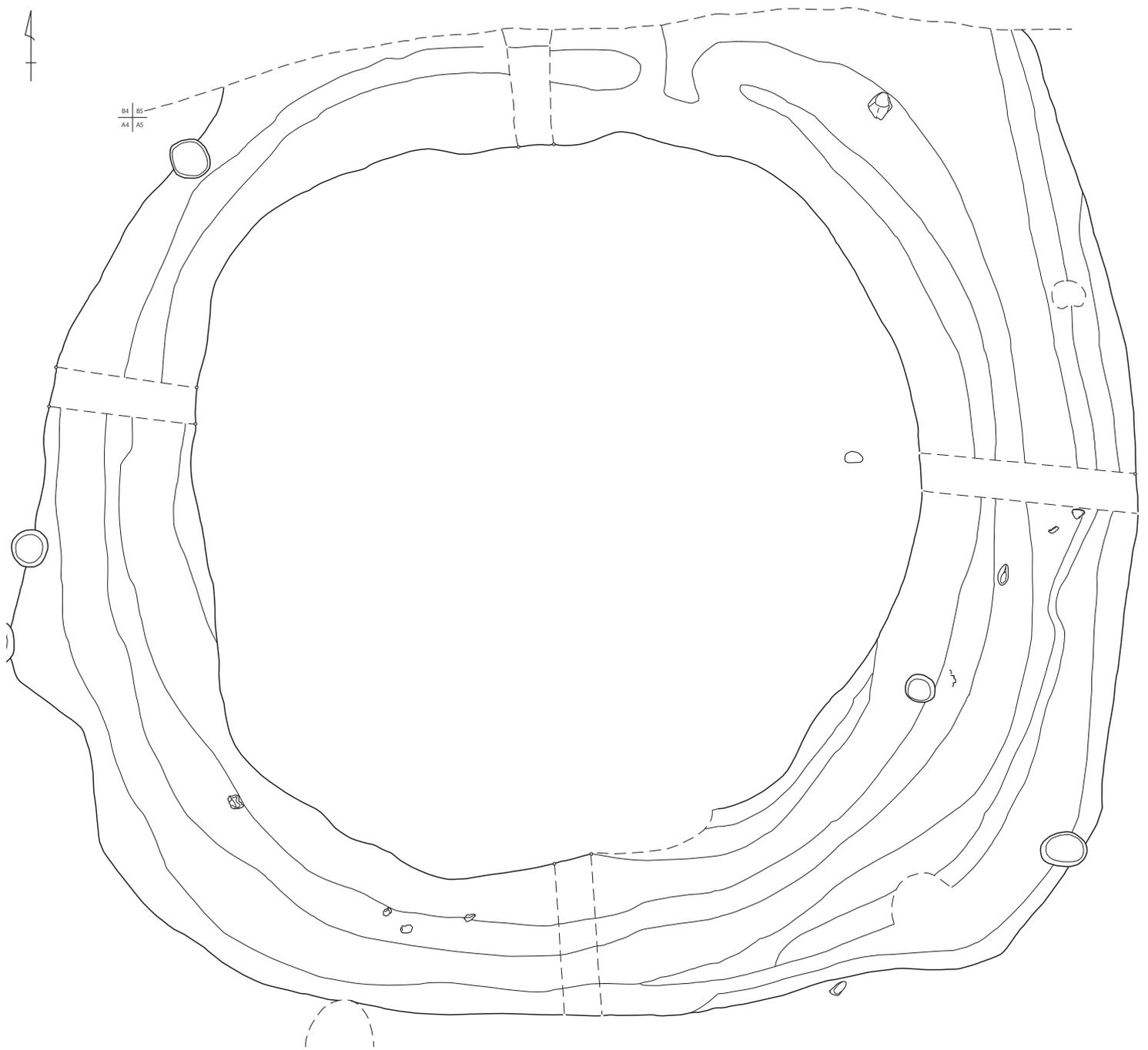
— L=3.000m — L=3.000m



— L=3.000m — L=3.000m



第 34 図 4号溝状遺構 SD5004 (旧 SD3010) 遺構図・出土遺物図



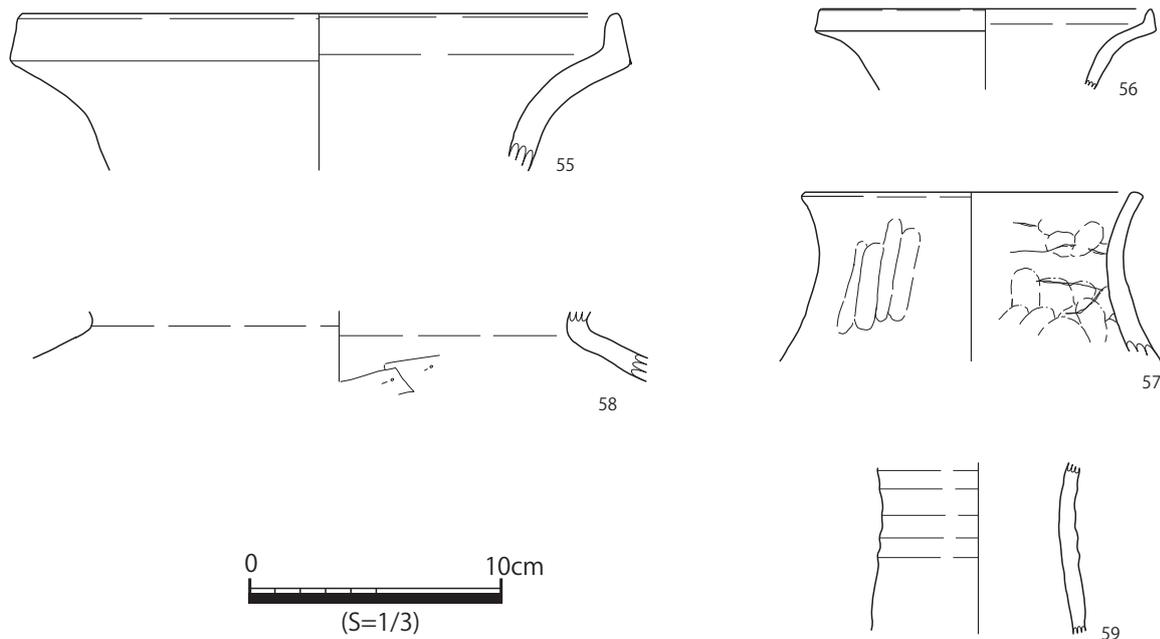
SD3011  
A-B 間  
1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。Φ 1mm未満の Mg 粒を 5%含む。  
2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。Φ 1mm未満の Mg 粒を 7%含む。  
3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックを含む。  
4 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第 2 層に類似する。  
5 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第 3 層に類似する。やや砂質つよい。  
6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。地山ブロックを多く含む。

B-C 間  
1 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、わずかにまじりあり。Φ 1mm前後の Mg 粒を 10%含む。  
2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり。Φ 1mm前後の Mg 粒を 7%含む。  
3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第 1 層に類似する。Φ 1mm未満の Mg 粒を 7%含む。  
4 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり。地山ブロックを含む。Φ 1mm未満の Mg 粒を 10%含む。

C-D 間  
1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、Φ 1mm未満の Mg 粒を 10%含む、やや砂質つよい。  
2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、礫をわずかに含む。Φ 1mm未満の Mg 粒を 10%含む。  
3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックをわずかに含む。Φ 1mm未満の Mg 粒を 15%含む。

D-A 間  
1 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックをやや含む。Φ 1mm前後の Mg 粒を 10%含む。  
2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり。Φ 1mm前後の Mg 粒を 7%含む。  
3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。Φ 1mm前後の Mg 粒を 5%含む。

第 35 図 5 号溝状遺構 SD5005 (旧 SD3011) 遺構図



第 36 図 5号溝状遺構 SD5005 (旧 SD3011) 出土遺物図

推定直径約 8m、幅約 1m、深度 0.3m を測る。円形周溝墓と推定されるが、古墳時代後期の小型円墳に伴う周溝の可能性もある。

**遺物出土状況** 2～4層中より弥生土器片が出土したが小片のため図化できない。

**出土遺物** 石器 50 はサヌカイト製楔形石器、石器 51 はサヌカイト製剥片である。

**時期** 弥生時代中期後半 (IV-3) と推定される。

### 3号溝状遺構 SD5003 (旧 SD3007)

**検出地点** E11,F11

**形態・規模** 不整楕円形～隅丸方形を呈する。長軸径 8.9m、短軸径 7.4m、溝幅 0.75～1.5m、深度 0.3m を測る。断面形状は緩い V 字形を呈する。円形周溝墓と推定されるが、古墳時代後期の小型円墳に伴う周溝の可能性もある。

**遺物出土状況** 2～5層中より弥生土器片が出土したが小片のため図化できない。縄文土器 52, 53 は溝基底部より出土した。

**出土遺物** 縄文土器 52 は精製浅鉢、縄文土器 53 は組成深鉢体部である。

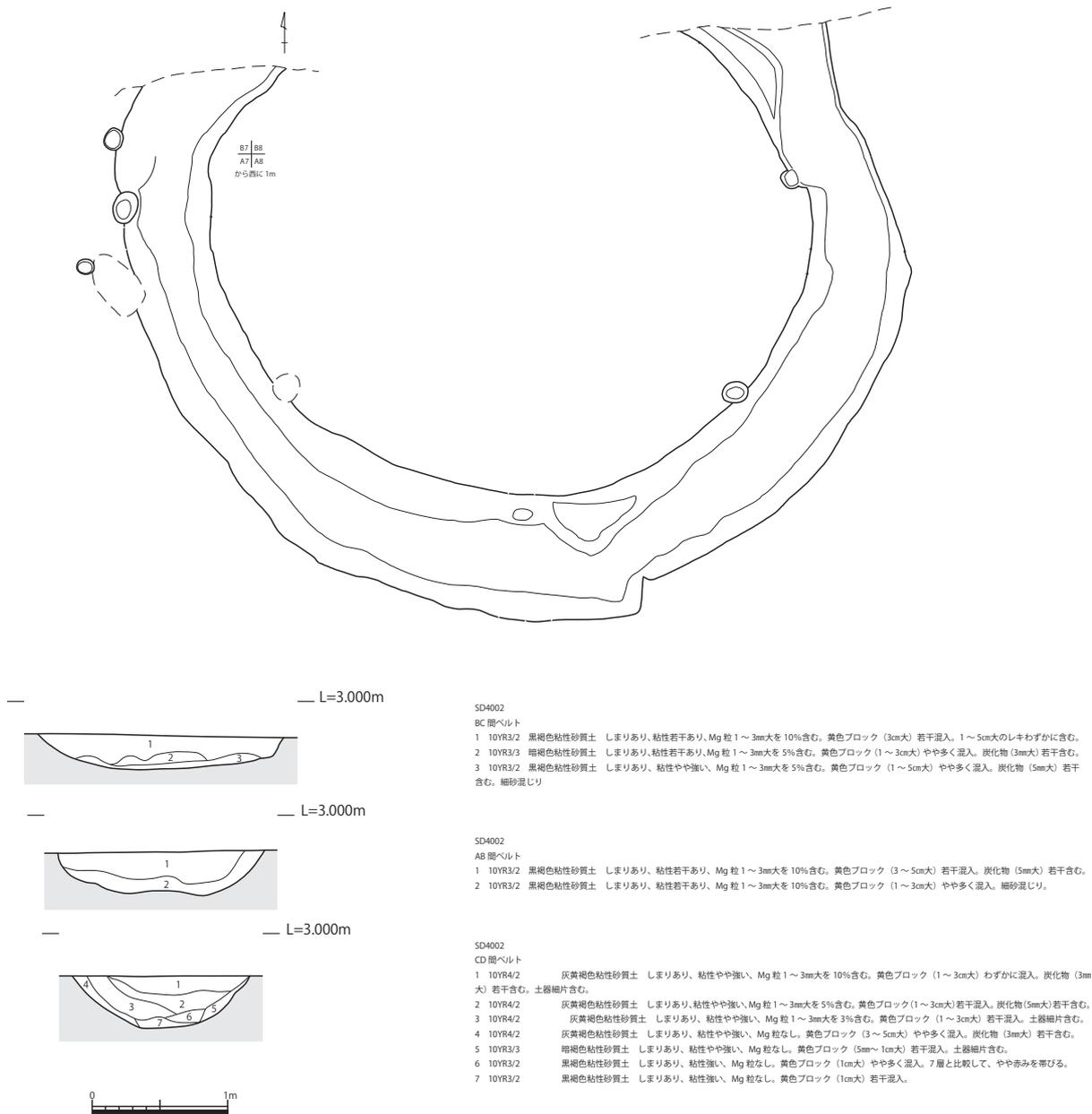
**時期** 遺構形状より弥生時代中期後半と推定される。

### 4号溝状遺構 SD5004 (旧 SD3010)

**検出地点** G15,G16,H15,H16

**形態・規模** 半円形を呈するが、西側 1/2 のみの検出と推定され、本来は円形もしくは不整楕円形と





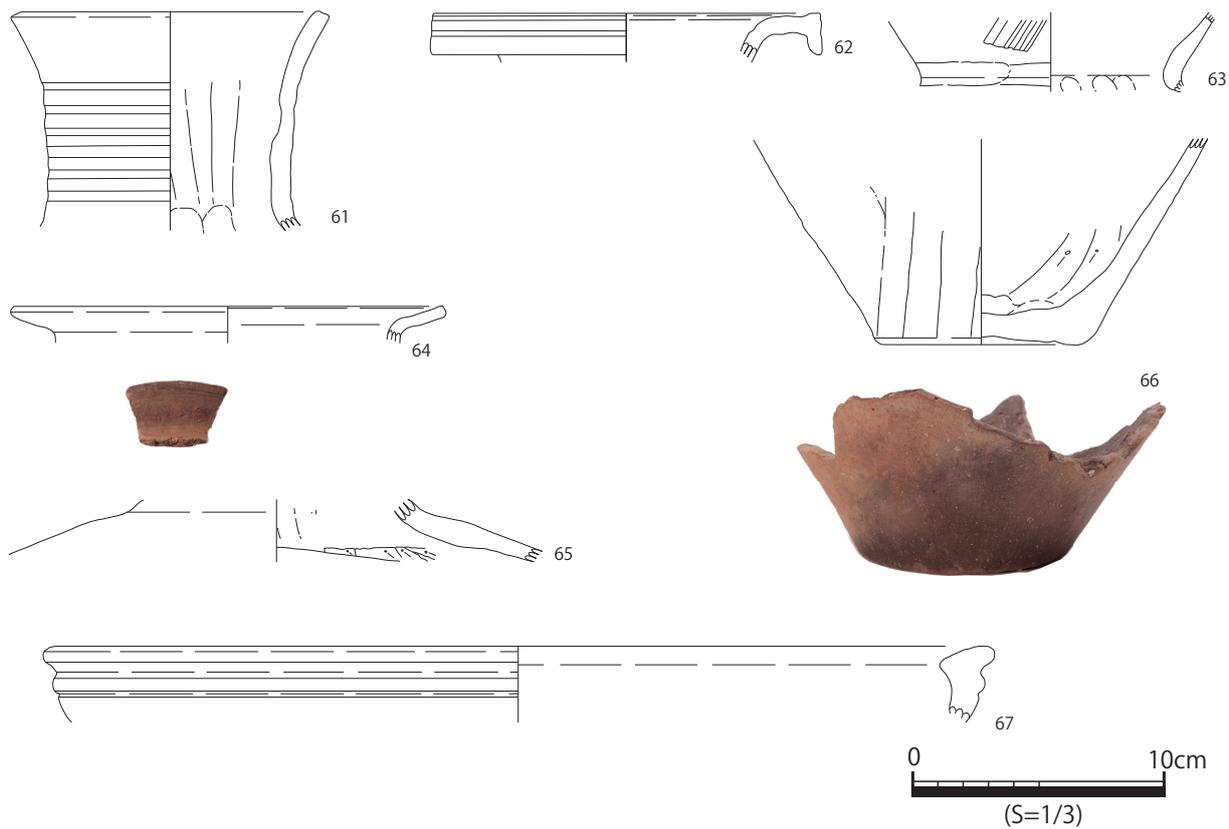
第 38 図 7号溝状遺構 SD5007 (旧 SD4002) 遺構図

推定される。長軸径 8.1m、推定短軸径 7.5m、溝幅 0.75m、深度 0.15～0.3m を測る。断面形状は緩い船底形を呈する。円形周溝墓と推定されるが、古墳時代後期の小型円墳に伴う周溝の可能性もある。

**遺物出土状況** 2～4層中より弥生土器片が出土したが、小片のため図化出来ない。

**出土遺物** 縄文土器 54 は組成深鉢底部である。

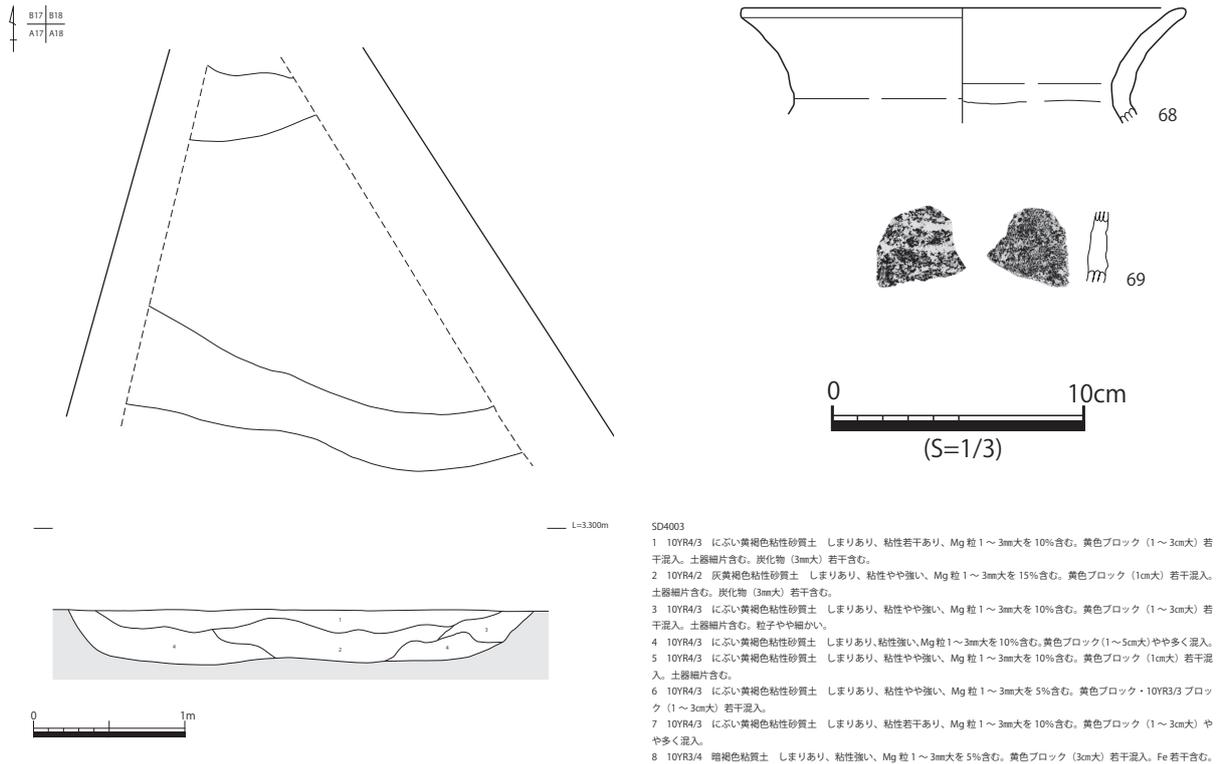
**時期** 遺構形状より弥生時代中期後半と推定される。



第 39 図 7号溝状遺構 SD5007 (旧 SD4002) 出土遺物図



図版 12 弥生時代遺構面の溝状遺構群



第 40 図 8 号溝状遺構 SD5008 (旧 SD4003) 遺構図・出土遺物図

## 5 号溝状遺構 SD5005 (旧 SD3011)

**検出地点** A5,T5

**形態・規模** 溝外形は不整円形を呈するが、溝内形は隅丸方形を呈する。北端部を攪乱により削平される。南北径 8.5m、東西径 8.5 m、溝幅 1.0～1.25m、深度 0.35m を測る。四隅が連続する方形周溝墓もしくは、不整形な円形周溝墓である。

**遺物出土状況** 3 層中～溝基底部より弥生土器が出土。

**出土遺物** 弥生土器 55 は大型広口壺口縁で胎土に結晶片岩粒を多量に含む事から吉野川流域からの搬入品の可能性がある。弥生土器 56 は広口壺口縁は結晶片岩粒は含まないが精製である。弥生土器 57 は壺口縁、58 は大型広口壺胴部肩、59 は細口壺部頸部である。

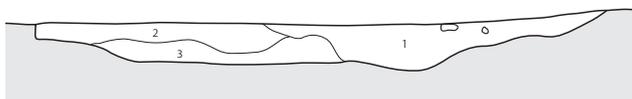
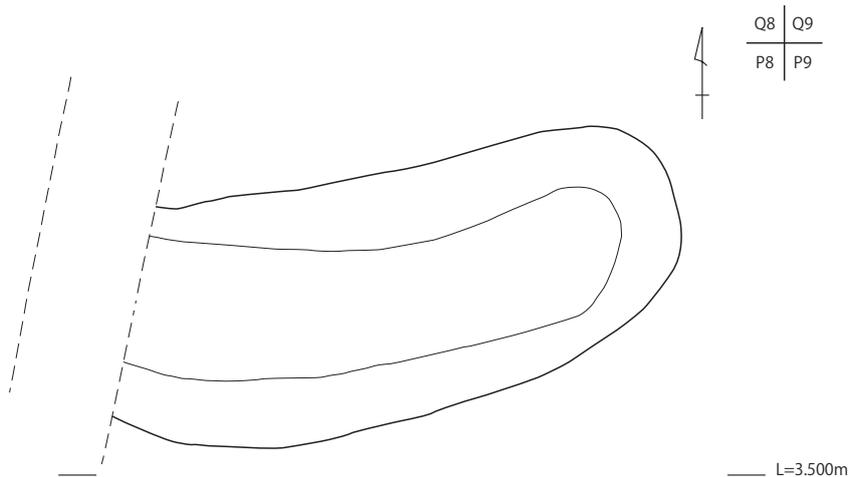
**時期** 弥生時代中期後半 (IV-3) である。

## 6 号溝状遺構 SD5006 (旧 SD3014)

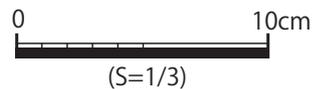
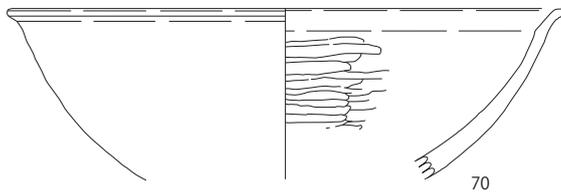
**検出地点** E14,E15,F14,F15

**形態・規模** 不整円形を呈する。南北直径 7.95m、東西直径 8.35m、溝幅 1.5～0.9m 深度 0.25～0.33m を測る。溝断面形状は緩い船底型や 2 段形を呈する。円形周溝墓と推定されるが、古墳時代後期の小型円墳に伴う周溝の可能性もある。

**遺物出土状況** 3 層中より弥生土器片が出土したが、小片のため図化出来ない。



SK2043  
 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 粒やや多く含む。黄色ブロック・10YR3/3 ブロック (1~5cm大) 若干混入。炭化物 (3~5mm大) 若干含む。土器小片含む。3cm大の礫含む。  
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒やや多く含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。炭化物 (3mm~1cm大) 若干含む。土器細片含む。  
 3 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒若干含む。黄色ブロック (1~3cm大) 若干混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。土器細片含む。



第 41 図 1 号土坑 SK5001 (旧 SK2043) 遺構図・出土遺物図

**出土遺物** 縄文土器 60 は粗製深鉢である。

**時期** 弥生時代中期後半と推定される。

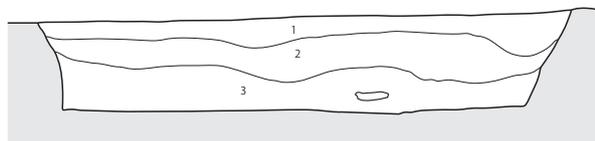
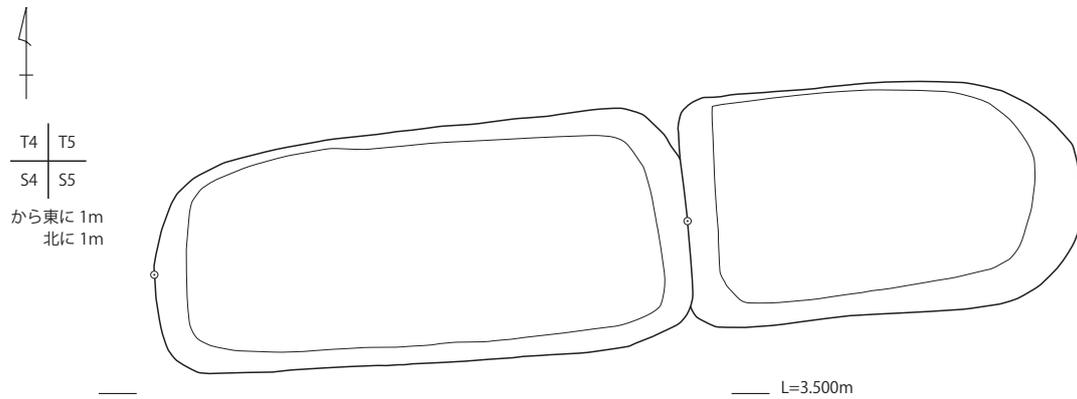
### 7 号溝状遺構 SD5007 (旧 SD4002)

**検出地点** A8, B8

**形態・規模** 北側約 1/5 を削平されるが、不整形円形を呈する。東西直径 11.7m、南北推定直径 10.6m、溝幅 1.8~1.1m、深度 0.35~0.2m を測る。溝断面形状は緩い船底形を呈する。円形周溝墓である。

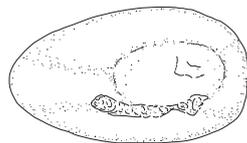
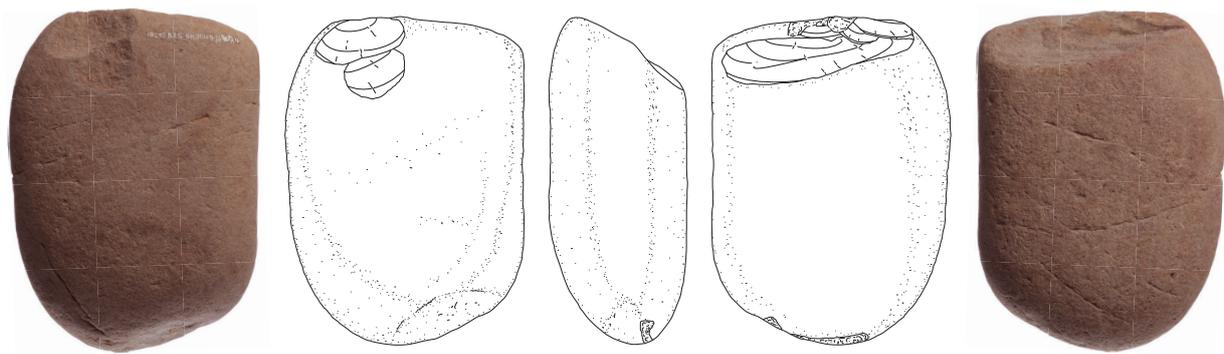
**遺物出土状況** 溝基底部より、弥生土器 61~67 が出土。

**出土遺物** 弥生土器 61 は長頸壺、弥生土器 62 は広口壺、弥生土器 63 は甕頸部で胎土に結晶片岩粒は含まない。弥生土器 64 は甕で胎土に結晶片岩粒は含まない。弥生土器 65 は壺頸部~胴部肩、弥生

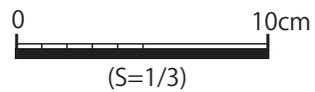


SK3043

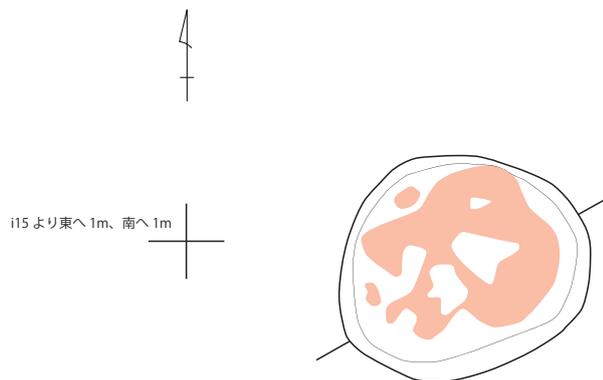
- 1 10YR4/3 に近い黄褐色粘性砂質土。しまりあり、粘性あり、土器小片をわずかに含む。Φ 1mm未満の Mg 粒を 5%含む。
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土。しまりあり、粘性あり、小礫、炭化物細粒をわずかに含む。Φ 1mm未満の Mg 粒を 10%含む。
- 3 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土。しまりあり、粘性あり、山土バラスをわずかに含む。炭化物細粒をわずかに含む。



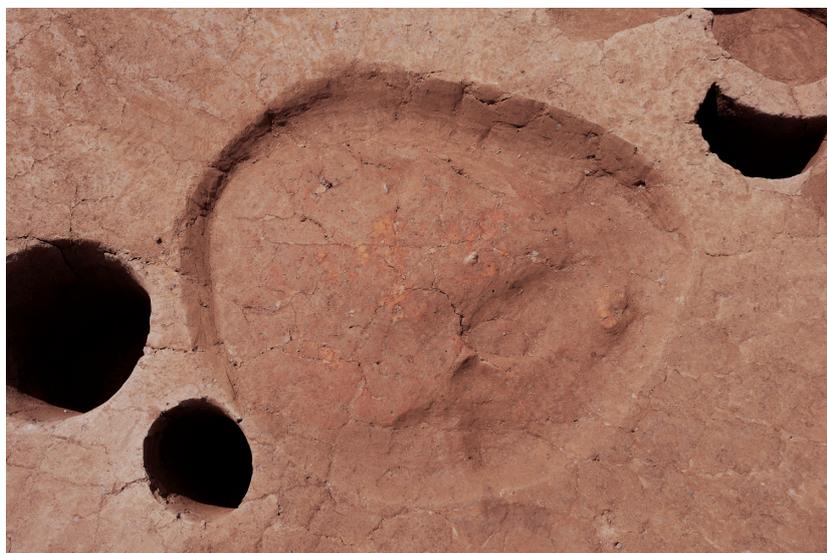
71



第 42 図 2 号土坑 SK5002 (旧 SK3043) 遺構図・出土遺物図



第 43 図 3号土坑 SK5003 (旧 SK4002) 遺構図



図版 13 SK5003 底面被熱状況

土器 66 は壺底部、弥生土器 67 は大型鉢である。61, 62, 65, 66, 67 は胎土に結晶片岩を含み精製で焼成も良好であることから搬入品の可能性もある。

**時期** 弥生時代中期後半 (IV-3) である。

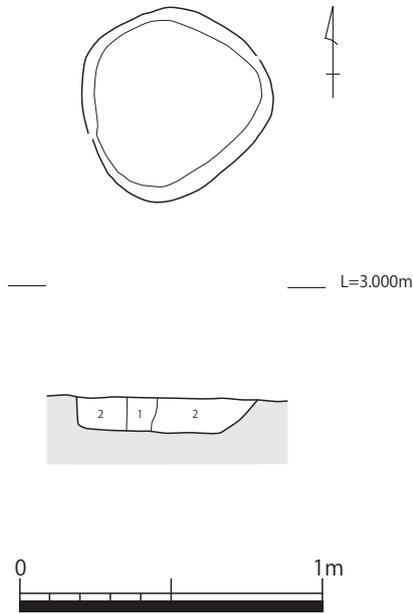
### 8号溝状遺構 SD5008 (旧 SD4003)

**検出地点** A18

**形態・規模** 調査区南東端に位置し東西両端が調査区外となり、規模・形態は不明の東西方向に延びる自然流路 (浅い落ち込み) もしくは溝状遺構と推定される。溝幅 2.35m、深度 0.35m を測る。

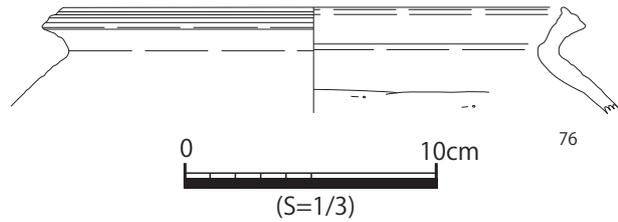
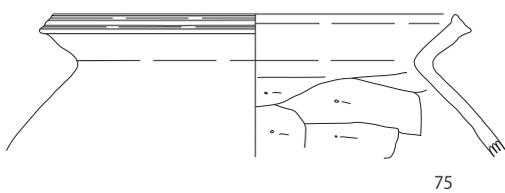
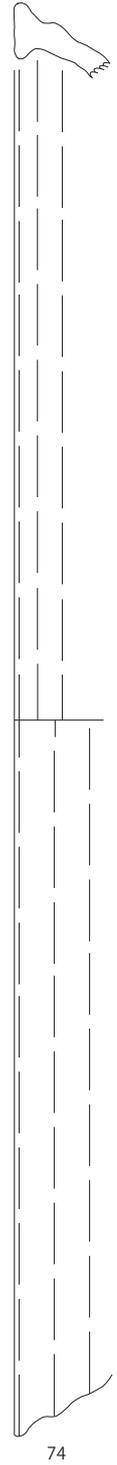
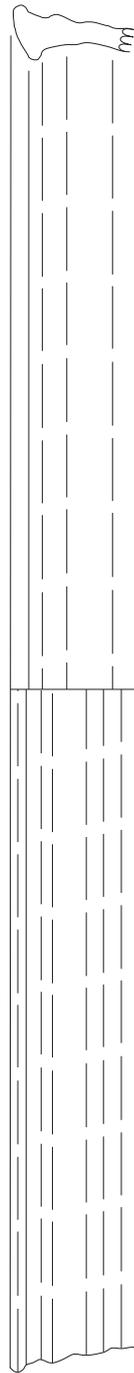
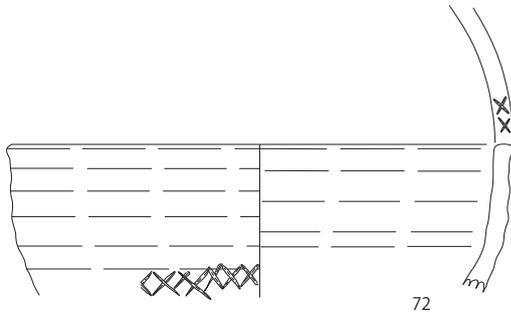
**遺物出土状況** 下層の 2～4 層中より弥生土器 68 と縄文土器 69 の他、弥生土器が出土したが小片の

F11 | F12  
E11 | E12 から南に 2m  
東に 2m

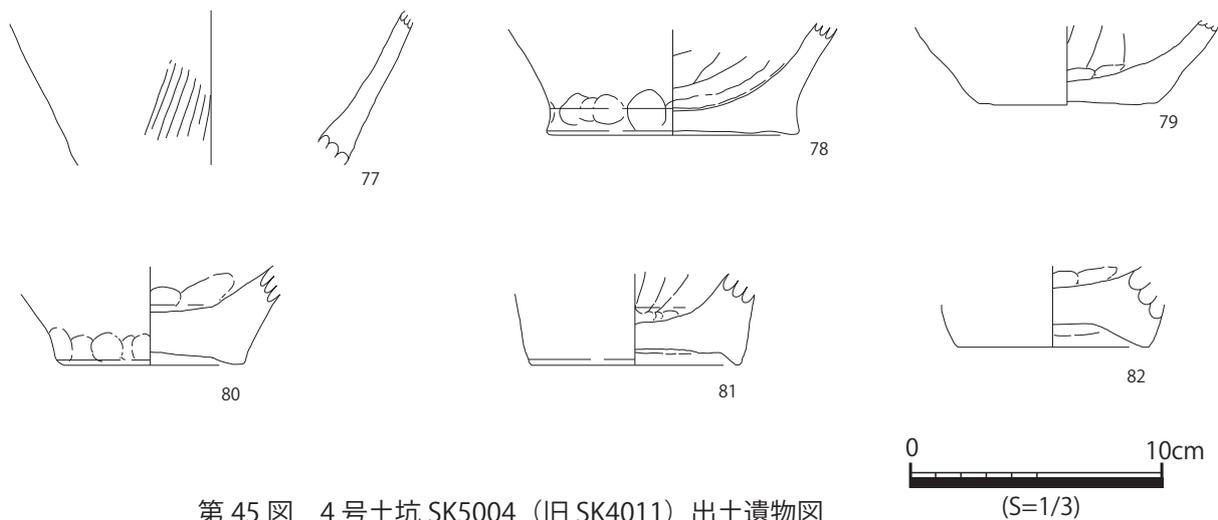


SK4011

- 1 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~3mm 大を 3% 含む。黄色ブロック (3cm 大) やや多く混入。炭化物 (3mm 大) 若干含む。
- 2 10YR6/4 に近い黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~3mm 大を 5% 含む。黄色ブロック (1~3cm 大) やや多く混入。



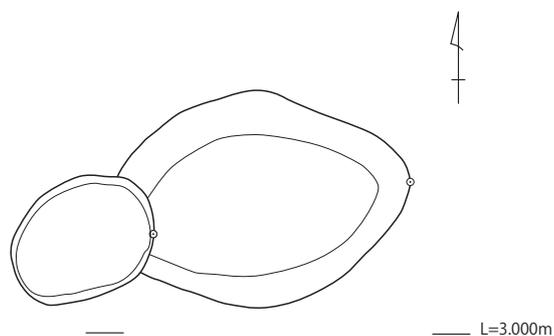
第 44 図 4 号土坑 SK5004 (旧 SK4011) 遺構図・出土遺物図



第45図 4号土坑 SK5004 (旧 SK4011) 出土遺物図

C5	C6
B5	B6

から東に 1m

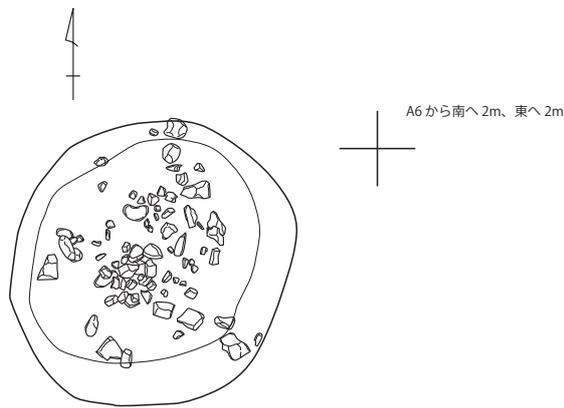


SK4021

1 10YR4/3 に近い黄褐色粘性砂質土。しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~3mm 大を 10% 含む。黄色ブロック (1~3cm 大) やや多く混入。炭化物 (5mm 大) 若干含む。土器細片含む。



第46図 5号土坑 SK5005 (旧 SK4021) 遺構図・出土遺物図



第 47 図 6 号土坑 SK5006 (旧 SK4031) 遺構図

ため図化不能である。

**出土遺物** 弥生土器 68 は甕口縁で胎土に勝浦川南岸の白色チャートを含み在地産と推定される。縄文土器 69 は粗製深鉢体部である。

**時期** 縄文時代晩期と推定されるが、弥生時代後期の遺構に縄文土器が混入した可能性が高い。

### 1 号土坑 SK5001 (旧 SK2043)

**検出地点** P8

**形態・規模** 平面形態は不整隅丸楕円形、断面形帯は船底形を呈する。残存長軸 1.83m、短軸 0.81m、深度 0.15、主軸方位  $N - 76.1^\circ - E$  を測る。

**遺物出土状況** 1 層中より弥生土器 70 が出土。

**出土遺物** 弥生土器 70 は鉢で内面に炭素が吸着する。鮎喰川流域からの搬入品か。

**時期** 弥生時代後期前葉 (V - 2) である。

### 2 号土坑 SK5002 (旧 SK3043)

**検出地点** S5

**形態・規模** 平面形態は隅丸方形を、断面形帯は逆台形を呈する。長軸 1.76m、短軸 0.79m、深度 0.31m、主軸方位  $N - 84.80^\circ - E$  を測る。

**遺物出土状況** 覆土上層より土器片が出土したが、小片である。石器 71 は 3 層より出土。

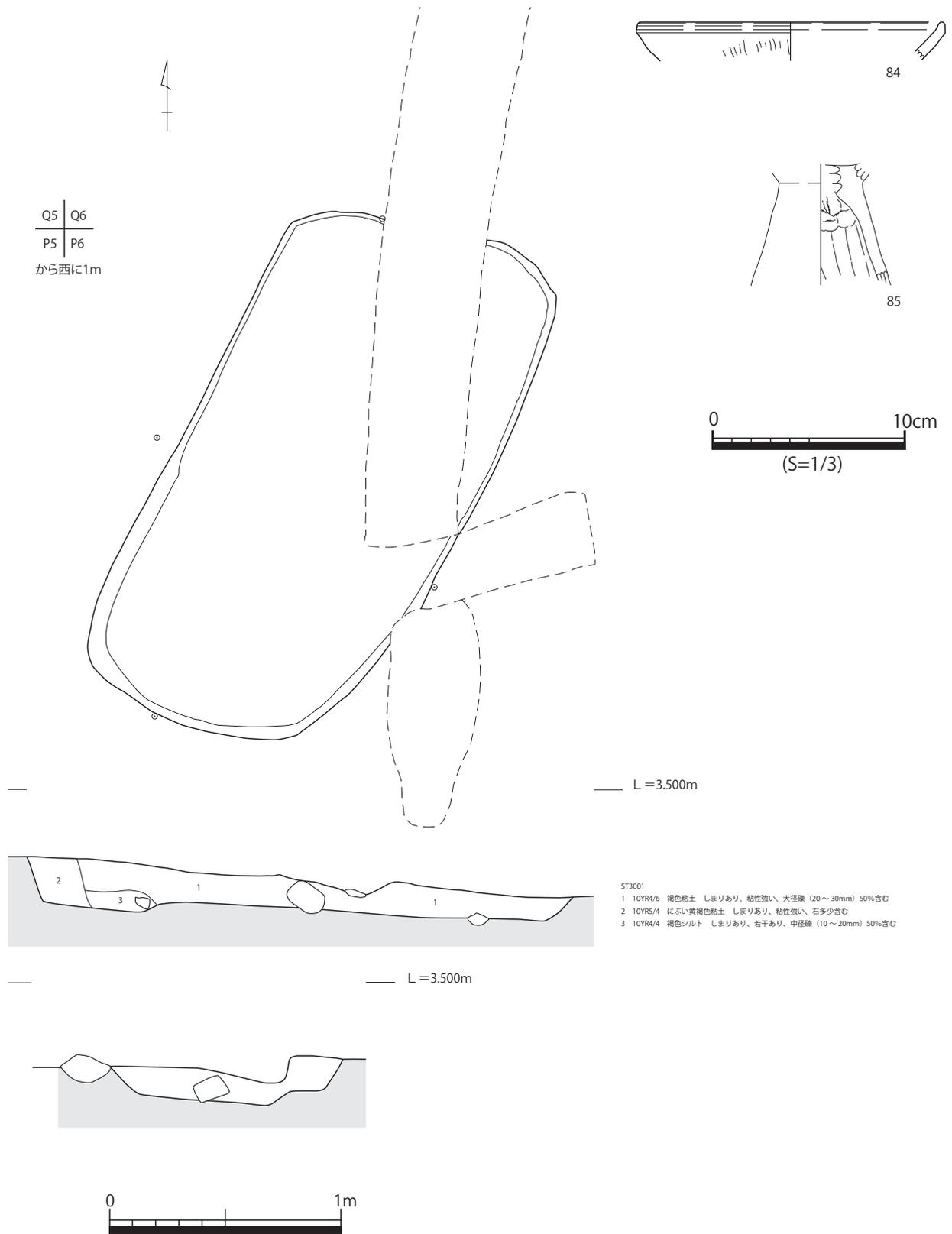
**出土遺物** 石器 71 は砂岩製敲石である。

**時期** 弥生時代と推定される。

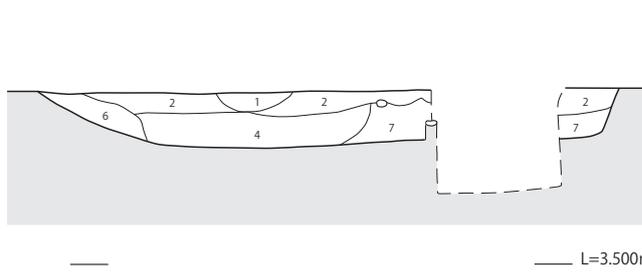
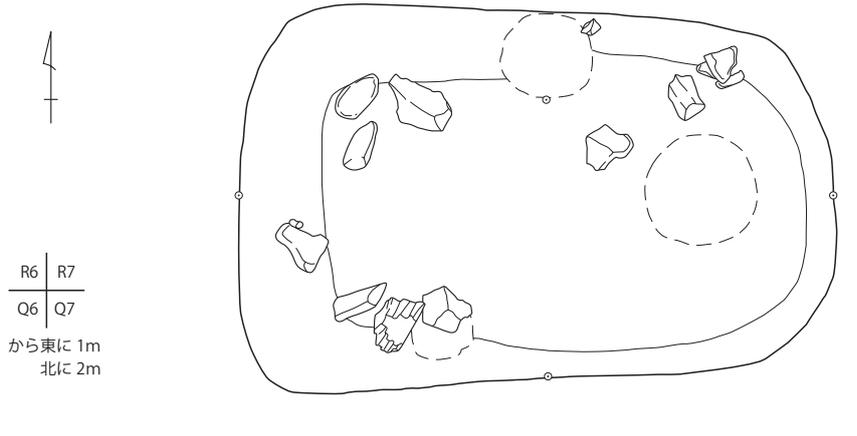
### 3 号土坑 SK5003 (旧 SK4002)

**検出地点** I15

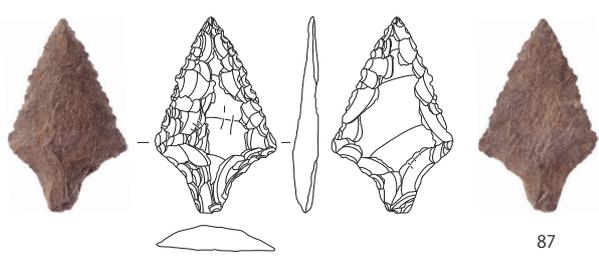
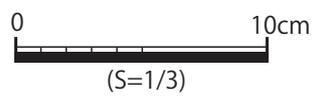
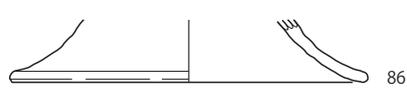
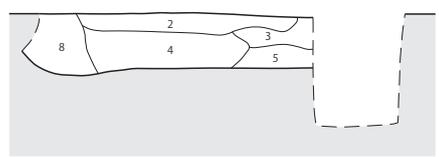
**形態・規模** 平面形態は不整円形、断面形帯は船底形を呈する。長軸 0.85m、短軸 0.78m、深度



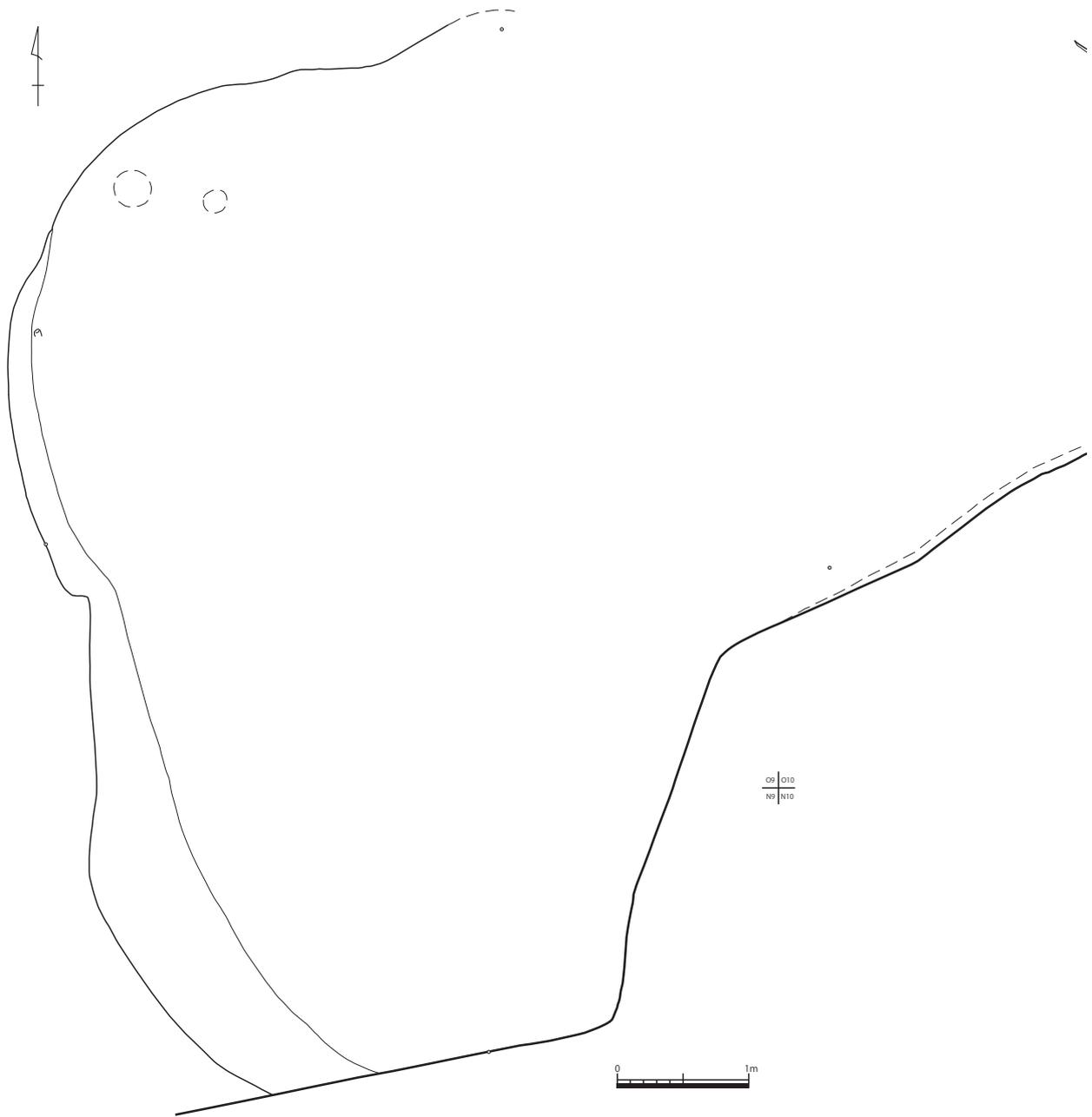
第 48 図 7 号土坑 SK5007 (旧 ST3001) 遺構図・出土遺物図



- ST3004
- 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、φ1~2mm大のMg粒を30%含む。ややまじり多い。
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。地山ブロックを含む。炭化物細粒をわずかに含む。φ1mm未満のMg粒を5%含む。
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、やや砂質つよい。φ1mm大のMg粒を5%含む。
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、地山ブロックをわずかに含む。φ1mm未満のMg粒を3%含む。
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、第4層に類似する。第4層よりやや明るい色調を呈す。小礫をわずかに含む。
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり。やや砂質つよい。φ1~2mm前後のMg粒を5%含む。地山ブロックをわずかに含む。
  - 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり。φ1mm未満のMg粒を3%含む。礫を含む。
  - 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性あり、ややまじりあり。φ1mm未満のMg粒を7%含む。炭化物細粒をやや多く含む。



第 49 図 8 号土坑 SK5008 (旧 ST3004) 遺構図・出土遺物図



第 50 図 9 号土坑 SK5009 (旧 SU1001) 遺構図

0.15m、主軸方位  $N - 45.40^\circ - E$  を測る。基底部に被熱による赤変箇所が認められる。覆土中より若干の炭化物を検出したが、炭化物層は認められない。

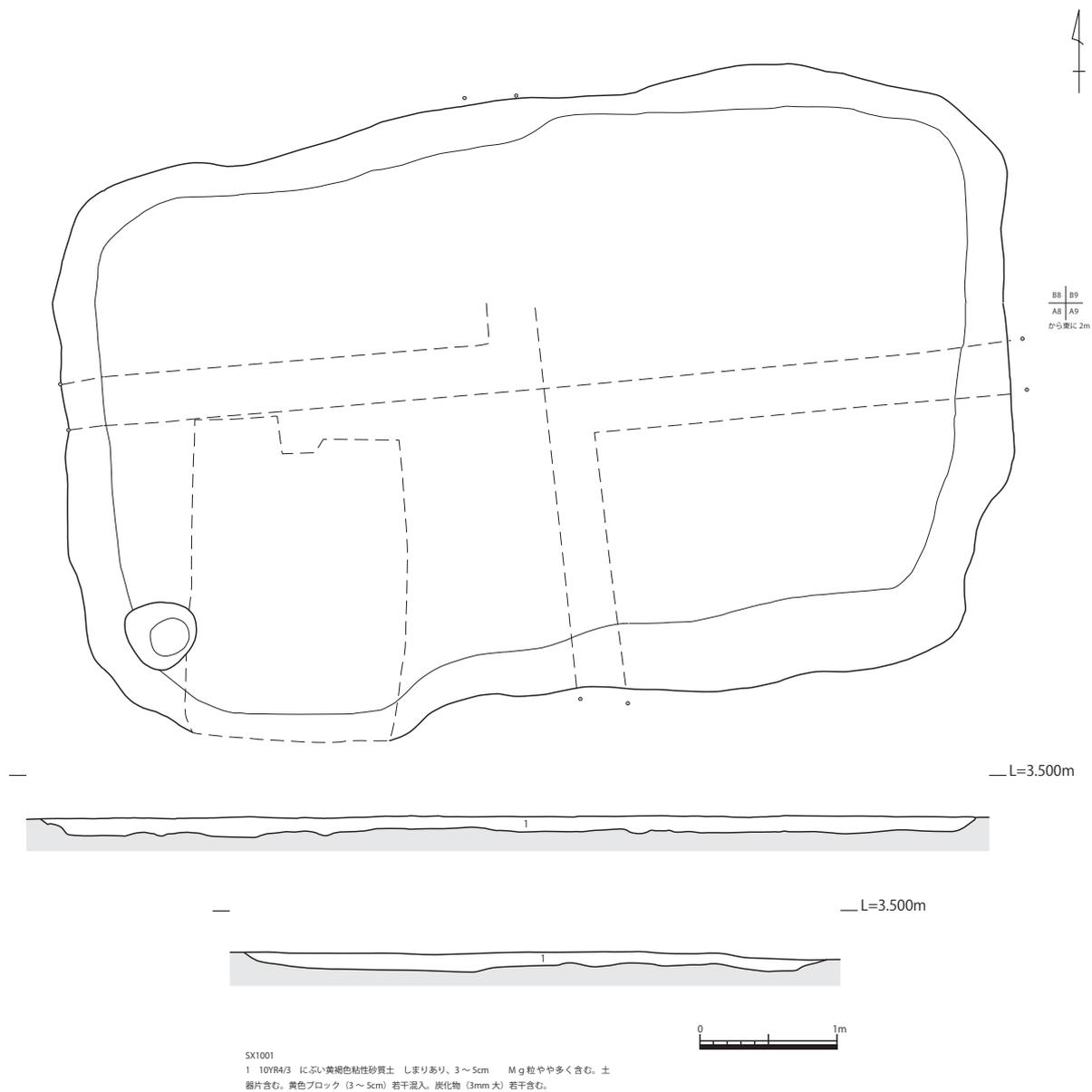
**遺物出土状況** 被熱赤変箇所上面より縄文土器片を検出したが、小片のため図化不能である。

**出土遺物** 図化可能遺物無し。

**時期** 縄文時代晩期と推定されるが、弥生時代に属する可能性もある。



第 51 图 9 号土坑 SK5009 (旧 SU1001) 出土遺物图



第 52 図 10 号土坑 SK5010 (旧 SX1001) 遺構図

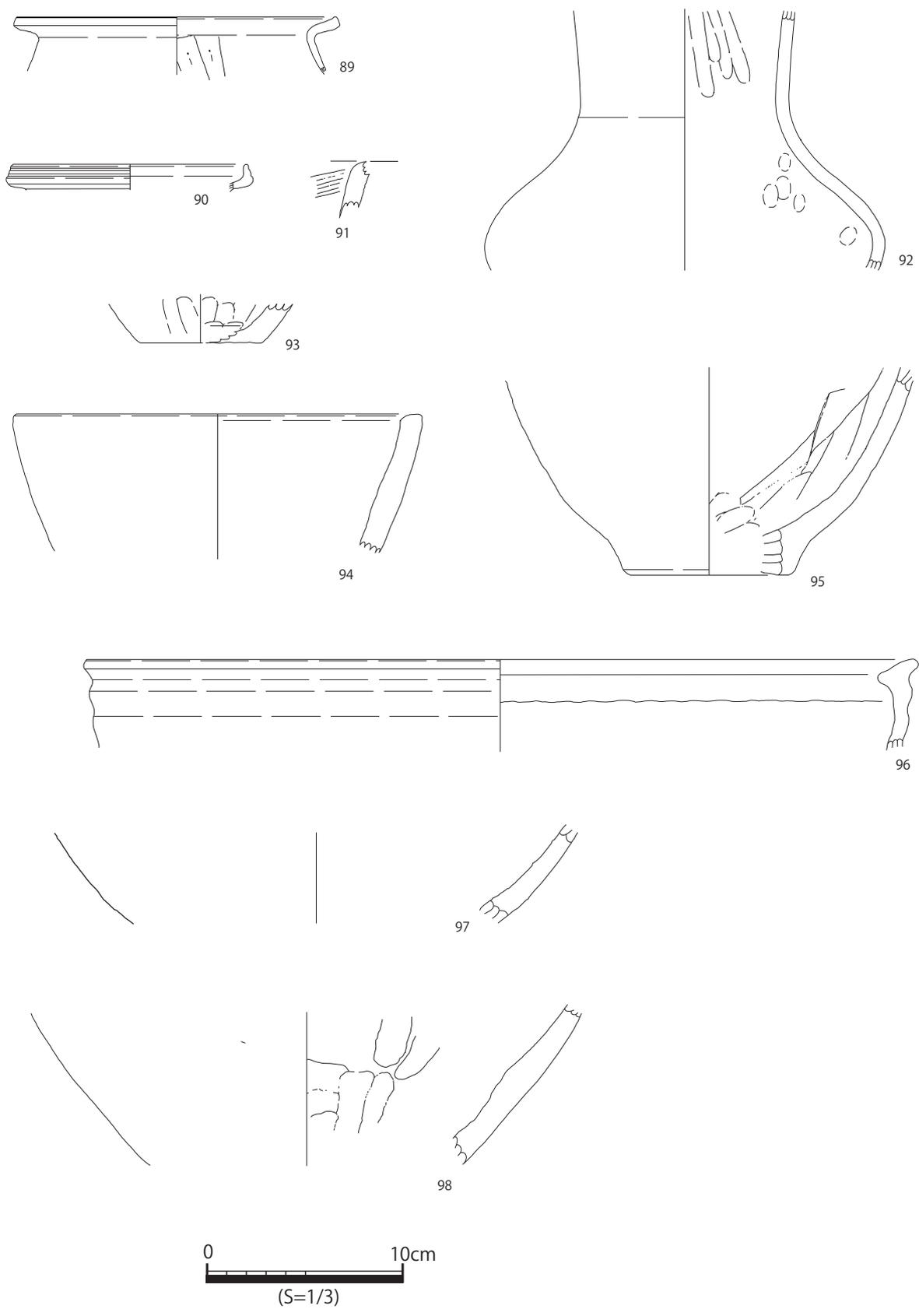
#### 4 号土坑 SK5004 (旧 SK4011)

**検出地点** E12

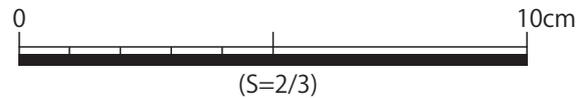
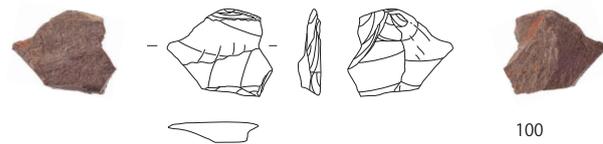
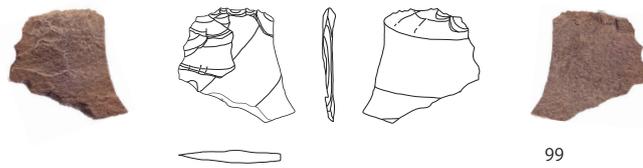
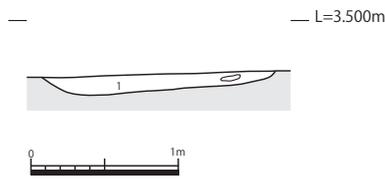
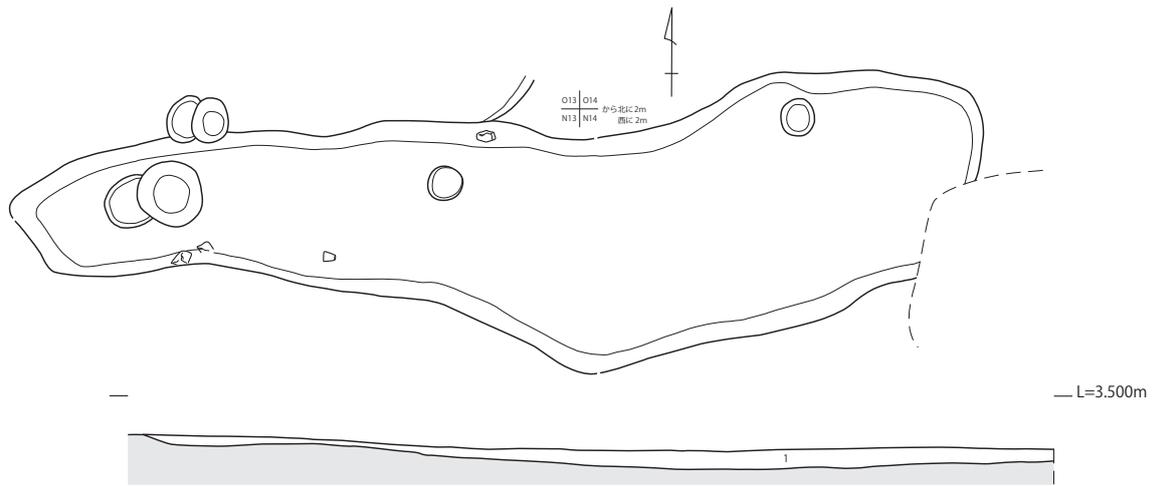
**形態・規模** 平面形態は不整円形、断面形態は逆台形を呈する。長軸 0.61m、短軸 0.59m、深度 0.12m、主軸方位 N - 65.50° - E を測る。

**遺物出土状況** 2 層中より弥生土器が出土。

**出土遺物** 弥生土器 72 は大型壺口縁で吉野川流域からの搬入品の可能性が高い。弥生土器 73 は大型鉢である。弥生土器 74 は大型鉢口縁で吉野川流域からの搬入品の可能性が高い。弥生土器 75 は甕口縁部で鮎喰川流域からの搬入品と推定されるが、焼成質や胎土質が不良である。弥生土器 76 は甕口縁



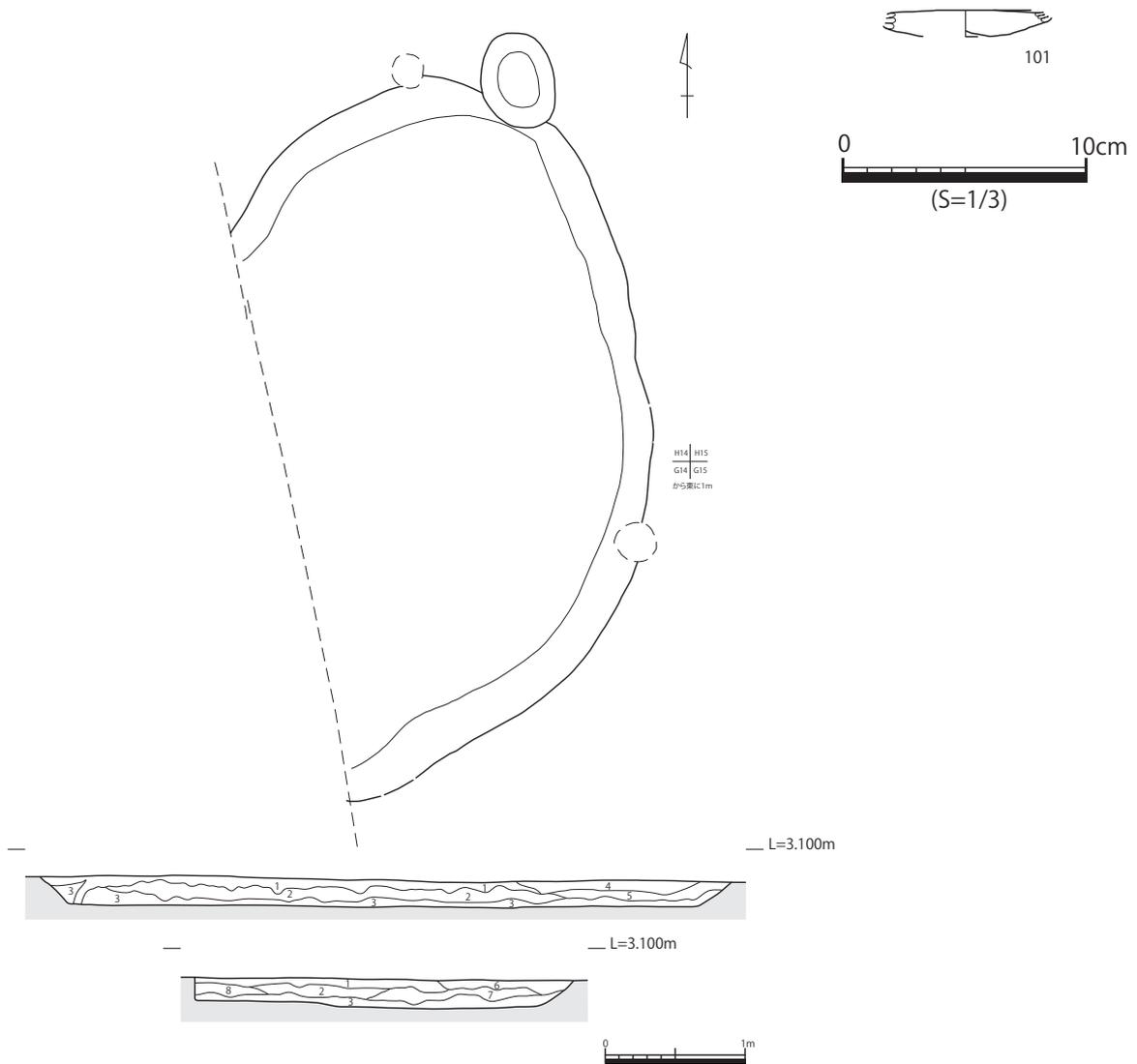
第 53 图 10 号土坑 SK5010 (旧 SX1001) 出土遗物图



第 54 図 11 号土坑 SK5011 (旧 SX2001) 遺構図・出土遺物図

で吉野川流域からの搬入品の可能性が高い。弥生土器 77～79 は平底の壺底部で、79 には焼成時破裂痕の可能性が高い。弥生土器 80～82 は甕底部で、80 は勝浦川北岸と推定される結晶片岩粒を含む。81 は吉野川流域からの搬入品の可能性が高い。82 は勝浦川南岸の白色チャートを含み在地産と推定される。

**時期** 弥生時代中期後葉 (IV-1) である。



SX2002

- 1 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 2～3mmを 20%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 10%混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 2 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 2～3mmを 20%含む。黄色ブロック (3cm大) 20%混入。土器細片含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 粒 1～2mmを 10%含む。黄色ブロック (1～5cm大) 20%混入。土器小片含む。
- 4 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 2～3mmを 20%含む。黄色ブロック (1～5cm大) 30%混入。土器細片含む。
- 5 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 3mmを 10%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 20%混入。
- 6 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 2～3mmを 10%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 10%混入。土器細片含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 2～3mmを 20%含む。黄色ブロック (3～5cm大) 10%混入。
- 8 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 2～3mmを 10%含む。黄色ブロック (1cm大) 10%混入。

第 55 図 12 号土坑 SK5012 (旧 SX2002) 遺構図・出土遺物図

## 5 号土坑 SK5005 (旧 SK4021)

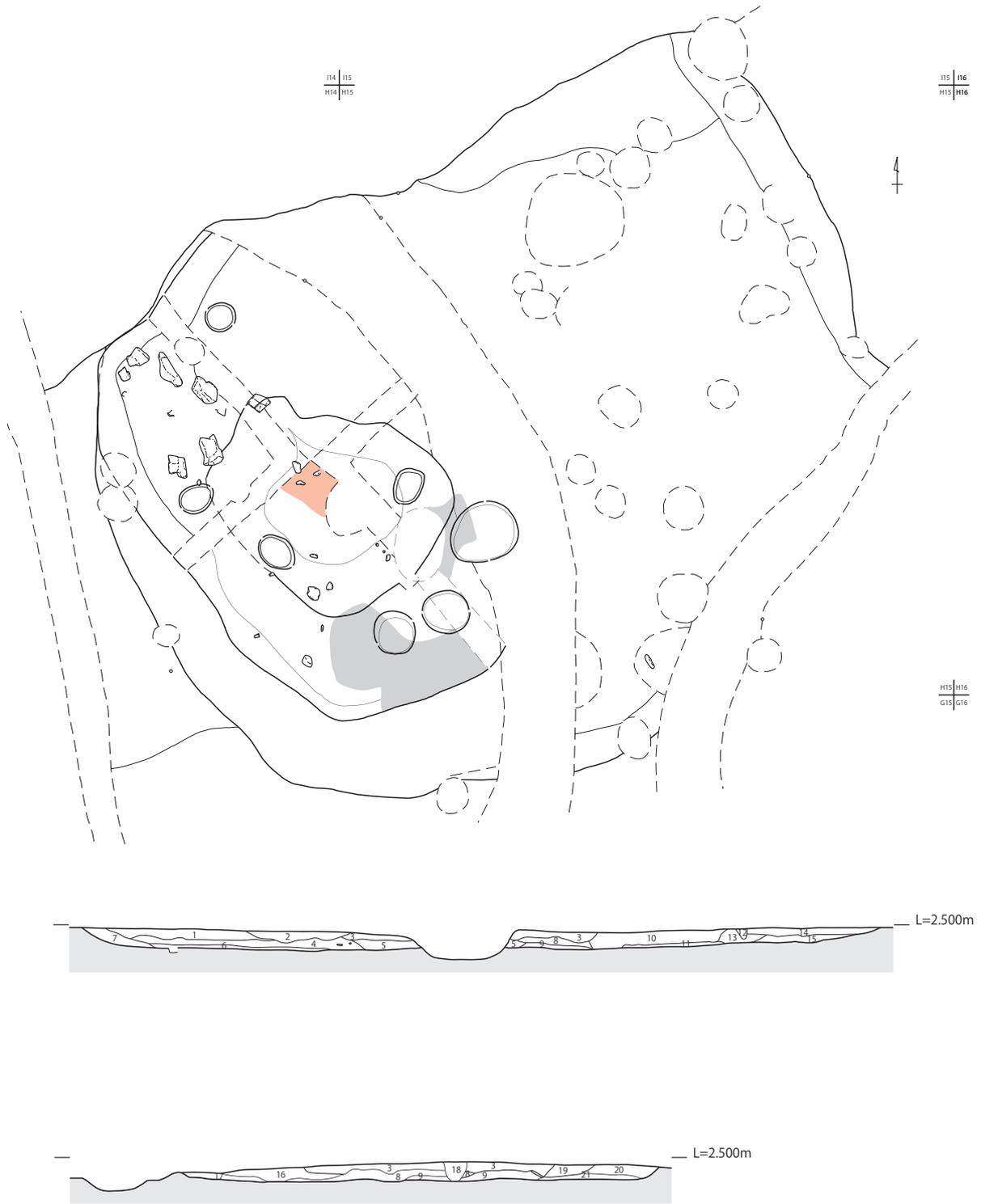
**検出地点** B5

**形態・規模** 平面形態は不整楕円形、断面形態は逆台形を呈する。残存長軸 0.86m、短軸 0.72m、深度 0.19m、主軸方位 N - 79.00° - E を測る。

**遺物出土状況** 覆土中より石器 83 が出土したが、土器片は出土していない。

**出土遺物** 石器 83 はサヌカイト製石鏃である。

**時期** 縄文時代晩期と推定される。



第 56 図 1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 遺構図(1)

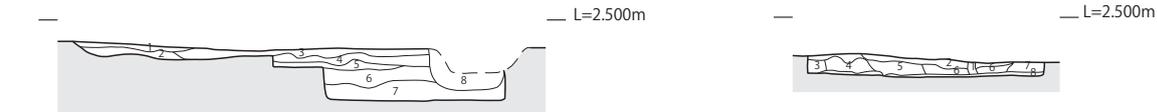
SX4001

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。5mm～1cm大のレキわずかに含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。炭化物 (5mm～1cm大) 若干含む。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。微細砂混じり。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。炭化物 (5mm～1cm大) 若干含む。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。2層と比べて粗い微細砂混じり。炭化物 (5mm大) 若干含む。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト混じりの粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 3%含む。1～5cm大のレキを若干含む。炭化物 (5mm～1cm大) 若干含む。土器片・サマカイト片含む。1層・2層より黄色みを帯びる。
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 3%含む。1～3cm大のレキ若干含む。炭化物 (5mm大) 若干含む。
- 6 10YR4/2 灰黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大をほんのわずかに含む。炭化物 (1cm大) 若干含む。10YR3/3 ブロック (1cm大) 若干混入。6層と比べて黄色みが強い。
- 8 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 (やや粘質土) しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大をほんのわずかに含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。8層より黒みを帯びる。
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。炭化物 (5mm～1cm大) 若干含む。10YR3/3 ブロック (1～5cm大) やや多く混入。
- 11 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。粒子やや粗い。微細砂混じり。
- 12 10YR4/2 灰黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。黄色ブロック (1cm大) やや多く混入。
- 13 10YR4/4 褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 14 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。炭化物 (2cm大) 若干含む。黄色ブロック・10YR3/3 ブロック (3cm大) 若干混入。
- 15 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。粒子やや細かい。
- 16 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。黄色ブロック (3cm大) 若干混入。土器片含む。
- 17 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。16層と比べてやや黒っぽい。
- 18 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 20%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。
- 19 10YR4/2 灰黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。土器片含む。
- 20 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。炭化物 (5mm大) 若干含む。
- 21 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。黄色ブロック (1cm大) やや多く混入。5cm大のレキ含む。



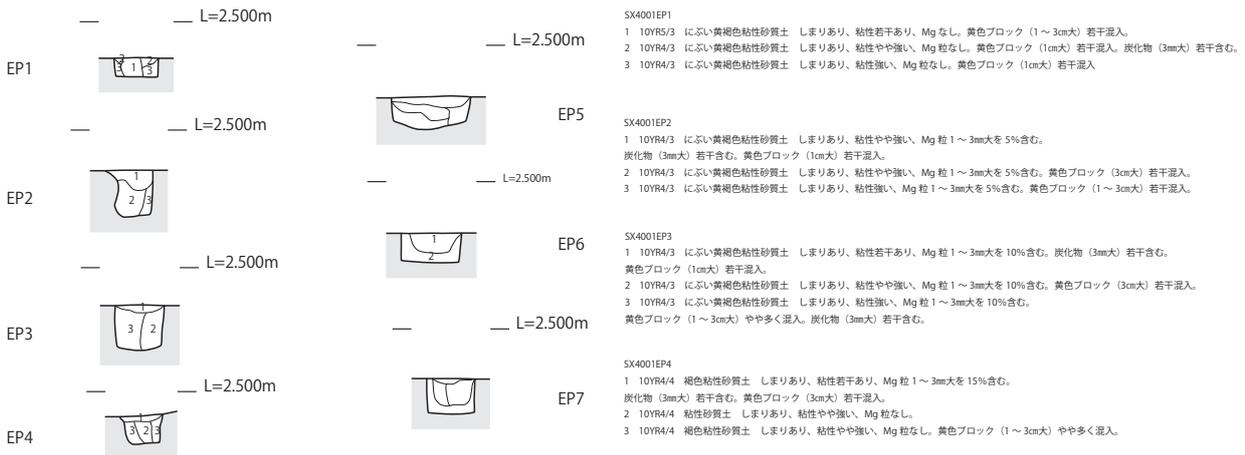
SX4001E1X

- 1 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。炭化物 (5mm大) 若干含む。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。炭化物 (3～5mm大) 若干含む。微細砂含む。
- 3 10YR4/4 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。炭化物 (3～5mm大) やや多く含む。焼土ブロック若干含む。20～30cm大の礫を含む。
- 4 10YR4/4 褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (3cm大) 若干混入。炭化物 (5mm大) 若干含む。
- 5 10YR4/4 褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。土器片含む。
- 6 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。10YR3/3 ブロック (3cm大) 若干混入。
- 7 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。
- 8 10YR4/4 褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。Fe 若干含む。
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。土器細片含む。3cm大の礫若干含む (SD3009)。

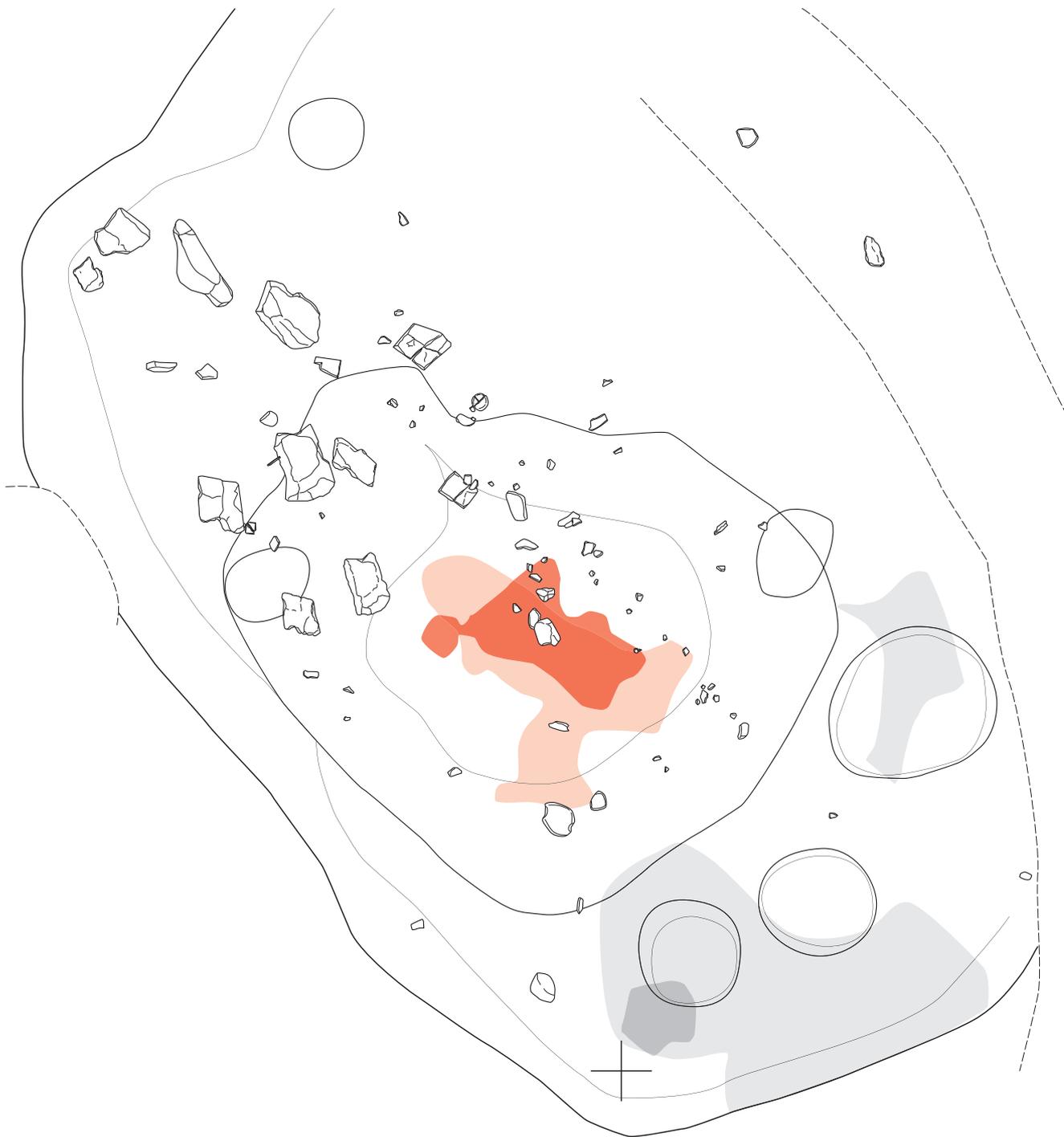


SX4001EH 断ち削り

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm大を 5%含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm大を 5%含む。炭化物 (3～5mm大) 若干含む。上層は被熱面。
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm大を 10%含む。黄色ブロック (1cm大) やや多く混入。
- 4 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm大を 30%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。炭化物 (5mm大) 若干含む。焼土ブロック含む。
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm大を 10%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。焼土ブロック含む。
- 6 10YR6/4 にぶい黄褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm大を 10%含む。炭化物 (3～5mm大) 若干含む。5mm大の小礫若干含む。
- 7 10YR4/4 褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm大を 10%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 8 10YR4/4 褐色粘質砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。砂質やや強い。



第 57 図 1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 遺構図 (2)



第 58 图 1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 遺構図(3)



图版 14 SX5001 全景



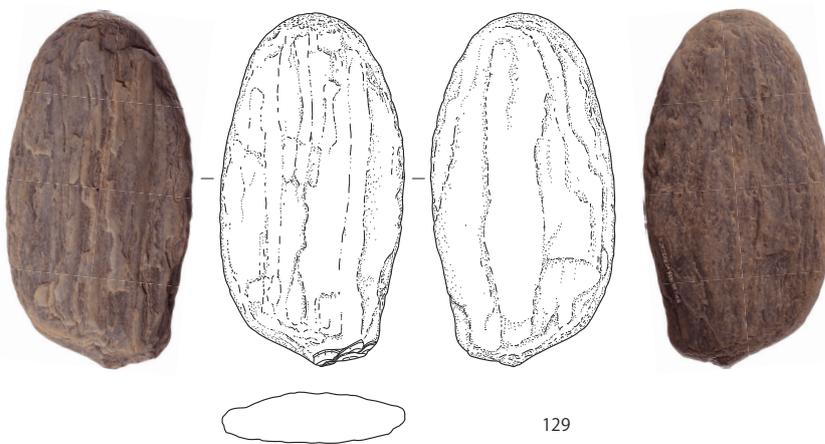
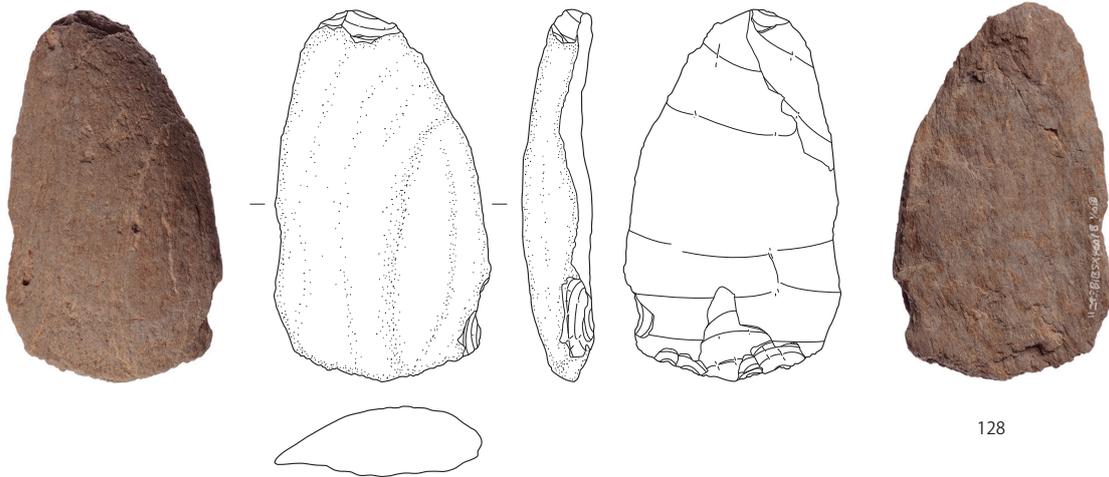
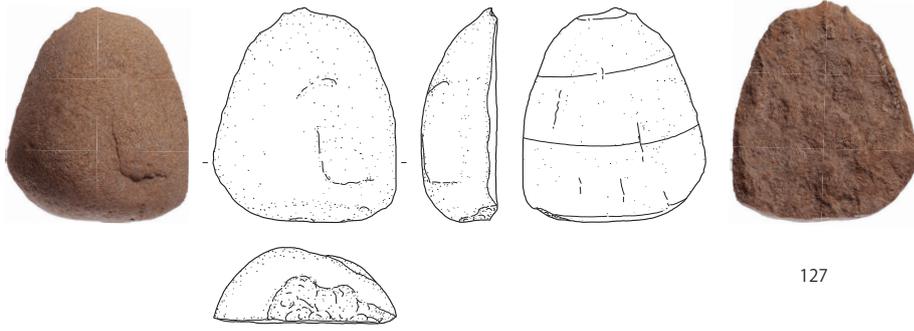
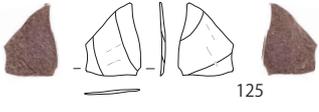
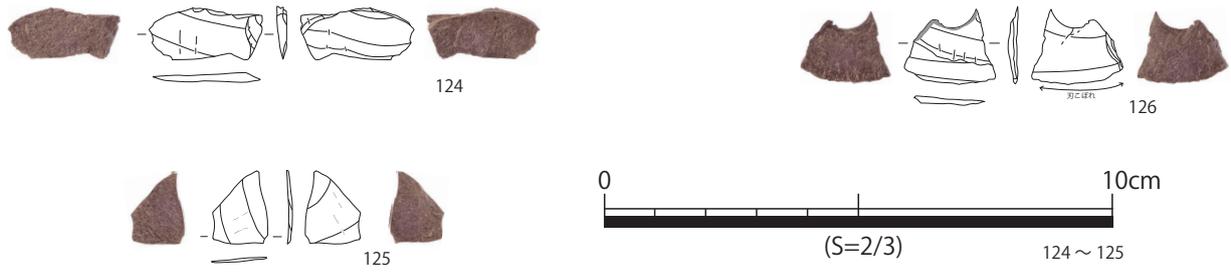
图版 15 SX5001 全景



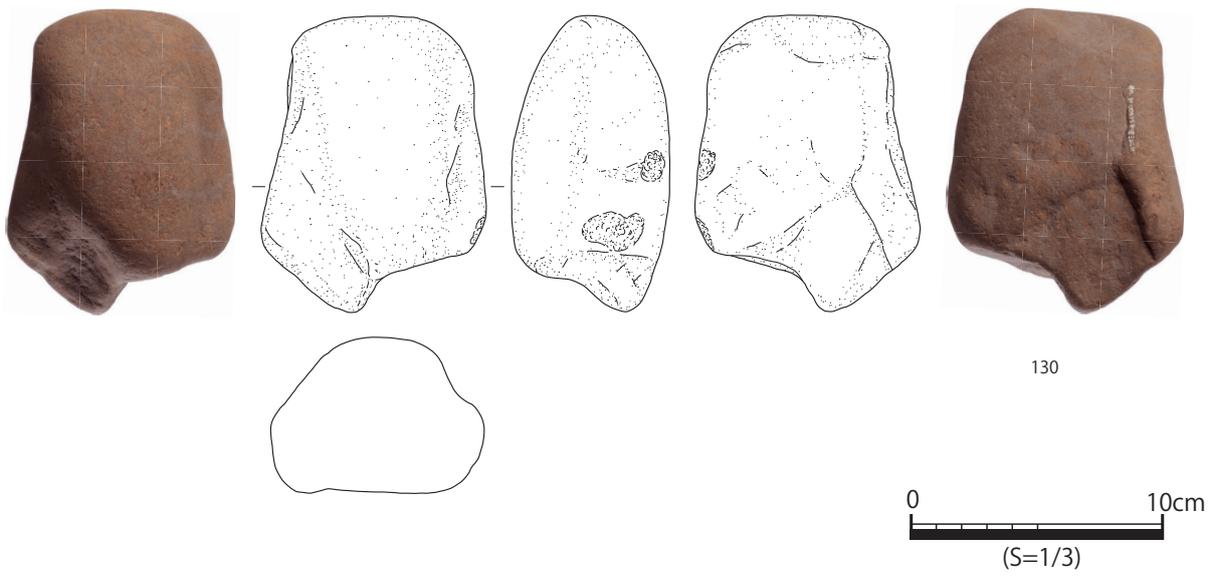
图版 16 SX5001 遺物出土狀況



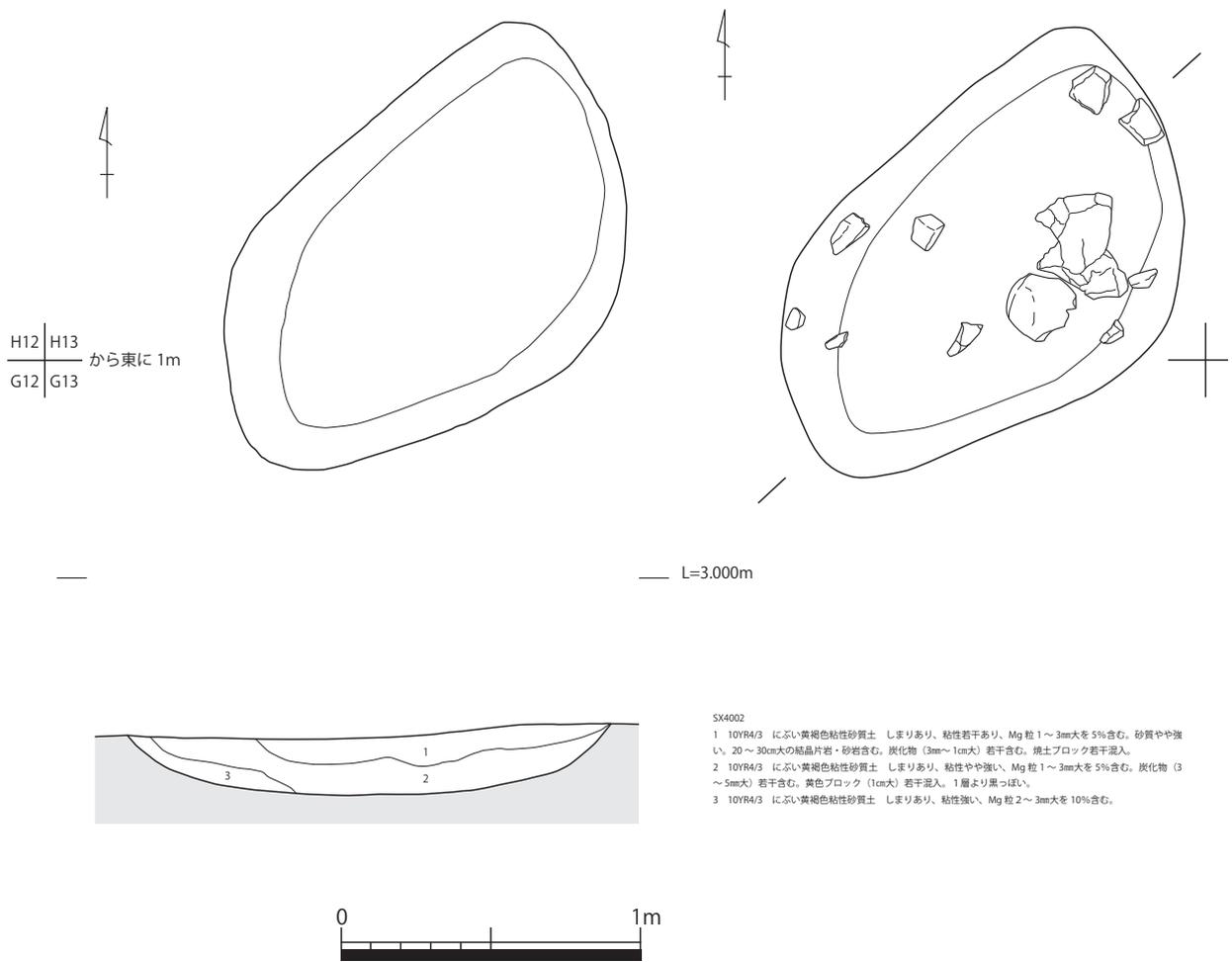
第 59 图 1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 出土遺物图(1)



第 60 图 1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 出土遺物图 (2)



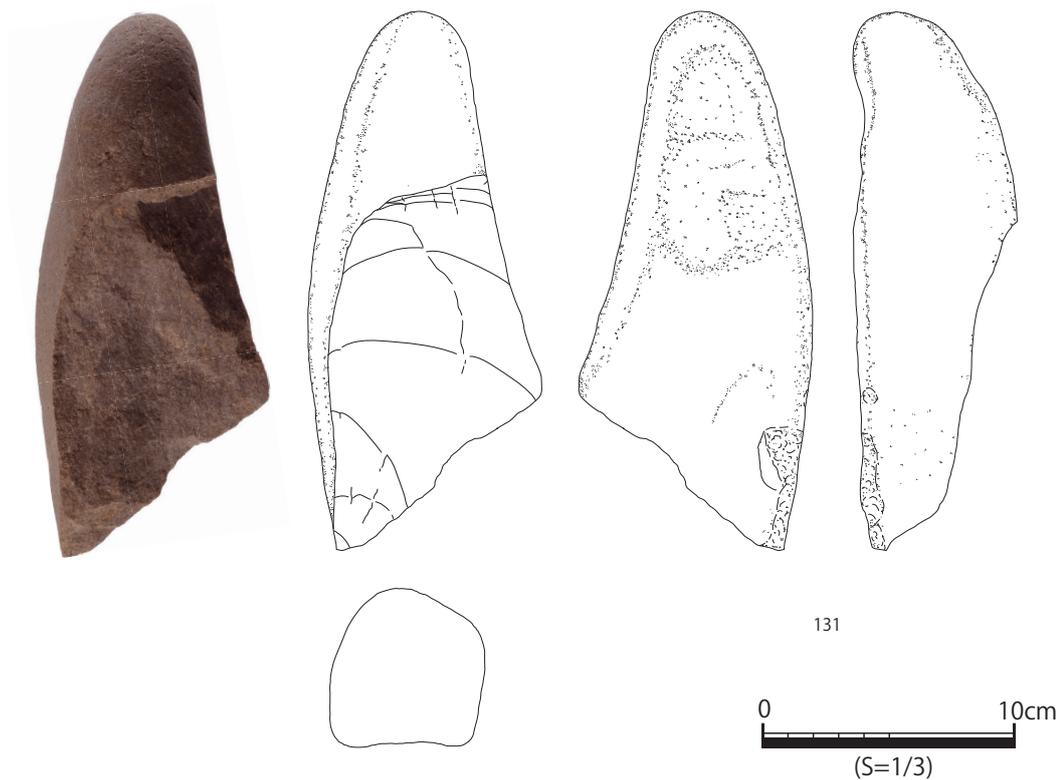
第 61 図 1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001) 出土遺物図 (3)



SX4002

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~3mm 大を 5% 含む。砂質やや強い、20~30cm 大の結晶片岩・砂岩含む。炭化物 (3mm~1cm 大) 若干含む。粘土ブロック若干混入。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1~3mm 大を 5% 含む。炭化物 (3~5mm 大) 若干含む。黄色ブロック (1cm 大) 若干混入。1 層より厚っぽい。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 粒 2~3mm 大を 10% 含む。

第 62 図 13 号土坑 SK5013 (旧 SX4002) 遺構図



第 63 図 13 号土坑 SK5013 (旧 SX4002) 出土遺物図(1)

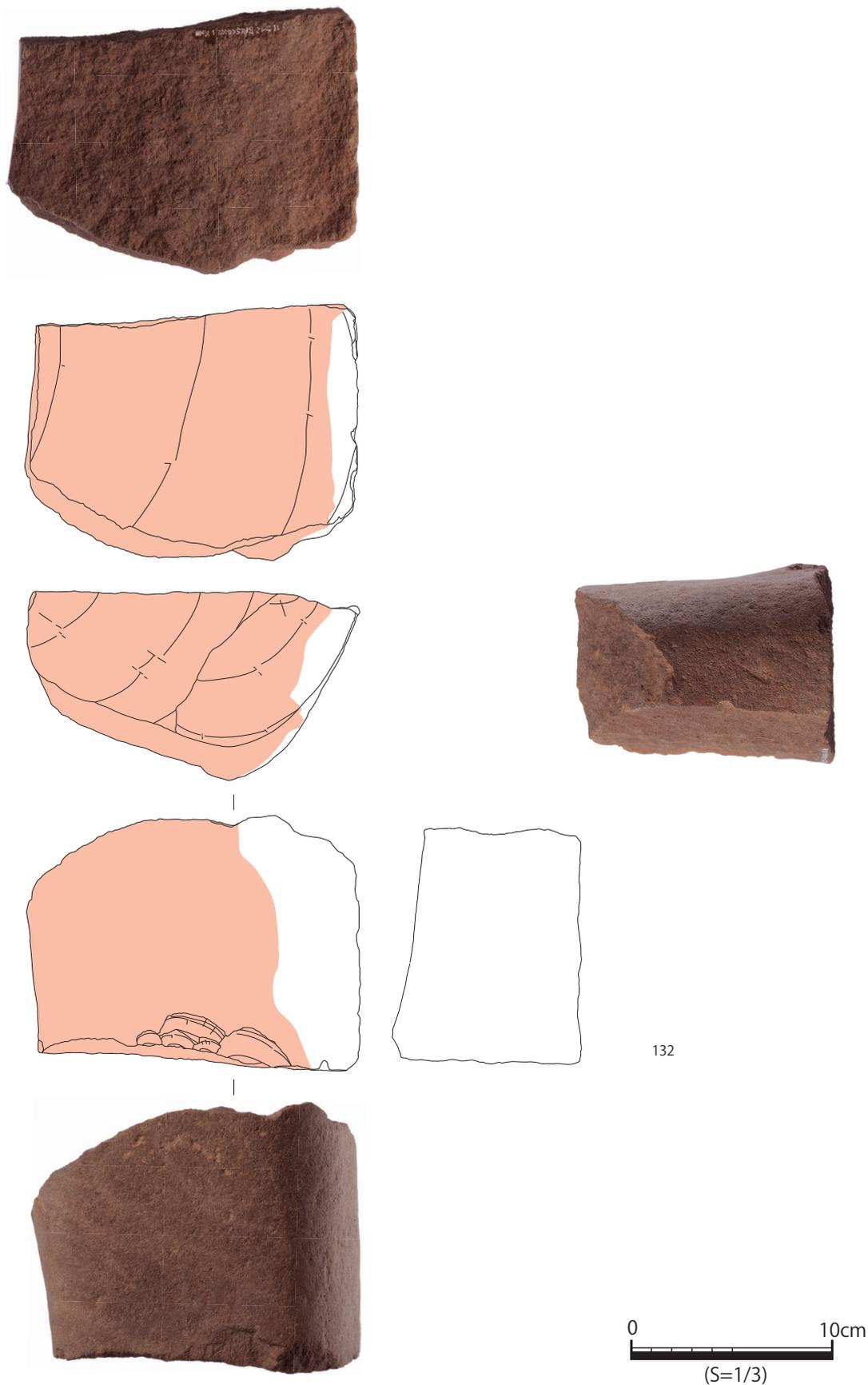


図版 17 SK5013 遺物出土状況

### 6 号土坑 SK5006 (旧 SK4031)

**検出地点** T6

**形態・規模** 平面形態は円形を、断面形態は逆台形を呈する。長軸 0.98m、短軸 0.90m、深度 0.25m、主軸方位 N - 56.50° - E を測る。



第 64 图 13 号土坑 SK5013(旧 SX4002) 出土遺物图(2)

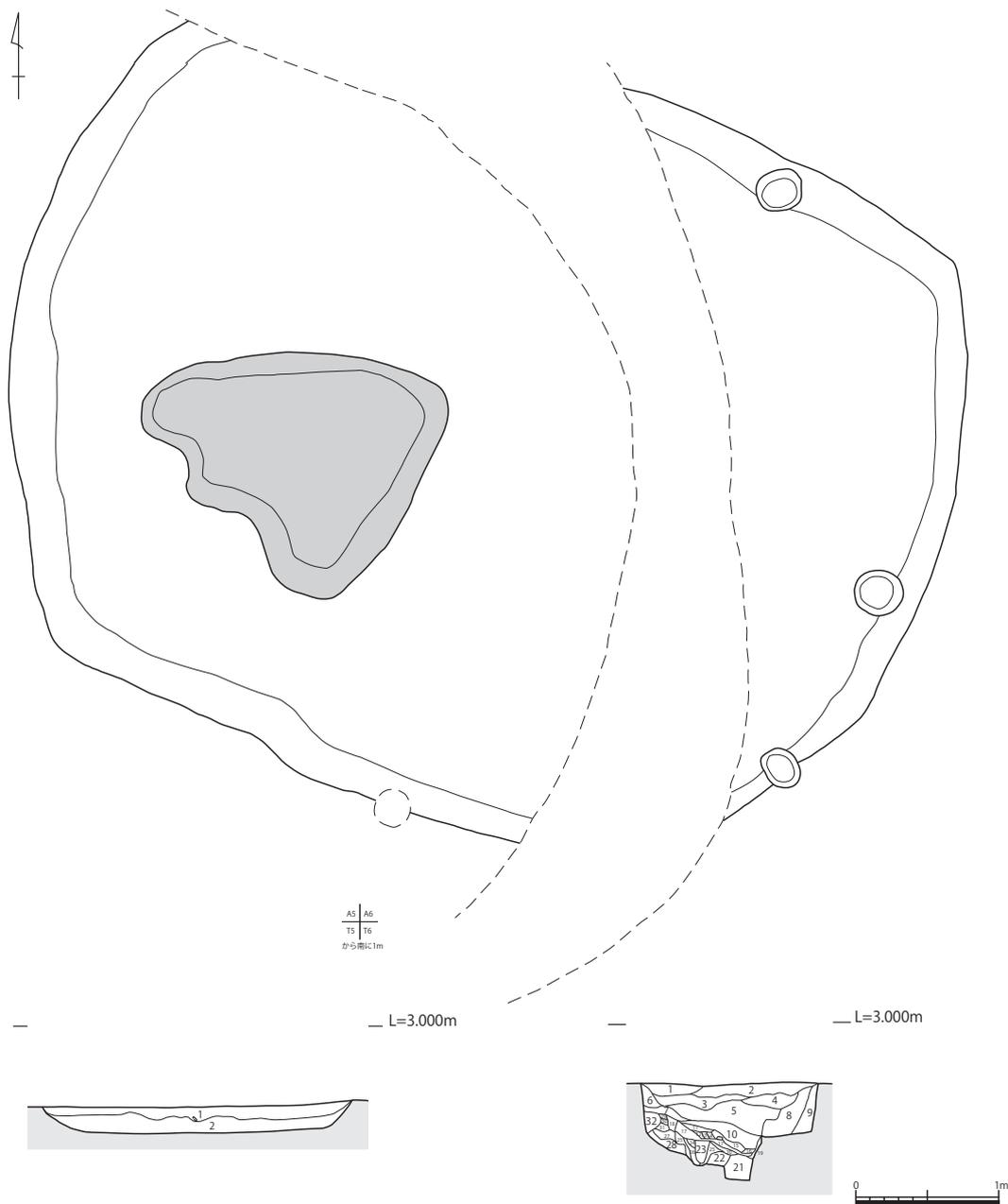


第 65 図 13 号土坑 SK5013(旧 SX4002) 出土遺物図(3)

**遺物出土状況** 覆土中より川原石に混じって 10～20cm 程度の砂岩礫や頁岩礫が検出されたが、土器は含まず。

**出土遺物** 図化可能遺物無し。

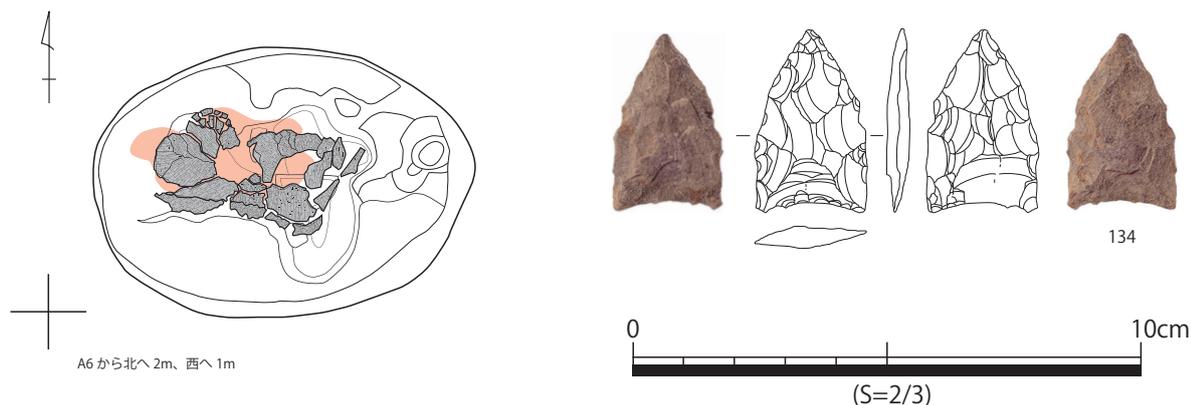
**時期** 縄文時代晩期と推定される。



SK4004EH

- 1 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~2mm大を 5%含む。炭化物 (5mm~2cm大) 若干含む。黄色ブロック (1~3cm大) 若干混入。
- 2 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~2mm大を 5%含む。炭化物 (3mm~3cm大) やや多く含む。黄色ブロック (1~3cm大) 若干混入。炭化材含む。1層よりやや黒っぽい。
- 3 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1~2mm大を 3%含む。黄色ブロック (1~5cm大) やや多く混入。炭化物 (3mm~2cm大) やや多く含む。
- 4 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1~2mm大を 3%含む。黄色ブロック (3cm大) 若干混入。焼土ブロック含む。炭化物 (3mm~1cm大) やや多く含む。
- 5 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、やや粘質土気味。Mg 粒 1~2mm大を 3%含む。黄色ブロック (1~3cm大) 若干混入。8層との境に炭化物層あり。5mm~5cm大の炭化物多く含む。炭化材あり。
- 6 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~2mm大を 3%含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 7 5YR3/3 暗赤褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。炭化物 (3mm~1cm大) やや多く含む。焼土ブロック多量に含む。
- 8 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。黄色ブロック (1~3cm大)・10YR4/4 ブロック (3~5cm大) 多く混入。炭化物 (3mm~2cm大) 若干含む。
- 9 10YR4/3 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。炭化物 (3mm~2cm大) 若干含む。黄色ブロック (1~3cm大) やや多く混入。
- 10 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。焼土ブロック若干含む。炭化物 (5mm~1cm大) やや多く含む。
- 11 5YR4/4 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。炭化物 (5mm~1cm大) 若干含む。焼土ブロック (1cm大) 若干混入。
- 12 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。焼土ブロック若干混入。炭化物 (3~5mm大) 若干含む。下層に炭化材含む。
- 13 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。炭化物 (3mm大) 若干含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 14 7.5YR4/6 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。炭化物 (3mm大) 若干含む。焼土ブロック多く含む。11層との境に炭化物層含む。
- 15 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。炭化物 (5mm~1cm大) 若干含む。焼土ブロック (1~3cm大) やや多く混入。黄色ブロック (1~3cm大) 若干含む。下層に炭化材含む。
- 16 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。黄色ブロック (5mm~1cm大) やや多く混入。炭化物 (5mm~1cm大) 若干含む。
- 17 炭化物層
- 18 炭化材
- 19 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。炭化物 (5mm~1cm大) やや多く含む。灰混じり。
- 20 10YR5/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。焼土ブロック含む。炭化物 (3~5mm大) 若干含む。灰混じり。
- 21 2.5Y4/2 暗灰黄色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 粒なし。炭化物 (5mm~1cm大) 若干含む。焼土ブロック含む。黄色ブロック (1~3cm大) やや多く含む。
- 22 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。炭化物 (5mm大) 若干含む。Fe 若干含む。
- 23 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。炭化物 (3mm~1cm大) を層状に含む。灰混じり。焼土多く含む。
- 24 10YR5/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。焼土ブロック若干混入。炭化物 (3~5mm大) 若干含む。灰混じり。
- 25 2.5Y5/4 黄褐色粘性砂質土 しまり強い、粘性わずが、Mg 粒なし。砂質や強い (1/10 図 4枚目で粘床とした層)。
- 26 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。炭化物 (3~5mm大) 若干含む。粒子やや細かい。
- 27 10YR5/4 にふい黄褐色粘性砂質土 しまり強い、粘性わずが、Mg 粒なし。砂質や強い。灰混じり。炭化物 (5mm大) 若干含む。
- 28 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。砂質や強い (地山)。

第 66 図 2 号性格不明遺構 SX5002 (旧 SX4004) 遺構図 (1)



第 67 図 2 号性格不明遺構 SX5002 (旧 SX4004) 遺構図 (2)・出土遺物図

### 7 号土坑 SK5007 (旧 ST3001)

**検出地点** P5

**形態・規模** 平面形態は隅丸長方形、断面形態は逆台形を呈する。長軸 2.35m、短軸 1.25m、深度 0.13m、主軸方位 N - 28.50° - E を測る。

**遺物出土状況** 土坑中央より頁岩角礫が検出され、覆土中より弥生土器 84, 85 が出土。

**出土遺物** 弥生土器 84 は鉢口縁部、85 は高杯脚部で胎土に勝浦川南岸の白色チャートを含み在地産と推定される。

**時期** 弥生時代後期前葉 (V - 1) である。

### 8 号土坑 SK5008 (旧 ST3004)

**検出地点** R7

**形態・規模** 平面形態は不整隅丸長方形、断面形態は不整船底形を呈する。長軸 1.95m、短軸 1.2m、深度 0.175m、主軸方位 N - 89.00° - E を測る。

**遺物出土状況** 土坑外縁寄り 4 ~ 7 層中より 20cm 弱の結晶片岩川原石や頁岩角礫が検出され、上層より弥生土器 86 や石器 87 が出土した。

**出土遺物** 弥生土器 86 は高杯脚部、石器 87 はサヌカイト製有茎石鏃である。

**時期** 弥生時代後期前葉 (V - 2) である。

### 9 号土坑 SK5009 (旧 SU1001)

**検出地点** N9, O9

**形態・規模** 平面形態は不整形、断面形態は不整船底形を呈する。残存長軸 7.55m、残存短軸 7.5m、深度 0.2m を測る大型遺構である。旧地形の浅い落ち込みである可能性が高い。

**遺物出土状況** 覆土中より石器 88 が出土。

**出土遺物** 石器 88 は砂岩製石杵である。

**時期** 縄文時代晩期と推定されるが、弥生時代の可能性もある。



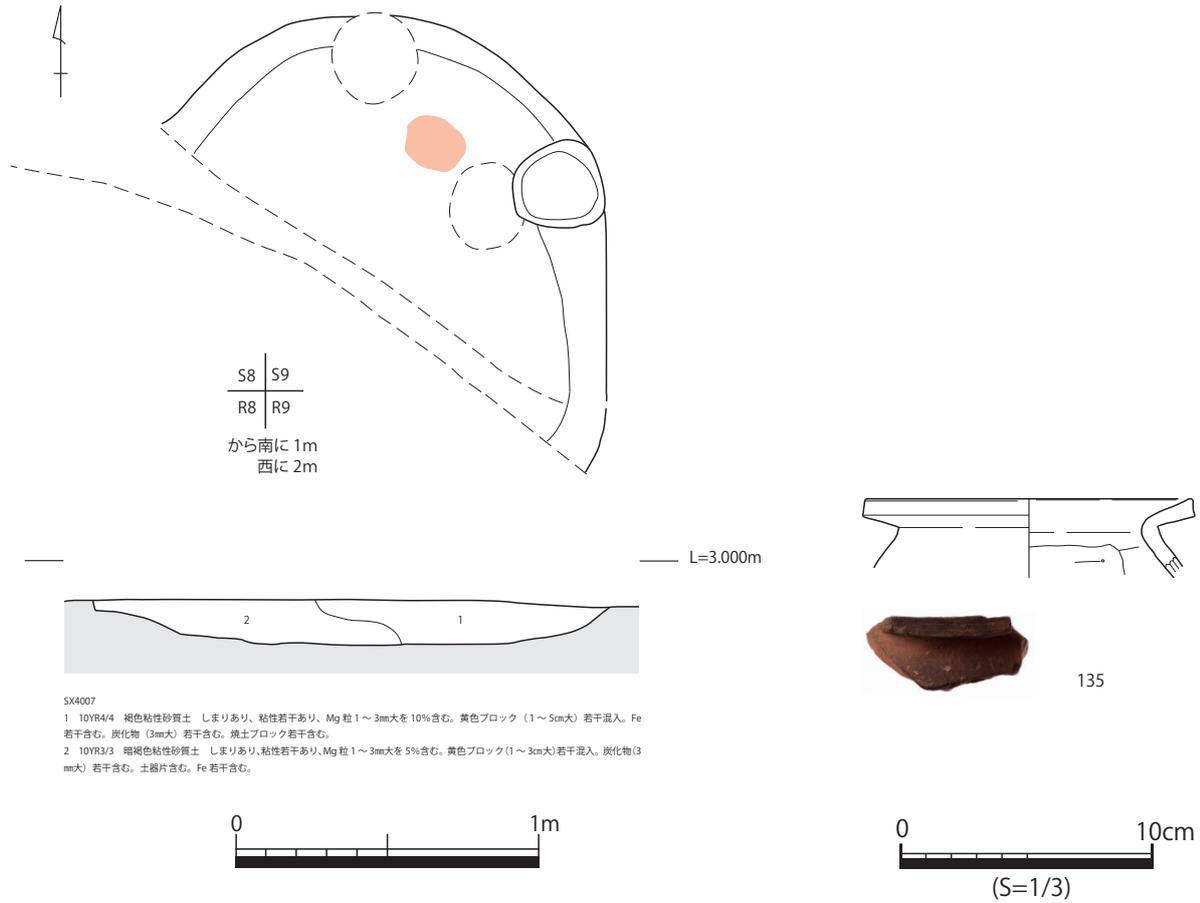
图版 18 SX5002 中央烧土坑检出状况



图版 19 SX5002 中央烧土坑底部



图版 20 SX5002 中央烧土坑完掘状况



第 68 図 14 号土坑 SK5014 (旧 SX4007) 遺構図・出土遺物図

## 10 号土坑 SK5010 (旧 SX1001)

**検出地点** A9, B9

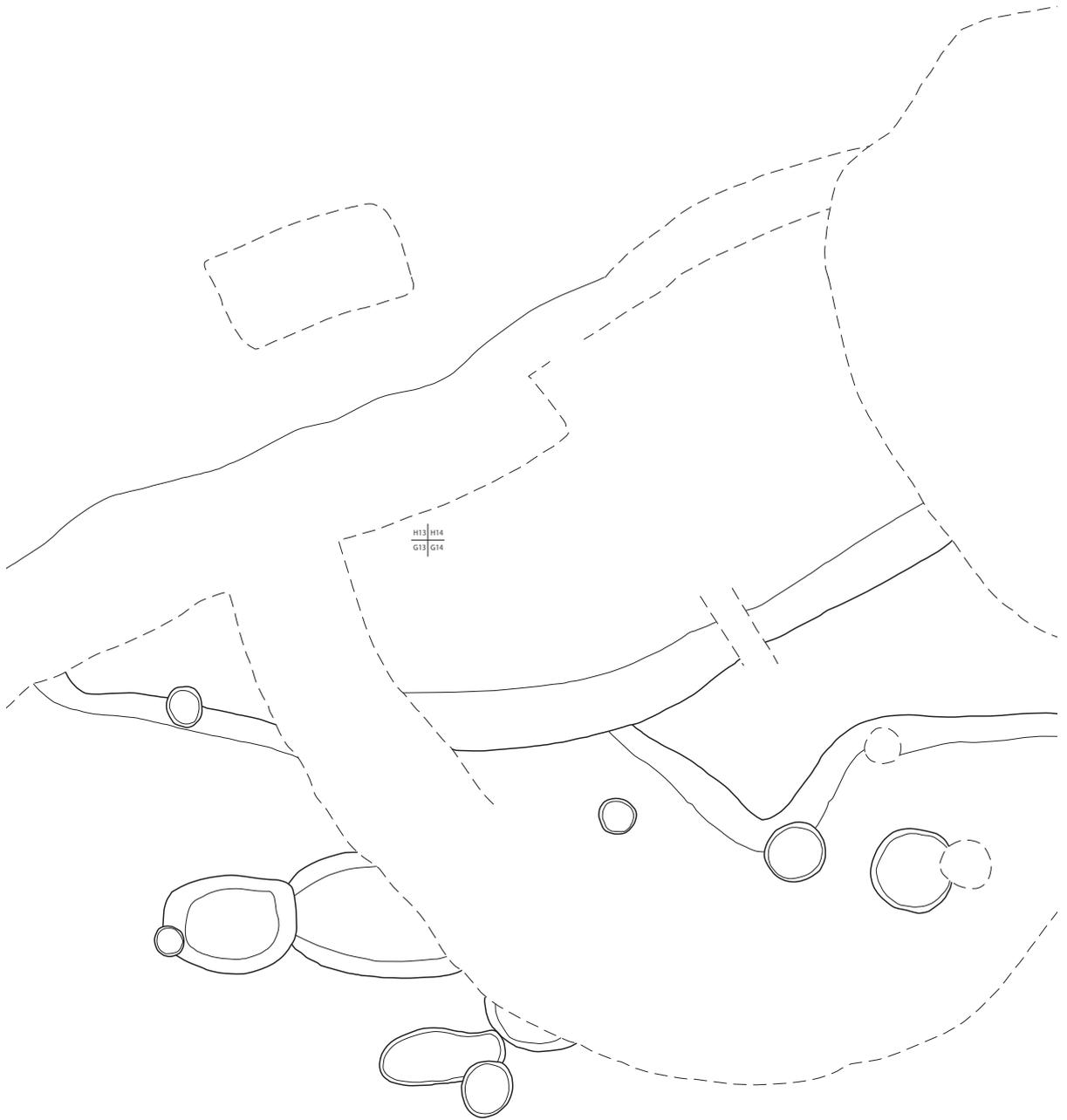
**形態・規模** 平面形態は隅丸長方形、断面形態は浅い逆台形を呈する。長軸 6.83m、短軸 4.3m、深度 0.1m、主軸方位 N - 83.50° - E を測る大型土坑である。当初、竪穴住居等の可能性も想定されたが、炉跡や柱穴は未検出である。

**遺物出土状況** 基底面から浮いた状態で弥生土器が出土している。

**出土遺物** 弥生土器 89 は甕口縁部で鮎喰川流域からの搬入品である。弥生土器 90 は壺口縁部で胎土に勝浦川南岸の白色チャートを含む。弥生土器 91 は甕である。弥生土器 92 は壺頸部から体部で吉野川流域からの搬入品である。弥生土器 93 は壺底部で鮎喰川流域からの搬入品である。弥生土器 94 は鉢口縁部である。弥生土器 95 は壺底部で勝浦川流域産と推定される結晶片岩を含む。弥生土器 96 は大型鉢口縁部で結晶片岩粒は含まないが胎土は精製されている。弥生土器 97 は大型鉢体部である。弥生土器 98 は大型壺底部で勝浦川流域産と推定される結晶片岩を含む。

**時期** 弥生時代中期後葉 (IV - 1) である。

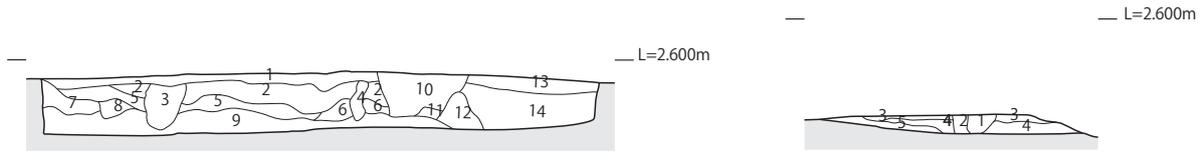
H13 H14  
H13 H14



第 69 図 3 号性格不明遺構 SX5003 (旧 SX4009) 遺構図(1)



第 70 図 3 号性格不明遺構 SX5003 (旧 SX4009) 遺構図 (2)

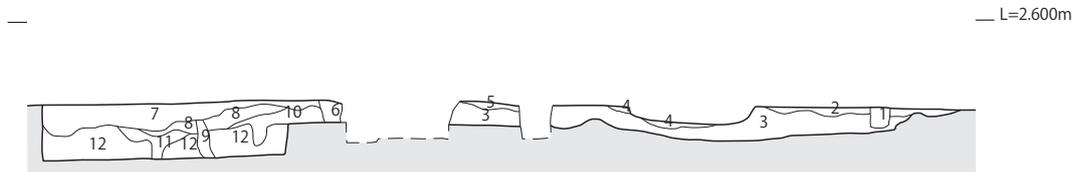


SX40098C 掘ベリト

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。砂粒混じり。
- 2 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。砂粒混じり。土器細片含む。
- 3 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (3～5cm大) やや多く混入。土器細片含む。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒なし。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。
- 6 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。黄色ブロック (1～3cm大) やや多く混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 7 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (3cm大) 若干混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 8 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。細砂混じり。粘質シルト。
- 10 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 粒 1～3mm大を 20%含む。10YR3/3 ブロック (5cm大) 若干混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。3cm大の小礫若干含む。
- 11 10YR3/3 暗褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 12 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。黄色ブロック (1～3cm大) やや多く混入。
- 13 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 14 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、Mg 粒なし。炭化物 (3mm大) 若干含む。細砂混じり。

SX4009A8 掘ベリト

- 1 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1～3cm大) やや多く混入。
- 2 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (3cm大) やや多く混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 20%含む。黄色ブロック (1～3cm大) やや多く混入。砂質やや強い。
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 20%含む。黄色ブロック (3cm大) 若干混入。



SX4009 掘ベリト

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 2 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 3%含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。土器細片含む。
- 3 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。土器細片含む。焼土ブロックわずかに含む。
- 4 SK4004
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。炭化物 (3mm大) 若干含む。
- 6 SP4003
- 7 10YR5/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。炭化物 (3mm～1cm大) 若干含む。
- 8 10YR5/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒なし。黄色ブロック (1～3cm大) やや多く混入。
- 10 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 10%含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。5mm～1cm大の小礫若干含む。
- 11 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5%含む。黄色ブロック (1～3cm大) 若干混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。3～5cm大の小礫やや多く含む。
- 12 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm大を 15%含む。炭化物 (3mm大) 若干含む。5cm大の小礫若干含む。

第 71 図 3 号性格不明遺構 SX5003 (旧 SX4009) 遺構図 (3)

## 11 号土坑 SK5011 (旧 SX2001)

**検出地点** O13, O14

**形態・規模** 平面形態は不整形、断面形態は浅い船底形を呈する。長軸 6.53m、短軸 1.55m、深度 1.25m、主軸方位 N - 88.5° - を測る大型土坑である。

**遺物出土状況** 覆土中より縄文土器片と石器 99, 100 が出土した。

**出土遺物** 石器 99 はサヌカイト製剥片、石器 100 はサヌカイト製剥片である。縄文土器は小片のため図化不能である。

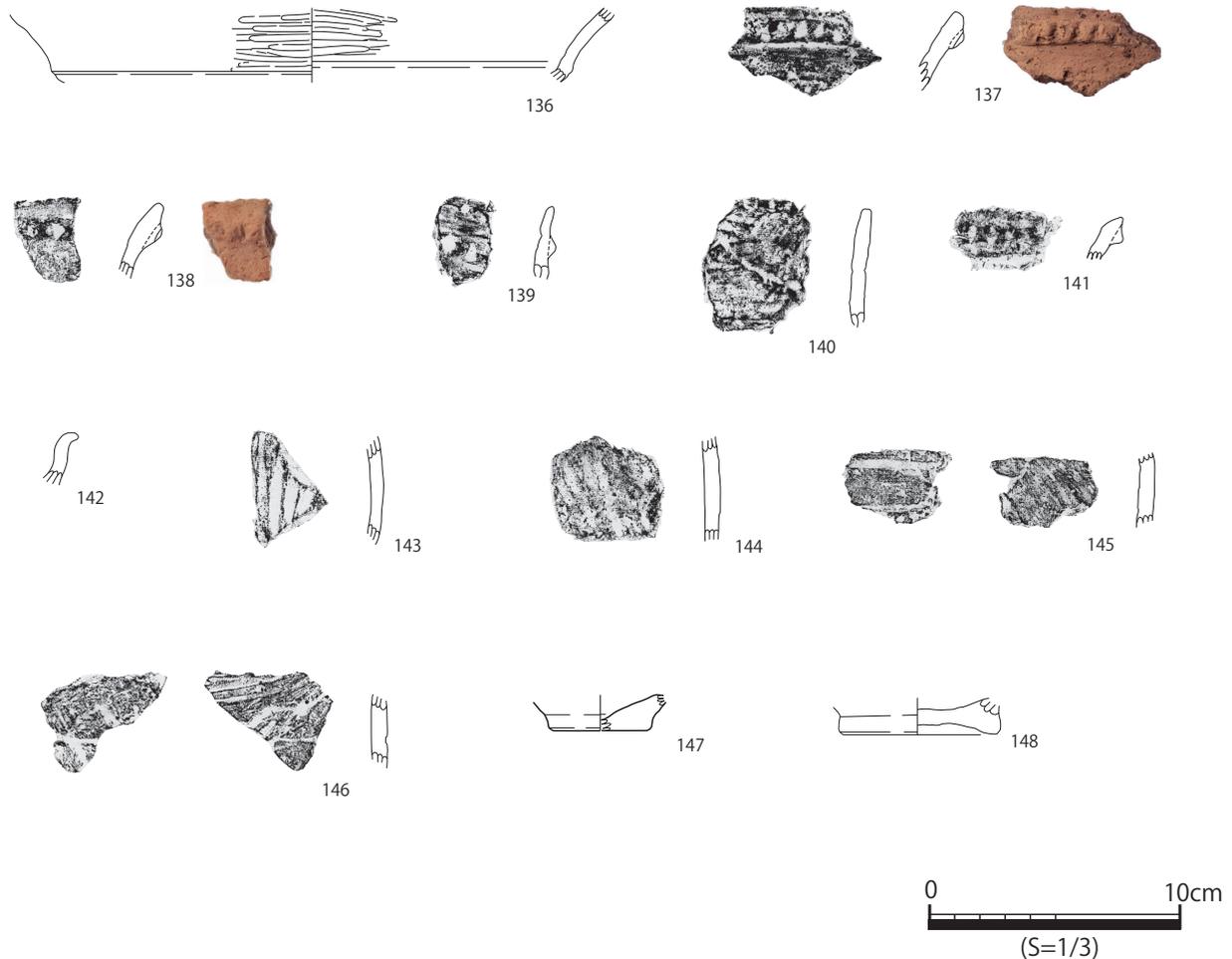
**時期** 縄文時代晩期と推定される。

## 12 号土坑 SK5012 (旧 SX2002)

**検出地点** G15, H15

**形態・規模** 平面形態は不整形長楕円形、断面形態は浅い船底形を呈する。長軸 5.2m、推定短軸 3.6m、深度 0.2m、主軸方位 N - 8.40° - E を測る大型土坑である。

**遺物出土状況** 覆土上層より弥生土器 101 が出土した。



第 72 図 3 号性格不明遺構 SX5003 (旧 SX4009) 出土遺物図

**出土遺物** 弥生土器 101 は高坏の円板充填部で吉野川流域からの搬入品である可能性がある。

**時期** 弥生時代中期後葉 (IV-2) である。

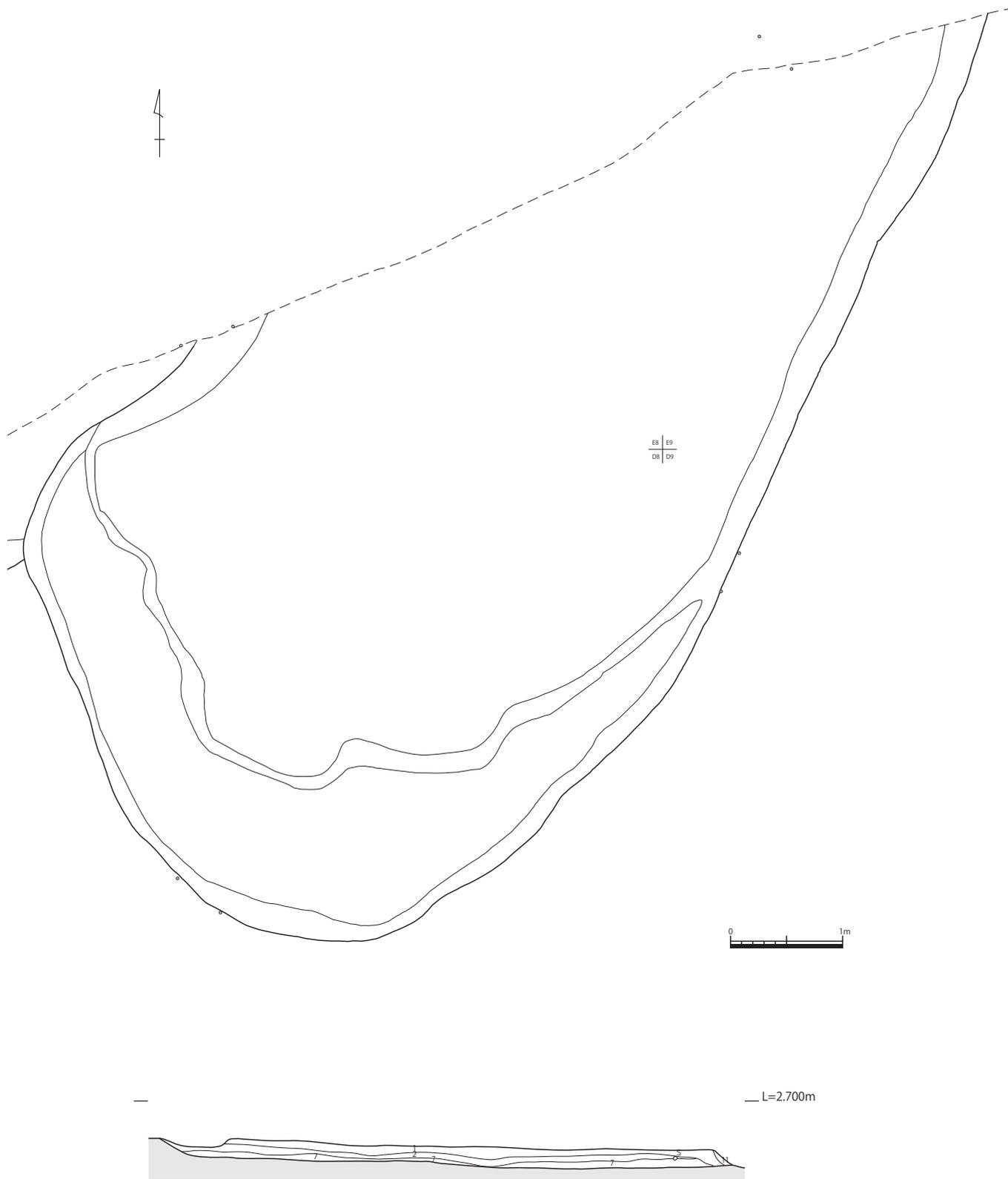
### 1 号性格不明遺構 SX5001 (旧 SX4001)

**検出地点** H14, H15

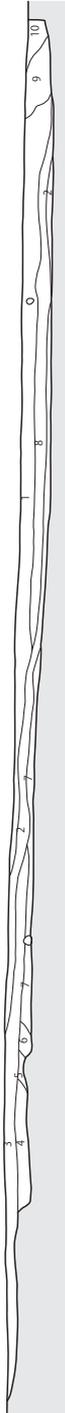
**形態・規模** 北側を SR3001 削平される平面形態は不整円形、断面形態は浅い船底形を呈する。残存長軸 6.5m、残存短軸 4.9m、深度 0.15m を測る。竪穴住居の可能性が高い。遺構南西側に長軸 1.95m、短軸 1.55m を測る炉跡が検出された。中央部は被熱赤変し、周辺には炭化物層が集中する。炉跡を中心に柱穴が確認された。

**遺物出土状況** 炉跡を中心に、住居床面には砂岩製川原石や頁岩割石が出土した。周辺には縄文土器片や石器が集中する。

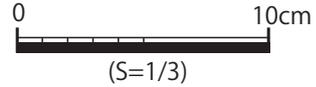
**出土遺物** 縄文土器 102, 105 は精製浅鉢である。縄文土器 103, 104, 106 ~ 116 は粗製深鉢で口唇部に刻目や口縁直下に刻目突帯が伴う一群である。石器 117 ~ 125 はサヌカイト製剥片である。石器 122 はサヌカイト製石鏃未製品である。石器 126 はサヌカイト製スクレイパーである。石器 127 は



第 73 図 4 号性格不明遺構 SX5004 (旧 SX4010) 遺構図 (1)



149



SX4010 東西ベルト

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm 大を 20% 含む。炭化物 (3～5mm 大) 若干含む。1～5cm 大の礫若干含む。群管状斑文若干含む。
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm 大を 20% 含む。炭化物 (3～5mm 大) 若干混入。10YR6/8 ブロック (5mm～3cm 大) やや多く混入。
- 3 10YR5/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm 大を 10% 含む。黄色ブロック (1～3cm 大) 若干混入。土器小片含む。
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～3mm 大を 5% 含む。炭化物 (3mm 大) 若干含む。黄色ブロック (1cm 大) 若干混入。土器細片含む。
- 5 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm 大を 3% 含む。
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～2mm 大を 3% 含む。黄色ブロック (1cm 大) 若干混入。群管状斑文若干含む。
- 7 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～2mm 大を 3% 含む。5cm 大の礫若干含む。群管状斑文若干含む。黄色ブロック (1cm 大) 若干混入。
- 8 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、10YR6/8 ブロック (1～3cm 大) 若干、2.5Y4/2 ブロック (1～5cm 大) やや多く混入。Mg 粒 1～2mm 大を 10% 含む。やや粘質土。
- 9 10YR4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm 大を 5% 含む。炭化物 (3mm 大) 若干含む。黄色ブロック (1cm 大) 若干混入。1層ブロック (1～3cm 大) 若干混入 (SR3001)。
- 10 2.5Y4/2 灰黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～2mm 大を 5% 含む。Fe 多く含む。砂質やや強い (SR3001)。
- 11 10YR5/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1～2mm 大を 5% 含む。黄色ブロック (1cm 大) 若干混入 (SR3001)。

第 74 図 4 号性格不明遺構 SX5004 (旧 SX4010) 遺構図 (2)・出土遺物図

砂岩製敲石である。石器 128 は砂岩製加工痕を有する剥片である。石器 129 は結晶片岩製加工痕を有する礫である。石器 130 は砂岩製敲石である。

**時期** 縄文時代晩期である。

13 号土坑 SK5013 (旧 SX4002)

**検出地点** H13

**形態・規模** 平面形態は不整長方形、断面形態は船底形を呈する。長軸 1.60m、短軸 0.99m、深度 0.19m、主軸方位 N - 54.50° - E を測る。

**遺物出土状況** 2 層中より結晶片岩小型割石や石器 132 が出土した。1 層中より頁岩大型割石や被熱砂岩割石 133 が出土した。

**出土遺物** 石器 131 は砂岩製割石を転用した敲石である。石器 132 は砂岩製分割礫で被熱面や軽い擦痕が認められる。石器 133 は大型砂岩製分割礫で被熱面と敲打痕が認められ、台石の可能性もある。

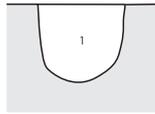
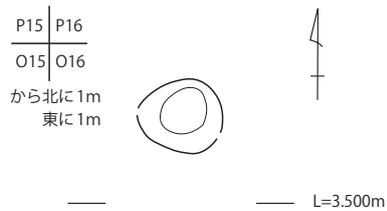
**時期** 縄文時代晩期と推定される。

2 号性格不明遺構 SX5002 (旧 SX4004)

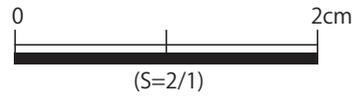
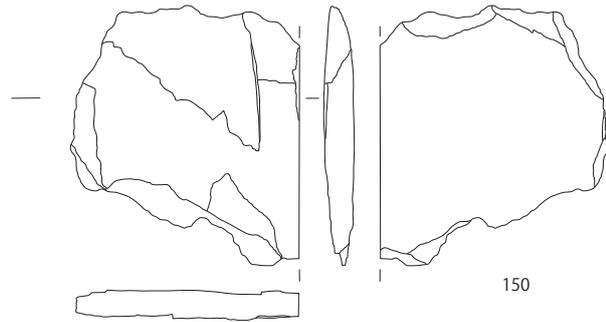
**検出地点** A5, A6

**形態・規模** 平面形態は不整隅丸長方形、断面形態は浅い船底形を呈する。長軸 6.6m、短軸 5.25m、深度 0.3m、主軸方位 N - 67.2° - W を測る大型土坑である。西側に被熱赤変ブロックや炭化物層が堆積した焼土坑が伴う。竪穴住居の可能性も想定されるが、支柱穴は未検出である。

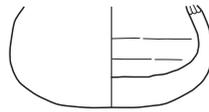
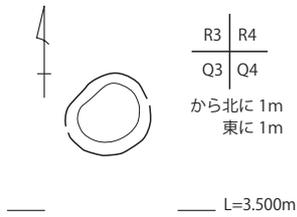
**遺物出土状況** 焼土坑内は上層に焼土ブロックと炭化粒を含み、最下層に大形



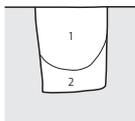
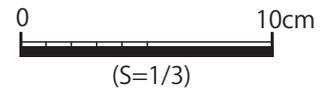
SP2071  
1 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒やや多く含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。炭化物 (5mm大) 若干含む。



第 75 図 1 号小穴 SP5001 (旧 SP2071) 遺構図・出土遺物図



151



SP2084  
1 10YR5/4 にふい黄褐色粘性砂質土 やや弱い、粘性若干あり、土器細片やや多い。焼土塊含む。炭 (3~5mm) 多く含む。Mg 粒若干含む。  
2 10YR5/8 黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性強い、黄色ブロック (1~3cm) やや多い、小礫 (3cm ほど) 若干含む。Mg 粒若干含む。

第 76 図 2 号小穴 SP5002 (旧 SP2084) 遺構図・出土遺物図

炭化材が基底面に沿うように検出された。土器片は1層中より小片が出土した。2層中より石鏃134が出土した。

**出土遺物** 石器134はサヌカイト製凹基石鏃である。

**時期** 縄文時代晩期と推定されるが、弥生時代の可能性もある。

#### 14号土坑 SK5014 (旧 SX4007)

**検出地点** R8

**形態・規模** 平面形態は不整楕円形、断面形態は浅い船底形を呈する。残存長軸約1.75m、残存短軸1.5m、深度0.13m、推定主軸方位N-1.50°-Eを測る。

**遺物出土状況** 北東隅に比熱赤変箇所が確認され、2層中より弥生土器135が出土。

**出土遺物** 弥生土器135は甕である。

**時期** 弥生時代後期前葉(V-2)である。

#### 3号性格不明遺構 SX5003 (SX4009)

**検出地点** G13, G14, H14, H15

**形態・規模** 不整形な落ち込みである。もしくは縄文時代の自然流路の岸部分である可能性がある。古代に属する自然流路SR3001に大きく削られている。

**遺物出土状況** 下層より縄文土器136～148が出土。

**出土遺物** 縄文土器136は精製浅鉢である。縄文土器137～142は粗製深鉢口縁部である。縄文土器143～146は粗製深鉢体部である。縄文土器147, 148は粗製深鉢底部である。

**時期** 縄文時代晩期である。

#### 4号性格不明遺構 SX5004 (旧 SX4010)

**検出地点** D3, E3, E4

**形態・規模** 平面形態は不整長楕円形を呈する落ち込みである。北側を古代に属する自然流路SR3001に削平される。縄文時代の自然流路の岸部分もしくは微高地に挟まれた低地部である可能性が高い。

**遺物出土状況** 覆土中より縄文土器149が出土。

**出土遺物** 縄文土器149は粗製深鉢口縁部である。

**時期** 縄文時代晩期である。

#### 1号小穴 SP5001 (旧 SP2071)

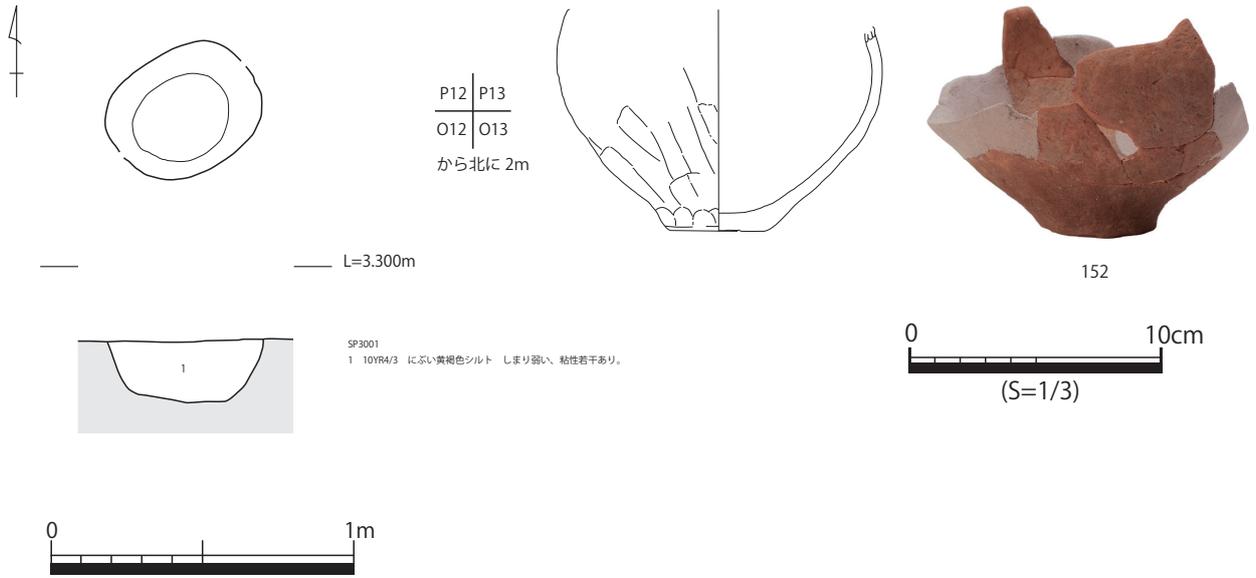
**検出地点** P16

**形態・規模** 直径26cm、深度11cmを測る。演繹を呈する小穴である。

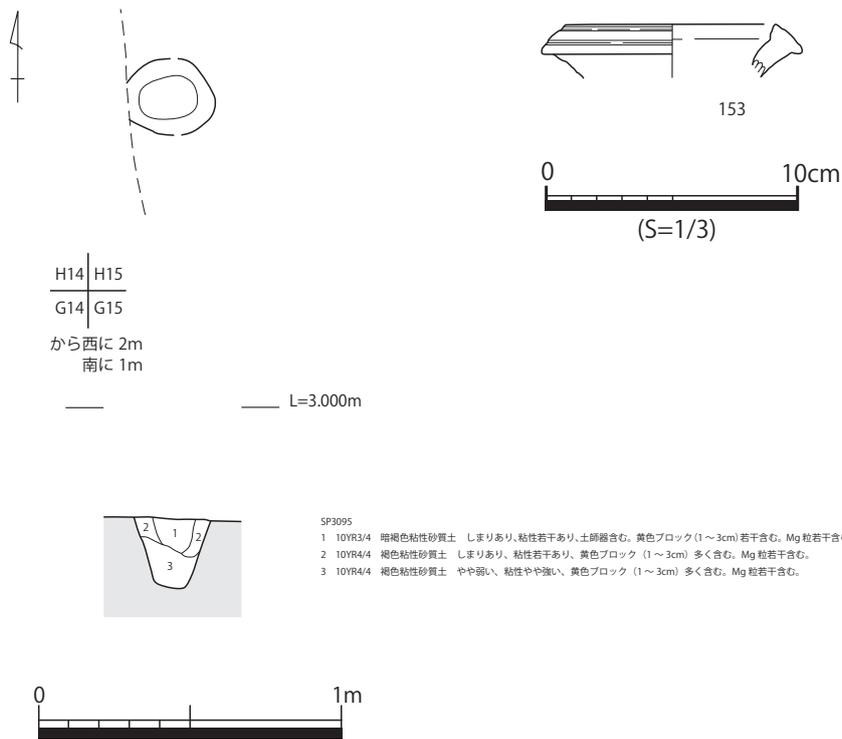
**遺物出土状況** 覆土下層より石器150が出土。

**出土遺物** 石器150は粘板岩製剥片で、中世以降の硯片の可能性が高い。

**時期** 時期不明であるが、中世の可能性はある。



第 77 図 3 号小穴 SP5003 (旧 SP3001) 遺構図・出土遺物図



第 78 図 4 号小穴 SP5004 (旧 SP3095) 遺構図・出土遺物図

## 2 号小穴 SP5002 (SP2084)

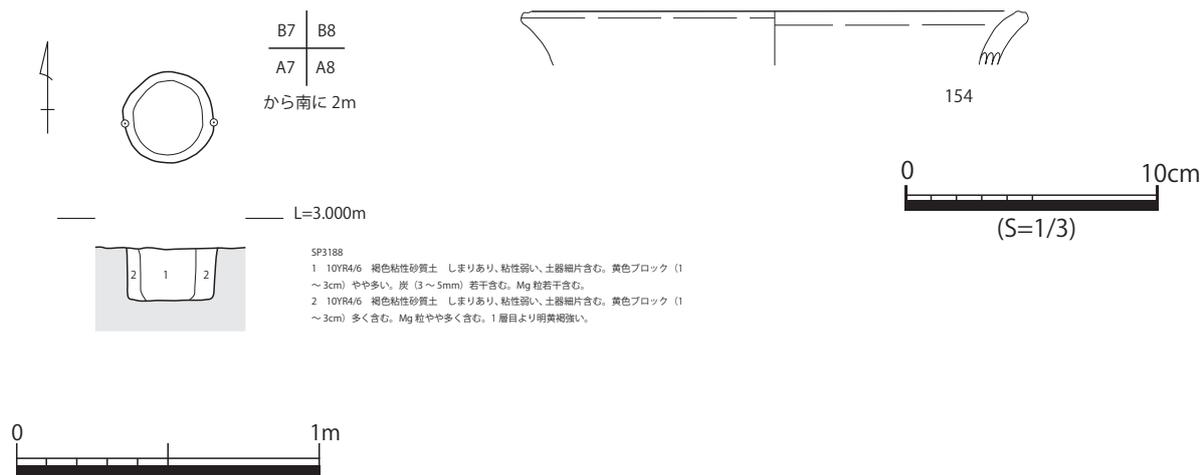
**検出地点** R4

**形態・規模** 長軸径 32cm、短軸径 29cm、深度 16cmを測る不整円形を呈する小穴である。

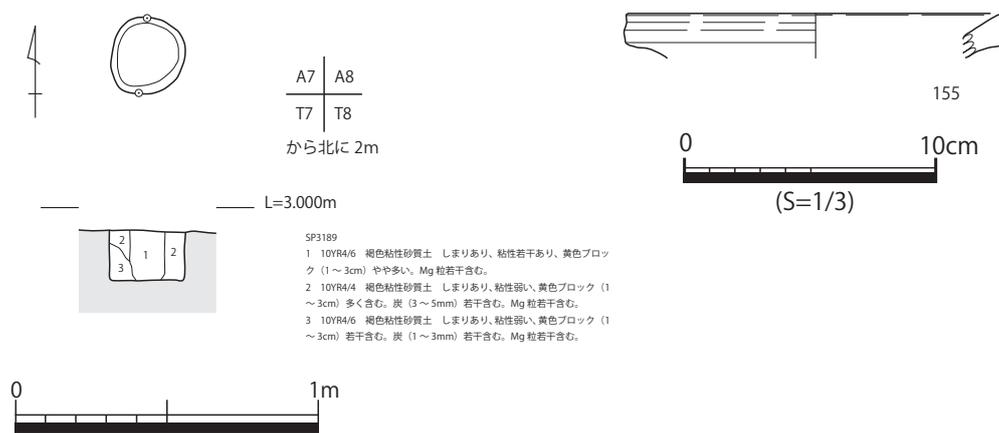
**遺物出土状況** 1層中より弥生土器 151 が出土。

**出土遺物** 弥生土器 151 は小型丸底壺底部である。

**時期** 弥生時代終末期(庄内3)である。



第 79 図 5 号小穴 SP5005 (旧 SP3188) 遺構図・出土遺物図



第 80 図 6 号小穴 SP5006 (旧 SP3189) 遺構図・出土遺物図

### 3 号小穴 SP5003 (旧 SP3001)

**検出地点** P12

**形態・規模** 長軸径 50cm、短軸径 40cm、深度 19.3cmを測る楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 覆土下層より弥生土器 152 が出土。

**出土遺物** 弥生土器 152 は壺胴部で鮎喰川流域からの搬入品か。

**時期** 弥生時代後期前葉 (V-1) である。

### 4 号小穴 SP5004 (旧 SP3095)

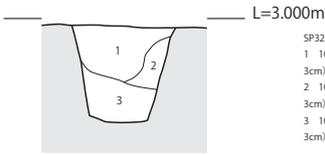
**検出地点** G14

**形態・規模** 長軸径 30cm、短軸径 25cm、深度 22.5cmを測る楕円形を呈する小穴である。

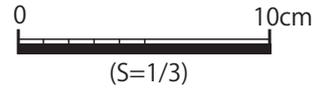
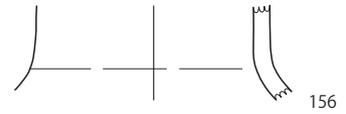


B5	B6
A5	A6

  
 から西に 2m  
 南に 2m



SP3222  
 1 10YR4/6 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、黄色ブロック (1~3cm) やや多い、炭 (3~5mm) 若干含む、Mg 粒多く含む。  
 2 10YR5/8 黄褐色粘性砂質土 やや弱い、粘性やや強い、黄色ブロック (1~3cm) 若干含む、Mg 粒若干含む。  
 3 10YR4/6 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、黄色ブロック (1~3cm) やや多い、Mg 粒やや多く含む。1層目よりにぶい黄褐色強い。



第 81 図 7 号小穴 SP5007 (旧 SP3222) 遺構図・出土遺物図

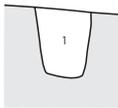


T18	T19
S18	S19

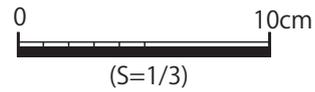
  
 から西に 2m



L=3.100m



SP4055  
 1 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~3mm 大を 5% 含む、黄色ブロック (1cm 大) 若干混入、炭化物 (3~5mm 大) 若干含む。



第 82 図 8 号小穴 SP5008 (旧 SP4055) 遺構図・出土遺物図

**遺物出土状況** 1 層中より弥生土器 153 が出土。

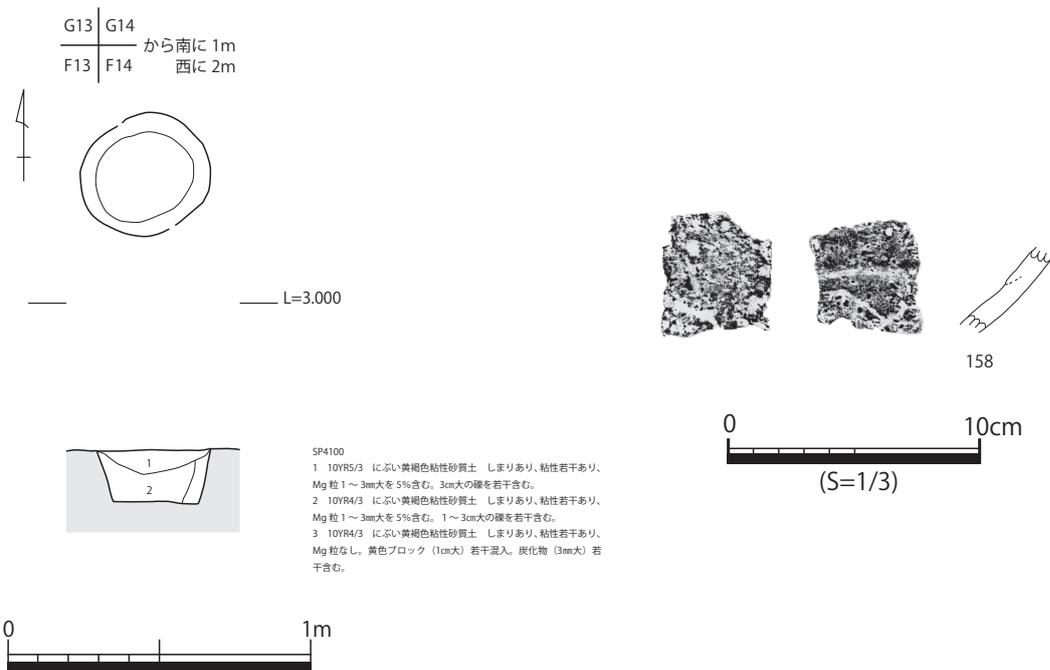
**出土遺物** 弥生土器 153 は壺口縁部である。

**時期** 弥生時代中期後葉 (IV-1) である。

### 5 号小穴 SP5005 (旧 SP3188)

**検出地点** A7

**形態・規模** 長軸径 27.5cm、短軸径 27.5cm、深度 16.3cm を測る円形を呈する小穴である。



第 83 図 9 号小穴 SP5009 (旧 SP4100) 遺構図・出土遺物図

**遺物出土状況** 1 層下層より弥生土器 154 が出土。

**出土遺物** 弥生土器 154 は壺である。

**時期** 弥生時代前期後半 (Ⅱ-2) である。

### 6 号小穴 SP5006 (旧 SP3189)

**検出地点** A7

**形態・規模** 長軸径 25cm、短軸径 22.5cm、深度 16.8cm を測る円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 2 層中より弥生土器 155 が出土。

**出土遺物** 弥生土器 155 は広口壺口縁部で、胎土が精製であるが結晶片岩粒を含まず、在地産の可能性もある。

**時期** 弥生時代後期後半 (Ⅳ-1) である。

### 7 号小穴 SP5007 (旧 SP3222)

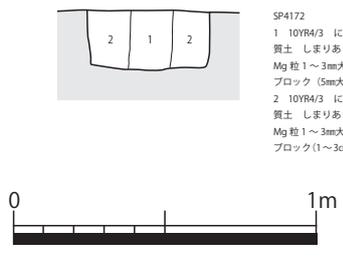
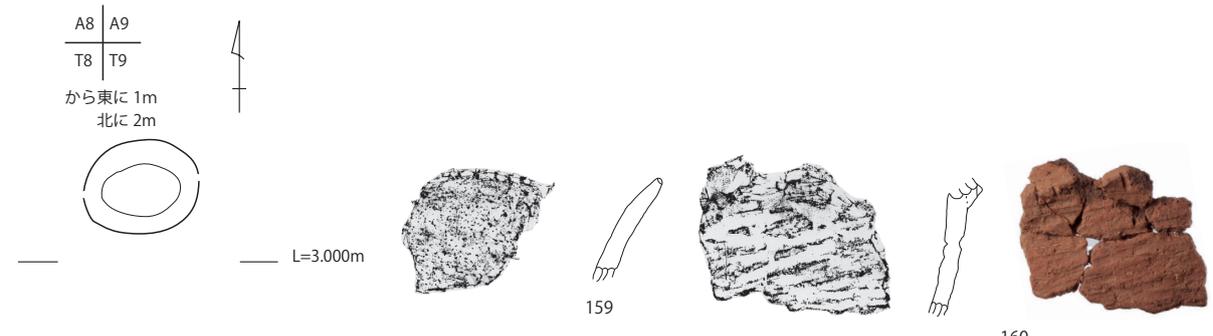
**検出地点** A5

**形態・規模** 長軸径 34.5cm、短軸径 27.0cm、深度 33.0cm を測る不整楕円形を呈する小穴である。

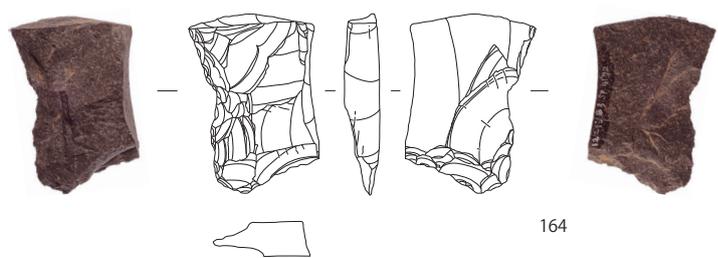
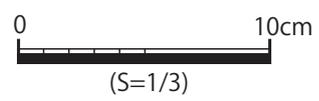
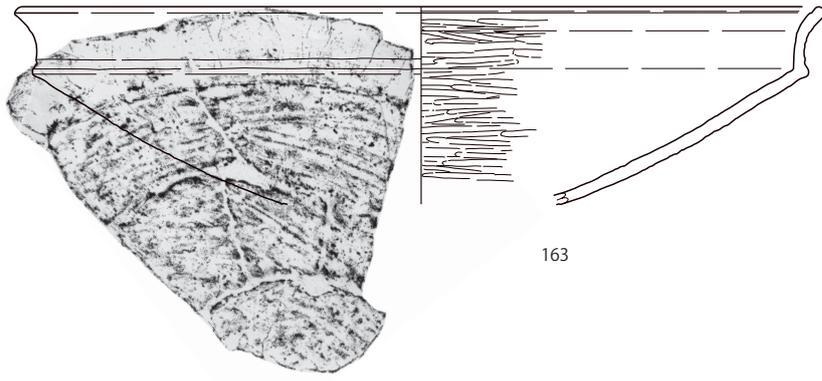
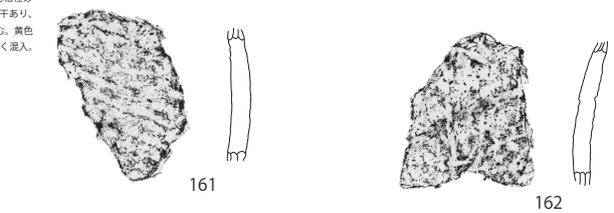
**遺物出土状況** 1 層中より弥生土器 156 が出土。

**出土遺物** 弥生土器 156 は壺形土器である。

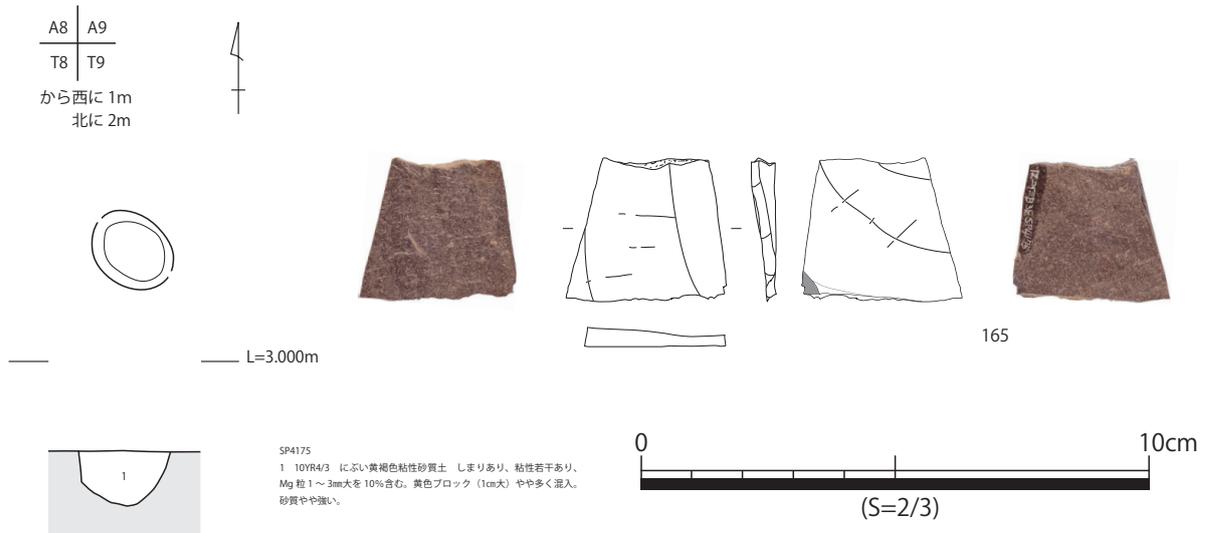
**時期** 弥生時代後期後半 (Ⅳ-1) である。



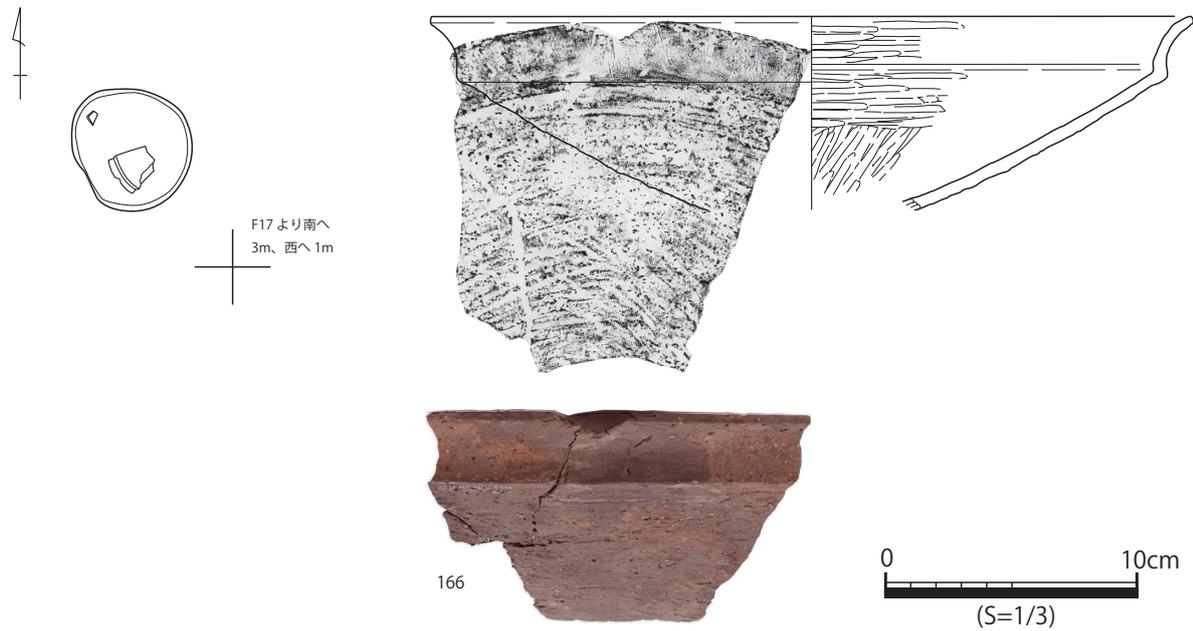
SP4172  
 1 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 5% 含む。黄色ブロック (5mm大) 若干混入。  
 2 10YR4/3 にふい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1～3mm大を 10% 含む。黄色ブロック (1～3cm大) やや多く混入。



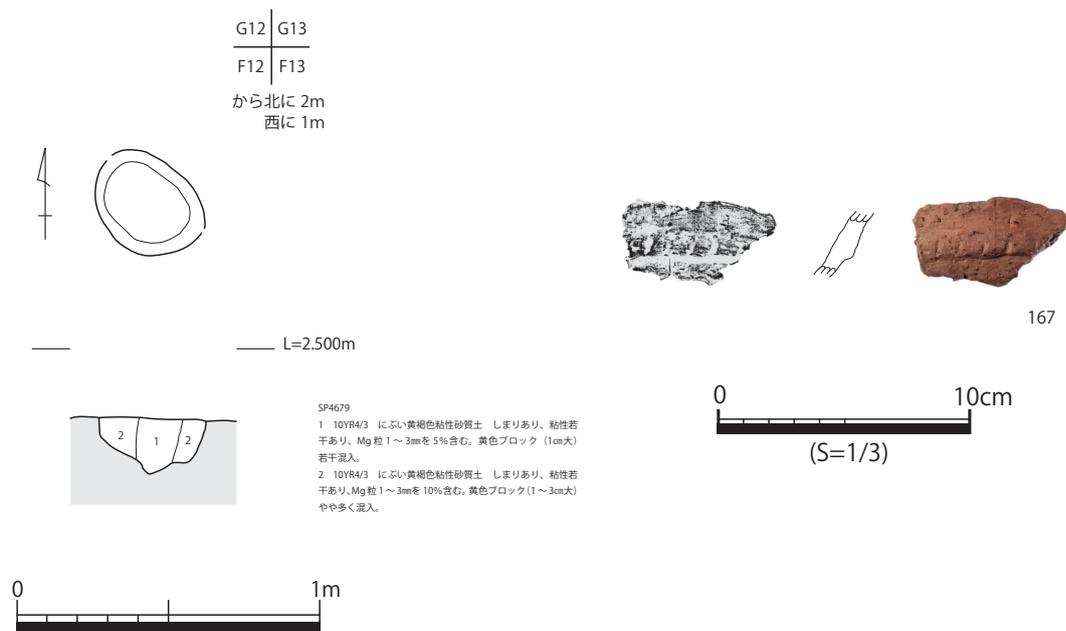
第 84 図 10 号小穴 SP5010 (旧 SP4172) 遺構図・出土遺物図



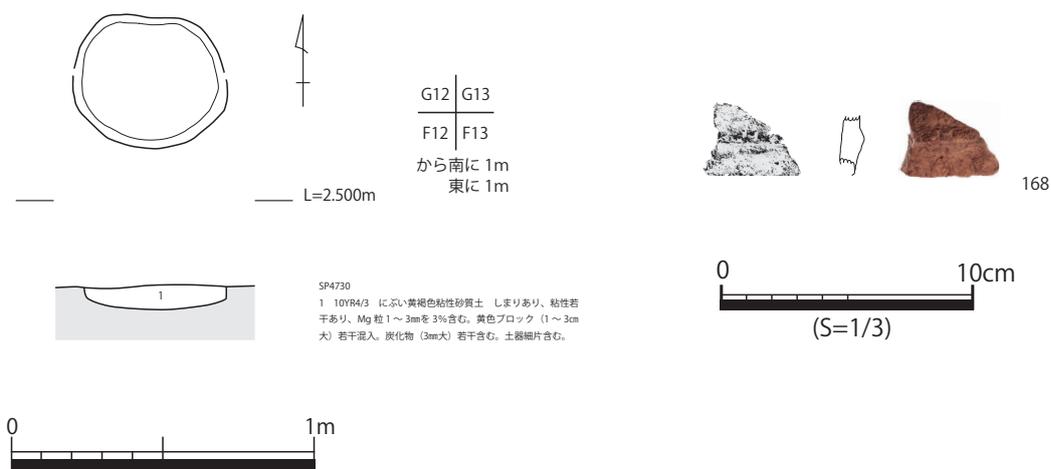
第 85 図 11 号小穴 SP5011 (旧 SP4175) 遺構図・出土遺物図



第 86 図 12 号小穴 SP5012 (旧 SP4186) 遺構図・出土遺物図



第 87 図 13 号小穴 SP5013 (旧 SP4679) 遺構図・出土遺物図



第 88 図 14 号小穴 SP5014 (旧 SP4730) 遺構図・出土遺物図

## 8 号小穴 SP5008 (旧 SP4055)

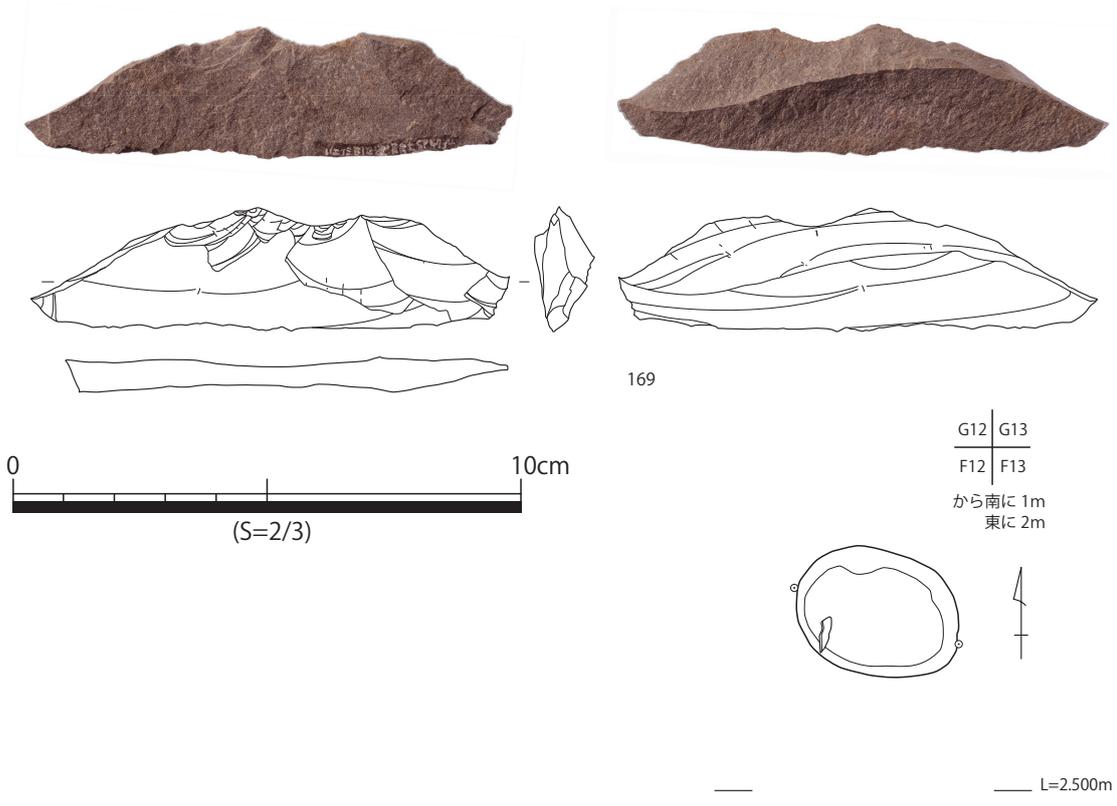
**検出地点** S18

**形態・規模** 長軸径 17.5cm、短軸径 15.0cm、深度 22.0cm を測る隅丸方形を呈する小穴である。

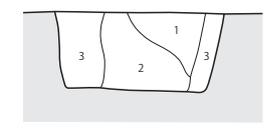
**遺物出土状況** 覆土下層より縄文土器 157 が出土。

**出土遺物** 縄文土器 157 は粗製深鉢体部で、胎土が粗く勝浦川南岸の白色チャートを多く含む。

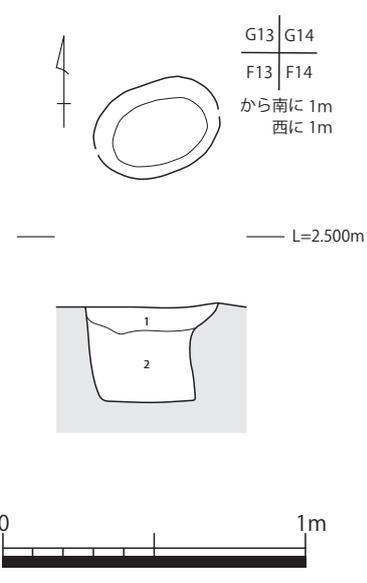
**時期** 縄文時代晩期である。



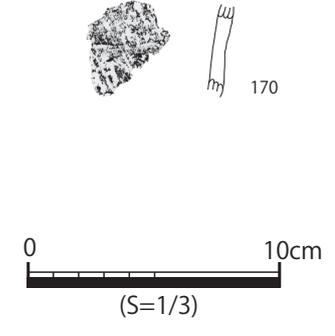
- SP4734
- 10YR5/4 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~3mmを3%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1~3mmを3%含む。黄色ブロック (1cm大) 若干混入。
  - 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1~3mmを5%含む。黄色ブロック (1~3cm大) やや多く混入。3~5cm大の礫わずかに含む。サヌカイト剥片含む。



第 89 図 15号小穴 SP5015 (旧 SP4734) 遺構図・出土遺物図



- SP4745
- 10YR4/4 褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性若干あり、Mg 粒 1~3mmを5%含む。黄色ブロック (1~3cm大) 若干混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。
  - 10YR4/3 にぶい黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1~3mmを3%含む。黄色ブロック (1~5cm大) やや多く・10YR3/3ブロック (3cm大) 若干混入。



第 90 図 16号小穴 SP5016 (旧 SP4745) 遺構図・出土遺物図

G13	G14
F13	F14

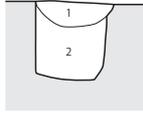
から東に2m



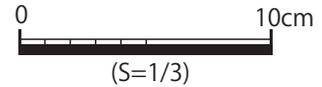
— L=2.500m

SP4795

1 10YR4/4 褐色 粒子の細かいシルト質土は微細な砂粒とマンガン粒を含み、粘性は少ないがしまりは良い。  
2 10YR4/4 褐色 微細なシルト質土は1層と同じように微細なマンガン粒が含まれているが、その量ははるかに少ない。粘性を帯びた土はしまりも良い。



171



第 91 図 17 号小穴 SP5017 (旧 SP4795) 遺構図・出土遺物図

### 9 号小穴 SP5009 (旧 SP4100)

**検出地点** F13

**形態・規模** 長軸径 42.5cm、短軸径 37.5cm、深度 12.5cmを測る楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 2層中より縄文土器 158 が出土。

**出土遺物** 縄文土器 158 は粗製深鉢底部付近である。

**時期** 縄文時代晩期である。

### 10 号小穴 SP5010 (旧 SP4172)

**検出地点** A9

**形態・規模** 長軸径 37.5cm、短軸径 33.0cm、深度 19.0cmを測る楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 1層中より縄文土器 159～163 が出土。

**出土遺物** 縄文土器 159～162 は粗製深鉢である。縄文土器 163 は精製浅鉢である。石器 164 はサヌカイト製楔形石器である。

**時期** 縄文時代晩期である。

### 11 号小穴 SP5011 (旧 SP4175)

**検出地点** A8

**形態・規模** 長軸径 30.0cm、短軸径 23.0cm、深度 18.0cmを測る楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 覆土下層より石器 165 が出土。

**出土遺物** 石器 165 はサヌカイト製剥片である。

**時期** 縄文時代晩期と推定される。

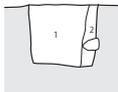


G13 | G14

F13 | F14

から南に 2m  
東に 2m

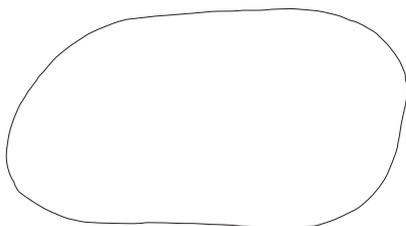
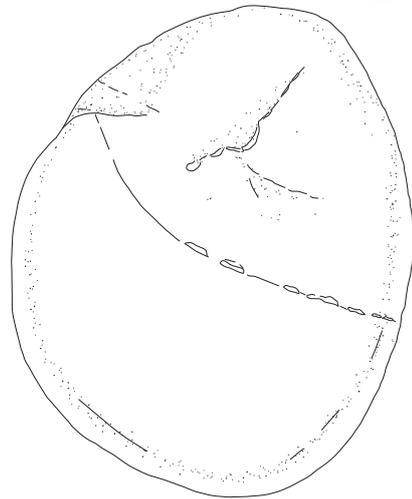
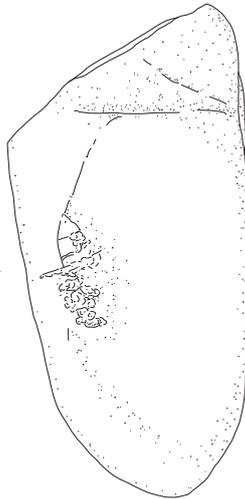
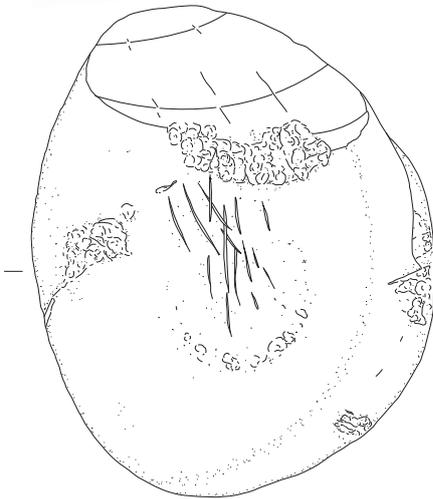
— L=2.500m



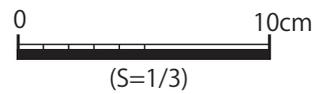
SP4803

1 10YR4/3 に近い黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1~3mmを 3%含む。黄色ブロック (1~3cm大) やや多く混入。炭化物 (3mm大) 若干含む。

2 10YR4/3 に近い黄褐色粘性砂質土 しまりあり、粘性やや強い、Mg 粒 1~3mmを 3%含む。黄色ブロック (3cm大) やや多く混入。5cm大の礫含む



172



第 92 図 18 号小穴 SP5018 (旧 SP4803) 遺構図・出土遺物図

## 12号小穴 SP5012 (旧 SP4186)

**検出地点** E16

**形態・規模** 長軸径 40.0cm、短軸径 40.0cm、深度 26.0cmを測る円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** にぶい黄褐色粘性砂質土層内より縄文土器 166 が出土。

**出土遺物** 縄文土器 166 は精製浅鉢である。

**時期** 縄文時代晩期である。

## 13号小穴 SP5013 (SP4679)

**検出地点** G12

**形態・規模** 長軸径 38.7cm、短軸径 30.0cm、深度 19.0cmを測る不整楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 2層中より縄文土器 167 が出土。

**出土遺物** 縄文土器 167 は粗製深鉢口縁部である。

**時期** 縄文時代晩期である。

## 14号小穴 SP5014 (旧 SP4730)

**検出地点** F13

**形態・規模** 長軸 51.3cm、短軸 42.5cm、深度 7.5cmを測る不整楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 覆土中より縄文土器 168 が出土。

**出土遺物** 縄文土器 168 は粗製深鉢口縁部で胎土に結晶片岩粒を含まず勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む。

**時期** 縄文時代晩期である。

## 15号小穴 SP5015 (旧 SP4734)

**検出地点** F13

**形態・規模** 長軸 56.3 径cm、短軸径 41.3cm、深度 25.0cmを測る楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 3層中より石器 169 が出土。

**出土遺物** 石器 169 はサヌカイト製剥片である。

**時期** 縄文時代晩期と推定されるが、弥生時代の可能性もある。

## 16号小穴 SP5016 (旧 SP4745)

**検出地点** F13

**形態・規模** 長軸径 42.5cm、短軸径 31.3cm、深度 32.5cmを測る楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 2層中より縄文土器 170 が出土。

**出土遺物** 縄文土器 170 は粗製深鉢体部である。

**時期** 縄文時代晩期である。

## 17号小穴 SP5017 (旧 SP4795)

**検出地点** F14, G14

**形態・規模** 長軸径 27.5cm、短軸径 26.3cm、深度 30.0cmを測る円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 2層中より縄文土器 171 が出土。

**出土遺物** 縄文土器は粗製深鉢底部で胎土に結晶片岩粒を含まず勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む。

**時期** 縄文時代晩期である。

## 18号小穴 SP5018 (旧 SP4803)

**検出地点** F14

**形態・規模** 長軸径 25.8cm、短軸径 19.5cm、深度 19.0cmを測る楕円形を呈する小穴である。

**遺物出土状況** 2層中位より石器 172 が出土。

**出土遺物** 石器 172 は砂岩製敲石である。

**時期** 縄文時代晩期と推定されるが、弥生時代の可能性もある。

## (2) 包含層出土遺物

土製品 173 は人型土偶である。表面中央部の凹み箇所には赤色顔料が塗布される。

縄文土器 174 は粗製深鉢である。縄文土器 175 は粗製浅鉢である。縄文土器 176 は粗製深鉢である。縄文土器 177 は粗製深鉢である。縄文土器 178 は粗製深鉢である。縄文土器 179 は粗製深鉢である。縄文土器 180～190 は粗製深鉢である。

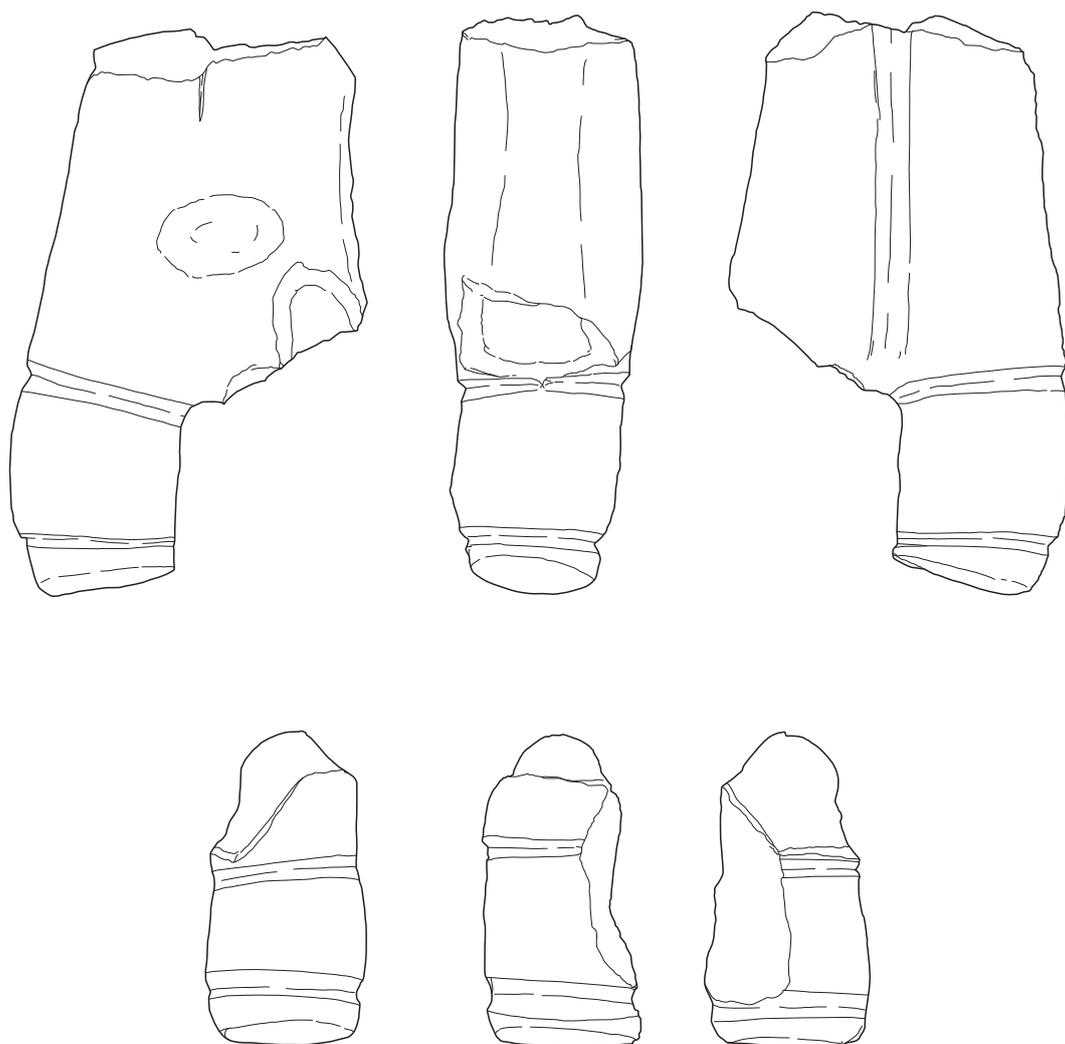
弥生土器 191 は壺で勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む。弥生土器 192 は壺で、勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む。弥生土器 193 は壺で勝浦川流域の結晶片岩粒を含む。壺 194 は壺で勝浦川流域の結晶片岩粒を含む。弥生土器 195 は壺で勝浦川流域の結晶片岩粒と勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む。弥生土器 196 は壺である。弥生土器 197 は壺である。弥生土器 198 は甕である。弥生土器 199 は壺で勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む。弥生土器 200 は壺で勝浦川南岸の白色チャートを若干含む。弥生土器 201 は壺である。弥生土器 202 は長頸壺で吉野川流域からの搬入品の可能性がある。弥生土器 203 は長頸壺で吉野川流域からの搬入品の可能性がある。弥生土器 204 は長頸壺で吉野川流域からの搬入品の可能性がある。弥生土器 205 は長頸壺で吉野川流域からの搬入品の可能性がある。弥生土器 206 は無頸壺で勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む。弥生土器 207 は壺で吉野川流域からの搬入品の可能性がある。弥生土器 208 は壺で吉野川流域からの搬入品の可能性がある。

弥生土器 209 は甕である。弥生土器 210 は甕で胎土に金雲母や角閃石を含み、讃岐地域からの搬入品であるが、香東川流域産かは不明である。弥生土器 211 は甕で形態は鮎喰川流域産の薄形甕に類似するが、勝浦川流域産の結晶片岩粒を含むことから模倣品の可能性がある。弥生土器 212 は甕で胎土に金雲母や角閃石を含み讃岐地域からの搬入品であり、香東川流域産と推定される。弥生土器 213 は甕で勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む在地産の可能性が高い。

弥生土器 214 は高坏脚部で勝浦川南岸の白色チャートを多量に含む在地産の可能性が高い。弥生土器 215 は鉢で結晶片岩粒を含まないが精製品である。弥生土器 216 は高坏である。弥生土器 217 は高坏で吉野川流域からの搬入品の可能性があるが、当該地の器種組成からは欠落することから検討が必

要である。弥生土器 218 は高坏である。弥生土器 219, 220 は鉢である。弥生土器 221, 222 は大型鉢で吉野川流域からの搬入品の可能性がある。弥生土器 223 は無頸壺もしくは大型複合口縁壺である。弥生土器 224 は大型鉢底部である。弥生土器 225 は大型甕である。弥生土器 226 ~ 230 は壺底部である。縄文土器 231 は粗製深鉢である。弥生土器 232 は甕底部で勝浦川流域の結晶片岩粒を含む。弥生土器 233 は壺底部である。弥生土器 234 は甕底部で胎土に勝浦川流域の結晶片岩粒や勝浦川南岸の白色チャートを多量に含み、在地産と推定される。弥生土器 235 は壺である。弥生土器 237 は甕底部である。弥生土器 238 は甕底部で勝浦川流域の結晶片岩粒を含む。弥生土器 239 は壺底部である。弥生土器 240 は鉢である。弥生土器 241 は壺と考えられるが、穿孔前に穿孔が施されている。甕の可能性はあるが胎土は弥生土器である。

石器 242 はサヌカイト製凸基式石鏃である。石器 243 はサヌカイト製凸基式石鏃である。石器 244 はサヌカイト製凹基式石鏃である。石器 245 はサヌカイト製平基式石鏃である。石器 246 はサヌカイト製凹基式石鏃である。石器 247 はサヌカイト製平基式石鏃である。石器 248 はサヌカイト製楔形石器である。石器 249 はサヌカイト製剥片である。石器 250 はサヌカイト製剥片である。石器 251 はサ



第 93 図 包含層出土遺物図(1)

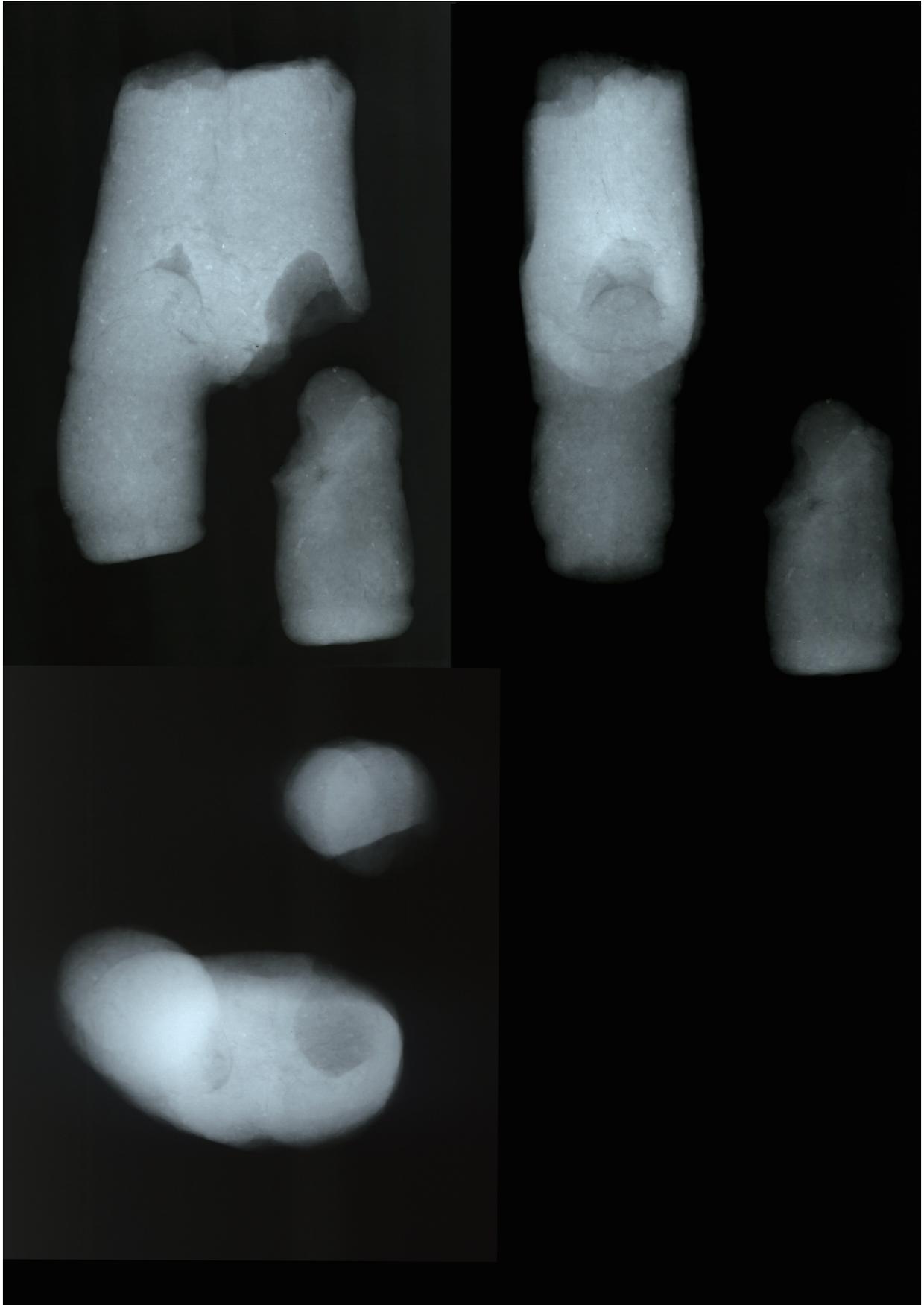
S=1/1



图版 21  
土偶 (173) 出土状况



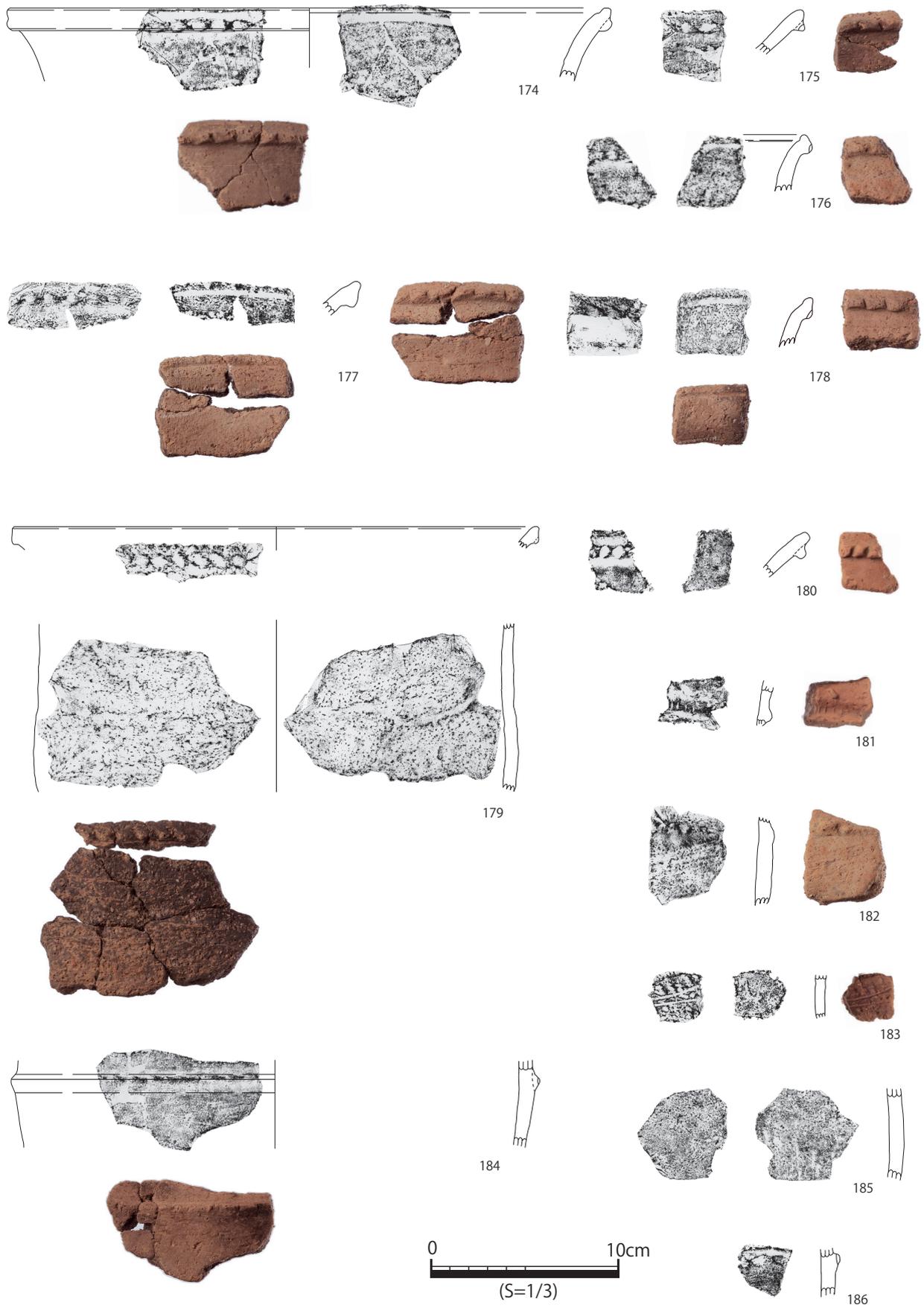
图版 22  
土偶 (173) 出土状况



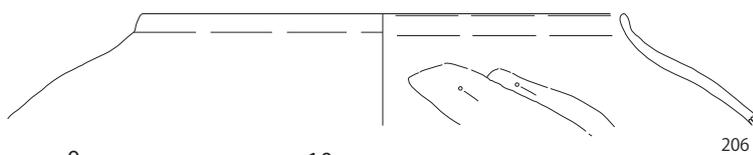
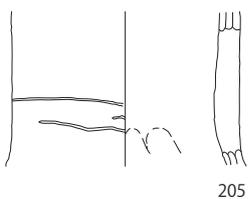
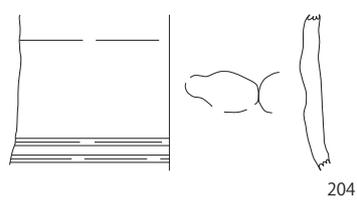
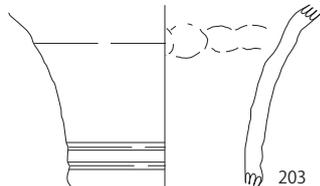
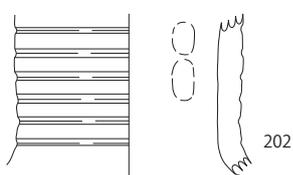
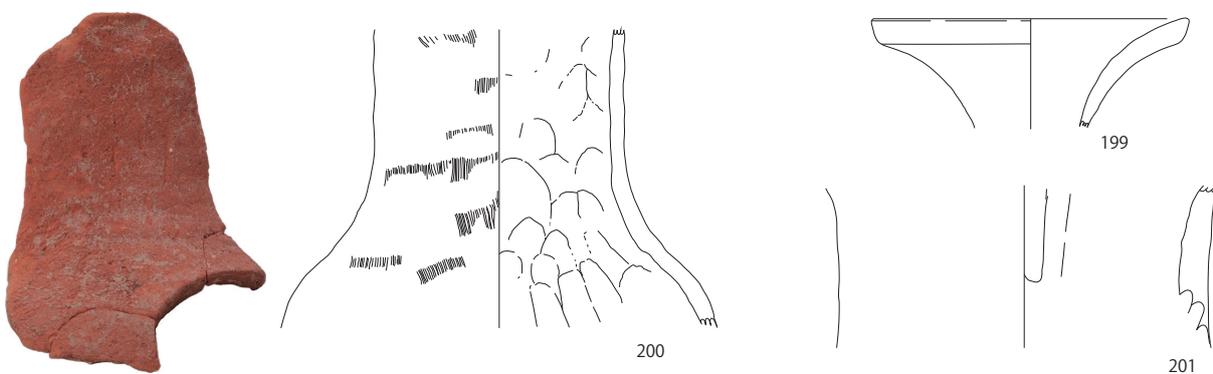
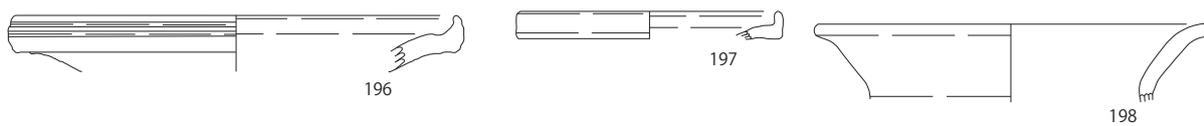
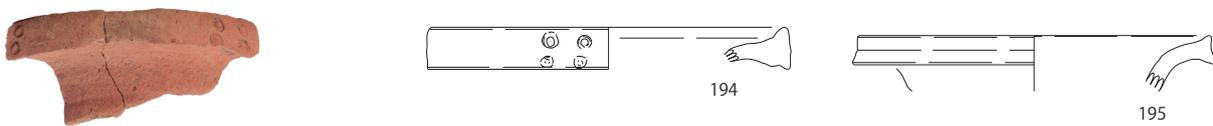
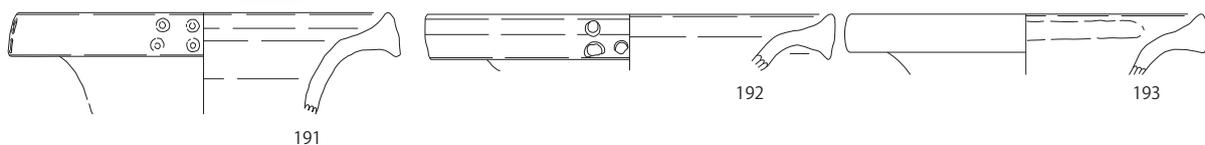
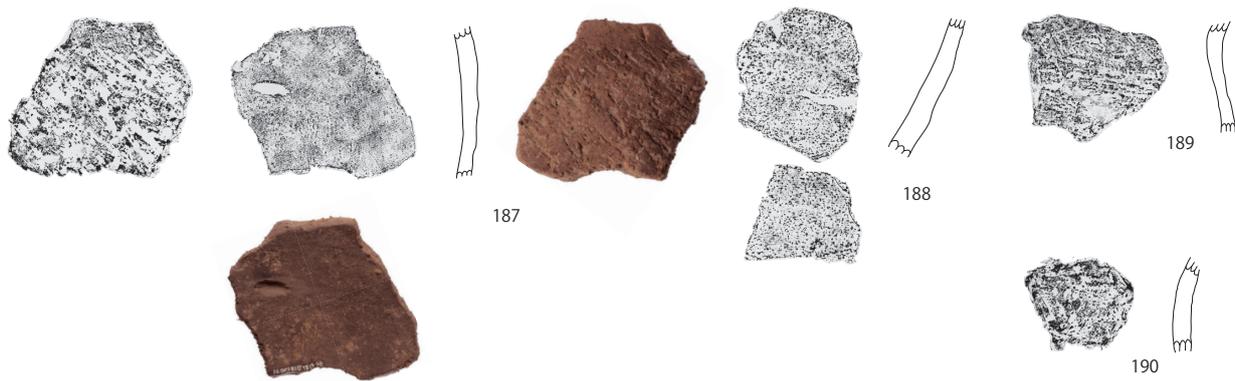
図版 23 土偶 (173) X線写真



図版 24 土偶 (173) X線写真



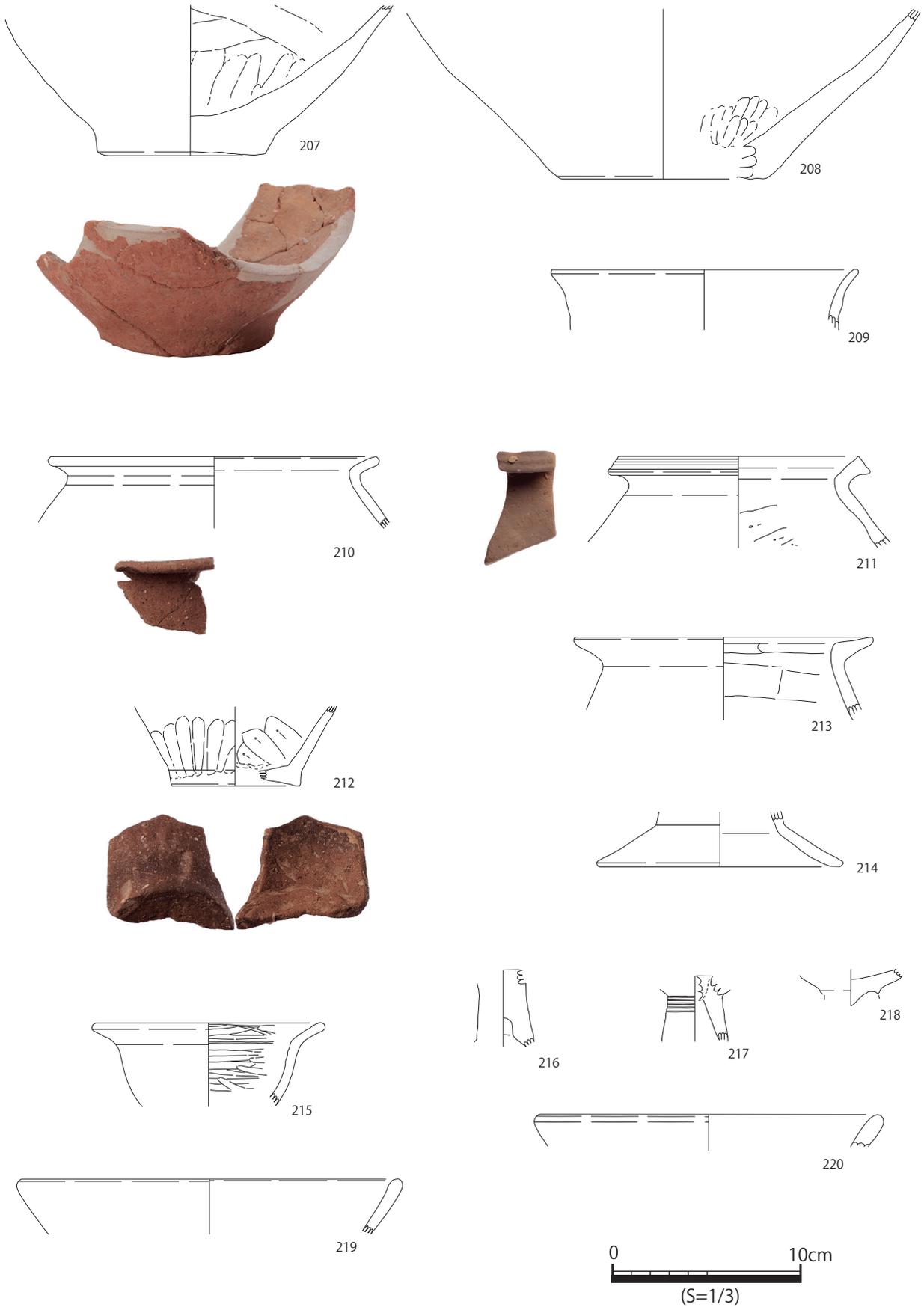
第94図 包含層出土遺物図(2)



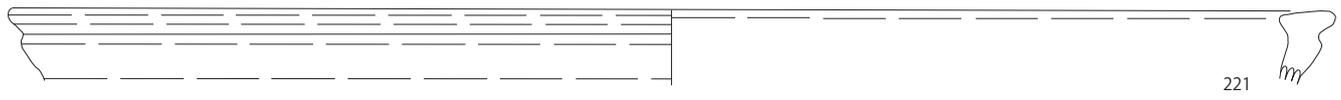
0 10cm

(S=1/3)

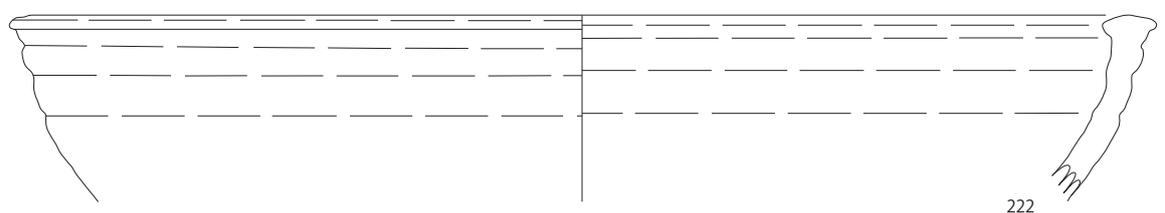
第 95 图 包含層出土遺物图(3)



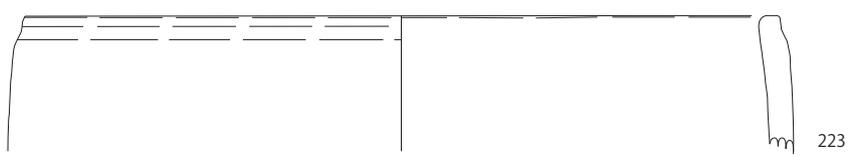
第96图 包含層出土遺物图(4)



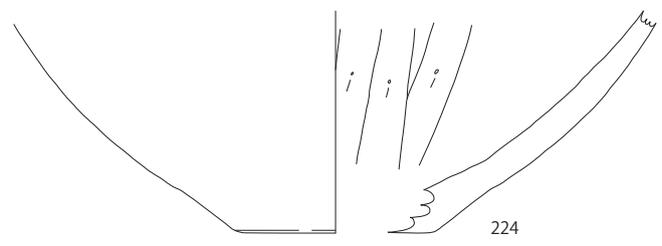
221



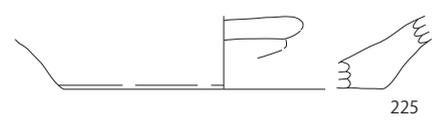
222



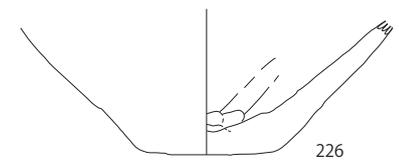
223



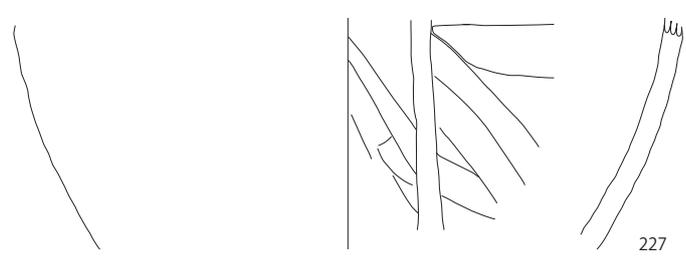
224



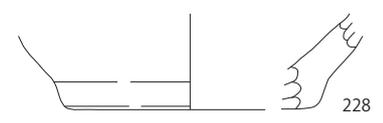
225



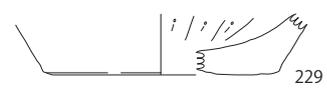
226



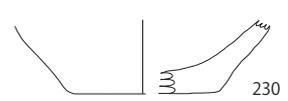
227



228



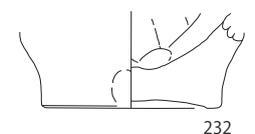
229



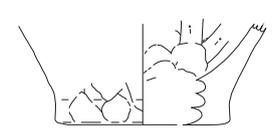
230



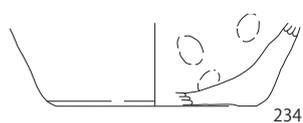
231



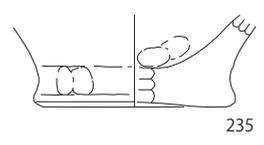
232



233



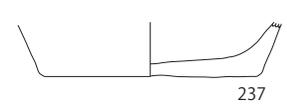
234



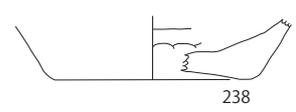
235



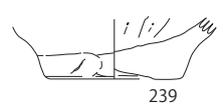
236



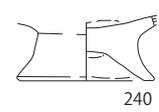
237



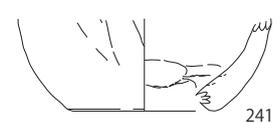
238



239



240



241



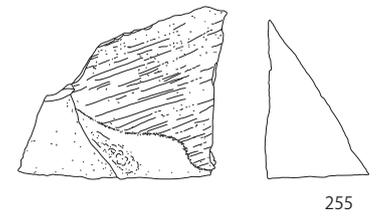
第 97 图 包含層出土遺物图(5)



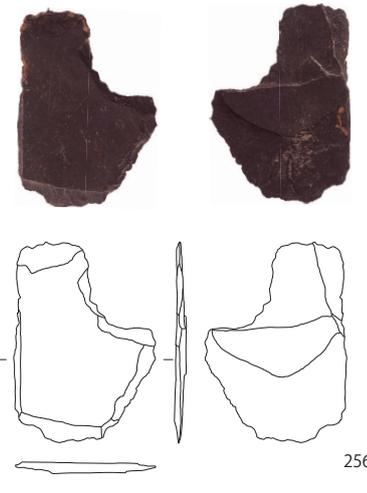
第98图 包含層出土遺物图(6)



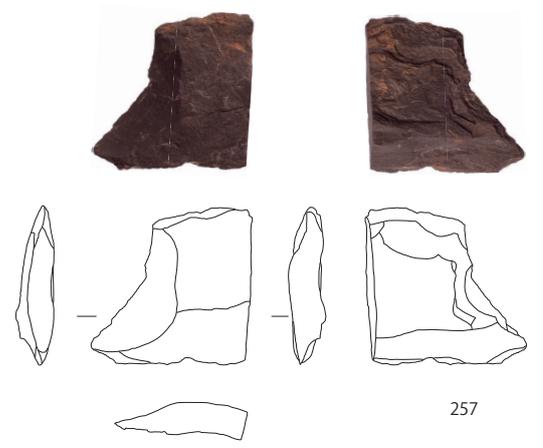
254



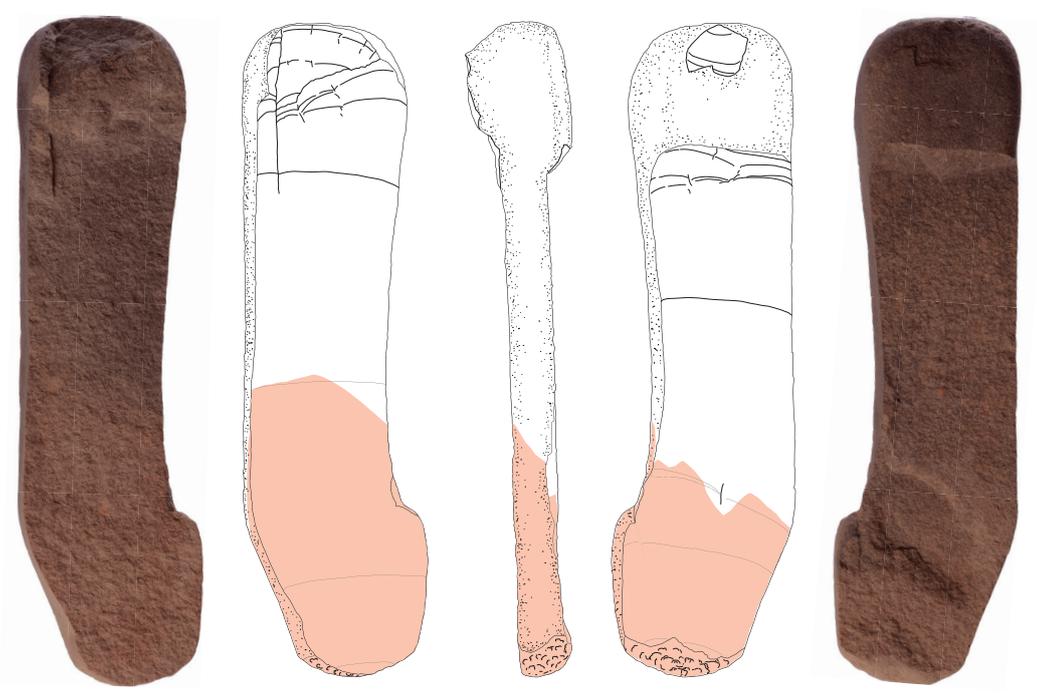
255



256



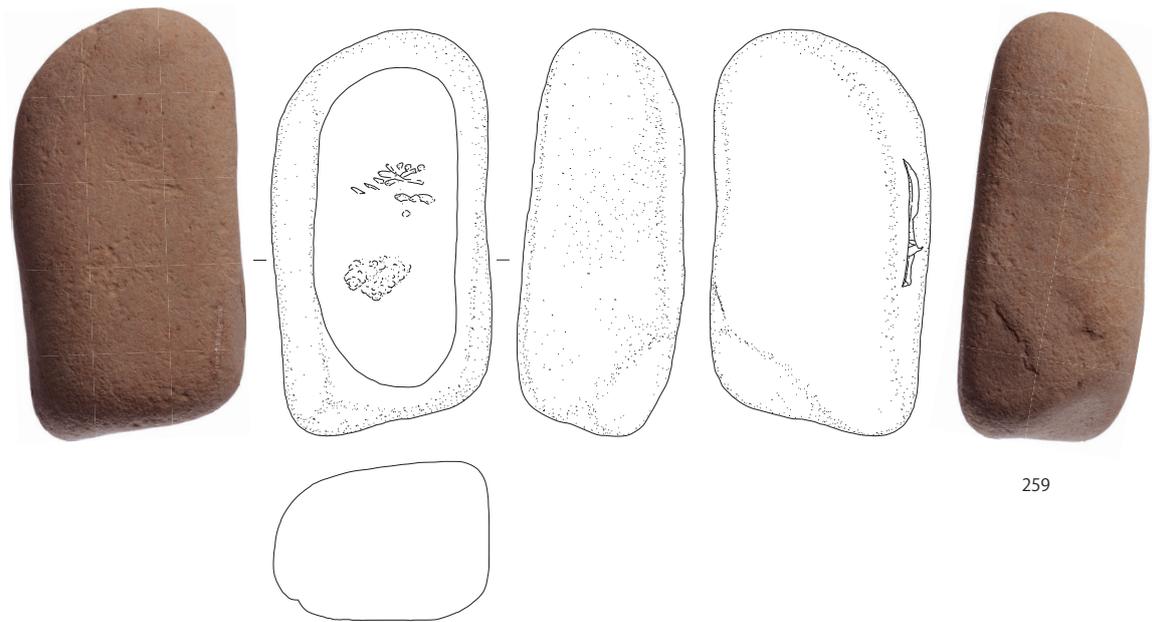
257



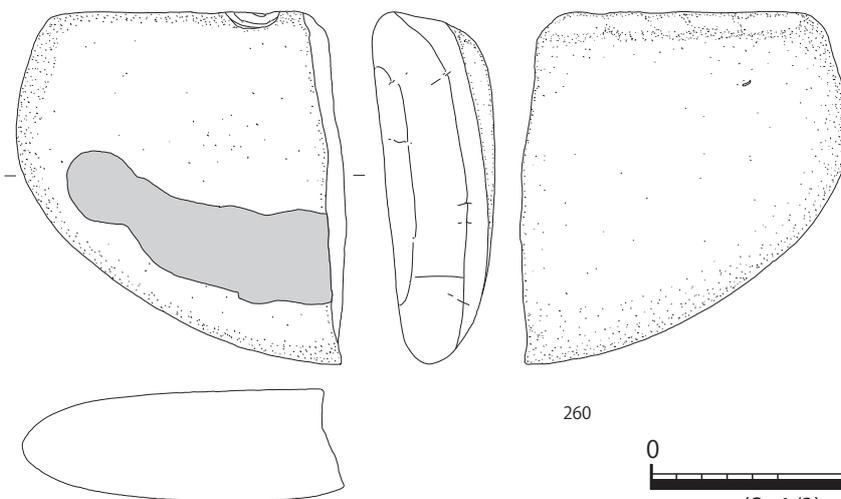
258



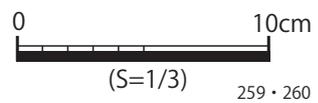
第99图 包含層出土遺物図(7)



259



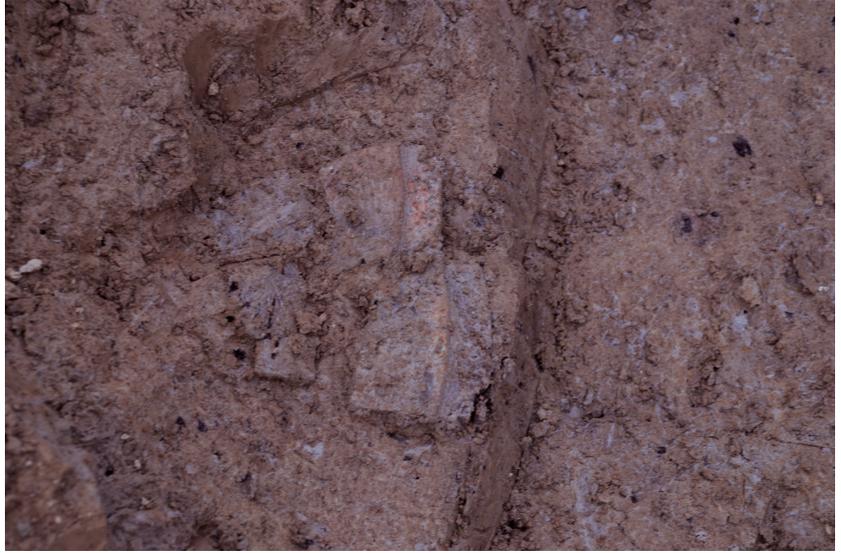
260



259・260

第100図 包含層出土遺物図(8)

ヌカイト製使用痕を有する剥片である。石器 252 はチャート製楔形石器である。石器 253 はサヌカイト製楔形石器である。石器 254 はサヌカイト製楔形石器である。石器 255 は砂岩製磨石である。石器 256, 257 は粘板岩製剥片で中世の硯の可能性がある。石器 258 は砂岩製敲石で一部が被熱赤変する。石器 259 は砂岩製砥石で一部に敲打痕が残る。石器 260 は砂岩製台石で一部に磨面が残る。



图版 25 包含層内遺物出土狀況



图版 26 包含層内遺物出土狀況



图版 27 包含層内遺物出土狀況

## IV 小 結



## IV 小結

新居見遺跡は勝浦川の南岸沖積地に位置する。勝浦川の旧河道は田野山地の北麓に沿って東流する段階から、徐々に北へ向かって流れるようになり、現在の河道に固定されたものと推定される。新居見遺跡の西側にある清浄池や東側にある菖蒲田池などは、勝浦川の河跡湖であり、北側を流れる神田瀬川や田野川、芝生川は勝浦川の旧河道の分流に該当する。

山路地区は、田野山地前山の猿額の小谷川が形成した小扇状地状の高まりをベースに、上流側（西側）に旧河道や分流の堆積作用により形成された沖積地上に展開する。

### 縄文時代の遺構・遺物

縄文時代の遺構は、主に小扇状地状の高まりを中心に展開する。自然流路 SR5002 ～ 5007 は縄文時代の自然流路（SR5001）への落ち込みであったり、岸边に該当する。因って、遺物出土量も SR に属するよりも、小扇状地に該当する地区の包含層からの方が多い。なお、自然流路 SR5001 は古代末以降の自然流路 SR3001 の流れの中に取り込まれることによりその規模等は不明であり、同時に縄文時代遺構面も削平することによりその範囲は更に西側へ広がった可能性も想定される。但し、流路を挟んだ北側自然堤防上からは縄文時代の遺構・遺物は確認されていない事から、当該期に主な遺構構築域が南岸に限定されていた可能性や自然堤防そのものが形成されていなかった可能性と、勝浦川本流により遺構・遺物が削平された可能性が想定されるが、神田瀬川北側の田浦遺跡を含めた周辺地域での縄文時代における遺跡景観復元が課題となり、新居見遺跡山路地区の検討だけでは不明である。

### 土偶

土偶（第 90 図 173）は、小扇状地北側縁辺（自然流路 SP3001 に接する地点）の包含層から出土し、その周辺では縄文土器も出土している。土偶は欠損しており、腹部から脚部にかけて下半身が出土した。なお、小松島市教育委員会の発掘調査で左腕部が出土した。大きさは残存長 7.6cm、最大厚 2.5cm を測る。土偶は寸胴でやや平板な胴部を持つが、胴部と脚部の境、脚部と踝部の境、尻部、背中部の凹みなど、沈線によってやや写実的な表現がなされているが、女性を模した土偶のように、妊娠した女性を表す正中線や腹部、臀部の表現は認められない。へそにあたる部分は赤彩されている。分析の結果、ベンガラを塗布していることが確認された。

脚部欠損箇所と X 線写真から、この土偶は頭部や脚部などの各部位を別々に作り、つなぎ目をそれぞれ凹凸につくり、挿し込む方法で、胴体を中心につなぎ合わせる「分割塊製作法」で製作されている事が確認された。

現段階では製作地は不明である。しかし、土偶胎土中には、石英、長石片が多く含まれていることや、肉眼観察による確認できる白色チャート片は田野山地で露頭していることから、勝浦川南岸地域での製作の可能性を考慮できる。

なお、四国地域では、香川県 ナカダ浜遺跡：分銅形・2 個体／後期前葉～中葉、船越遺跡：板状分銅形・1 個体／後期前葉～中葉、大浜遺跡：分銅形・2 個体／後期前葉～中葉、永井遺跡：人形・1 個体／後期中葉、伊喜末遺跡：板状・1 個体／時期不明。愛媛県 船ヶ谷遺跡：人形・3 個体／晩期。高知県 広瀬遺跡：分銅形・1 個体／後期中葉、居徳遺跡：人形・1 個体／晩期後半 等の出土例がある。

その傾向は、後期中葉を中心にした時期と晩期を中心にした時期が多いことや、各期の分銅形と人形の相関はすでに指摘されていることである。なお、出土した人形土偶の殆どは、脚部や頭部などの一部だけであり、新居見遺跡出土例はまとまった部位を有しており、比較的希な出土状況と位置づけられる。

新居見遺跡出土土偶は、その形態と大きさから、これまで西日本で確認された縄文時代後期後葉～晩期前半の土偶に類似していることや、周辺から出土した凸帯文土器から、縄文時代晩期と考えられる。

## 弥生時代の遺構・遺物

弥生時代中期に属する遺構は、土坑と円形周溝墓の可能性が想定される溝状遺構 SD5005・SD5007と、遺構密度は低い。しかし、勝浦川流域で周溝墓の可能性のある遺構が確認された事は検討課題である。

徳島県内における円形周溝墓（低地円丘墓）の検出例は、徳島市名東遺跡、徳島市矢野遺跡と海陽町芝遺跡の3例のみで、新居見遺跡は4遺跡目となる。

徳島県内最古段階例となる名東遺跡 SM1002 の構築時期は弥生時代中期前半であり、徳島県内では最古の検出例である。周溝外側推定直径 12 m、周溝内側推定直径 9.9 m、周溝幅 1.2 m、周溝深度 0.8 mを測る。正円形を呈する周溝である。なお、南西部において周溝が途切れており、陸橋部幅は 1.7 mを測る。陸橋部平面形状は、周溝幅よりやや広く、周溝端部が円弧を描いているために、やや内側にえぐれた形状となる。陸橋部の形状は、播磨地域との関係がうかがえる。埋葬主体は後世の削平により未検出であるが、周溝内側の遺構面において弥生時代中期に属する遺構・遺物は検出されていないことから、埋葬主体は1基であり、「単独埋葬」と推定される。周溝内北西側の地点において、口縁部を下方に傾けた状態で細頸壺が1点出土した。また、陸橋部東側周溝内より結晶片岩製打製石庖丁が1点出土した。

新居見遺跡 SD5005 は、不整形な円形周溝墓である。溝外形は不整形円形を呈するが、溝内形は隅丸方形を呈する。北端部を攪乱により削平される。南北径 8.5m、東西径 8.5 m、溝幅 1.0～1.25m、深度 0.35mを測る。周溝基底部からは吉野川流域から搬入された広口壺が出土した。

SD5007 は、不整形な円形周溝墓である。東西直径 11.7m、南北推定直径 10.6m、溝幅 1.8～1.1m、深度 0.35～0.2mを測る。周溝基底部からは吉野川流域から搬入された壺と勝浦川南岸地域で製作されたと推定される大型鉢が出土している。

新居見遺跡 SD5005, 5007 は、共に名東遺跡 SM1002 に後出するが、吉野川流域からの搬入品と推定される壺類を供献している。土器と共に埋葬儀礼が当該地にもたらされた可能性が想定できる。

弥生時代前期に備讃瀬戸地域を中心として築造される円形周溝墓が、中期前半には東西方向に拡散している動きの中で、鮎喰川流域にも受容されたことは確認されているが、やや遅れて勝浦川流域へ、その後、海部川流域へ拡散することが改めて確認された。この拡散にあたっては、瀬戸内海地域からの直接的な拡散の一環として捉えるよりも、吉野川下流域～鮎喰川流域の遺跡群を介在することを想定するべきである。しかし、新居見遺跡においては先行する集落は確認されておらず、当該地を墓域とした場合の母集落が何処に展開していたかは不明である。また、周辺地域においても先行する遺跡は不明であることから、改めて新居見遺跡に円形周溝墓が構築された背景が不明なままである。SD5005 や SD5007 が円形周溝墓であるかどうかや、古墳時代後期の小竪穴石室墓や礫床木棺墓を埋葬主体に採用した小型墳墓に伴う周溝であった可能性を検討する必要がある。

# V 觀 察 表

第1表 土器観察表

掲載 番号	実測番号	掲載遺構 (旧遺構)	種別	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	頸部径 (cm)	胴部 最大径 (cm)	底径 (cm)	残存率	胎土 粒径	胎土 密度	胎土 / 組 成	備考
6	5988	SR5003 (旧SR4003)	弥生	甕		(22.0)				口 径 1/24	0.2 ~ 0.8	精 / や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	東阿波? 搬入品?
7	5985	SR5003 (旧SR4003)	弥生	甕					(6.6)	底 径 1/6	0.5 ~ 3.0	精 / 良	結・石・ 赤	東阿波型。搬入品。
8	2809	SR5004 (旧SR4004)	縄文	浅鉢		(28.0)	(25.4)			口 径 1/12	0.1 ~ 1.0	精 / 良	結・石・ 長	外面おこげ付着
9	6036	SR5004 (旧SR4004)	縄文	浅鉢		(14.2)				口 径 1/6	0.01 ~ 0.2	精 / 良	石・長・ チ・雲	内面おこげ付着
10	2835	SR5004 (旧SR4004)	縄文	浅鉢						破片	0.5 ~ 1.5	精 / 良	石・長	
11	2823	SR5004 (旧SR4004)	縄文	浅鉢						破片	0.2 ~ 1.0	精 / 良	石・長・ チ	
12	2849	SR5004 (旧SR4004)	縄文	浅鉢		17.6				口 径 1/12	0.1 ~ 6.0	粗 / 良	結・石・ 長	在地?
13	2815	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 3.0	粗 / 良	石・長・ 砂	
14	2839	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 4	良 / 良	結・石・ 長・チ・ 雲	
15	2838	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 7.5	良 / 良	石・長・ チ・雲・ 赤	
16	2832	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 5.0	良 / や や不	石・長・ チ・泥	
17	2818	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 4.0	良 / 良	結・石・ 長・チ	クサレチャートを含む
18	2822	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 4.0	良 / 良	結・石・ 長	
19	2825	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 5.0	精 / 良	石・長・ チ	
20	2820	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 6.0	良 / や や不	石・長・ 雲・赤	
21	2824	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	良 / や や不	石・長・ チ	
22	2843	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.2 ~ 0.7	良 / 良	石・長・ チ・雲	
23	2828	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	1.0 ~ 7.0	良 / 良	石・長・ チ	
24	2810	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢				28.6		胴 部 1/6	0.5 ~ 4.5	良 / 良	結・石・ 長・チ	
25	2819	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.2 ~ 2.5	粗 / 良	石・長・ チ・泥	内面おこげ付着
26	2808	SR5004 (旧SR4004)	縄文							破片	0.5 ~ 3.0	精 / 良	石・長・ チ	
27	2842	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 4.0	良 / 良	結・石・ 長・チ・ 砂・泥	
28	2840	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.5	良 / 良	結・石・ 長	
29	2817	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 2.0	粗 / 良	石・長・ チ	

掲載 番号	調整／口縁部	調整／頸部	調整／胴上部	調整／胴下部	調整／底部	色調
6	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)
7					外：ユビナデ 内：ナデ	外：灰白 (7.5YR8/2) 内：灰 (N4/0)
8	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ミガキ 内：ミガキ				外：にぶい褐 (7.5YR5/4) 内：灰黄褐 (10YR4/2)
9	外：ミガキ 内：ミガキ					外：黒褐 (10YR3/2) 内：黒 (10YR2/1)
10	外：ミガキ 内：ミガキ					外：暗灰黄 (2.5Y5/2) 内：暗灰黄 (2.5Y5/2)
11	外：ミガキ 内：ミガキ					外：にぶい黄褐 (10YR5/3) 内：灰黄褐 (10YR6/2)
12	外：ナデ 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ				外：暗褐 (10YR3/3) 内：暗褐 (10YR3/1)
13						外：灰黄 (2.5Y7/2) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)
14	外：口唇部刻目 (2条/2cm) 内：ナデ	外：刻目突帯ナデ (3条/3cm) 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR6/3) 内：灰黄褐 (10YR6/2)
15	外：口唇部刻目無ナデ 内：ナデ	外：刻目突帯ナデ (3条/3cm) 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR7/4) 内：にぶい黄橙 (10YR7/4)
16	外：刻目 (2条/2cm) 内：ナデ					外：にぶい褐 (7.5YR6/4) 内：にぶい褐 (7.5YR6/3)
17	外：口唇部刻目ナデ (2条/3cm) 内：ナデ					外：にぶい橙 (7.5YR6/4) 内：にぶい褐 (7.5YR6/3)
18	外：刻目突帯ナデ (3条/3cm) 内：ナデ					外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：にぶい黄橙 (10YR7/4)
19		外：刻目突帯ナデ (3条/3cm) 内：ナデ				外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：にぶい橙 (7.5YR6/4)
20	外：刻目突帯ナデ (1条/1cm) 内：ナデ					外：橙 (7.5YR7/6) 内：にぶい橙 (7.5YR7/4)
21		外：刻目突帯ナデ (3条/2cm) 内：ナデ				外：にぶい褐 (7.5YR6/3) 内：にぶい黄橙 (10YR7/2)
22		外：突帯ナデ 内：ナデ				外：にぶい褐 (7.5YR6/3) 内：にぶい橙 (7.5YR6/4)
23	外：口唇部刻目ナデ (4条/3cm) 内：ナデ					外：にぶい黄橙 (10YR6/3) 内：灰黄 (2.5Y7/2)
24			外：刻目突帯ナデ (5条/3cm) 内：ナデ			外：橙 (7.5YR6/6) 内：明赤褐 (5YR5/6)
25			外：板ナデ 内：板ナデ			外：褐灰 (10YR4/1) 内：黒褐 (10YR3/2)
26			外：ナデ 内：ヨコナデ			外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：褐灰 (10YR5/1)
27			外：ナデ 内：ナデ			外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：灰黄 (2.5Y7/2)
28		外：刻目突帯ナデ (4条/3cm) 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR6/4) 内：黄灰 (2.5Y6/1)
29	外：口唇部刻目 (3条/3cm)、刻目ヨコナデ (3条/3cm) 内：ヨコナデ					外：にぶい黄褐 (10YR5/4) 内：褐 (7.5YR4/3)

掲載 番号	実測番号	掲載遺構 (旧遺構)	種別	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	頸部径 (cm)	胴部 最大径 (cm)	底径 (cm)	残存率	胎土 粒径	胎土 密度	胎土 / 組 成	備考
30	2848	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 2.5	精 / 良	石・長・ チ・赤	
31	2816	SR5004 (旧SR4004)	弥生	甕						破片	1.0 ~ 2.2	精 / 良	結・石・ 長	
32	2826	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	良 / や や不	石・長・ チ	
33	2830	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 6.0	良 / 良	結・石・ 長・チ・ 泥	片岩の質悪い
34	2844	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 5.0	良 / 良	石・長・ チ	
35	2829	SR5004 (旧SR4004)	縄文	深鉢					3.45	底 径 5/6	0.8 ~ 2.0	良 / 良	石・長・ チ	
36	5993	SR5004 (旧SR4004)	弥生	甕		(19.5)	(17.0)			口 径 1/12 頸 部 1/11	0.5 ~ 2.5	良 / や や不	結・石・ 長・赤	
37	2845	SR5004 (旧SR4004)	縄文	浅鉢		(22.4)	(22.6)			1/18	0.1 ~ 2.0	粗 / 良	石・長・ 雲	
38	2847	SR5004 (旧SR4004)	弥生	壺	(2.8)				(14.6)	底 径 1/12	0.1 ~ 4	良 / 良	石・長・ チ・泥	
39	2836	SR5004 (旧SR4004)	弥生	鉢		(22.9)				1/36	0.1	精 / 良	長・赤	
40	2833	SR5004 (旧SR4004)	弥生	甕		(14.2)	(11.2)			口 径 1/24	0.3 ~ 2.0	精 / 良	結・石・ 長・雲	
45	6011	SR5005 (旧SR4005)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	粗 / 良	結・石・ 長・雲	
46	6013	SR5005 (旧SR4005)	縄文	深鉢						破片	0.2 ~ 4.0	粗 / 不 良	石・長	
47	6014	SR5005 (旧SR4005)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	粗 / や や不	石・長・ チ・雲・ 赤	
52	2747	SD5003 (旧SD3007)	縄文	浅鉢				(29.8)		1/18	0.2 ~ 1.5	粗 / 良	石・長	
53	3625	SD5003 (旧SD3007)	縄文	深鉢						破片	0.2 ~ 6.0	良 / 良	石・チ・ 赤	
54	3626	SD5005 (旧SD3010)	縄文	深鉢					6.9	底 径 7/12	0.5 ~ 2.0	粗 / 良	結・石・ 長・チ・ 泥	
55	4599	SD5005 (旧SD3011)	弥生	壺		(11.8)				1/10	0.1 ~ 1.0	精 / や や不	結・石・ 長・雲・ 赤	搬入品?
56	4595	SD5005 (旧SD3011)	弥生	壺		(13.0)				1/9	0.1 ~ 1.5	精 / 不 良	石・長・ 赤	
57	4598	SD5005 (旧SD3011)	弥生	壺		(13.5)	(12.1)			口 径 1/52 頸 部 1/5	0.5 ~ 1.5	良 / や や不	石・長・ チ・赤	
58	4589	SD5005 (旧SD3011)	弥生	壺			(19.6)			破片	0.1 ~ 0.8	良 / や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	
59	4596	SD5005 (旧SD3011)	弥生	壺			(7.9)			頸 部 1/4	0.1 ~ 2.5	良 / や や不	結・石・ 長・雲・ 赤	
60	2765	SD5006 (旧SD3014)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 1.5	良 / 良	石・長・ チ	
61	4869	SD5007 (旧SD4002)	弥生	壺		(11.6)	(9.6)			口 径 1/12	0.1 ~ 6.0	良 / 良	結・石・ 長・雲・ 赤	

掲載 番号	調整／口縁部	調整／頸部	調整／胴上部	調整／胴下部	調整／底部	色調
30						外：にぶい橙 (7.5YR6/4) 内：橙 (7.5YR7/6)
31			外：3条櫛描沈線→ 縦櫛沈線 内：ナデ			外：にぶい黄橙 (10YR6/3) 内：にぶい黄橙 (10YR7/4)
32		外：刻目突帯ナデ (2条/1cm) 内：ナデ				外：にぶい橙 (7.5YR7/3) 内：にぶい橙 (7.5YR6/4)
33		外：刻目突帯ナデ (3 条/3cm) 内：ナデ				外：黄褐 (10YR5/8) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)
34			外：刻目突帯ナデ (2条/2cm) 内：ナデ			外：橙 (7.5YR6/6) 内：にぶい黄橙 (10YR5/3)
35					外：ナデ 内：ナデ	外：灰黄褐 (10YR5/2) 内：にぶい黄褐 (10YR5/4) 外：明赤褐 (5YR5/8) 内：赤褐 (5YR4/8)
36	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					
37	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：シボリ痕? 内：ナデ	外：ミガキ 内：ミガキ			外：褐灰 (10YR4/1) 内：灰黄褐 (10YR4/2)
38	外：ナデ 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR6/3) 内：灰黄褐 (10YR6/2)
39	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：にぶい褐 (7.5YR5/4) 内：明赤褐 (5YR5/6)
40	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：にぶい赤褐 (5YR5/4) 内：橙 (5YR6/6)
45			外：棒状工具によるナデ 内：ナデ			外：にぶい黄褐 (10YR5/3) 内：灰黄褐 (10YR5/2)
46	外：ナデ 内：ナデ					外：明赤褐 (2.5YR5/6) 内：明赤褐 (2.5YR5/6)
47			外：ナデ 内：ナデ			外：明赤褐 (5YR5/6) 内：黒褐 (7.5YR3/1)
52	外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ナデ					外：黒褐 (5YR3/1) 内：明赤褐 (5YR5/6)
53			外：刻目突帯ナデ (2条/2cm) 内：ナデ			外：にぶい橙 (7.5YR6/4) 内：にぶい黄橙 (10YR7/2)
54					外：ユビナデ 内：ユビナデ	外：にぶい褐 (7.5YR5/4) 内：橙 (7.5YR6/6)
55	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：橙 (7.5YR7/6) 内：橙 (7.5YR6/6)
56	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：橙 (7.5YR7/6) 内：橙 (7.5YR7/6)
57	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ユビナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ				外：明黄褐 (10YR7/6) 内：黒褐 (10YR3/1)
58						外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：灰黄褐 (10YR6/2)
59		外：ヨコナデ 内：ユビナデ				外：橙 (7.5YR7/6) 内：にぶい橙 (7.5YR7/4)
60			外：爪による刻目 (4条/3cm)			外：黄褐 (2.5Y5/3) 内：暗灰黄 (2.5Y4/2)
61	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ				外：にぶい橙 (7.5YR7/3) 内：浅黄橙 (7.5YR8/3)

掲載 番号	実測番号	掲載遺構 (旧遺構)	種別	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	頸部径 (cm)	胴部 最大径 (cm)	底径 (cm)	残存率	胎土 粒径	胎土 密度	胎土 / 組 成	備考
62	5984	SD5007 (旧SD4002)	弥生	壺		(15.2)				口径 1/12	0.5 ~ 1.5	精 / や や不	結・石・ 長・雲・ 赤	
63	5972	SD5007 (旧SD4002)	弥生	甗			(10.3)			頸部 1/8	0.5 ~ 1.5	良 / や や不	石・長・ 赤	
64	5975	SD5007 (旧SD4002)	弥生	甗		(17.0)	(13.8)			口径 1/12	0.1 ~ 4.0	良 / 良	石・長・ 雲	
65	4868	SD5007 (旧SD4002)	弥生	甗			(11.8)			頸部 1/8	0.1 ~ 5.0	良 / や や不	結・石・ 長・チ・ 雲・赤	
66	4867	SD5007 (旧SD4002)	弥生	壺					7.8	底径完 形	1.0 ~ 7.0	精 / 良	結・石・ 長・赤	
67	5973	SD5007 (旧SD4002)	弥生	鉢		(36.6)				1/14	0.1 ~ 4.0	精 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤	
68	5917	SD5008 (旧SD4003)	弥生	甗		(17.2)	(13.2)			口径 1/17 頸 部 1/12	1.0 ~ 10.1	粗 / や や不	結・石・ 長・赤	在地? クサレチャー ト?含む。
69	5981	SD5008 (旧SD4003)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 2.0	粗 / 良	結・石・ 長	
70	4450	SK5001 (旧SK2043)	弥生	鉢		(22.0)				口径 1/12	0.5 ~ 2.0	精 / 良	結・石・ 長・赤	内面、炭素吸着。搬入 品? (鮎喰川からの)
72	3832	SK5004 (旧SK4011)	弥生	壺		(20.0)	(19.2)			口径 1/6	0.2 ~ 1.5	良 / や や不	結・石・ 長・雲・ 赤	搬入品?
73	3833	SK5004 (旧SK4011)	弥生	鉢		(54.0)				口径 1/14	0.1 ~ 10.0	良 / や や不	結・石・ 長・赤	
74	3769	SK5004 (旧SK4011)	弥生	鉢		(56.8)				口径 1/12	0.2 ~ 2.0	精 / 良	結・石・ 長・雲・ 赤	搬入品?
75	3831	SK5004 (旧SK4011)	弥生	甗	(8.0)	(14.0)				口径 1/6	0.5 ~ 3.0	精 / 不 良	結・石・ 長・赤	鮎喰川流域からの搬入 品に関しては質が悪い? 東阿波型
76	3834	SK5004 (旧SK4011)	縄文	甗		(19.8)				口径 5/24	0.1 ~ 0.9	良 / 不 良	結・石・ 長・チ・ 赤	搬入品?
77	3771	SK5004 (旧SK4011)	弥生	壺						破片	0.1 ~ 4.0	良 / 不 良	結・石・ 長・赤	
78	3835	SK5004 (旧SK4011)	弥生	壺					(9.6)	1/2	0.1 ~ 2.5	良 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤	
79	3770	SK5004 (旧SK4011)	弥生	壺					(7.0)	1/2	0.1 ~ 8.0	良 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤	焼成時破裂痕?
80	3767	SK5004 (旧SK4011)	弥生	甗					7.0	底径ほ ぼ完形	0.5 ~ 4.0	精 / 不 良	結・石・ 長・赤	片岩の質悪い
81	3768	SK5004 (旧SK4011)	弥生	甗					(8.2)	底径 1/12	0.5 ~ 4.0	精 / 不 良	結・石・ 長・雲・ 赤	搬入品?
82	3773	SK5004 (旧SK4011)	弥生	甗					(7.5)	底径 1/3	0.5 ~ 13	粗 / 不 良	石・長・ 赤	在地?
84	4632	SK5007 (旧ST3001)	弥生	鉢		(15.7)				1/8	0.1 ~ 3.0	良 / 良	結・石・ 長・赤	
85	5840	SK5007 (旧ST3001)	弥生	高杯			(4.3)			1/2	0.1 ~ 5.0	良 / 良	結・石・ 長・雲	クサレチャート?含む
86	4631	SK5008 (旧ST3004)	弥生	高杯					(14.2)	底径 1/12	~1.0	良 / 不 良	結・石・ 長・赤	
89	3523	SK5010 (旧SX1001)	弥生	甗		(16.2)	(14.1)			口径 1/6	~1.0	精 / 不 良	結・石・ 長・赤	鮎喰川からの搬入品

掲載 番号	調整／口縁部	調整／頸部	調整／胴上部	調整／胴下部	調整／底部	色調
62	外：ヨコナデ→2条沈線 →竹管文(4個1対) 内：ヨコナデ					外：橙(5YR6/8) 内：橙(5YR6/6)
63	外：ハケ(5条/1cm) 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ユビオサエ				外：褐(10YR4/4) 内：橙(5YR6/8)
64	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：灰褐(7.5YR5/2) 内：にぶい橙(7.5YR6/4)
65		内：ユビナデ	外：ハケ(磨滅) 内：ユビナデ→ケズリ			外：橙(5YR6/6) 内：オリーブ黒(5Y3/1)
66				外：ハケ(磨滅して不明) 内：ケズリ	外：ユビナデ 内：ユビナデ→ケズリ	外：にぶい橙(7.5YR6/4) 内：黄灰(2.5Y4/1)
67	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：橙(2.5YR6/8) 内：橙(2.5YR6/8)
68	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：橙(7.5YR6/6) 内：橙(7.5YR6/6)
69			外：ナデ 内：ナデ			外：にぶい黄褐(10YR5/3) 内：にぶい黄褐(10YR5/4)
70	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ナデ 内：ミガキ	外：ナデ 内：ミガキ			外：にぶい黄褐(10YR5/4) 内：黒褐(10YR3/1)
72	外：ヨコナデ 口唇部に格子文 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 格子文 内：ヨコナデ				外：にぶい橙(5YR7/4) 内：橙(5YR6/6)
73	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：橙(5YR6/5) 内：にぶい橙(5YR6/4)
74						外：にぶい赤褐(5YR5/3) 内：にぶい赤褐(5YR5/4)
75	外：ヨコナデ、2条擬凹線 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ハケ? 内：ケズリ			外：黄褐(10YR5/6) 内：にぶい黄橙(10YR6/4)
76	外：ヨコナデ 2条擬凹線 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	内：ケズリ			外：明赤褐(5YR5/6) 内：橙(7.5YR6/6)
77				外：板ナデ 内：ユビナデ		外：明赤褐(2.5YR5/6) 内：黄灰(2.5Y4/1)
78				外：ユビオサエ→ ユビナデ 内：ケズリ 外：板ナデ?	外：ユビナデ 内：ユビナデ→ケズリ	外：明赤褐(5YR5/6) 内：黒褐(10YR3/1)
79				外：板ナデ? 内：ユビナデ	外：ユビナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ	外：明赤褐(5YR5/8) 内：赤褐(2.5YR4/8)
80				外：ユビナデ	外：ユビオサエ 内：ユビオサエ→ ユビナデ	外：橙(5YR6/6) 内：明赤褐(2.5YR5/8)
81					外：ユビナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ	外：橙(7.5YR6/6) 内：暗灰黄(2.5YR5/2)
82					外：ユビナデ 内：ユビオサエ	外：橙(5YR6/8) 内：明赤褐(5YR5/6)
84	外：ヨコナデ擬凹線状に へこむ 内：ヨコナデ	外：ナデ→ハケ (5条1cm) 内：ユビナデ				外：明褐(7.5YR5/6) 内：明褐(7.5YR7/8)
85		外：ユビナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ				外：にぶい赤褐(5YR5/4) 内：明褐(5YR5/6)
86					外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：橙(5YR6/8) 内：橙(5YR6/8)
89	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	内：ケズリ			外：橙(7.5YR6/6) 内：明黄褐(10YR6/4)

掲載 番号	実測番号	掲載遺構 (旧遺構)	種別	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	頸部径 (cm)	胴部 最大径 (cm)	底径 (cm)	残存率	胎土 粒径	胎土 密度	胎土 / 組 成	備考
90	3532	SK5010 (旧SX1001)	弥生	甕		11.8	10.2			口 径 1/4	0.1 ~ 3.0	精 / や や不	結・石・ 長・赤	クサレチャート?を 含む。模倣品?
91	3521	SK5010 (旧SX1001)	弥生	甕						破片	0.3 ~ 6	精 / 良	結・石・ 長・赤	
92	3530	SK5010 (旧SX1001)	弥生	壺			(5.4)	(9.6)		頸 部 1/12 胴 部 最大 径 1/6	0.5 ~ 2.5	良 / 不 良	結・石・ 長・雲・ 赤	搬入品
93	3522	SK5010 (旧SX1001)	弥生	甕					(6.0)	底 径 1/12	0.5 ~ 3.0	精 / 不 良	結・石・ 長・赤	鮎喰川流域からの搬入 品
94	3525	SK5010 (旧SX1001)	縄文	壺		(20.5)				破片	0.2 ~ 7	良 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤	
95	3520	SK5010 (旧SX1001)	弥生	壺					(7.95)	底 径 1/6	0.1 ~ 8.0	粗 / や や不	結・石・ 長・チ・ 雲	在地?
96	3528	SK5010 (旧SX1001)	弥生	鉢	(4.7)	(42.0)				口 径 1/18	0.1 ~ 5.0	精 / 良	石・長・ チ・赤	
97	3519	SK5010 (旧SX1001)	弥生	壺						胴 部 1/8	0.2 ~ 7.0	粗 / や や不	結・石・ 長	剥落著しく、不明瞭
98	3524	SK5010 (旧SX1001)	弥生	壺						1/8	0.1 ~ 7.0	良 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤	在地?
101	4091	SK5012 (旧SX2002)	弥生	高杯					5.3	底 径 4/5	0.1 ~ 2.0	精 / や や不	石・長・ 雲・赤	搬入品?
102	2851	SX5001 (旧SX4001)	縄文	浅鉢		(25.6)	(24.2)			口 径 1/18	0.3 ~ 3.0	良 / 良	結・石・ 長・チ	
103	2852	SX5001 (旧SX4001)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 5.0	粗 / や や不	石・長・ チ・雲・ 赤	
104	2855	SX5001 (旧SX4001)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 6.0	粗 / 良	石・長・ 赤	
108	2862	SX5001 (旧SX4001)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 5.0	粗 / や や不	結・石・ 長・赤	
136	2869	SX5003 (旧SX4009)	縄文	浅鉢						破片	~1.0	精 / 良	結・石・ 長・チ	
137	2874	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	1.0 ~ 5.0	良 / 良	石・長・ チ	
138	2876	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 5	良 / 良	石・長・ チ	
139	2866	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.2 ~ 3.0	良 / や や不	結・石・ 長・赤	
140	2870	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 5	粗 / や や不	結・石・ 長・チ・ 雲・赤	刻目突帯剥落
141	2859	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.3 ~ 4	良 / 良	石・長・ チ・雲	
142	2880	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.2 ~ 2.5	粗 / 良	石・長・ チ・泥	
143	2878	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 1	精 / 良	石・長・ 雲	
144	2875	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 6	良 / 良	結・石・ 長・泥	
145	2885	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	良 / 良	結・石・ 長	

掲載 番号	調整／口縁部	調整／頸部	調整／胴上部	調整／胴下部	調整／底部	色調
90	外：ヨコナデ→2条凹線 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：灰褐 (7.5YR4/2) 内：にぶい黄褐 (10YR4/3)
91	外：ヨコナデ	外：板ナデ 内：ナデ				外：明赤褐 (5YR5/6) 内：橙 (5YR6/6)
92		外：ナデ 内：ユビナデ	内：ユビオサエ			外：明赤褐 (2.5YR5/8) 内：黒褐 (2.5Y3/2)
93					内：ユビオサエ、ユビ ナデ	外：橙 (7.5YR6/6) 内：黄灰 (2.5YR4/1)
94	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：板ナデ？ 内：板ナデ				外：橙 (7.5YR6/6) 内：橙 (5YR6/6)
95				外：ナデ 内：板ナデ	外：ナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ	外：明赤褐 (2.5YR5/6) 内：明赤褐 (5YR5/6)
96	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：橙 (5YR6/6) 内：橙 (2.5YR6/6)
97				外：板ナデ？ 内：ナデ		外：明赤褐 (5YR5/6) 内：黄灰 (2.5Y5/1)
98				外：ナデ 内：ユビナデ		外：橙 (7.5YR7/6) 内：にぶい橙 (10YR7/3)
101						外：橙 (5YR6/6) 内：橙 (5YR6/6)
102	外：ヨコナデ、ミガキ 内：ヨコナデ、ミガキ					外：褐灰 (7.5YR5/1) 内：灰黄褐 (10YR6/2)
103	外：ナデ 内：ナデ					外：橙 (5YR6/6) 内：橙 (5YR6/6)
104	外：ナデ 内：ナデ					外：にぶい黄褐 (10YR5/3) 内：黒褐 (2.5Y3/1)
108	外：ナデ 内：ナデ	外：刻目突帯ナデ (1条/2cm) 内：ナデ				外：橙 (7.5YR6/6) 内：にぶい黄橙 (10YR6/4)
136		外：ミガキ 内：ミガキ				外：にぶい黄褐 (10YR5/4) 内：にぶい黄褐 (10YR5/3)
137	外：ナデ 内：ナデ	外：刻目突帯ナデ (4条/3cm) 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：にぶい黄橙 (10YR6/3)
138	外：口唇部刻目(4条/2cm) 内：ナデ	外：刻目突帯ナデ (1条/1cm) 内：ナデ				外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)
139	外：ナデ 内：ナデ	外：刻目突帯ナデ (1条/1cm) 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR5/3) 内：灰黄褐 (10YR5/2)
140	外：刻目 (4条/2cm)	外：ナデ 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR6/4) 内：橙 (7.5YR6/6)
141	外：ナデ	外：刻目突帯ナデ (2条/2cm) 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR7/4) 内：にぶい橙 (7.5YR7/4)
142	外：ナデ 内：ナデ					外：褐灰 (5YR4/1) 内：黄灰 (2.5Y5/1)
143			外：板ナデ 内：ナデ			外：褐 (7.5YR4/4) 内：黒 (7.5YR2/1)
144			外：条痕 内：ナデ			外：明黄褐 (10YR7/6) 内：灰黄褐 (10YR6/2)
145			外：貝殻条痕 内：貝殻条痕			外：灰黄褐 (10YR4/2) 内：黒褐 (10YR3/2)

掲載 番号	実測番号	掲載遺構 (旧遺構)	種別	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	頸部径 (cm)	胴部 最大径 (cm)	底径 (cm)	残存率	胎土 粒径	胎土 密度	胎土 / 組 成	備考
146	2886	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 3	良/良	結・石・ 長・雲・ 泥	
147	2860	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢					(3.7)	1/7	0.1 ~ 3	精/良	長・チ・ 砂・泥	
148	2884	SX5003 (旧SX4009)	縄文	深鉢	(1.4)				6.1	底 部 100%	0.1 ~ 10	粗/良	結・石・ 長・チ・ 泥	
149	2853	SX5004 (旧SX4010)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 2.0	良/良	石・長・ チ・砂	
151	5633	SP5001 (旧SP2084)	弥生	小型丸 底壺				8.0	2.4	1/3	0.1 ~ 8.0	粗/や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	
152	2575	SP5003 (旧SP3001)	弥生	壺				12.9	3.7	1/4	0.1 ~ 5.0	精/や や不	結・石・ 長・赤	鮎喰川流域からの搬入 品?
153	2766	SP5004 (旧SP3095)	弥生	壺		(82)				口 径 1/12	0.5 ~ 2.5	精/不 良	結・石・ 長・雲	
154	4614	SP5005 (旧SP3188)	弥生	甕		(19.9)				口 径 1/12	0.1 ~ 3.0	良/良	結・石・ 長・雲・ 赤	
155	4615	SP5006 (旧SP3189)	弥生	甕		(14.9)				口 径 1/18	0.1 ~ 4.0	精/良	石・長・ チ・雲	在地?
156	4616	SP5007 (旧SP3222)	弥生	壺			(9.7)			頸 部 1/12	0.2 ~ 2.5	良/良	結・石・ 長・赤	
157	2797	SP5008 (旧SP4055)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 3.0	粗/や や不	結・石・ 長・チ・ 雲	在地? 結晶片岩の質が 悪い。在地チャート? 系
158	2798	SP5009 (旧SP4100)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	良/良	結・石・ 長	
159	6038	SP5010 (旧SP4172)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	粗/や や不	結・石・ 長・チ・ 雲・赤	
160	6037	SP5010 (旧SP4172)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 6.0	粗/や や不	結・石・ 長・チ・ 雲	
161	6040	SP5010 (旧SP4172)	縄文	深鉢						破片	0.2 ~ 5.0	良/や や不	結・石・ 長・赤	
162	6039	SP5010 (旧SP4172)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	粗/や や不	石・長・ チ・赤	
163	3778	SP5010 (旧SP4172)	縄文	浅鉢		(31.3)	(30.5)			口 径 1/8	0.1 ~ 5.0	粗/良	結・石・ 長・チ・ 雲	
166	3775	SP5012 (旧SP4186)	縄文	浅鉢		(30.0)		(28.0)		1/7	0.5 ~ 4.0	良/良	結・石・ 長・チ	
167	2802	SP5013 (旧SP4679)	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	良/良	結・石・ 長・チ	
168	2803	SP5014 (旧SP4730)	縄文	深鉢							0.5 ~ 2.0	良/良	石・長・ チ	片岩無。クサレチャー トを含む。在地?
170	2805	SP5016 (旧SP4745)	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 3.5	粗/良	石・長・ チ	片岩無。在地?クサレ チャート?を含む
171	2806	SP5017 (旧SP4795)	縄文	深鉢					6.1		0.5 ~ 3.0	粗/良	石・長	
174	3777	包含層	縄文	深鉢		(32)				口 径 1/18	0.5 ~ 2.5	良/良	石・長・ チ	
175	3785	第4包含層	縄文	浅鉢						破片	0.5 ~ 2.0	粗/良	石・長・ チ・泥	

掲載 番号	調整／口縁部	調整／頸部	調整／胴上部	調整／胴下部	調整／底部	色調
146			外：条痕 内：ナデ			外：黒 (10YR2/1) 内：暗褐 (10YR3/3)
147					外：ナデ 内：ナデ	外：にぶい黄橙 (10YR7/4) 内：灰黄褐 (10YR5/2)
148					外：ナデ 内：ナデ	外：黒褐 (10YR3/1) 内：褐灰 (10YR4/1)
149	外：口唇部刻目 (1条 /1cm) 内：ナデ	外：刻目突帯ナデ (2条 /1cm) 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR7/4) 内：にぶい黄橙 (10YR6/4)
151				外：ユビナデ 内：ヨコナデ	外：ユビナデ 内：ユビオサエ	外：橙 (5YR7/6) 内：橙 (5YR7/6)
152				外：板ナデ 内：ユビナデ	外：ユビオサエ 内：ユビナデ	外：にぶい橙 (7.5YR6/4) 内：にぶい黄橙 (10YR6/3)
153						外：明赤褐 (5YR5/6) 内：明褐 (7.5YR5/6)
154	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：明赤褐 (5YR5/6) 内：明赤褐 (5YR5/6)
155	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：橙 (7.5YR6/6) 内：橙 (7.5YR6/6)
156		外：ユビナデ 内：ユビナデ				外：橙 (5YR6/6) 内：灰黄 (2.5Y6/2)
157			外：貝殻条痕 内：ナデ			外：にぶい黄橙 (10YR6/3) 内：にぶい黄橙 (10YR7/2)
158						外：明黄褐 (10YR6/6) 内：にぶい黄褐 (10YR5/4)
159	外：口唇部刻目 (4条 /2cm)	外：ナデ 内：ナデ				外：にぶい黄橙 (10YR7/4) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)
160			外：貝殻条痕→刻目突 帯 (1条 /1cm) 内：貝殻条痕？			外：橙 (5YR6/6) 内：灰黄橙 (10YR6/2)
161			外：貝殻条痕 内：ナデ			外：橙 (5YR6/6) 内：橙 (5YR6/6)
162			外：貝殻条痕 内：ナデ			外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：灰黄褐 (10YR6/2)
163	外：ミガキ 内：ミガキ	外：板状工具による強 いヨコナデ 内：ミガキ	外：貝殻条痕 内：ミガキ			外：明黄褐 (10YR6/6) 内：黒褐 (10YR3/1)
166	外：ヨコナデ 内：ミガキ		外：貝殻条痕 内：ミガキ			外：黒褐 (2.5Y3/2) 内：暗灰黄 (2.5Y4/2)
167		外：刻目突帯ナデ (4条 /3cm) 内：ナデ				外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：灰白 (10YR8/2)
168			外：刻目突帯ナデ (1条 /1cm) 内：ナデ			外：にぶい橙 (7.5YR6/4) 内：橙 (7.5YR7/6)
170						外：暗褐 (10YR3/3) 内：黒褐 (10YR3/1)
171				外：貝殻条痕 内：ナデ	外：ナデ 内：ナデ	外：明赤褐 (5YR5/6) 内：明褐 (7.5YR5/6)
174	外：ヨコナデ、刻目突帯 (3条 /3cm) 内：沈線状の強いヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：褐灰 (10YR6/1) 内：灰黄褐 (10YR5/2)
175		外：刻目突帯 (2条 /2cm) 内：ナデ				外：黒褐 (2.5Y3/1) 内：浅黄 (2.5Y7/3)

掲載 番号	実測番号	掲載遺構 (旧遺構)	種別	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	頸部径 (cm)	胴部 最大径 (cm)	底径 (cm)	残存率	胎土 粒径	胎土 密度	胎土 / 組 成	備考
176	3786	第4包含層	縄文	深鉢		(16.7)				1/36	0.1 ~ 1.0	粗/良	結・石・ 長	
177	3780	包含層	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 4.0	良/や や不	石・長・ 赤	
178	3779	第4包含層	縄文	深鉢						破片	0.3 ~ 3.5	良/良	石・長・ 子・赤	
179	4933	第4包含層	縄文	深鉢		(27.7)		(25.7)		口径 1/12	0.3 ~ 3.0	粗/良	結・石・ 長・子・ 赤	
180	5931	包含層	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 1.0	良/良	結・石・ 長・赤	
181	2572	第2面包含層	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 2.0	良/や や不	結・石・ 長・子・ 赤	
182	3784	第4包含層	縄文	深鉢						破片	0.2 ~ 2.0	粗/良	石・長・ 子・赤	
183	5927	第4包含層	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 2.0	粗/良	結・石・ 長・子	
184	3776	第4包含層	縄文	深鉢				(28.0)		破片	0.1 ~ 5.0	粗/良	結・長・ 子・赤	
185	3783	第4包含層	縄文	深鉢						破片	0.5 ~ 2.5	粗/良	石・長・ 子・泥	
186	3787	第4包含層	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	精/良	石・長・ 子	
187	5932	包含層	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	粗/良	結・石・ 長・雲	
188	5933	包含層	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 5.0	良/良	結・石・ 長・子・ 赤	
189	5926	第4包含層	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	粗/良	石・長・ 子・泥	
190	5928	第4包含層	縄文	深鉢						破片	0.1 ~ 3.0	粗/良	石・長・ 子・赤	
191	4742	第3包含層	弥生	壺		(14.6)				口径 1/5	0.2 ~ 7.0	粗/不 良	結・石・ 長・子・ 赤	クサレチャート?含む
193	4761	第3包含層	弥生	壺		(14.0)				口径 1/12	0.1 ~ 2.0	精/や や不	結・石・ 長・子・ 赤	
194	4754	第3包含層	弥生	壺		(14.0)				口径 1/12	0.1 ~ 4.0	精/や や不	結・石・ 長・子・ 雲・赤	結晶片岩の質悪い
195	4755	第3包含層	弥生	壺		(13.8)				口径 1/12	0.1 ~ 7.0	良/不 良	結・石・ 長・子・ 雲・赤	結晶片岩の質悪い。ク サレチャート?含む
196	2573	第2遺構面	弥生	壺		(17.4)				1/10	0.5 ~ 4.0	良/良	結・石・ 長・子・ 雲・赤	
197	4760	第3包含層	弥生	壺		(10.2)				口径 1/24	0.1 ~ 3.5	良/良	結・石・ 長・雲	
198	5803	第3包含層	弥生	甕		(15.3)	(10.1)			口径 1/6	0.2 ~ 2.0	精/不 良	石・長・ 子・雲・ 赤	
199	4820	第3包含層	弥生	壺		(21.2)				1/16	0.1 ~ 4.0	良/や や不	結・石・ 長・子・ 赤	クサレチャート?含む

掲載 番号	調整／口縁部	調整／頸部	調整／胴上部	調整／胴下部	調整／底部	色調
176	外：ナデ 内：ヨコナデ、口唇部直下に沈線状の強いヨコナデ	外：ナデ→刻目突帯(2条/2cm)				外：浅黄橙 (10YR8/3) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)
177	外：口唇部刻目(5条/3cm) 内：ナデ	外：刻目突帯ナデ(3条/3cm)				外：浅黄橙 (7.5YR8/3) 内：にぶい橙 (7.5YR7/3)
178		外：刻目突帯(1条/1cm) 内：ナデ				外：浅黄橙 (7.5YR8/3) 内：にぶい黄橙 (10YR7/2)
179	外：ナデ→刻目突帯(3条/3cm) 内：ナデ		外：貝殻条痕 内：貝殻条痕			外：黄灰 (2.5Y4/1) 内：褐灰 (7.5YR4/1)
180	外：ナデ 内：ナデ	外：ナデ→刻目突帯(2条/2cm) 内：ナデ				外：橙 (7.5YR7/6) 内：橙 (7.5YR6/6)
181			外：刻目突帯ナデ(4条/2cm) 内：ナデ			外：橙 (7.5YR7/6) 内：灰 (7.5YR4/1)
182			刻目突帯(1条/1cm) 内：ナデ			外：浅黄橙 (10YR8/4) 内：にぶい黄橙 (10YR7/4)
183			外：ナデ 内：ナデ			外：褐 (7.5YR4/3) 内：橙 (5YR6/8)
184			外：貝殻条痕→刻目突帯(3条/3cm) 内：ナデ			外：にぶい褐 (7.5YR6/3) 内：にぶい黄橙 (10YR7/2)
185			外：貝殻条痕 内：ユビナデ			外：黒褐 (2.5 Y 3/2) 内：暗灰黄 (2.5Y5/2)
186		外：刻目突帯(1条/1cm) 内：ナデ				外：灰褐 (7.5YR5/2) 内：黄灰 (2.5Y4/1)
187			外：貝殻条痕 内：ナデ			外：にぶい黄橙 (10YR7/3) 内：褐灰 (10YR4/1)
188			外：ナデ 内：ナデ			外：にぶい橙 (7.5YR7/3) 内：黄灰 (2.5Y5/1)
189			外：貝殻条痕 内：ナデ			外：黒褐 (10YR3/2) 内：にぶい黄橙 (10YR6/3)
190			外：ナデ 内：ナデ			外：浅黄橙 (7.5YR8/4) 内：褐灰 (10YR6/1)
191	外：ヨコナデ→竹管文(4個1対、4ヶ所) 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：橙 (5YR7/6) 内：浅黄橙 (7.5YR8/4)
193	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：橙 (7.5YR7/6) 内：橙 (7.5YR7/6)
194	外：ヨコナデ→竹管文(4個1対) 内：ヨコナデ					外：橙 (5YR7/6) 内：橙 (5YR7/6)
195	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：橙 (5YR6/6) 内：灰 (5Y4/1)
196	外：2条凹線、ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：赤褐 (5YR4/6) 内：明赤褐 (5YR5/6)
197	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：にぶい赤褐 (5YR5/3) 内：黒褐 (10YR3/2)
198	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：にぶい橙 (7.5YR7/4) 内：にぶい橙 (7.5YR7/4)
199	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：橙 (5YR6/8) 内：明褐 (7.5YR5/6)

掲載 番号	実測番号	掲載遺構 (旧遺構)	種別	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	頸部径 (cm)	胴部 最大径 (cm)	底径 (cm)	残存率	胎土 粒径	胎土 密度	胎土 / 組 成	備考
200	4751	第3包含層	弥生	壺			(9.9)			1/6	0.1 ~ 4.0	精 / や や不	結・石・ 赤	
201	4812	第3包含層	弥生	壺			(14.6)			1/4	0.1 ~ 8.0	良 / や や不	結・長・ チ・雲・ 赤	
202	4818	第3包含層	弥生	壺			(8.9)			頸部 1/6	0.5 ~ 5.0	良 / 不 良	結・石・ 長・チ・ 赤	
203	5983	包含層	弥生	壺			(7.6)			頸部 1/6	1.0 ~ 3.0	良 / や や不	結・石・ 長・雲・ 赤	
204	4918	第4包含層	弥生	壺			(11.9)			1/12	0.1 ~ 5.0	良 / や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	
205	4787	第3包含層	弥生	壺			(9.0)			頸部 1/6	0.1 ~ 4.0	良 / や や不	結・石・ 長・チ・ 雲・赤	
206	4743	第3包含層	弥生	壺		(19.0)	(19.7)			口径 1/24	1.0 ~ 8.0	粗 / 不 良	結・石・ 長・チ・ 赤	在地。クサレチャート？ 含む。結晶片岩の質悪い
207	4809	第3包含層	弥生	壺					(9.0)	底径 5/6	0.2 ~ 7.0	粗 / 良	結・石・ チ・赤	
208	4810	第3包含層	弥生	壺					(10.8)	底径 1/12	1.0 ~ 5.0	良 / 良	結・石・ 長・砂	
209	5925	第4包含層	弥生	甗		(16.2)	(14.2)			口径 1/9	0.1 ~ 2.5	良 / 良	結・石・ 長	
210	4111	第1包括層	弥生	甗		(17.0)	(15.4)			口径 1/12 頸部 1/12	0.5 ~ 3.0	精 / 良	石・長・ 金雲・角	讃岐からの搬入品。下 川津B類もどき？
211	5823	第3包含層	弥生	甗		(12.6)	(10.6)			1/16	0.1 ~ 7.0	良 / 不 良	結・石・ 長・チ・ 赤	東阿波型甗の模倣品？ 在地？結晶片岩の質悪い。 クサレチャート？ 含む。器壁厚い
212	4759	第3包含層	弥生	甗					(6.8)	底径 5/12	0.5 ~ 4.0	精 / 良	石・長・ 金雲・角	讃岐からの搬入品。下 川津B類
213	5816	第3包含層	弥生	甗		(15.8)	(12.8)			口径 1/6 頸部 1/4	1.0 ~ 16.0	粗 / や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	クサレチャート？多く 含む。在地。要分析。
214	5796	第3包含層	弥生	高杯					(12.7)	底径 1/6	0.1 ~ 4.0	粗 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤	在地？
215	4924	第4包含層	弥生	鉢		(11.8)				口径 1/12	0.1 ~ 2.5	精 / 良	石・長・ 雲	
216	4114	第1包括層	弥生	高杯						脚部 1/1	0.1 ~ 5.0	精 / 良	結・石・ 長・雲・ 赤	
217	4811	包含層	弥生	高杯			(2.9)			頸部 1/2	0.5 ~ 3.0	精 / 良	結・石・ 長・雲・ 赤	搬入品？
218	4879	包含層	弥生	高杯			(3.1)			頸部 2/3	0.1 ~ 2.0	精 / や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	
219	4819	第3包含層	弥生	鉢		(20.0)				口径 1/13	0.1 ~ 6.0	良 / や や不	結・石・ 長・雲・ 赤	
220	2779	第3包含層	古代	鉢		17.7				1/9	0.1 ~ 1.5	精 / 良	石・長・ 赤	
221	4753	第4包含層	弥生	鉢		(52.2)				口径 1/24	0.1 ~ 9.0	精 / 良	結・石・ 長・雲・ 赤	

掲載 番号	調整／口縁部	調整／頸部	調整／胴上部	調整／胴下部	調整／底部	色調
200		外：ユビナデ→ ハケ（15条/1cm） 内：ユビオサエ→ ユビナデ	外：ハケ（15条/1cm） 内：ユビオサエ			外：明赤褐（2.5YR5/8） 内：明赤褐（2.5YR5/8）
201		外：ユビナデ 内：ユビナデ				外：橙（5YR6/6） 内：橙（7.5YR6/6）
202		外：ヨコナデ 沈線状に なる 内：ヨコナデ				外：橙（7.5YR7/6） 内：にぶい橙（7.5YR7/3）
203		外：ヨコナデ 内：ユビナデ				外：橙（5YR6/8） 内：橙（7.5YR7/6）
204		外：ヨコナデ 内：ユビオサエ、ユビ ナデ				外：橙（5YR6/8） 内：橙（5YR7/6）
205		外：ハケ→ヘラ描沈線 内：ユビナデ				外：明赤褐（5YR5/6） 内：灰（5Y4/1）
206	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	内：ケズリ			外：橙（7.5YR6/6） 内：明黄褐（10YR6/6）
207				外：板ナデ（ていねい） 内：ユビナデ→板ナデ	外：ユビナデ 内：ユビナデ	外：橙（5YR6/6） 内：灰黄褐（10YR5/2）
208				外：板ナデ 内：ユビナデ→板ナデ	外：ユビナデ 内：ユビナデ	外：橙（7.5YR6/6） 内：褐灰（10YR4/1）
209	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：にぶい褐（7.5Y5/4） 内：にぶい橙（7.5Y6/4）
210	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ハケ？ （磨滅のため不明） 内：ケズリ			外：褐（10YR4/4） 内：にぶい黄褐（10YR5/4）
211	外：ヨコナデ→ 2条擬凹線 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：不明 内：ケズリ			外：にぶい黄橙（10YR7/4） 内：明黄褐（10YR7/6）
212				外：ユビナデ 内：ケズリ	外：板ナデ 内：ユビオサエ	外：褐（7.5TR4/3） 内：褐（10YR4/4）
213	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ナデ？ 内：板ナデ			外：明赤褐（2.5YR5/8） 内：橙（5YR6/8）
214					外：ナデ 内：ナデ	外：明赤褐（5YR5/6） 内：橙（5YR6/6）
215	外：ヨコナデ 内：ミガキ	外：ヨコナデ 内：ミガキ				外：黒褐（2.5Y3/1） 内：黒（2.5Y2/1）
216				外：ヨコナデ 内：ユビナデ		外：にぶい橙（7.5YR7/4） 内：にぶい橙（7.5YR7/4）
217			外：ヨコナデ→ 4条ヘラ描沈線 内：ユビナデ			外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）
218		外：ナデ 内：ミガキ				外：明褐（7.5YR5/6） 内：橙（7.5YR6/6）
219	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：にぶい黄橙（10YR6/4） 内：にぶい黄橙（10YR6/3）
220	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ					外：明赤褐（5YR5/6） 内：橙（5YR6/6）
221	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ				外：橙（5YR6/6） 内：橙（5YR6/6）

掲載 番号	実測番号	掲載遺構 (旧遺構)	種別	器種	器高 (cm)	口径 (cm)	頸部径 (cm)	胴部 最大径 (cm)	底径 (cm)	残存率	胎土 粒径	胎土 密度	胎土 / 組 成	備考
222	4925	第4包含層	弥生	鉢		(43.4)				口 径 1/18	1.0 ~ 6.0	良 / や や不	結・石・ 赤・砂	
223	4133	第1包括層	弥生	壺		(29.7)				口 径 1/12	0.2 ~ 5.0	精 / や や不	結・石・ 長・赤	
224	4919	第4包含層	弥生	鉢					(8.1)	底 径 1/12	0.5 ~ 5.0	良 / や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	
225	4766	第3包含層	弥生	甗					(12.6)	底 径 1/6	1.0 ~ 4.0	精 / や や不	石・長・ 赤	
226	4934	第4包含層	弥生	壺					5.4	底 径 1/2	0.1 ~ 7.0	粗 / や や不	結・石・ 長・チ・ 雲・赤	
227	4748	第3包含層	弥生	壺				26.2		胴 部 1/8	0.1 ~ 5.0	粗 / 良	結・石・ 長・雲・ 赤	
228	4796	第3包含層	弥生	壺					(5.0)	底 径 1/6	0.1 ~ 7.0	良 / や や不	結・石・ 長・雲・ 赤	
229	4758	第3包含層	弥生	壺					(9.4)	底 径 1/6	0.5 ~ 3.0	良 / 良	結・石・ 雲・赤	
230	4757	第3包含層	弥生	壺					(5.4)	底 径 1/6	0.2 ~ 1.0	精 / 良	結・石・ 長・赤	
231	5929	第6包含層	縄文	深鉢					(7.3)	底 径 1/6	0.1 ~ 5.0	粗 / や や不	結・石・ 長・チ・ 雲・赤	
232	2568	第2遺構面	弥生	甗					(5.8)	底 部 90%	0.1 ~ 6.0	精 / 良	結・石・ 長・赤	片岩の質が悪い(鮎喰 川とは違う?)
233	4749	第3包含層	弥生	壺					(6.6)	1/3	0.1 ~ 1.0	精 / や や不	結・石・ 長・赤	
234	4756	第3包含層	弥生	甗					(7.9)	底 径 1/4	0.5 ~ 4.5	粗 / や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	在地? 結晶片岩の質が 悪い。クサレチャート? 含む
235	5810	第3包含層	弥生	壺					(7.2)	底 径 1/2	0.5 ~ 3.0	粗 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤・泥	
236	4917	第4包含層	弥生	甗					6.2	底 径 1/3	0.1 ~ 5.0	精 / や や不	結・石・ 長・チ・ 雲・赤	
237	4762	第3包含層	弥生	壺					(9.4)	底 径 1/6	0.2 ~ 6.0	良 / や や不	結・石・ 長・チ・ 赤	
238	6025	第4包含層	弥生	甗					(9.2)	底 径 1/3	0.2 ~ 7.0	粗 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤	在地?
239	4928	第4包含層	弥生	壺					(5.0)	底 径 1/2	1.0 ~ 8.0	粗 / 良	結・石・ 長・砂	
240	5536	包含層	弥生	鉢			脚 裾 径 5.25			1	0.1 ~ 5.0	粗 / 良	結・石・ 長・チ・ 雲・赤	
241	5862	第3包含層	弥生	壺?					5.6	底 径 1/6	0.1 ~ 3.0	精 / 良	結・石・ 長・チ・ 赤	焼成前 穿孔? 穿孔径 4 cm (最小)

掲載 番号	調整／口縁部	調整／頸部	調整／胴上部	調整／胴下部	調整／底部	色調
222	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ			外：明赤褐 (5YR5/8) 内：明赤褐 (5YR5/6)
223						外：橙 (5YR6/6) 内：橙 (5YR6/8)
224				外：板ナデ 内：ケズリ		外：橙 (5YR6/8) 内：橙 (5YR6/6)
225					外：ユビナデ 内：ユビナデ	外：灰褐 (7.5YR4/2) 内：明赤褐 (5YR5/6)
226					外：ナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ	外：橙 (5YR6/8) 内：にぶい黄褐 (10YR5/4)
227				外：板ナデ 内：板ナデ		外：明赤褐 (5YR5/6) 内：にぶい褐 (7.5YR5/4)
228				外：ユビオサエ→ ユビナデ？ 内：ケズリ？	外：ユビナデ 内：ユビナデ	外：橙 (2.5YR6/8) 内：褐灰 (5YR5/1)
229				外：ユビオサエ 内：ケズリ	外：ユビナデ 内：ユビナデ	外：にぶい褐 (7.5YR5/4) 内：褐灰 (10YR4/1)
230				外：ユビナデ 内：ユビナデ	外：ナデ 内：ユビオサエ	外：明赤褐 (5YR5/4) 内：灰黄褐 (10YR6/2)
231					外：ナデ 内：ナデ	外：橙 (5YR6/6) 内：にぶい黄橙 (10YR7/3)
232					外：ナデ 内：オサエ→ナデ	外：褐灰 (5YR4/1) 内：明赤褐 (2.5YR5/6)
233				外：ユビナデ 内：ケズリ	外：板ナデ 内：ユビオサエ	外：橙 (2.5YR6/6) 内：赤 (10R5/6)
234					外：ユビナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ	外：黒 (2.5Y2/1) 内：黄灰 (2.5Y4/1)
235					外：ユビオサエ→ ユビナデ 内：ユビナデ	外：明褐 (7.5YR5/6) 内：灰黄 (2.5Y6/2)
236				外：ハケ (不明) 内：ケズリ	内：ユビオサエ→ ケズリ	外：にぶい褐 (7.5YR5/3) 内：褐灰 (10YR5/1)
237					外：ユビナデ 内：ユビナデ	外：灰黄 (2.5Y6/2) 内：橙 (7.5YR6/6)
238					外：ユビナデ 内：ユビオサエ→ ユビナデ	外：にぶい黄橙 (7.5YR7/4) 内：黄灰 (2.5YR6/1)
239					外：ユビナデ 内：ケズリ	外：明赤褐 (5YR5/6) 内：明赤褐 (5YR5/6)
240		脚部 外：ユビナデ 内：ユビオサエ→ユビ ナデ			脚部 内：ユビナデ	外：橙 (5YR6/8) 内：褐灰 (5YR4/1)
241				外：板ナデ 内：ユビナデ	外：板ナデ？ 内：ユビナデ	外：明赤褐 (5YR5/6) 内：明赤褐 (5YR5/6)

第2表 石器観察表

掲載 番号	実測 番号	遺構 (旧遺構)	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重量 (g)	その他	特徴
1	3788	SR4001 (旧 SR3001)	サヌカイト	スクレイパー	5.58	5.25	0.73	19.88		
2	2717	SR4001 (旧 SR3001)	サヌカイト	石核	15.1	14.5	3.9	870		
3	6015	SR5002 (旧 SR4001)	サヌカイト	石鏃	2.82	1.72	0.4	1.99		
4	5986	SR5002 (旧 SR4001)	サヌカイト	剥片	2.72	4.52	0.49	5.71		
41	2811	SR5004 (旧 SR4004)	サヌカイト	石鏃	2	1.6	3.2	0.85		
42	2813	SR5004 (旧 SR4004)	サヌカイト	剥片	2.25	2.4	0.6	2.14		
43	2812	SR5004 (旧 SR4004)	サヌカイト	剥片	3.35	2.6	0.5	1.94		
44	2837	SR5004 (旧 SR4004)	サヌカイト	楔形石器	2.4	1.45	0.85	2.15		
49	2748	SD5001 (旧 SD3001)	砂岩	不明	3	3.35	1	13.43		川原石。溝状の擦痕。用途不明。
50	2751-1	SD5002 (旧 SD3006)	サヌカイト	楔形石器	2.75	1.7	0.4	2.66		
51	2751-2	SD5002 (旧 SD3006)	サヌカイト	剥片	1.75	2.1	0.25	0.68		
71	4895	SK5002 (旧 SK3043)	砂岩	敲石	13.05	9.4	5.4	1030		
83	6001	SK5005 (旧 SK4021)	サヌカイト	石鏃	1.45	1.4	0.33	0.53		
87	3789	SK5008 (旧 ST3004)	サヌカイト	石鏃	3.89	2.4	0.5	3.09		有茎式
88	3790	SK5009 (旧 SU1001)	砂岩	石杵	12.1	5.6	4.1	440		
99	4093	SK5010 (旧 SX2001)	サヌカイト	剥片	2.3	2.8	2.5	1.23		
100	4094	SK5010 (旧 SX2001)	サヌカイト	剥片	1.75	2.1	0.45	1.45		
117	2883	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	剥片	2.42	2.78	0.28	1.86		
118	2868	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	剥片	2.1	2.55	0.2	1.36		両極打撃
119	2865-2	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	剥片	1.7	2.45	0.3	1.01		
120	6043	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	剥片	1.94	1.78	0.2	0.33		
121	2863	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	剥片	0.95	1.4	0.35	0.33		
122	2865-1	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	石鏃未製品	2	1.1	0.3	0.56		

掲載 番号	実測 番号	遺構 (旧遺構)	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重量 (g)	その他	特徴
123	2873	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	剥片	3.47	3.77	3.01	3.22		
124	6042	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	剥片	1.03	2.22	0.19	0.37		
125	6044	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	剥片	1.45	1.1	1	0.16		
126	6041	SX5001 (旧 SX4001)	サヌカイト	スクレイパー	14.8	1.79	0.2	0.4		
127	2893	SX5001 (旧 SX4001)	砂岩	敲石	8.5	7.2	3	220		
128	2892	SX5001 (旧 SX4001)	砂岩	加工痕を有する剥片	7.39	4.28	1.31	46.12		
129	2891	SX5001 (旧 SX4001)	結晶片岩	加工痕を有する礫	14	7.24	2	320		
130	2890	SX5001 (旧 SX4001)	砂岩	敲石	11.73	8.85	7.2	790		
131	2895	SK5013 (旧 SX4002)	砂岩	敲石	14.25	6.15	4.3	340		
132	2894	SK5013 (旧 SX4002)	砂岩	分割礫	10.76	8.24	6.23	780		
133	2889	SK5013 (旧 SX4002)	砂岩	分割礫	27.7	22.4	18.8	8430		一部被熱
134	5968	SX5002 (旧 SX4004)	サヌカイト	石鏃	2.36	1.46	0.35	1.03		
150	5680	SP5001 (旧 SP2071)	粘板岩	硯	5	4.55	0.6	20.3		
164	3781	SP5010 (旧 SP4172)	サヌカイト	楔形石器	3.6	2.6	7	6.71		
165	3782	SP5011 (旧 SP4175)	サヌカイト	剥片	2.86	3.1	0.5	4.5		
169	2804	SP5015 (旧 SP4734)	サヌカイト	剥片	2.5	9.5	1.15	17.6		
172	2807	SP5018 (旧 SP4803)	砂岩	敲石	13.1	10.55	6.3	1160		
242	2350	包含層	サヌカイト	石鏃	4.9	2.2	6.5	7.33		凸基式
243	2784	包含層	サヌカイト	石鏃	3.34	1.56	0.4	1.67		
244	6029	包含層	サヌカイト	石鏃	2.105	1.62	0.4	0.88		凹基式
246	5729	第2包含層	サヌカイト	石鏃	1.4	1.6	0.4	0.57		凹基式
247	2550	包含層	サヌカイト	石鏃	1.4	1.3	2	0.4		平基式
248	2901	包含層	サヌカイト	楔形石器	1.96	2.655	0.42	2.15		

掲載 番号	実測 番号	遺構 (旧遺構)	石材	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚 せ (cm)	重量 (g)	その他	特徴
249	2571	包含層	サヌカイト	剥片	1.2	2.6	0.5	0.96		
250	5922	包含層	サヌカイト	剥片	2	2.8	0.3	1.84		
251	5727	第2包含層	サヌカイト	使用痕を有する剥片	1.25	1.9	0.25	0.44		
252	2355	包含層	チャート	楔形石器	2.95	3.65	0.7	15.81		
253	2898	包含層	サヌカイト	楔形石器	3.2	4	12.8	20.32		
254	2587	包含層	サヌカイト	楔形石器	5.85	4.1	1.6	44		
255	4804	包含層	砂岩	磨石	4.55	5.5	3.1	54.71		
256	3991-1	包含層	粘板岩	硯?	5.3	3.72	0.3	6.9		
257	3991-2	包含層	粘板岩	硯?	4.13	4.25	1	16.17		
258	4939	包含層	砂岩	敲石	17.4	4.4	2.7	200		
259	6030	包含層	砂岩	砥石	16.17	8.7	6.6	1470		
260	6031	包含層	砂岩	台石	14.03	12.72	4.38	1220		(磨面あり)

## 報告書抄録

ふりがな	にいみいせき						
書名	新居見遺跡（I）						
副書名	四国横断自動車道（阿南～徳島東）（新居見地区）関連埋蔵文化財発掘調査報告書						
巻次	（I）（縄文時代・弥生時代篇）						
シリーズ名	徳島県埋蔵文化財センター調査報告書						
シリーズ番号	第92集						
編著者名	栗林誠治・三好愛美・徳島県教育委員会教育文化課						
編集機関	公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター						
所在地	〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山 86-2						
発行年月日	平成30年3月23日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村 遺跡番号					
にいみいせき 新居見遺跡	とくしまけんこまつしまし 徳島県小松島市 にいみちようあざやまじ 新居見町字山路 27ほか	362034 203-30	33° 59' 43.74972"	134° 33' 49.10590"	2010年4月1日～ 2017年11月30日	表面積 19,687㎡ 延べ面積 23,877㎡	四国横断自動車道 （阿南～徳島東）（新 居見地区）関連埋蔵 文化財発掘調査
所収遺跡名	種別	主な年代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
新居見遺跡	集落 墳墓	縄文時代 弥生時代 古墳時代 飛鳥時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代	磯床木棺墓・小竪穴 石槨墓・区画溝・掘 立柱建物・水汲み遺 構・土坑・小穴・自 然流路	縄文土器・弥生土器・石器・須恵器・ 土師器・瓦器・陶器・磁器・石製品・ 木製品		人型土偶出土	
要約	<p>山路地区では、縄文時代の遺構は柱穴を中心に調査区の北東部を中心に検出され、土偶と晩期後半の凸帯文土器が確認された。弥生時代は中期後半に属する遺構が確認された。古墳時代中期後半から後期後半に属する円墳の周溝や小型埋葬施設が検出された。小築造時期に重なりがあるため、被葬者の階層差が反映されていると考えられる。平安時代末期には大型区画溝が掘削され、掘立柱建物や地鎮祭祀遺構が伴う。大型区画溝の埋没に伴い掘立柱建物数も減少するが鎌倉時代まで存続する。室町時代には、再度区画溝が掘削され掘立柱建物が集中する屋敷地が成立する。</p> <p>柳内・高内地区では13世紀から17世紀の集落が確認された。区画溝による一辺30m規模の小型屋敷地が5区画隣接する景観が復元できる。このような屋敷地区画の集合体は中世後半期の普遍的な集落景観であるといえる。ただし、大型建物の存在や今年度出土した和鏡片や貿易陶磁器、茶臼など奢侈品の存在から、高いステータスをもつ名主クラスの屋敷地群が想定される。</p> <p>本遺跡周辺は、古代では勝浦郡四ヶ郷の内、『新居郷』に比定されてきた地域である。その後、10世紀後半には勝浦川河口附近を中心に成立した「新島庄」の「勝浦庄」に含まれる地域であり、10世紀前半代に属する区画溝や掘立柱建物群は、『新居郷』に、その後、数が減少するが確認される掘立柱建物等は『新島庄勝浦庄』や高野山領『多奈保』に関連する遺構として位置付ける事が可能である。室町期には集落域が南北約200mの規模に拡大し、名主クラスとみられる屋敷地群が形成される。広い範囲で中世集落の変遷が確認できる事例は、徳島県下では大柿遺跡（東みよし町）、中庄東遺跡（同）、宮ノ本遺跡（阿南市）など数少なく、新居見・田浦の両遺跡にまたがる広域で確認されたことは、勝浦川流域における開発史を検討する上で極めて重要な知見を得た。</p>						

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第92集

新居見遺跡(1)

(縄文時代・弥生時代篇)

四国横断自動車道(阿南～徳島東)(新居見地区)関連  
埋蔵文化財発掘調査報告書

発行日 平成30(2018)年3月23日

編集 公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター  
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番2  
TEL (088) 672-4545

発行 徳島県教育委員会  
公益財団法人 徳島県埋蔵文化財センター

印刷 徳島県教育印刷株式会社